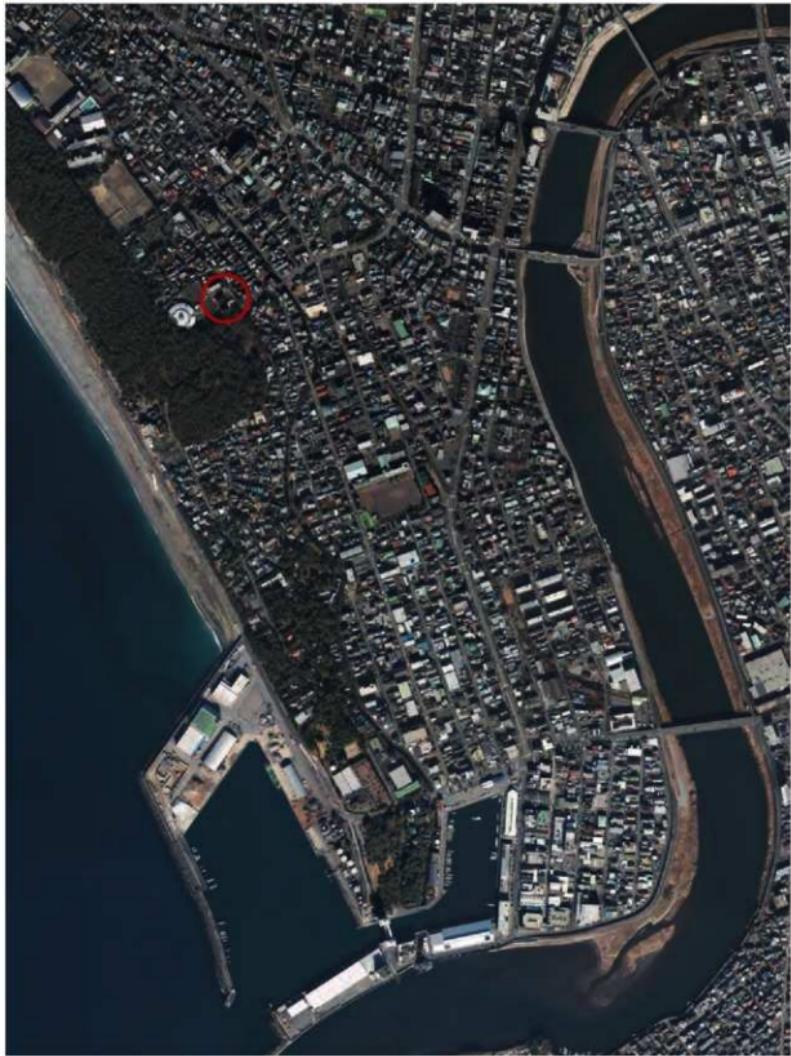


沼津市文化財調査報告書 第121集

千本遺跡(第2次)発掘調査報告書

2020

沼津市教育委員会



千本遺跡航空写真
○…千本遺跡（第2次）発掘調査地点



調査区北側全体完掘（南東から）



調査区南側全体完掘（西から）

例　言

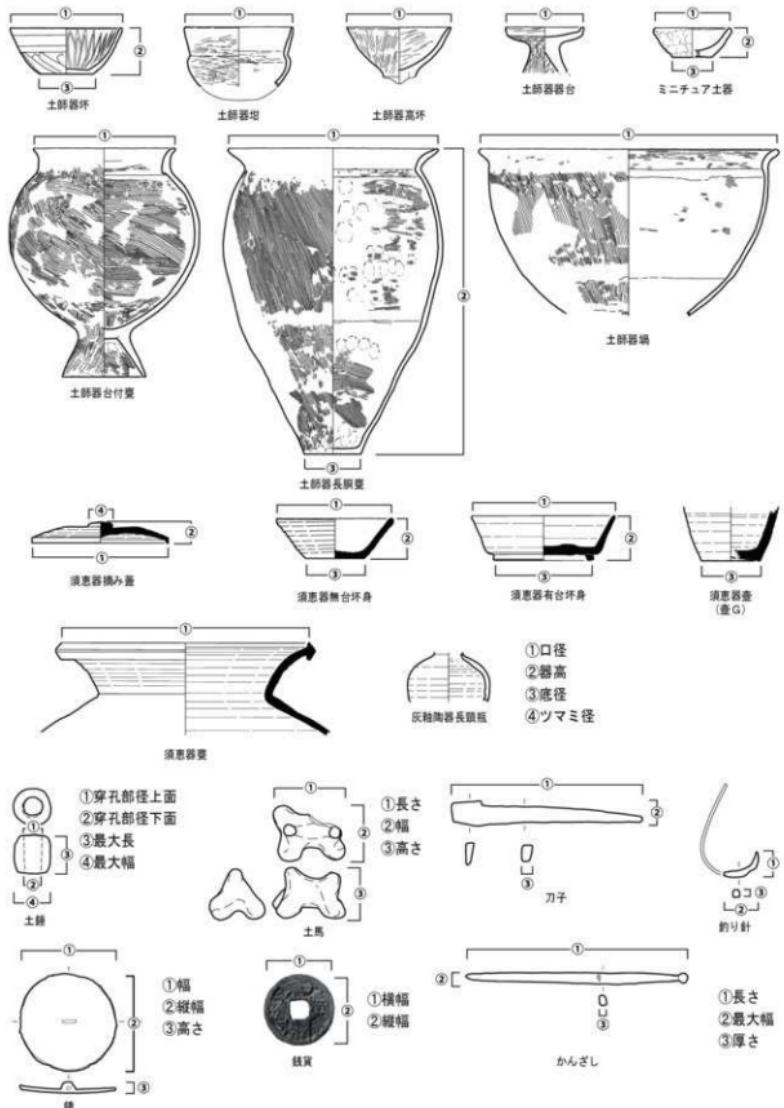
1. 本書は静岡県沼津市本字千本に所在する千本遺跡の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は企画部地域自治課より依頼を受け、第二地区センター建設予定地内に所在する埋蔵文化財の記録保存を目的として実施した。
3. 現地調査は、平成 29 年 11 月 27 日から平成 30 年 2 月 28 日まで実施した。資料整理は平成 30 年 4 月から令和 2 年 3 月まで実施し、いずれも沼津市教育委員会事務局文化振興課が担当した。
4. 調査関係者は以下のとおりである。

事業主体者	沼津市教育委員会	教　育　長	服部裕美子（H29・H30）
		奥村 篤（R1）	
	沼津市教育委員会事務局	教育次長	山田昭裕（H29）
			芹澤一男（H30・R1）
事業担当者	文化振興課	課　　長	中島康司（H29）
			原 将史（H30・R1）
		課長補佐	杉山好永（H29～R1）
			鶴田晴徳（R1）
		課長補佐兼文化財調査係長	鶴田晴徳（H29・H30）
		文化財調査係長	小崎 晋（R1）
調査担当者（平成 29 年度）		主任学芸員	小崎 晋
整理担当者（平成 30 年度～令和 1 年度）		学　芸　員	谷口哲也
		指導主事	前嶋秀張
		臨時嘱託	矢田晃代

5. 整理事業の実務は、沼津市文化財センターで実施した。本書の編集は調査担当者の記録を基に、谷口・前嶋・矢田が担当し、執筆は、谷口・小崎・前嶋・小林が担当した。
6. 本報告書の執筆にあたり、出土土器の土器型式・年代観について以下の各氏よりご指導およびご教授をいただいた。記して深く感謝の意を示す次第である。（五十音順・敬称略）
佐藤祐樹・柴垣勇夫・渡井英吾
7. 現地調査における測量支援業務については、株式会社シン技術コンサルに委託した。
8. 現地調査で得られた測量データは、沼津市が所有する遺跡管理システムに取り込み、同システム上で編集・図版作成を行った。本作業については、株式会社シン技術コンサルに委託した。
9. 本書に係わる発掘調査資料及び出土遺物は、沼津市教育委員会事務局文化振興課文化財調査係（沼津市文化財センター 〒 410-0106 沼津市志下 530）で保管している。

凡 例

1. 方位は国家座標の真北方位で、座標値は世界測地系に準拠している。標高は東京湾の平均海面を基準として海拔高を表示している。
2. 遺物の実測図の縮尺は各図に表示するとともに、土器 1/3、金属製品 2/3、土馬・錢貨 1/1 を基本とした。
3. 土層・土器胎土の色調・記号は、『新版 標準土色帖』(農林水産省農林水産技術会議事務局・財団法人日本色彩研究所)に基づいて記載し、測定については土色計 (SCR-1 第一合成株式会社製) を用いた。
4. 遺構の略号は以下のとおりである。
SB：竪穴住居址
5. 遺物観察表における推定値・復元値・残存値には（ ）を付して表記した。
环蓋についての法量は天井部・器高・口径の順に記載した。



主要遺物種分類図

目 次

巻頭カラー図版

例言

凡例

第Ⅰ章 調査経過

第1節 調査に至る経緯	1
第2節 発掘調査事業の経過	2
第3節 整理事業の経過	2
第Ⅱ章 遺跡の環境	
第1節 地理的環境	3
第2節 歴史的環境と周辺の遺跡	3
第3節 遺跡の層位	8
第Ⅲ章 調査結果	
第1節 遺構と遺物の概要	10
第2節 古墳時代の遺構と遺物	10
第3節 奈良・平安時代の遺構と遺物	16
第4節 遺構外出土遺物	67
第5節 特徴的な出土遺物	70
第Ⅳ章 総括	
第1節 調査の成果と課題	80

遺物観察表

写真図版

報告書抄録

挿図目次

第 1 図	調査地位置図	1
第 2 図	遺跡位置図	4
第 3 図	周辺地質図	5
第 4 図	周辺遺跡分布図	6
第 5 図	標準土層	9
第 6 図	遺構全体図	11
第 7 図	第 7 号住居址平面図・断面図	12
第 8 図	第 7 号住居址出土遺物実測図（1）	13
第 9 図	第 7 号住居址出土遺物実測図（2）	14
第 10 図	第 12 号住居址平面図・断面図	15
第 11 図	第 12 号住居址出土遺物実測図	15
第 12 図	古墳時代覆土出土遺物（1）	17
第 13 図	古墳時代覆土出土遺物（2）	18
第 14 図	第 1 号住居址平面図・断面図	18
第 15 図	第 1 号住居址出土遺物実測図	19
第 16 図	第 2 号住居址平面図・断面図	20
第 17 図	第 2 号住居址出土遺物実測図	21
第 18 図	第 3 号住居址平面図・断面図	23
第 19 図	第 3 号住居址出土遺物実測図	24
第 20 図	第 4 号住居址平面図・断面図	26
第 21 図	第 4 号住居址出土遺物実測図	27
第 22 図	第 5 号住居址平面図・断面図	28
第 23 図	第 5 号住居址断面図	29
第 24 図	第 5 号住居址カマド平面図・断面図	29
第 25 図	第 5 号住居址出土遺物実測図（1）	30
第 26 図	第 5 号住居址出土遺物実測図（2）	31
第 27 図	第 5 号住居址出土遺物実測図（3）	32
第 28 図	第 6 号住居址平面図・断面図	34
第 29 図	第 6 号住居址出土遺物実測図	34
第 30 図	第 8 号住居址平面図・断面図	35
第 31 図	第 8 号住居址カマド平面図・断面図	36
第 32 図	第 8 号住居址出土遺物実測図（1）	37
第 33 図	第 8 号住居址出土遺物実測図（2）	38
第 34 図	第 8 号住居址出土遺物実測図（3）	39
第 35 図	第 9 号住居址平面図・断面図	40
第 36 図	第 9 号住居址出土遺物実測図（1）	41
第 37 図	第 9 号住居址出土遺物実測図（2）	42
第 38 図	第 10 号住居址平面図・断面図	43
第 39 図	第 10 号住居址断面図	44

第 40 図	第 10 号住居址出土遺物実測図	44
第 41 図	第 11 号住居址平面図・断面図	45
第 42 図	第 11 号住居址出土遺物実測図	46
第 43 図	第 13 号住居址平面図・断面図	47
第 44 図	第 13 号住居址出土遺物実測図	47
第 45 図	第 14 号住居址平面図・断面図	48
第 46 図	第 14 号住居址出土遺物実測図	48
第 47 図	第 15 号住居址平面図・断面図	50
第 48 図	第 15 号住居址出土遺物実測図	51
第 49 図	第 16 号住居址平面図・断面図	52
第 50 図	第 16 号住居址カマド平面図・断面図	53
第 51 図	第 16 号住居址出土遺物実測図（1）	54
第 52 図	第 16 号住居址出土遺物実測図（2）	55
第 53 図	第 16 号住居址出土遺物実測図（3）	56
第 54 図	第 16 号住居址出土遺物実測図（4）	57
第 55 図	第 16 号住居址出土遺物実測図（5）	58
第 56 図	第 16 号住居址出土遺物実測図（6）	59
第 57 図	第 17 号住居址平面図・断面図	61
第 58 図	第 17 号住居址出土遺物実測図（1）	61
第 59 図	第 17 号住居址出土遺物実測図（2）	62
第 60 図	第 18 号住居址平面図・断面図	64
第 61 図	第 18 号住居址カマド平面図・断面図	65
第 62 図	第 18 号住居址出土遺物実測図（1）	65
第 63 図	第 18 号住居址出土遺物実測図（2）	66
第 64 図	遺構外出土土器実測図（1）	68
第 65 図	遺構外出土土器実測図（2）	69
第 66 図	金属製品実測図	70
第 67 図	土鍤実測図	73
第 68 図	土馬実測図	74
第 69 図	錢貨写真	74
第 70 図	線刻土器実測図（1）	75
第 71 図	線刻土器実測図（2）	76
第 72 図	線刻土器実測図（3）	77
第 73 図	線刻土器実測図（4）	78
第 74 図	墨書き土器実測図	79
第 75 図	古墳時代住居址検出位置図	81
第 76 図	奈良・平安時代住居址検出位置図	83

挿表目次

第 1 表	周辺遺跡一覧表（1）	7
第 2 表	周辺遺跡一覧表（2）	8
第 3 表	土器観察表（1）	85
第 4 表	土器観察表（2）	86
第 5 表	土器観察表（3）	87
第 6 表	土器観察表（4）	88
第 7 表	土器観察表（5）	89
第 8 表	土器観察表（6）	90
第 9 表	土器観察表（7）	91
第 10 表	土器観察表（8）	92
第 11 表	土器観察表（9）	93
第 12 表	土器観察表（10）	94
第 13 表	土器観察表（11）	95
第 14 表	土器観察表（12）	96
第 15 表	土器観察表（13）	97
第 16 表	金属製品観察表	97
第 17 表	土鍤観察表（1）	97
第 18 表	土鍤観察表（2）	98
第 19 表	土馬観察表	98
第 20 表	錢貨観察表	98
第 21 表	線刻土器観察表（1）	99
第 22 表	線刻土器観察表（2）	100
第 23 表	墨書き土器観察表（1）	101
第 24 表	墨書き土器観察表（2）	102

写真図版目次

- 卷頭カラー図版 1 千本遺跡航空写真
卷頭カラー図版 2 調査区北側全体完掘（南東から）
調査区南側全体完掘（西から）
- PL. 1 第1号住居址床面（東から）
第2号住居址床面（北西から）
第3号住居址床面（南東から）
PL. 2 第4号住居址床面（北から）
第5号住居址床面（北西から）
第5号住居址カマド完掘状況（北西から）
PL. 3 第6号住居址床面（北東から）
第7号住居址床面（西から）
第8号住居址床面（北西から）
PL. 4 第8号住居址カマド完掘状況（北西から）
第9号住居址床面（南東から）
第10号住居址床面（北西から）
PL. 5 第11号住居址床面（北から）
第12号住居址床面（北東から）
第13号住居址床面（北西から）
PL. 6 第14号住居址床面（西から）
第15号住居址完掘状況（南から）
第16号住居址完掘状況（北から）
PL. 7 第16号住居址カマド遺物出土状況（南から）
第17号住居址完掘状況（北から）
第18号住居址完掘状況（南から）
PL. 8 第7号住居址出土遺物
第12号住居址出土遺物
PL. 9 古墳時代覆土出土遺物
PL.10 第1号住居址出土遺物
第2号住居址出土遺物（1）
PL.11 第2号住居址出土遺物（2）
第3号住居址出土遺物
PL.12 第4号住居址出土遺物
第5号住居址出土遺物（1）
PL.13 第5号住居址出土遺物（2）
PL.14 第6号住居址出土遺物
第8号住居址出土遺物（1）
PL.15 第8号住居址出土遺物（2）
第9号住居址出土遺物
- PL.16 第10号住居址出土遺物
第11号住居址出土遺物
第13号住居址出土遺物
PL.17 第14号住居址出土遺物
第15号住居址出土遺物
PL.18 第16号住居址出土遺物（1）
PL.19 第16号住居址出土遺物（2）
PL.20 第16号住居址出土遺物（3）
PL.21 第16号住居址出土遺物（4）
PL.22 第17号住居址出土遺物
PL.23 第18号住居址出土遺物
PL.24 古墳時代遺構外出土遺物
PL.25 奈良・平安時代遺構外出土遺物（1）
PL.26 奈良・平安時代遺構外出土遺物（2）
近世・近代遺構外出土遺物
PL.27 金属製品
PL.28 土鍤
上馬
PL.29 線刻土器（1）
PL.30 線刻土器（2）
PL.31 線刻土器（3）
墨書き土器（1）
PL.32 墨書き土器（2）

第1章 調査経過

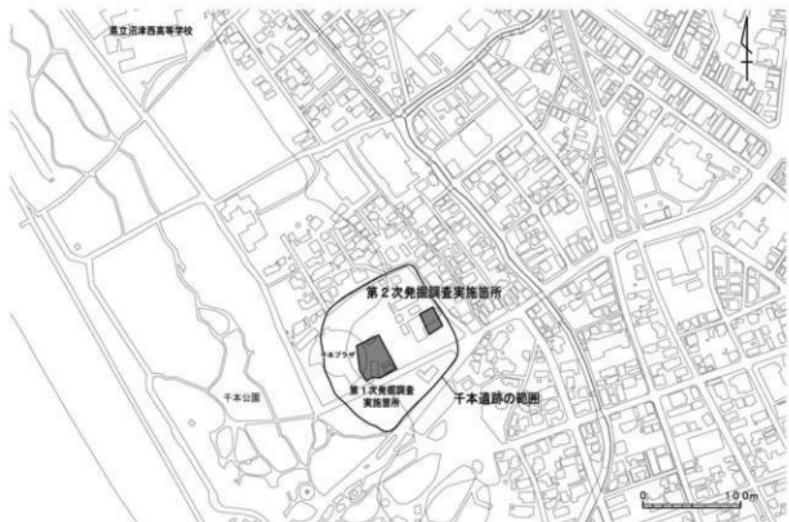
第1節 調査に至る経緯（第1図）

沼津市では、市民自治のまちづくりを推進するための活動施設として地区センターの整備を進めており、沼津市本字千本において第二地区センターの建設が計画された。計画は、沼津市高齢者就業センターの建物を一部解体した上で改修し増築するものであり、当該地は埋蔵文化財包蔵地の範囲内であることから、沼津市高齢者就業センター解体に先立ち、地域自治課と文化振興課での協議を行い、平成29年5月23日付け沼企地第188号で文化財保護法第94条に係る埋蔵文化財発掘の通知書が提出された。これに対し、平成29年6月2日付け教文第453号の2において静岡県教育委員会教育長より「土木工事等のための発掘について（通知）」があり、既存建物の解体に際し工事立ち会いの指示が出された。これにより、既存建物解体時に工事立ち会いを実施したところ、古代の住居址と想定される遺構と多量の遺物の存在が確認された。

のことから、当該地で計画されている第二地区センター建設工事に先立って、平成29年10月19日付け沼企地第396号で、文化財保護法第94条に係る埋蔵文化財発掘の通知書が提出された。これに対し、平成29年10月31日付け教文第1370号の2において静岡県教育委員会教育長より「土木工事等のための発掘について（通知）」があり、本発掘調査の指示が出された。このため、沼津市教育委員会事務局文化振興課が主体となり、記録保存のための発掘調査を実施することになった。

事業期間は平成29年11月13日から平成30年2月28日で、現地調査期間は平成29年11月27日から平成30年2月28日まで実施した。

第二地区センターの建設工事は、平成30年3月30日から平成30年12月14日にかけて行われた。そして平成31年2月1日より利用が開始された。



第1図 調査地位置図

第2節 発掘調査事業の経過

現地調査は、第二地区センター建設予定範囲となる 350m²を対象とした。調査手順は、調査対象地内やその周辺に排水渠き場の確保ができなかったことから、先行して北側 250m²を調査した後、反転して南側 100m²を調査する方法で行った。

平成 29 年 11 月から重機によって北側調査区を表土掘削し、その後、遺物包含層を人力掘削しながら遺構の検出を行い、最後に、検出された遺構の調査を行った結果、14 軒の住居址が検出された。

平成 30 年 1 月 30 日には、北側の調査が完了した段階で、地元向けの現地説明会を開催し、80 名余りの参加があった。現地説明会終了後、重機により、北側の埋め戻しと南側 100m²の表土掘削を行った。

南側調査区についても北側調査区と同様に調査を進めたところ、4 軒の住居址が検出された。

遺物包含層や攪乱からは土師器や須恵器、近世陶磁などの破片が出土しており、出土した遺物については、調査区をグリッドに分け、取り上げている。遺構から出土した遺物については、出土位置の詳細な座標情報を記録できるよう測量して取り上げている。なお、調査・測量の一部は発掘調査支援業務として、株式会社シン技術コンサル静岡営業所に外部委託して行った。

その後、平成 30 年 2 月 26 日に南側調査区の調査が完了し、同月 28 日には埋戻しを完了し、撤収した。

第3節 整理事業の経過

整理事業は、平成 29 年度の発掘調査成果について発掘調査報告書として記録保存することを目的として、平成 30・31 年度の 2 年にわたり実施した。事業の主体は地域自治課による第二地区センター建設事業の一環で実施し、実務は、文化振興課が担当し、文化財センターにおいて実施した。

平成 30 年度は、平成 30 年 4 月 1 日付けで地域自治課より依頼を受け、土器の洗浄、選別、注記、接合、拓本、写真データの整理等の基礎整理作業を行った。図面類の整理作業については、株式会社シン技術コンサル静岡営業所に外部委託し、省力化を図った。

平成 31 年度は、平成 31 年 4 月 1 日付けで地域自治課より依頼を受け、接合、実測、トレース、原稿執筆、写真撮影等の本整理作業を行い、令和 2 年 3 月 27 日に報告書を刊行した。本事業は令和 2 年 3 月 31 日をもって完了した。

第Ⅱ章 遺跡の環境

第1節 地理的環境（第2図・第3図）

千本遺跡が所在する沼津市は、駿河湾最奥部の東側にある海岸線から、伊豆半島西海岸の北部まで続く。市北部には愛鷹山南麓斜面が広がり、その南の海岸部には、富士川河口から狩野川河口に続く富士川起源の千本砂礫州が形成されている。千本砂礫州の背後には、湿地帯である浮島ヶ原が所在し、その東側には富士山東斜面の山体崩壊により黄瀬川流域を南下した御殿場泥流堆積物で構成されている黄瀬川扇状地が広がる。狩野川以南から伊豆半島西海岸北部にかけては静浦山地、達磨火山が海岸に迫る地形を呈しており、内浦地区から大瀬崎へ続く海岸線では岬と入り江があり組んだいわゆるアリア海岸になっている。

千本砂礫州は8,000年前頃から富士川起源の砂礫が沿岸流によって運ばれ、海底に砂礫層が堆積し始めたことにより形成が始まった。7,000年前～6,000年前頃に砂礫州が離し始め、後背地は沼沢地・湿地となった。5,000年～4,000年前頃になると、海からの影響の少ないやや安定した環境になつたこと、沼沢地・湿地内に微高地が存在したことから人間が砂礫州上へ進出し始め、縄文時代後期には断続的な活動があったと考えられる。2,500年前～2,000年前頃になると環境が安定したため、浮島ヶ原中央部では集落が営まれるようになり、千本砂礫州上にも活動の場が移っていった。1,500年前頃になると富士火山の火山活動や地震などの影響によって、人々の活動の場としての浮島ヶ原中央部が衰退したため、千本砂礫州上に活動の中心が移り、集落や古墳群が形成されるようになる。その後、千本砂礫州上は東海道や県道380号富士清水線（旧国道1号）、JR東海道本線が整備されるなど東西を結ぶ主要な交通路として発達した。

千本遺跡は、このような千本砂礫州上に営まれた遺跡で、約東西140m、約南北168mの範囲に分布する。遺跡周辺には県立沼津西高校、千本浜公園などがあり、調査地周辺は北に向かって緩やかに傾斜する浜堤の後背地となっている。

第2節 歴史的環境と周辺の遺跡（第3図・第4図・第1表・第2表）

千本遺跡が集落遺跡であることを踏まえ、集落遺跡を中心に概観する。

1. 縄文時代

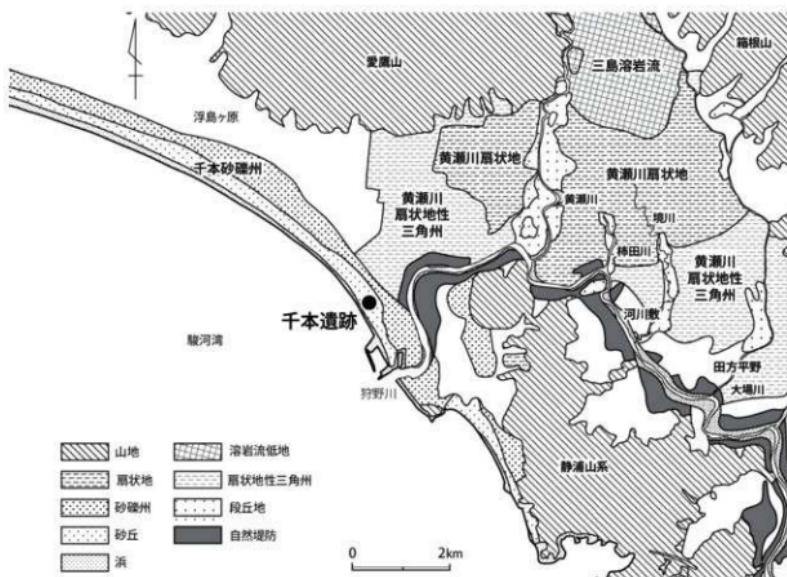
縄文時代前期以前は愛鷹山南麓まで海水が入りこんでいるため、千本砂礫州上及び後背湿地では遺跡は確認されていない。その後、海成砂礫層の堆積などから千本砂礫州が徐々に陸化したことにより、遺跡が形成されるようになる。明確な遺構が検出された遺跡は確認されていないが、下道遺跡（1）・雄鹿塚遺跡（2）・雌鹿塚遺跡（3）・鳥沢遺跡（6）などで縄文時代中期以降の土器や石器が出土している。

2. 弥生時代

弥生時代前期は遺跡の状況が明瞭でないものの、中期になると小規模な集落が形成されるようになり、千本砂礫州上及び後背湿地でも集落が確認されている。千本砂礫州上の遺跡としては軒道遺跡（13）・西通北遺跡（14）が存在し、西通北遺跡では弥生時代中期の大型溝状遺構が検出された。後背湿地の遺跡としては、雄鹿塚遺跡・雌鹿塚遺跡などが存在する。いずれも弥生時代中期から古墳時代まで継続する集落だが、特に雌鹿塚遺跡は弥生時代後期になると規模が大きくなる。湿地帯において集落跡が確認されていることは、弥生時代中期頃から湿地帯の環境が安定したことで水田稲作を本格的に行い始め、それを生産基盤とするようになったと考えられる。また、狩野川下流域の黄瀬川扇状地性三角州及び砂礫州上では、弥生時代後期初頭に尾崎遺跡（30）・沢田遺跡（46）・豆生田遺跡（56）・御幸町遺跡（74）などが形成される。



第2図 遺跡位置図



第3図 周辺地質図

出典：沼津市史編さん委員会（1999）『沼津市史』資料編 自然環境付図 6 地形分類図（一部修正）

3. 古墳時代

古墳時代には千本砂礫州上及び狩野川下流域に集落が多く分布するようになる。後背湿地に位置する雄鹿塚遺跡・雌鹿塚遺跡の集落規模は縮小していくが、古墳時代後期になると、下道遺跡・中原遺跡（4）・鳥沢遺跡・東畠毛遺跡（10）などの集落遺跡が認められるようになる。砂礫州上では、弥生時代から続く御幸町遺跡や、大規模な集落跡である藤井原遺跡（78）が認められる。また、古墳時代中期から後期を中心とする祭祀遺跡である丸子町遺跡（50）も確認されており、子持勾玉や多数の滑石製模造品が出土している。

4. 古代

古代には中央集権による国家体制が成立し、沼津市は駿河国駿河郡に属するようになる。駿河郡衙とその関連集落は、黄瀬川扇状地三角州上に営まれていたと推測されており、当該期の遺構としては上ノ段遺跡（52）・下石田原田遺跡（66）などが存在する。上ノ段遺跡は100軒以上の住居址及び40棟の掘立柱建物跡が検出されており、主軸方向が同一である計画的配置が認められ、唐三彩の陶枕などが出土していることから官衙である可能性が高い。そして、上ノ段遺跡から3km以内に存在する藤井原遺跡・御幸町遺跡では多量の須恵器・灰釉陶器・綠釉陶器・埴形土器などが出土しており、官衙に関連する遺跡と推定される。下石田原田遺跡は多数検出された建物配置に規則性が認められないことから官衙と捉えることはできないが、墨書き土器や帶金具などが出土しているため関連遺跡と考えられる。そして、千本砂礫州上に古代東海道が通っていたと想定されており、その街道沿いには東畠毛遺跡・中原遺跡・下道遺跡・鳥沢遺跡などの集落遺跡が点在する。

また、古代には民衆統治の精神的なよりどころ、あるいは新しい文化の波及の拠点として日本各地に仏教寺院の建立が展開した。千本遺跡から北東方向に位置する日吉庵寺（61）はこの地域を支配した



第4図 周辺遺跡分布図

第1表 周辺遺跡一覧表（1）

No.	遺跡名	所在地	時代	種別	横出遺構・遺物等	遺跡No.
1	下道	桃里下道	縄文・古墳・近世	集落跡	土器（土師器・須恵器）	205
2	雄鹿塚	一本松ミサゴ塚	縄文～古墳	集落跡 祭祀？	土器（縄文・弥生・土師器・須恵器）、石器	204
3	雌鹿塚	原女鹿塚	縄文～古墳	集落跡	土器（縄文・弥生・土師器）、土製品、石器、石製品	203
4	中原	一本松中原	古墳・奈良・平安	集落跡	土器（土師器・須恵器）、鐵製品、ガラス小玉類	201
5	古田	一本松古田	古墳	集落跡	土器（土師器・須恵器）	202
6	鳥沢	原字鳥沢	縄文・古墳 奈良・平安	集落跡	土器（縄文・土師器・須恵器）、防護壁	367
7	六軒町	原鳥沢	弥生	集落跡	土器（弥生中期？）	327
8	御殿塚	原御殿塚	古墳	集落跡	土器（土師器）	200
9	三木松	大塚道下	弥生	集落跡	土器（弥生）、有頭大形石錐	199
10	東畠毛	今沢東畠毛	古墳～近世	集落跡	住居址、土器器、須恵器	358
11	上ノ段遺跡	松長上ノ段	弥生・古墳	集落跡	土器（弥生後期？土師器）	196
12	叶	大園訪叶	古墳・奈良・平安	集落跡	住居址、土器器、須恵器	359
13	軒通	大園訪河原	弥生・古墳	集落跡	土器（弥生・土師器）	194
14	西通北	小園訪字二ノ岸	弥生・奈良・平安 中世・近世	集落跡	土器（弥生中期・土師器・須恵器）、青磁、白磁、陶器、打製石斧、敲石、大型溝状遺構、櫛列、住居址、溝状遺構	397
15	西通	小園訪西通	古墳	集落跡	土器（土師器）	193
16	中通	小園訪中通	弥生・古墳	集落跡	土器（弥生後期・土師器）、石錐	192
17	ヲカメ	鳥谷ヲカメ	弥生・古墳	集落跡	土器（土師器）	52
18	東原中アラク	東原中アラク	縄文・古墳	集落跡	土器（縄文・土師器）	50
19	東原金山社	東原宮崎	古墳	集落跡	土器（土師器）	49
20	中尾上	東稚路中尾	縄文・古墳	集落跡	土器（縄文・土師器）	68
21	日高身	西稚路日高身	弥生・古墳 奈良・平安	集落跡	土器（弥生・土師器）、小斜打製石斧、住居址32軒、排水溝1基、方形周溝3基、掘立柱建物址1基、井戸1基	66
22	中尾神明宮	西稚路中尾	古墳	集落跡	土器（土師器）	67
23	春ノ木	東稚路春ノ木	弥生・古墳	集落跡	土器（弥生中期・土師器）	76
24	小屋敷	東稚路小屋敷	古墳	集落跡	土器（土師器）	315
25	東荒	東稚路東荒	弥生・古墳	集落跡	土器（弥生後期か土師器初頭か不明）	78
26	川向	東稚路川向	縄文・古墳	集落跡	土器（縄文）、田下駄（ナンバ）、古鏡（開元通宝）	79
27	小篠塚	西沢田下小篠根	古墳	集落跡	土器（土師器）	85
28	子ノ神	西沢田子ノ神	古墳	集落跡	土器（土師器）	83
29	善治海道	西沢田善治海道	古墳	集落跡	土器（土師器）	81
30	尾崎	西沢田尾崎	古墳	集落跡	土器（土師器）、木製品（実葉、田下駄）	80
31	田端	中沢田中端	古墳	集落跡	土器（土師器）、灰化米	119
32	道尾	中沢田字中沢	古墳・奈良・平安	集落跡	掘立柱建物址	370
33	木戸上	東沢田東戸平	縄文・古墳	集落跡	土器（縄文・土師器）、石鏡、磨石	132
34	谷津	中沢田谷津	古墳	集落跡	土器（土師器）	117
35	長塚	東沢田長塚	先土器・古墳	集落跡	尖頭器、土器（土師器・須恵器）、埴輪片	128
36	漆塚	東沢田漆塚	古墳	集落跡	住居址1基検出。土器（土師器）	124
37	入方	東沢田入方	弥生・古墳	集落跡	土器（弥生・土師器・須恵器）、勾玉、土製網跡串、有頭石錐、土錐	123
38	開戸	西熊堂開戸	古墳	集落跡	土器（土師器）	125
39	西堆	岡宮西之堆	弥生・古墳	集落跡	土器（弥生・土師器）、鐵劍	146
40	庄池	東熊堂天神前	古墳	祭祀？	土器（土師器）	147
41	六右工門組	岡宮字六右工門組	縄文・古墳・奈良	集落跡	土器、石器、刀子	376
42	下山	花園町	古墳	集落跡	土器（土師器）	148
43	寺下	岡宮寺下	古墳	集落跡	土器（土師器）	150
44	大谷津	岡一色子ノ神	旧石器・縄文 古墳	集落跡	敷石住居址、掘立柱建物、落とし穴、土器（縄文）、石鏡、石皿、ドリル、打斧、磨斧	291
45	三明寺	大隅三明寺	縄文・古墳	集落跡	打製石斧、石鏡	158
46	沢田	沼北町	弥生・古墳	水田址 集落跡	土器（弥生・土師器・須恵器）、住居址、灰化米	122
47	中溝	双葉町	弥生・古墳	集落跡	土器（弥生後期・土師器）、柱、杭、果核	185
48	双葉町	古墳	奈良・平安	集落跡	土器（土師器・須恵器）、墨書き、板材、杭	317
49	本田町	本田町	弥生・古墳	集落跡	土器（弥生後期？・土師器・須恵器）	184
50	丸子町	本字丸子町	古墳	祭祀	模造玉類、土器（土師器・須恵器）、有頭石錐	186

第2表 周辺遺跡一覧表（2）

No.	遺跡名	所在地	時代	種別	検出遺構・遺物等	遺跡No.
51	白鶴町	木宇白鶴町	古墳・奈良・平安	集落跡	土器（土師器・須恵器）	188
52	上ノ段	大手町	奈良・平安・中世	集落跡	堅穴住居、土器（土師器・須恵器）・唐三彩陶枕	382
53	杉崎町	奈良・平安		集落跡	土器（土師器・須恵器）	180
54	日ノ出町	杉崎町	古墳	集落跡	土器（土師器）、瓦玉、木片	179
55	高田原六天	大岡竹ノ花	弥生・奈良・平安	集落跡	土器（弥生後期・土師器・須恵器）、有頭大型石錐、布目瓦	178
56	豆生田	大岡豆生田	弥生・奈良・平安	集落跡	堅穴多敷横出、土器（弥生後期・土師器）、銅鏡	172
57	五郎丸	大岡五郎丸	古墳	集落跡	土器（土師器）	171
58	上耕地	大岡字上耕地	古墳～近世	集落跡	土器（土師器・須恵器・陶器）	371
59	宮畠	大岡宮畠	古墳	集落跡	土器（土師器）、有頭大型石錐	166
60	日吉	富士見町	弥生・奈良・平安	集落跡	土器（弥生・土師器）、堅穴住居址、磨製石斧	177
61	日吉瀬寺跡	富士見町	奈良・平安	寺院跡	塔基壇、柱穴、溝、住居	176
62	三芳町	三芳町	弥生・古墳	集落跡	土器（弥生後期？・土師器）、獸型土製品	181
63	清水上	三芳町	弥生・古墳	集落跡	土器（弥生・土師器）、柱状片刃石斧	182
64	山王台	平町	弥生～鎌倉	住居址	住居址・柱穴多敷横出、土器・空瓶残存、土器（弥生・土師器・須恵器）、古鏡	174
65	二ツ谷	大岡二ツ谷町	弥生・奈良・平安	集落跡	土器（弥生後期？・土師器・須恵器）	173
66	下石田原田	大岡原田	古墳・奈良・平安	集落跡	灰陶簡便器、土器、古鏡、馬ぬ	368
67	郷	大岡郷	弥生・古墳	集落跡	土器（弥生後期？五領式）	170
68	下石田森	大岡森	奈良・平安	集落跡	掘立柱建物模様、土器（土師器・須恵器）	365
69	浜井塙	大岡東浜井塙	弥生・古墳	集落跡	土器（弥生後期？・土師器）、石錐	168
70	戸屋敷	大岡戸屋敷	奈良・平安	集落跡	土器（土師器・須恵器）	167
71	台畠	大岡八幡台	奈良・平安	集落跡？	住居址・1軒複数、土器（土師器・灰釉・陶器）、古鏡	169
72	松下町	木字千本	古墳	集落跡	土器（土師器）	191
73	下小路	旭町	奈良平安	集落跡	土器（土師器・須恵器）	189
74	御幸町	御幸町	弥生・古墳 奈良平安	集落跡	住居址・300軒以上複数、土器（弥生後期・土師器・須恵器）、鉄製品、銅鏡、網劍	211
75	住吉	住吉町	弥生・古墳	集落跡	土器（弥生中期・土師器）	210
76	山ノ根	下香貫山ノ根	弥生・古墳	集落跡	土器（弥生後期？・土師器）、大形石錐	219
77	馬場	下香貫馬場	古墳	集落跡	土器（土師器）、有頭大型石錐	302
78	藤井原	下香貫井原	弥生～奈良・平安	集落跡	住居址・100基以上、井戸、溝状追構、土器（獨ヶ池・土師器）、銅鏡片、菅玉鉢製品、有頭大型石錐	222
79	林ノ下	下香貫林ノ下	奈良・平安	集落跡	土器（土師器・須恵器）	224
80	清水	下香貫清水	奈良	瓦窯跡	瓦片	225
81	大畠	志下北通り	古墳	集落跡	土器（土師器）	226

出典：沼津市教育委員会（1987）『沼津市埋蔵文化財分布図』（一部修正）

豪族の氏寺として建立されたと考えられる。

第3節 遺跡の層位（第5図）

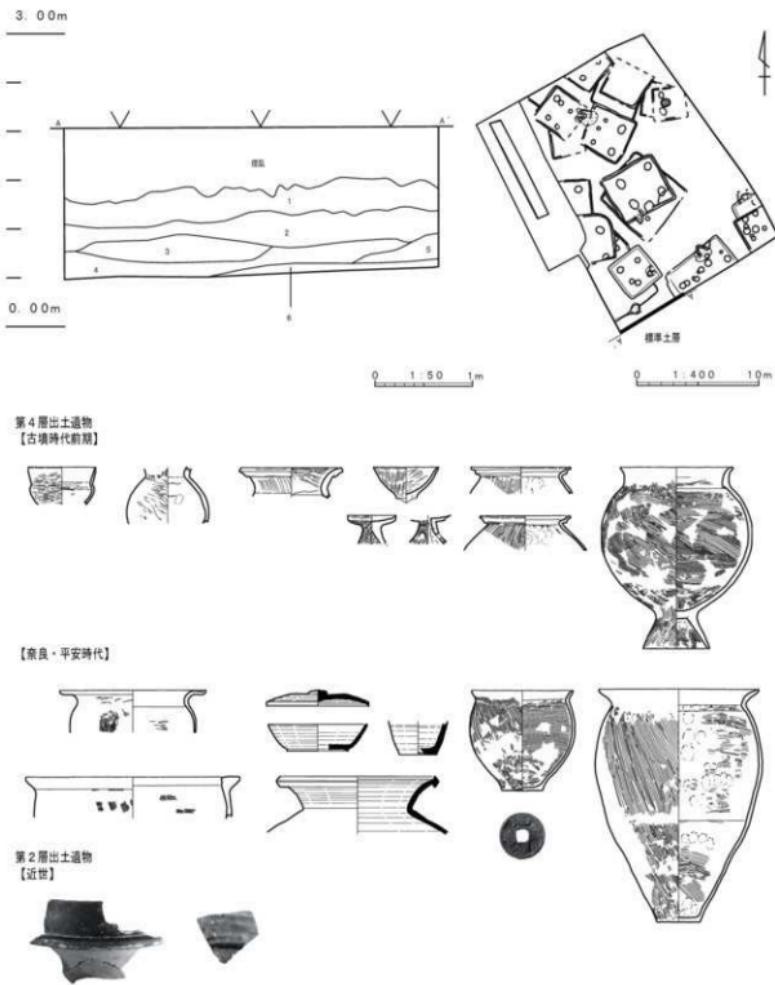
千本遺跡は、千本砂礫州上に形成された風成層の上に立地する。南西壁における土層堆積状況を標準土層とし、第5図に示した。

土層堆積状況は以下のとおりである。

- 第1層 暗褐色土層（7.5YR3/3）粘性が弱く、ややしまりがある。2 mm ~ 0.2mm の粗砂。
- 第2層 暗褐色土層（10YR3/4）粘性が弱く、しまりが弱い。2 mm ~ 0.2mm の粗砂。黒色土が混じる。
- 第3層 暗褐色砂層（10YR3/3）粘性がなく、しまりがない。
- 第4層 暗赤褐色砂層（5YR3/2）粘性が弱く、しまりがある。黒色土が混じる。
- 第5層 暗褐色砂層（7.5YR3/4）粘性が弱く、しまりが弱い。
- 第6層 灰黄褐色砂層（10YR4/2）粘性がなく、しまりが弱い。

遺物は全ての層から出土している。遺構検出面は第2層よりも下の層である。第3層・第6層は粘性がなく、しまりがない、または弱いことから純粹な砂層と考えられる。

千本遺跡周辺が安定していた時期は、今回検出した遺構から第4層（古墳時代前期・奈良・平安時代）及び、第2層（近世）と考えられる。



第5図 標準土層

第Ⅲ章 調査結果

第1節 遺構と遺物の概要（第6図）

遺構は千本砂礫洲上に形成された風成層である第4層暗赤褐色砂層を掘り込んで構築されており、古墳時代前期の住居址2軒（SB7・SB12）と奈良・平安時代の住居址16軒（SB1～SB6・SB8～SB11・SB13～SB18）を検出した。これらの遺構は、調査区の北側に9軒（SB1～SB3・SB6～SB8・SB11～SB13）、中央に2軒（SB5・SB9）、西側に4軒（SB4・SB10・SB14・SB15）、南側に3軒（SB16～SB18）が重複して分布していた。

古墳時代の遺構は住居址2軒である。これらは平面が方形を呈しており、調査区の北側のやや東寄りに重複して検出した。古墳時代の遺物は、SB7・SB12の他、調査区北側の3軒（SB2・SB8・SB11）、中央の2軒（SB5・SB9）、西側の1軒（SB15）、南側の2軒（SB16・SB18）及び包含層から出土している。

奈良・平安時代の遺構は平面が方形の住居址16軒である。これらは調査区の北側に7軒（SB1～SB3・SB6・SB8・SB11・SB13）、中央に2軒（SB5・SB9）、西側に4軒（SB4・SB10・SB14・SB15）、南側に3軒（SB16～SB18）重複して検出している。このうちSB5・SB8・SB10・SB16・SB18ではカマドの残存状況を確認した。奈良・平安時代の遺物は、これらの住居址と遺物包含層から出土している。

検出した遺構は人為的なものを抽出し、出土遺物は帰属時期が推定できる復元実測が可能なものを掲載した。

第2節 古墳時代の遺構と遺物

（1）住居址

第7号住居址（SB7）【第7図】

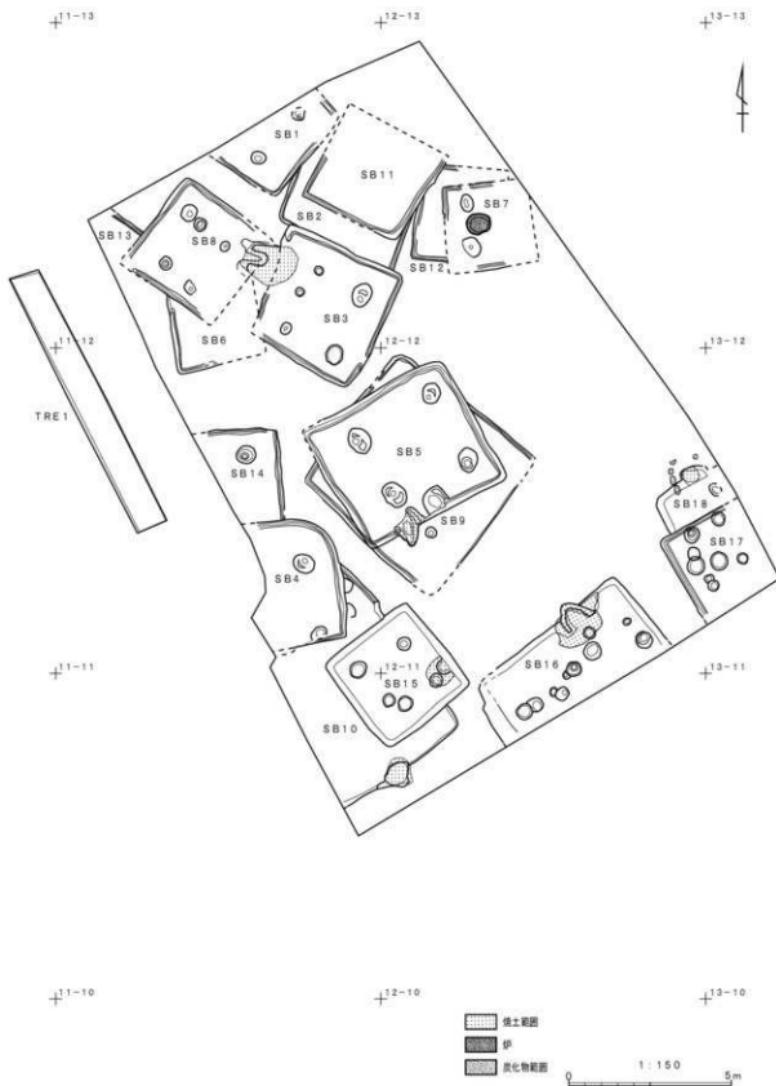
SB7は、調査区北東側の12-12グリッドで住居址の西側を2/3程度検出した。主軸方位は不明で残存状況はやや悪く、住居址の壁溝の一部、地床炉、主柱穴を2か所確認した。SB12との新旧関係は、重複関係からSB12より新しいと考えられる。規模は、残存長で南北2.75m、東西1.90m、検出面から床まで0.25mを測る。覆土は住居址の周囲から流入した第4層（黒褐色細砂層）が床面上に堆積し、さらに第3層（暗褐色細砂層）で埋没した後、最終的に第1層（灰黄褐色細砂層）で覆われていた。壁溝は、北壁・西壁及び南壁の一部で確認しており、約0.1mの幅で床面よりおおむね0.1m掘り下げている。床面は第6層の埴方を平坦にならしている。

炉址は住居址のやや西寄りの床面から斑状の焼土と炭化物を検出したことから、地床炉と考えられる。規模は炭化物や焼土の範囲で南北0.60m、東西0.75mを測り、床面を5cmほど楕円形に掘りくぼめて使用し、粘土等の貼り付け等は認められない。残存状況はやや悪く、焼成面を形成していた焼土が斑状に残存していた。

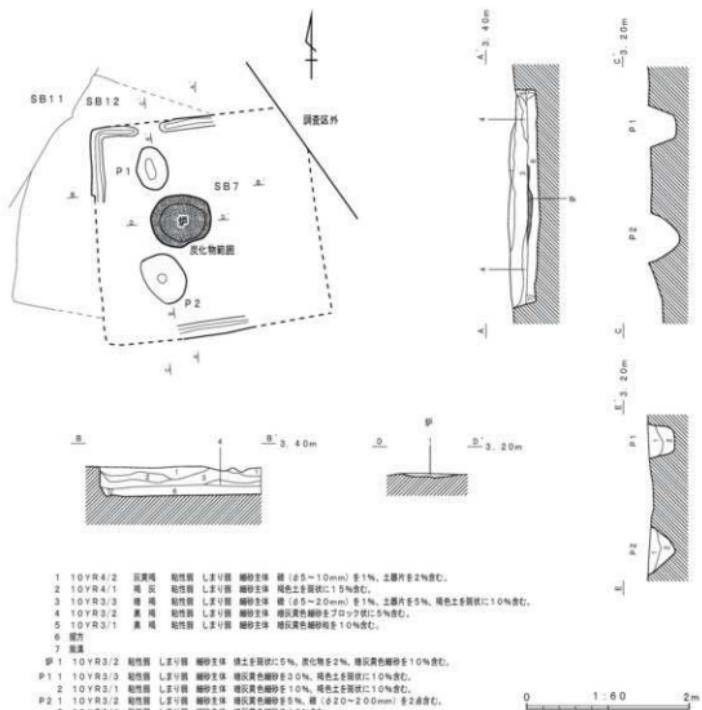
出土遺物【第8図・第9図】

22点図示した。1～19が土師器、20・21が土製品、22が金属製品である。

土師器は壗（1）、壺（2）、高杯（3・4）、器台（5～7）、甕（8～19）が出土している。1は壗の口縁部から胴部の一部である。胴部の最大径は肩部にあり、口縁部に向けて内湾する。口縁部は外傾しながら直線的に立ち上がる。胴部と口縁部の接合痕にはわずかにハケ目が残り、内外面ともに丁寧にヘラミガキを施す。2は壺の頸部から胴部の一部で、口縁部を大きく欠損している。頸部は屈曲して立ち上がり、胴部は球状を呈し、頸部に向けて内湾する。外面は丁寧にヘラミガキを施し、内面はヘラ

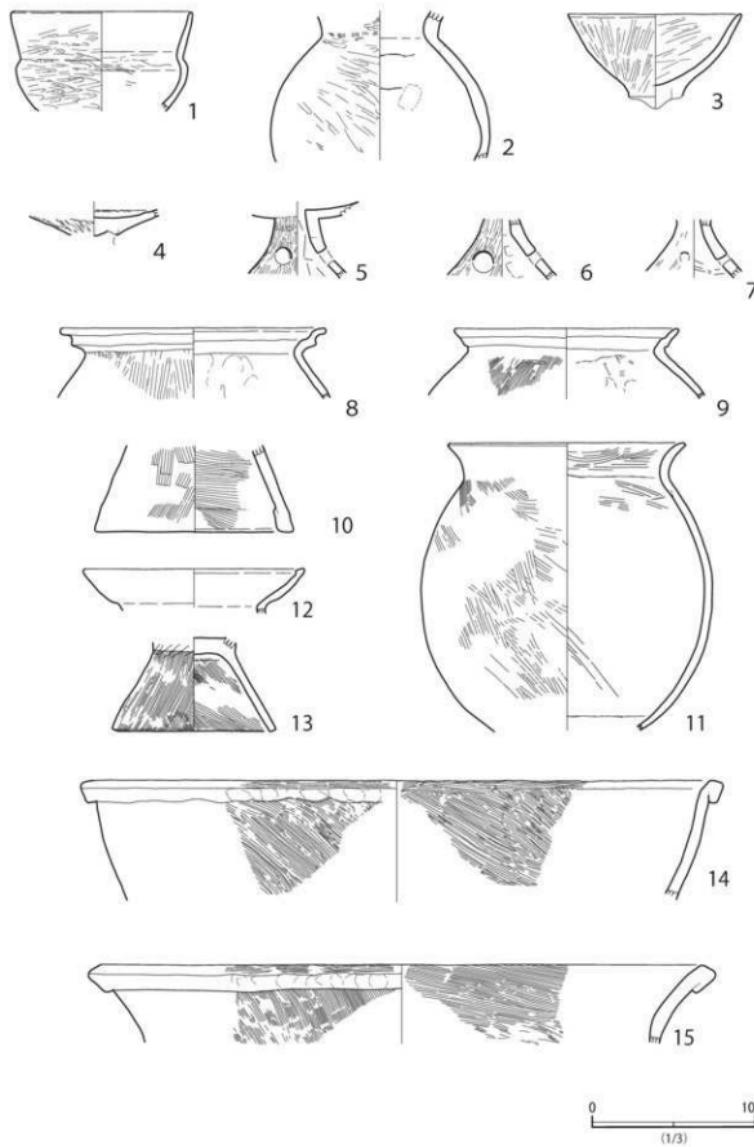


第6図 遺構全体図

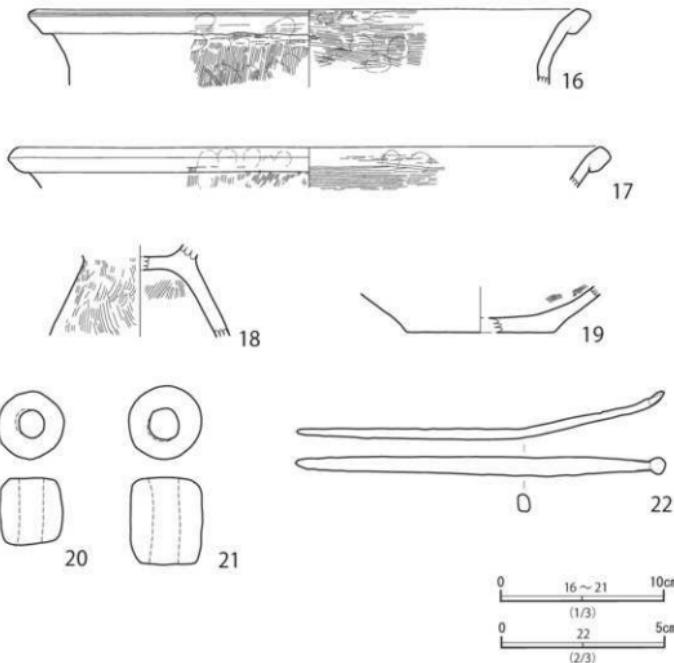


第7図 第7号住居址平面図・断面図

状の工具で整え、輪積み痕を残す。3・4は高环の环部の一部である。3の环部は緩やかに内湾しながら立ち上がり、口唇部はわずかに外傾する。内外面ともに丁寧なヘラミガキを施し、脚部との接合部には突起状の盛り上がりを残している。5～7は器台の一部である。5と6の脚部外面には、縱方向のヘラミガキ調整が施されている。内面は縦方向のヘラケズリ調整が施される。いずれも脚部中央に3か所の透かし穴を穿つ。8～10はS字状の口縁を有する台付甕である。8は口縁部を「S」字状に屈曲させている。口縁部は大きく外反し、口縁端部内面の面取りは認められない。胴部の外面は鋭い斜めハケ目調整している。器壁は0.5cmを測り、胎土に金雲母が認められる。9は口縁部を「S」字状に弱く屈曲させている。口縁部は大きく外傾し、口縁端部内面の面取りは認められない。胴部の外面は斜めハケ目調整している。器壁は0.5cmを測り、胎土に金雲母が認められない。10はS字状口縁付甕B類以降の脚台部で、末端は内面に折り返している。11は台付甕の口縁部から胴部の一部である。胴部の最大径は中位にあり、器形はやや球状を呈する。器壁は0.5cmを測り、外面は粗い斜めハケ目調整している。口縁部は緩やかに外反する。内面は板状の工具で整えている。12は甕の口縁部の一部でわずかに内湾しながら立ち上がり、端部が肥厚する。器壁は0.4cmを測る。内外面ともにナデで仕上げている。13は台付甕の脚台部で内外面ともにハケ目調整である。器壁は0.5cmを測る。14～17は大型の台付



第8図 第7号住居址出土遺物実測図（1）



第9図 第7号住居址出土遺物実測図（2）

甕の口縁部である。口縁部は斜めハケ目で調整後、口縁端部の外側に粘土組を貼り付けて肥厚させている。器壁は0.6cmから0.8cmを測る。18は脚台部の一部である。外面は粗くハケ目調整し、内面はハケ目調整後、ナデでなめらかに整える。19は甕の底部である。内面は一部ハケ目調整する。

土製品（20・21）はいずれも完形品の土錘が出土している。中央部は径2.0cm程の孔が穿たれており、やや摩耗が認められる。

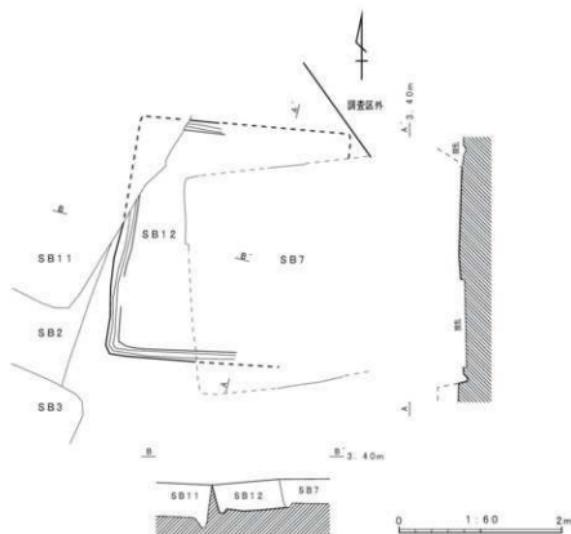
金属製品（22）は銅製のかんざしで、長さ11.3cm、幅0.6cmを測る。時期は不明である。

所見

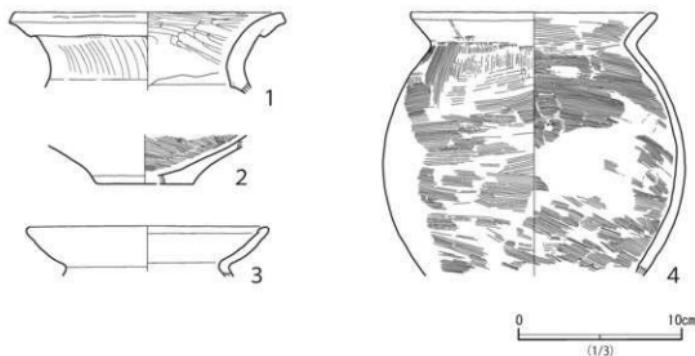
本住居址は地床炉を有しており、遺物の大半は古墳時代前期の土師器が占めていることから、古墳時代前期の住居址と判断される。

第12号住居址（SB12）【第10図】

SB12は、調査区北西の12-12グリッドで検出した住居址で、SB7とSB11と重複している。新旧関係はSB11やSB7より古いと考えられる。残存状況は悪く住居址の壁溝の一部を確認したのみである。規模は、南北の長さが2.95m、東西の残存長が1.60m、検出面から床までは0.35mを測る。覆土は不明である。壁溝は、西壁と北壁及び南壁の一部を確認しており、0.10mの幅で床面より0.08m程掘



第10図 第12号住居址平面図・断面図



第11図 第12号住居址出土遺物実測図

り下げている。

出土遺物【第11図】

4点図示した。全て土師器である。壺（1・2）と甕（3・4）が出土している。1は口縁端部を折り返して肥厚させており、いわゆる折り返し口縁の壺である。口縁部から頸部をハケ目調整後、内外面ともに粗いヘラミガキを施す。2は壺の胴部から底部の一部で、胴部の器壁は0.4cmを測る。底面は粗い網代痕が残り、内面はハケ目調整する。3は小型の甕の口縁部で、頸部が強く屈曲し、内湾気味に大

きく外傾して立ち上がり、口縁端部は肥厚している。器壁は0.4cmを測る。布留式土器の小型甕に類似する。4は台付甕の口縁部から胴部の一部である。胴部の最大径は中位にあり、口縁部は外傾して立ち上がる。器壁は0.5cmを測り、胎土には白色粒子が混入する。

所見

本住居址は出土遺物の年代から古墳時代前期の住居址である。

(2) 覆土出土遺物【第12図・第13図】

SB7及びSB12以外の住居址覆土から、古墳時代の土器が出土している。大半が古墳時代前期のものであるが、古墳時代後期のものも存在する。本節ではそれらのうち环2点、高环2点、器台2点、壺3点、甕9点を図示した。時期は、1と2が古墳時代後期であり、それら以外は全て古墳時代前半である。

1・2は古墳時代後期の内湾环である。口縁部は横ナデを施し、外面体部から底部にかけて手持ちヘラケズリを施す。3は柱状を呈する高环の脚部である。外面には縦方向のミガキを施した後、その上から横方向のミガキを施す。内面は絞り込むようにして成形している。畿内からの搬入品とみられる。4は高环の脚部の一部で、环部と裾部を大きく欠損する。5・6は器台である。脚部外面は縦ヘラミガキが施され、受け部には横方向のヘラミガキが施されている。5の口縁部は直角に立ち上がる。7は直口壺の口縁部である。外面は縦方向のミガキを施し、肩部はハケ目調整されている。8は大型の甕である。口縁端部は外側に粘土紐を貼り付け肥厚させている。口縁部内外面はヨコナデ調整とハケ目調整する。9・10は壺底部で、9の底径は8.9cm、10の底径は5cmを測る。いずれも内面はハケ目調整し、10は外面を丁寧なヘラミガキ調整する。調整や胎土などから小型精製品の底部と推定される。11～18は台付甕である。11は緩やかに屈曲する頸部から口縁部が外反して立ち上がっており、口縁端部は丸みを帯びている。口縁部外面はヨコナデ調整し、胴部内外面はハケ目調整する。12はS字状口縁甕の破片である。口縁部内面に弱い面取りがみられ、頸部外面は沈線を巡らす。斜めハケ目調整が肩部外面に確認できる。全形は不明だが、肩部の広がりから最大径を上位にもつ典型的な「無花果型」を示すと思われる。胎土や色調などの特徴から伊勢湾沿岸地域からの搬入品の可能性がある。13～17は台付甕脚部である。13・15・16は外面は細かい斜めハケ目で整えており、特徴的な灰黄色の胎土に白色粒子が混入し、厚さは0.5cmを測ることから、口縁部がS字状を呈する台付甕の脚台部と推測される。14は脚部端を内側に折り返している。

第3節 奈良・平安時代の遺構と遺物

(1) 住居址

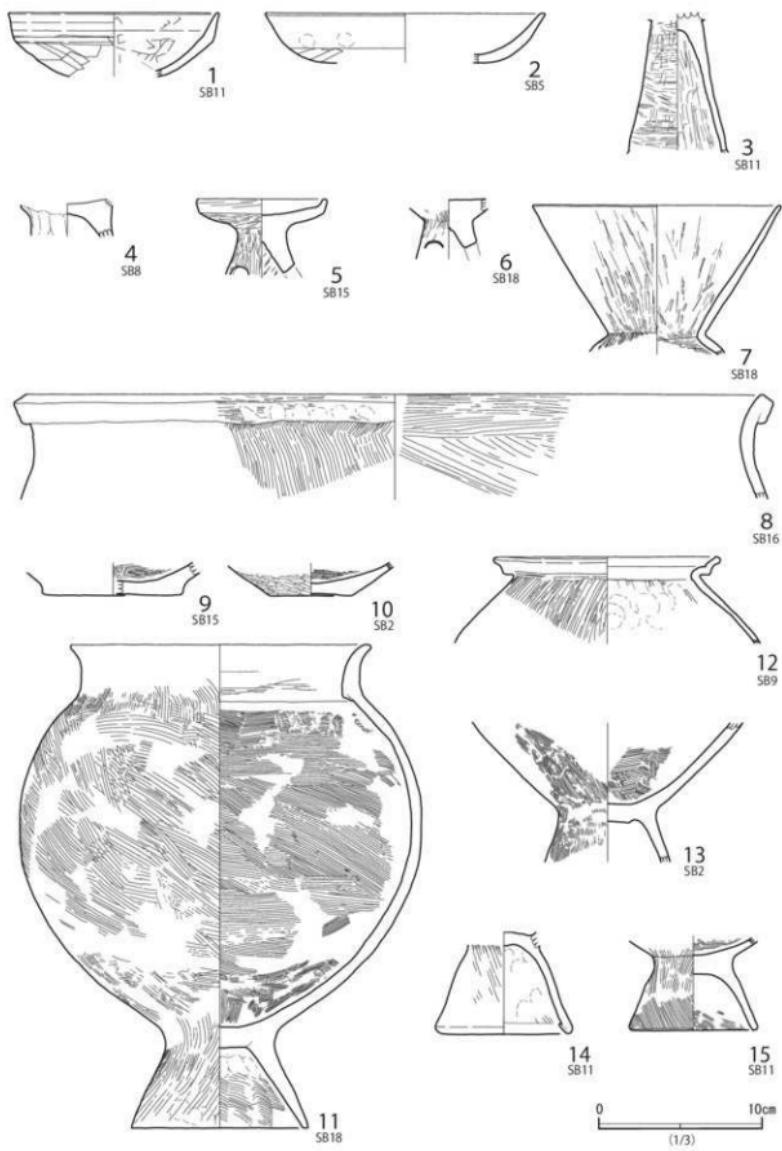
第1号住居址(SB1)【第14図】

SB1は、調査区北側の11～12グリッドで検出した住居址で、約1/2を検出した。主軸方位は、カマドを検出していないため不明である。残存状況は壁溝の一部、主柱穴2か所を確認した。新旧関係は、重複関係からSB2より新しいと考えられる。規模は、南北3.40m、東西は残存長で2.20m。検出面から床面までは0.25mを測る。覆土は住居址の周囲から流入した第3層(黒褐色細砂層)が壁際から床面上に堆積し、さらに1cm～2cmの海浜礫を含む第2層(暗褐色細砂層)で埋没した後、1cmの海浜礫を含む第1層(黒褐色細砂層)により覆われていた。壁溝は、東壁及び南壁と北壁の一部で確認しており、0.2mの幅で床面より0.1mほど掘り下げている。床面は堀方を平坦にならしていた。

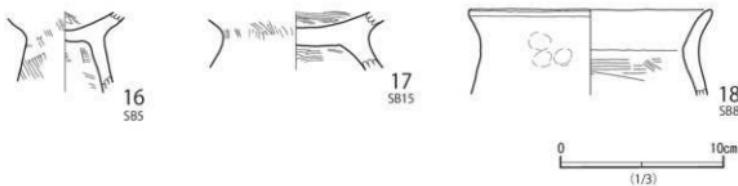
出土遺物【第15図】

17点図示した。1～15が土師器、16・17が灰釉陶器である。

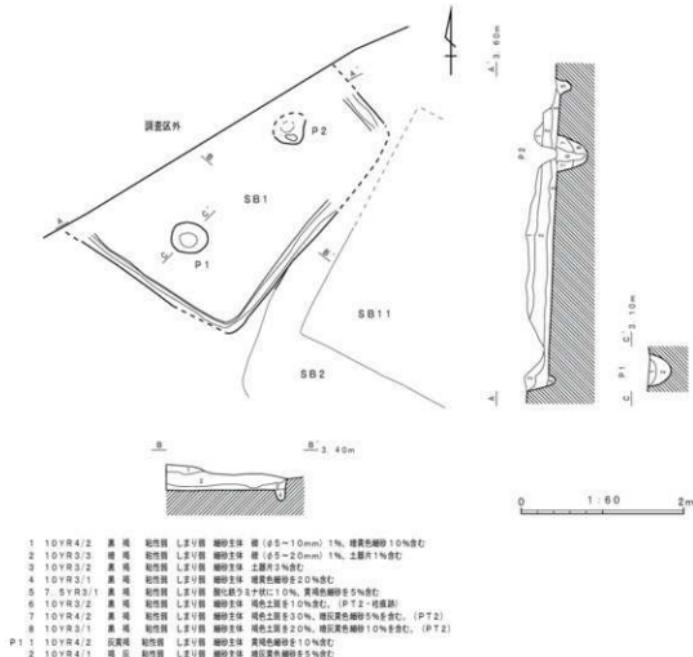
土師器は环(1～4)、甕(5～10)、壺(11～13)、手捏ね土器(14・15)が出土している。1は环の底部である。底部外面には三本の直線が交差する線刻が認められる。2は覆土から出土した甲斐



第12図 古墳時代覆土出土遺物（1）

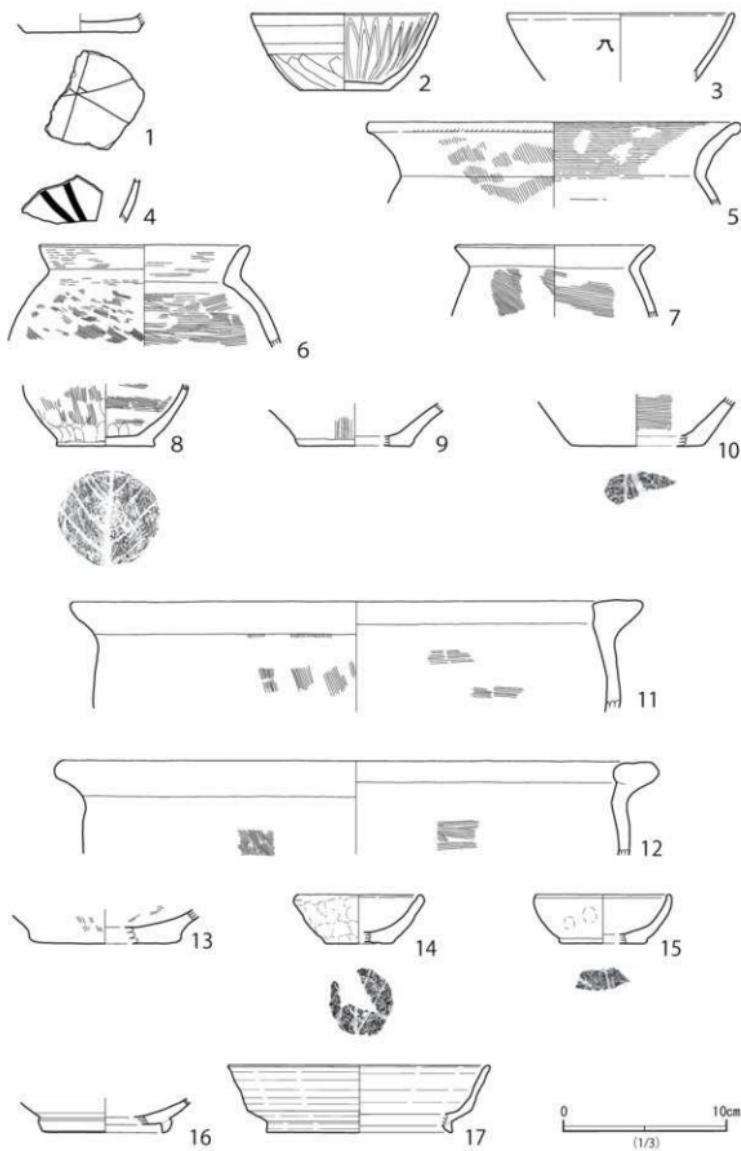


第13図 古墳時代覆土出土遺物（2）



第14図 第1号住居址平面図・断面図

型環である。口径 11.2cm、器高 4.7cm、底径 5.5cmで、器壁は 0.3cmを測る。外面は回転ナデ、底部にかけて手持ちヘラケズリ、内面は放射状暗文が施される。9世紀中葉から後半と推定される。3・4は墨書き土器である。3はナデ調整されており、器壁は 0.3cmを測る。外面部に小さく墨書きが書かれている。4は体部外面に墨書きの一部が残る。5は覆土から出土した甕の口縁部で「くの字」状を呈する駿東型長胴甕の口縁部である。口縁部は緩やかに外反しており、胴部外面はハケ目調整し、口縁部はハケ目調整後、ナデで仕上げている。口径は復元値で 22cmを測る。8世紀の中葉から後葉の甕と推測される。6は小型の駿東型球胴甕の口縁部から胴部の一部である。口径は 12.8cm、口縁部は厚さが 0.8cmを測り、胴部内外面はハケ目調整、口縁部はナデで成形する。7は小型の甕で、口縁部から胴部の一部である。口径



第15図 第1号住居址出土遺物実測図

は13cmを測り、口縁部は厚さが0.4cmを測る。8は小型窓の底部である。底面には木葉痕が認められる。厚さが0.4cmを測る。9・10は窓底部の一部である。10は底面に木葉痕が残る。11・12は窓の口縁部から胴部の一部である。11の口径は復元値で35cm、12の口径は復元値で36cmを測る。口唇部は、上面を平坦に整えるために厚く肥厚させている。胴部の外側はハケ目調整後、ヘラミガキを施す。口縁部はヨコナデで整える。13は窓底部の一部である。14・15は手捏ね土器の一部である。14は口径7.6cm、器高3.0cm、底径4.0cmで、外面をナデで整形した後、底部近くをヘラケズリで整えている。底面に木葉痕が残る。15は口径が復元値で8.2cm、器高3.0cm、底径5.2cmを測り、底面に木葉痕が残る。

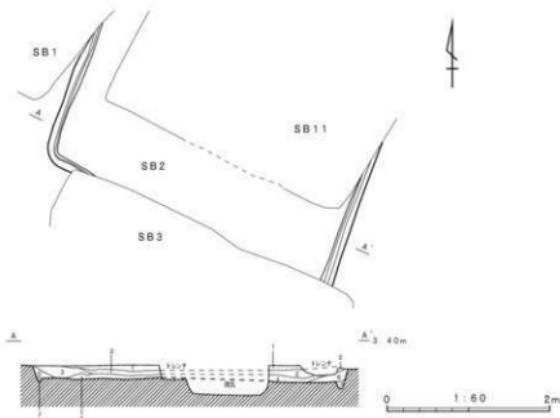
灰釉陶器は有台碗（16・17）が出土している。16は断面が三日月状となる高台を貼り付けた碗の一部である。外面ともにナデで成形している。見込みには重ね焼きの痕跡が残る。黒窓90号窯式もしくは折戸53号窯式に類似することから8世紀後半から9世紀前半と推定される。17は高台付碗の一部であり、貼り付けられる高台はやや外側に広がる断面形状となっている。底部から屈曲して口縁部が立ち上がる。

所見

本住居址の年代は灰釉陶器の年代観から8世紀後半～9世紀前半と考えられる。

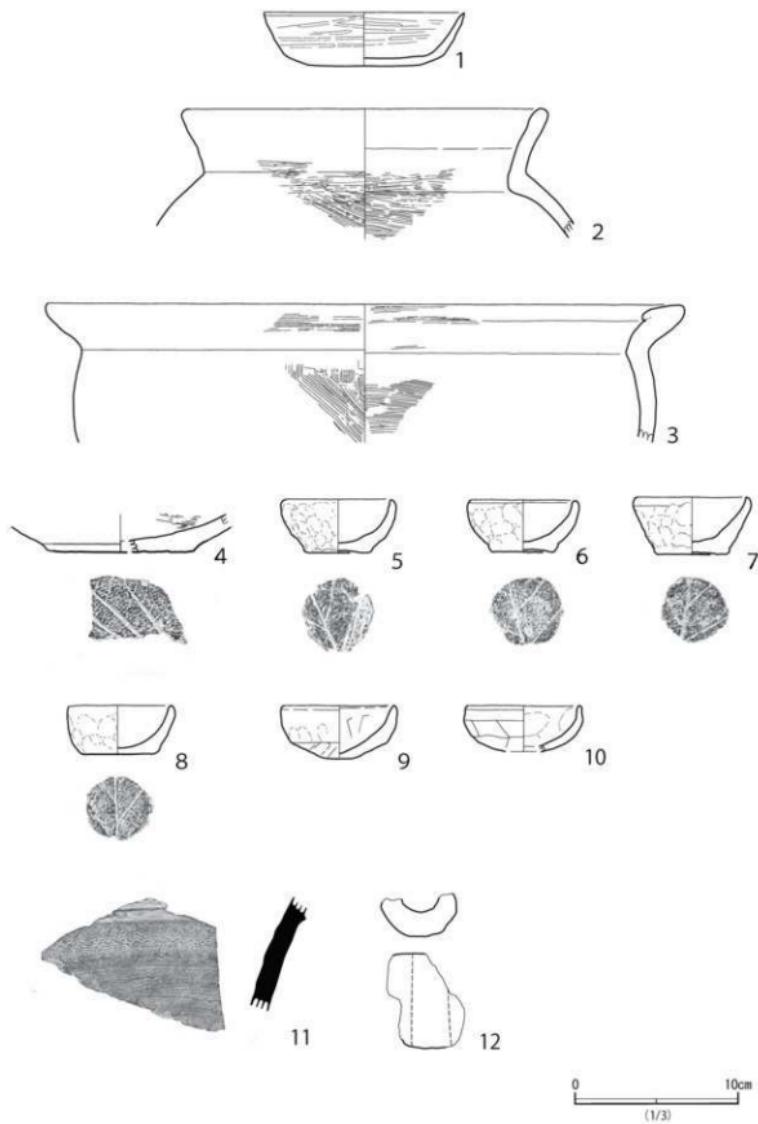
第2号住居址（SB2）【第16図】

SB2は、調査区北の11-12・12-12グリッドで検出した住居址で、SB1・SB3・SB11と重複している。主軸方位は不明である。残存状況は悪く、住居址の壁溝の一部を確認したのみである。新旧関係は、重複関係からSB1・SB3・SB11より古いと考えられる。規模は、残存長で南北1.85m、東西3.90m、検出面から床面まで0.28mを測る。覆土は住居址の周囲から流入した第6層と第5層（黒褐色細砂層）が壁際に堆積し、さらに第4層（灰黄褐色細砂層）で埋没した後、第1層（黒褐色細砂層）により覆われていた。壁溝は、東壁及び西壁の一部を確認しており、0.25mの幅で床面より0.1mほど掘り下げて



- 1 TOYR3/1 黒 種 細粒目 しまりやや滑 磨擦主体 小窓 (6.3~5mm) 2%, 2窓との隙間より須磨層出土
- 2 TOYR3/2 黒 種 細粒目 しまりやや滑 磨擦主体 小窓 (6.5~20mm) 2%, 上蓋を中心に古代遺物 (須磨, 土器) 包含。性後発層?
- 3 TOYR3/1 黒 種 細粒目 しまりやや滑 磨擦主体 小窓 (6.20~30mm) 1%, 古須磨層物包含。
- 4 TOYR4/2 黒 種 細粒目 しまりやや滑 磨擦主体 小窓 (6.20~30mm) 1%, 古須磨層物包含。
- 5 TOYR3/1 黒 種 細粒目 しまりやや滑 磨擦主体 小窓 (6.20~30mm) 1%, 古須磨層物包含。三角堆積
- 6 TOYR3/1 黒 種 細粒目 しまりやや滑 磨擦主体 小窓 (6.20~30mm) 1%, 古須磨層物包含。三角堆積
- 7 TOYR3/2 黒 種 細粒目 しまりやや滑 磨擦主体 小窓 (6.20~30mm) 1%, 古須磨層物包含。底層堆積

第16図 第2号住居址平面図・断面図



第17図 第2号住居址出土遺物実測図

いる。床面は壠方を平坦にならしている。

出土遺物【第17図】

12点図示した。1～10が土師器、11が須恵器、12が土製品である。

土師器は壺（1）、甕（2）、壠（3・4）、手捏ね土器（5～10）が出土している。1は断面が箱型を呈する壺で、口径12.6cm、器高3.3cm、底径7.0cmを測る。内外面ともに横方向のヘラミガキを丁寧に施す。底部はヘラケズリの後、ヘラミガキで整えている。8世紀前半と思われる。2は駿東型球胴甕の口縁部から肩部の一部である。口径は復元値で21.6cmを測る。口唇部は内面が肥厚し、口縁部はナデ、肩部は斜めハケ目調整する。8世紀前半と思われる。3は壠の口縁部から胸部で、口径は復元値で39cmを測る。口縁部は外反しながら肥厚し、口唇部を平坦に整えている。4は壠の底部で、内面はハケ目調整する。底面に木葉痕が残る。5～10は手捏ね土器である。内外面をナデながら整形し、外面の下部を持ちヘラケズリで整えている。5～8の底面には木葉痕が残る。

須恵器は甕（11）が出土している。大型の甕の口縁部の一部と推測される。一条の隆線と波状文が施される。

土製品は土鍤（12）が出土している。半分程欠損しているが、管状の型式である。

所見

本住居址は出土遺物の年代から8世紀前半と推測される。

第3号住居址（SB3）【第18図】

SB3は、調査区北端の11-11-11-12・12-12グリッドで検出した住居址で、SB2・SB6と重複している。新旧関係は、重複関係からSB2とSB6より新しいと考えられる。主軸方位は不明であるが、焼土範囲が西壁から住居内に広がることから、カマドを西壁中央に構築していたと想定される。残存状況は良好で、住居址の周溝、主柱穴4か所（P 1～3・5）を確認した。規模は、東西が3.70m、南北が3.90m、検出面から床面まで0.37mを測る。覆土は第9層（黒褐色細砂層）が床面上に堆積し、第5～7層の黒褐色細砂層が壁際から第9層上に三角堆積した後、褐色土を斑状に2～30%含む黒褐色細砂層に覆われていた。壁溝は残存範囲の全てで確認されており、0.20mの幅で床面より0.40mほど掘り下げている。床面は壠方を平坦にならしている。

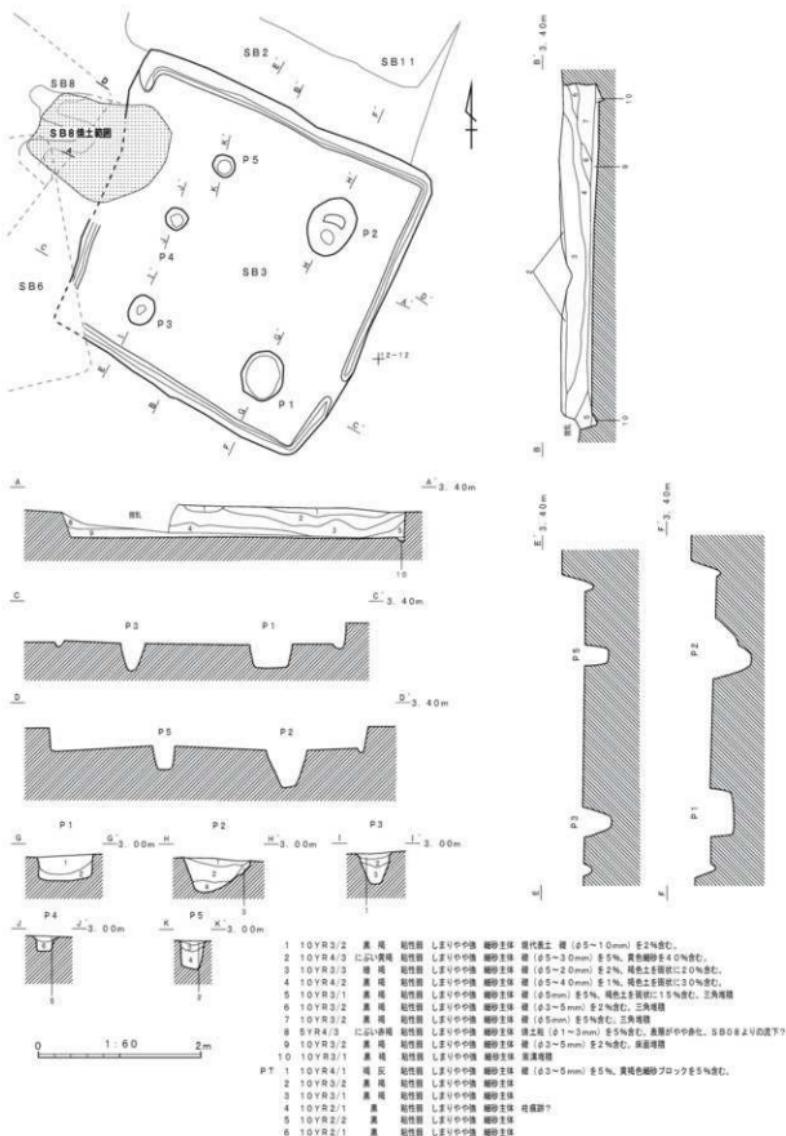
カマドが構築していたと想定できる箇所は搅乱を受けており、カマドについての詳細は不明である。

出土遺物【第19図】

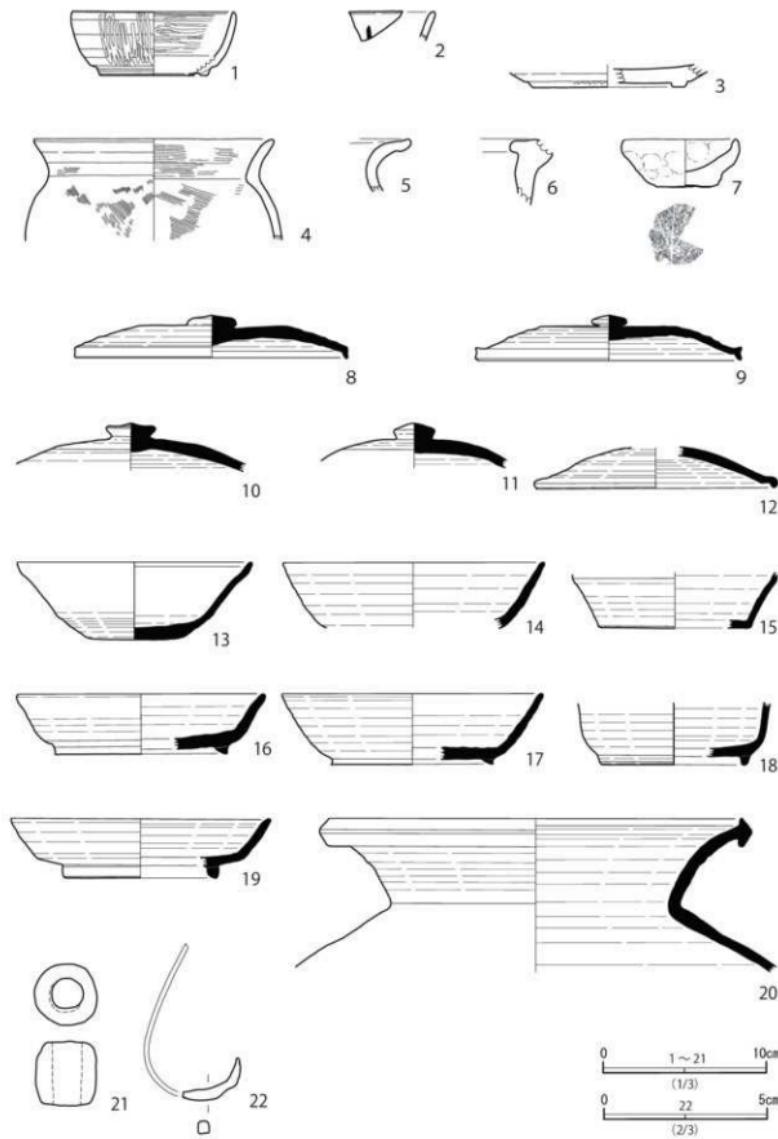
22点図示した。1～7が土師器、8～20が須恵器、21が土製品、22が鉄製品である。

土師器は壺（1～3）、甕（4・5）、壠（6）、手捏ね土器（7）が出土している。1は須恵器模倣の有台壺身である。口縁部は底部からやや内湾気味に立ち上がる。ナデによる成型後、高台を貼り付け、回転ヘラケズリで体部下部から底部を整える。そして最後にタテヘラミガキで整える。内面は、横方向のヘラミガキ調整である。2は壺の体部片で、墨書が確認できる。3は有台杯の底部片である。底部は高台を貼り付ける。4は口縁部から胸部上半にかけての小型甕である。肩はあまり張らず、頸部はくの字に屈曲する。口縁端部の肥厚は認められない。内外面にはハケ目調整が認められる。5はコの字状口縁の長胴甕の口縁部である。口縁端部を内面に0.2cm程折り返している。6は壠の口縁部である。口縁端部を内側に厚く肥厚させ、上面を平坦に整えている。内外面はヨコナデで整える。7は手捏ね土器である。外面は摩耗しているため不明であるが、内面はナデで整形した後、底部近くをヘラケズリで整えている。底面に木葉痕が残る。

須恵器は壺蓋（8～12）、壺身（13～19）、甕（20）が出土している。8～12は壺蓋である。10・11は一部であるが、8・9・12と同様の返しをもたない摘み蓋である。8～11の天井部はヘラケズリが施され、擬宝珠状の摘みがつく。12は摘み部分を欠損するが、11と同様の摘み蓋と思われる。



第18図 第3号住居址平面図・断面図



第19図 第3号住居址出土遺物実測図

8～12は8世紀代に位置づけられる。13は無台の碗形坏身の一部で底部にヘラケズリしており、14は13と同様のものと考えられ、口縁端部は丸く仕上げている。8世紀前半に位置づけられる。15は無台の箱型坏身で、底部を回転ヘラケズリしている。8世紀代である。16～19は有台杯である。16～18は底部が平らなことから、8世紀代に位置づけられ、19も底部がほぼ欠損しているが、16～18と同様の時期のものと考えられる。20は甕の口縁部から肩部の一部で、口径は復元値で25.5cmを測る。口縁部は肥厚させており、断面形は三角形を呈する。外面には自然釉が見られ、肩部にはタタキ痕が残る。須恵器の年代はいずれも8世紀代を中心とするものである。

土製品は完形品の土鍤（21）が出土している。型式は管状である。

鉄製品は釣針（22）が出土している。腰曲から先曲まで残存しており、残存長は1.9cmを測る。断面形は縦0.39cm、横0.37cmの長方形である。

所見

本住居址の時期は、出土遺物から8世紀代と判断される。

第4号住居址（SB4）【第20図】

SB4は、調査区西側の11-11グリッドで検出した住居址で、調査区内に一部を検出した。主軸方位は、カマドを検出していないことから不明である。残存状況は住居址の一部を検出しており、住居址の壁溝の一部、主柱穴1か所を確認した。SB10・SB14と重複しているが、新旧関係はSB10とSB14より新しいと考えられる。規模は、残存長で南北3.80m、東西2.45m、検出面から床面まで0.65mを測る。覆土は床面上に住居址の周囲から流入した第7層（黒褐色細砂層）が壁際から床面上に堆積し、さらに2cm～5cmの海浜礫を含む第6層（黒褐色細砂層）で埋没した後、第1層（に赤い黄褐色細砂層）により覆われていた。壁溝は、東壁及び南壁と北壁の一部を確認しており、0.1mの幅で床面より0.1mほど掘り下げている。床面は堀方の上に第9層（黒褐色細砂層）を平坦にならしている。

出土遺物【第21図】

19点図示した。1～15が土師器、16が須恵器、17・18が灰釉陶器、19が土製品である。

土師器は坏（1～9）、甕（10）、壺（11～14）、手捏ね土器（15）が出土している。1は駿東型の坏で、線刻土器である。体部内外面に横向方向のヘラミガキを施す。線刻は内面に確認でき、縦方向に三本線、横向方向に三本線を刻む。2～8は坏の一部である。2は駿東型の盤状坏に類似するが、口縁部は緩やかに立ち上がる。内外面ともにナデで整えた後、内面に粗いヘラミガキを施す。3は1よりも口縁部の立ち上がりが強く、内外面ともにナデの後、粗いヘラミガキを施す。4～8は墨書き土器の一部である。4～7は外而に、8は底部外面に墨書きが認められる。9は須恵器模倣の坏の底部である。底部はヘラケズリを施した後、高台部を削り出している。内面の調整もヘラケズリを施す。10は甕底部の一部で、内外面はハケ目調整する。底面に木葉痕が観察できる。11は壺の一部で、口縁部は緩やかに外反する。12～14は壺の底部で、底面には木葉痕が残り、指頭痕とハケ目調整が観察できる。15は手捏ね土器で、内外面はナデで調整し、側面から底部にかけては指頭痕で成形する。

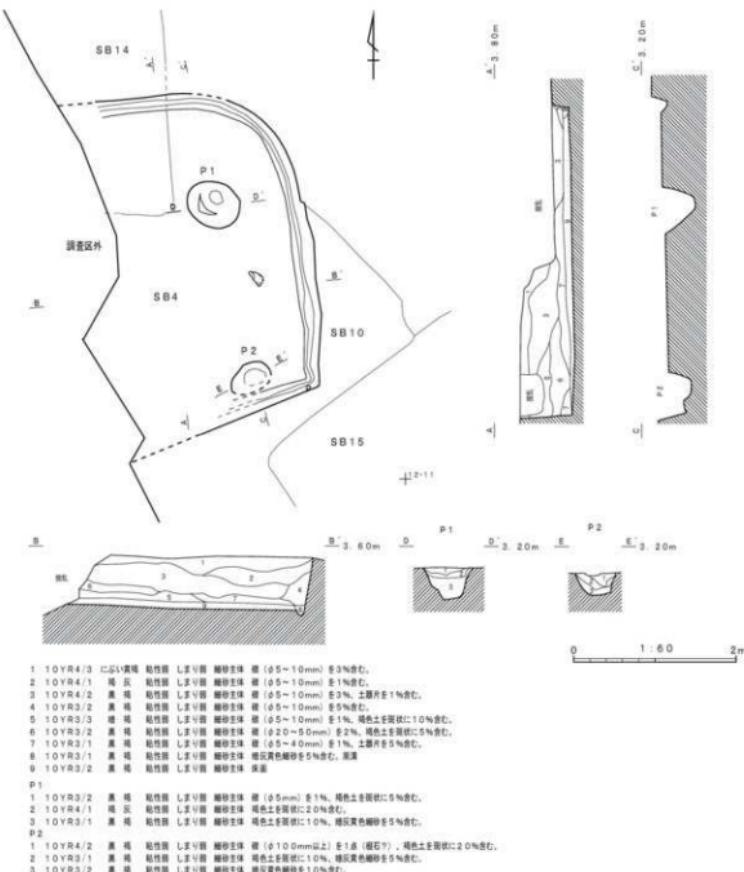
須恵器は壺（16）が出土している。16は壺G類の底部と推測され、内外面は水挽きによる回転ナデが、底部には糸切痕が残る。8世紀代である。

灰釉陶器は長頸瓶（17）と碗（18）が出土している。17は小型の長頸瓶の肩部から底部の一部と推測され、肩部から胴部へと緩やかに続いている。初期の灰釉陶器と推測され、8世紀後半と判断される。18は高台碗の底部と推測される。低い高台が貼り付けられている。

土製品は、完形品の土鍤（19）が出土している。管状を呈している。

所見

本住居址の年代は、出土遺物の年代からおおむね8世紀後半と判断される。

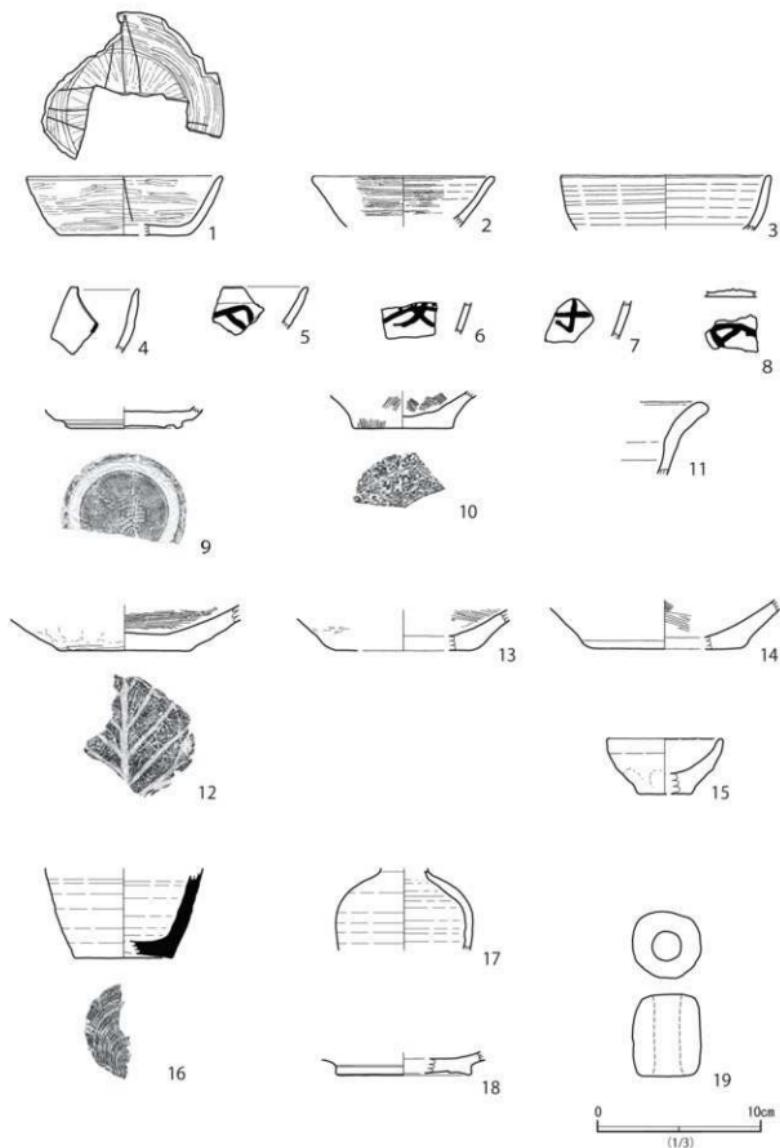


第20図 第4号住居址平面図・断面図

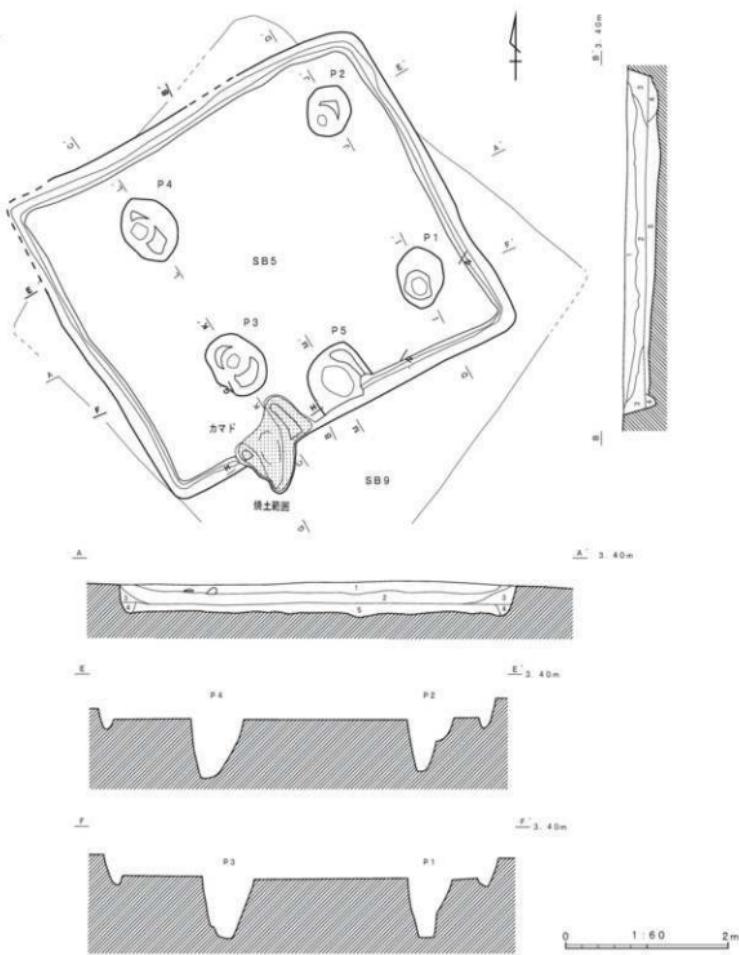
第5号住居址 (SB5)【第22図～第24図】

SB5は、調査区中央の11-11・12-11グリッドで検出した住居址で、SB9と重複している。重複関係から、SB9より新しい。主軸方位は、カマドを南壁に構築していることからN-140°-Eを示す。残存状況は良好で、住居址の壁溝、カマド、主柱穴4か所(P1～P4)を確認した。規模は、主軸方向の長さが南北4.30 m、幅が東西4.95 m、検出面から床面までは0.26 mを測る。覆土は住居址の周囲から流入した第3層(黒褐色細砂層)が壁際に堆積し、さらに第6層(灰黄褐色細砂層)で埋没した後、10cm前後の幅で床面より0.12 mほど掘り下げている。床面は堀方を平坦にならしている。

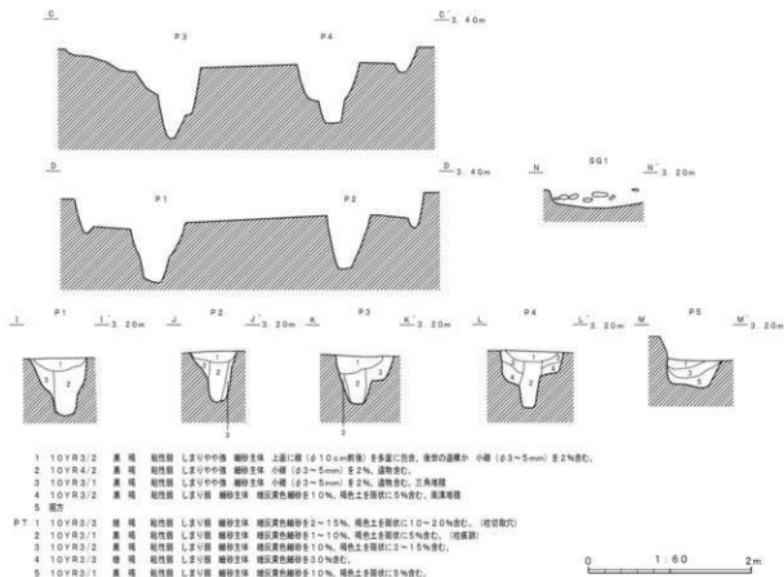
カマドは南壁のやや西よりから両袖と燃烧室、煙道を検出した。規模は煙道から焚口まで1.11m、



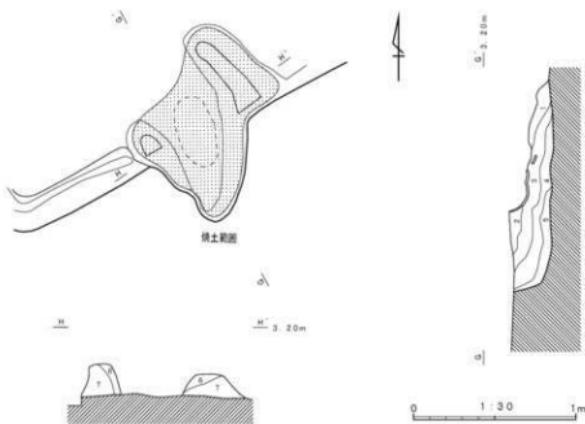
第21図 第4号住居址出土遺物実測図



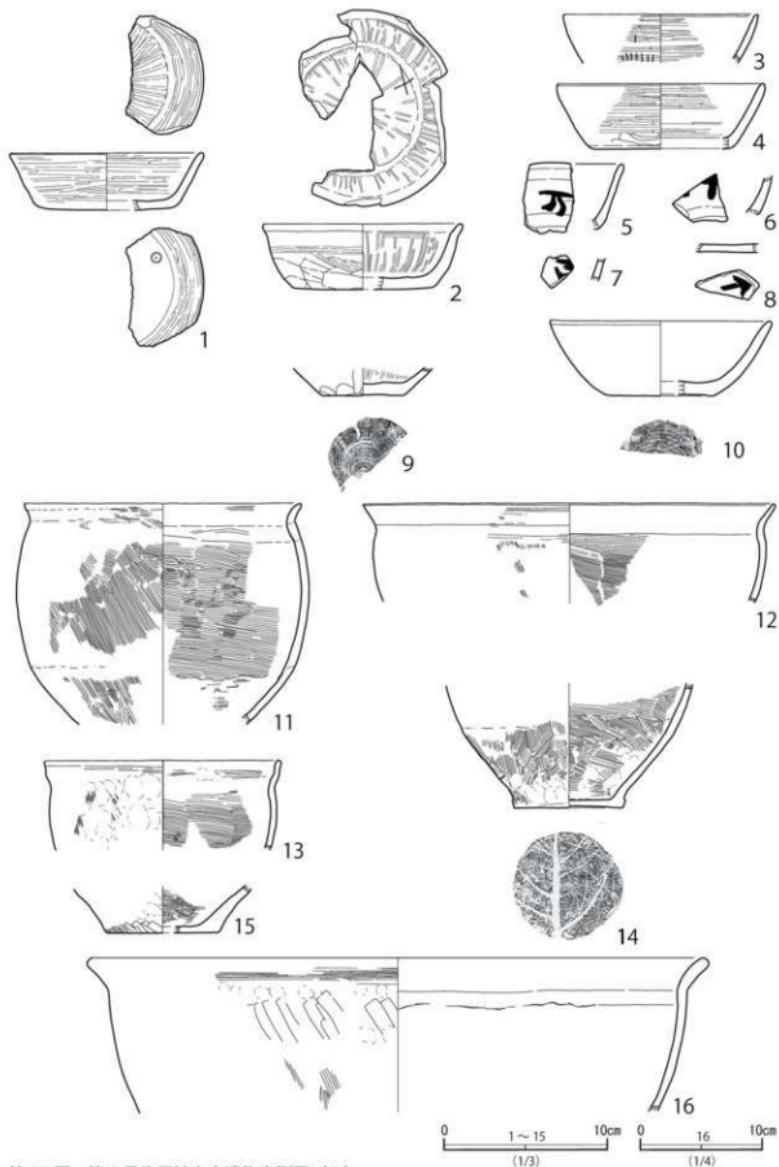
第22図 第5号住居址平面図・断面図



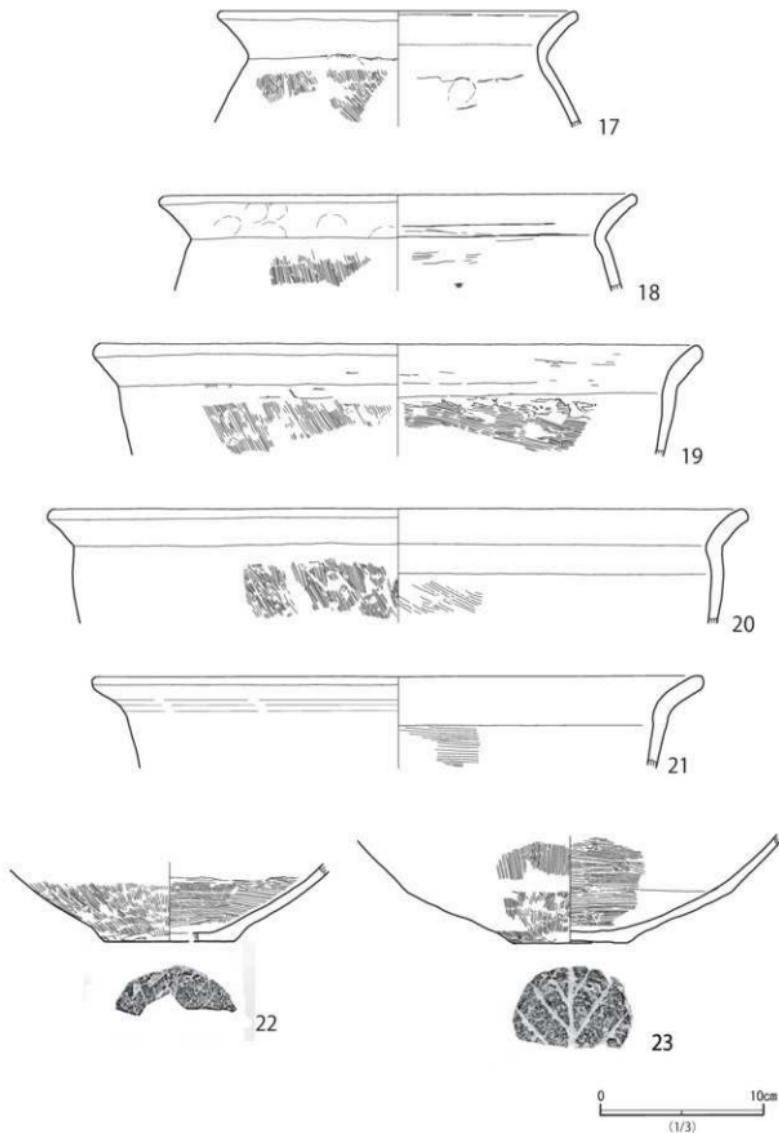
第23図 第5号住居址断面図



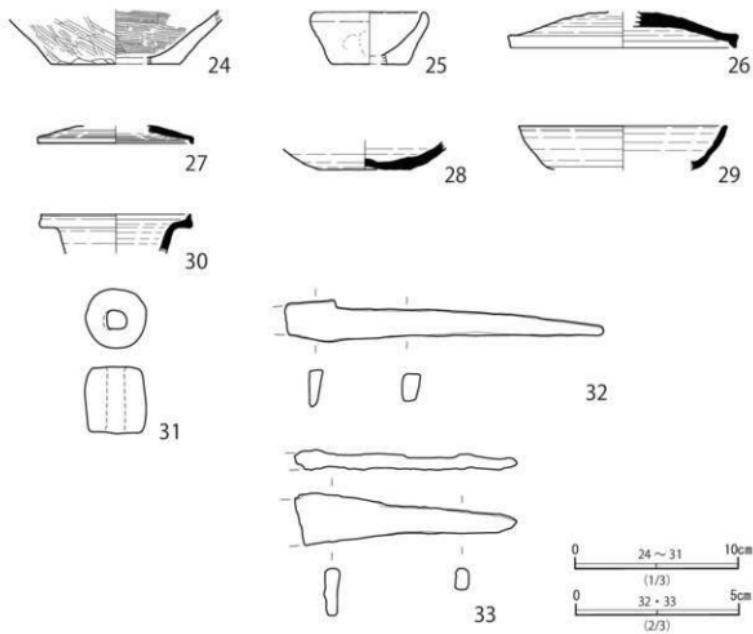
第24図 第5号住居址カマド平面図・断面図



第25図 第5号住居址出土遺物実測図（1）



第26図 第5号住居址出土遺物実測図（2）



第27図 第5号住居址出土遺物実測図（3）

左右の袖の幅が0.99mを測る。残存状況は、左右の袖の一部と燃焼室及び煙道の下部が残っていた。構築方法は、南壁を0.49m掘り込んで煙道を整え、床面上に灰黄褐色細砂を積み上げて左右の袖と燃焼室及び焚口を構築していた。

出土遺物【第25図～第27図】

33点を図示した。1～25が土師器、26～30が須恵器、31が土製品、32・33が鉄製品である。土師器は壺（1～10）と甕（11～15）、壠（16～24）、手程ね土器（25）が出土している。1の底部内面には0.2cm幅の縦方向のミガキが施されている。底部外面には竹管によると思われる痕が確認できる。8世紀後半である。2は駿東型の壺である。口縁部直下にわずかに稜をつくり、口縁部は外傾する。体部外面はハラケズリ、内面は縦方向のヘラミガキを施す。底部内面には十字に線刻が刻まれる。8世紀前半に位置づけられる。3は口縁部の一部である。ヨコナデを施した後、横方向のミガキを施す。外面上には長さ0.4cmの直線状の線が縦方向に7条刻まれている。5～8は壺の一部で、いずれも墨書き器である。5は「万」の字が読み取れる。6～8に書かれている文字は不明である。9は甲斐型壺の体部から底部の一部である。内黒で、体部に幅0.3cmの縦方向のミガキを施す。外面上は体部下部をケズリ、底部は糸切りで切り離した後、平坦に整える。9世紀末～10世紀初頭に位置付けられる。10は壺の口縁部から底部の一部である。内黒となる。口縁端部はやや外反し、丸く作る。底部はハラケズリが残る。10世紀代前半である。11～15は小型の球胴甕の一部である。外面上には斜位のハケ目調整され、内面は横方向のハケ目調整がされる。11の口縁部は短く、外反し、端部は丸味をおびる。13は口縁部から

頸部にかけて2回外側に屈曲し、端部は丸みを帯びる。14は甕の胴部から底部の一部である。内外面はハケ目調整され、底部周辺には指頭痕が残る。また底部には木葉痕が残る。15は底部のみであるが14と同様に底部から胴部への開きが大きくなることから球胴を呈する甕と思われる。11～15は8世紀前後に位置づけられる。16～21は壠の口縁部から体部の一部である。16～21はいずれも口縁部は外傾し、端部は丸く作る。内外面には斜位のハケ目調整が認められる。16や18のように口縁部外面には指頭痕が認められるものもある。22～24は壠の底部の一部である。内外面にはハケ目調整が認められる。一部外面にヘラケズリ調整も認められる。22と23は底面に木葉痕が残る。これらの壠はおむね8世紀代に位置づけられる。25は手捏ね土器の一部である。内外面をナデで整形している。

須恵器は壺蓋（26・27）、壺身（28・29）、長頸壺（30）が出土している。26・27は壺蓋で、返事をもたない。回転ナデで成形している。28・29は無台壺である。底部はヘラケズリされている。30は長頸壺の口縁部片で、頸部は直角に外側に折れ曲がり、口縁部は立ち上がる。口縁部の特徴が東笠子43号窯式Ⅱに類似することから8世紀後半と推測される。

土製品は完形品の土鉢（31）が出土している。型式は管状である。

鉄製品は刀子（32・33）が出土している。32は刀子の刀身から茎部の一部である。残長が9.7cm、刀身部の残長は1.5cmで、幅が1.3cmを測る。断面形は二等辺三角形を呈し、厚さ0.35cmである。33は刀身から茎部の一部である。茎部は残存長6.8cm、断面形が長方形を呈し、厚さ0.4cmである。

所見

出土遺物には時期差が認められるが、新しいものが本住居址に伴うものと捉え、10世紀初頭の住居址と判断される。

第6号住居址（SB6）【第28図】

SB6は、調査区北西側の11-11・11-12グリッドで検出した住居址で、SB3・SB8と重複している。主軸方位は、カマドを検出していないことから不明である。残存状況は悪く、住居址の壁溝の一部を確認したのみである。新旧関係は、重複関係からSB3・SB8より古いと考えられる。規模は、残存長で南北2.95m、東西1.20m、検出面から床面までは0.2mを測る。覆土は住居址の周囲から流入した第2層（黒褐色細砂層）が床面上に堆積し、さらに第1層（灰黄褐色細砂層）で埋没していた。壁溝は、西壁及び南壁の一部で確認しており、0.1mの幅で床面より0.1mほど掘り下げている。床面は堀方を平坦にならしている。

出土遺物【第29図】

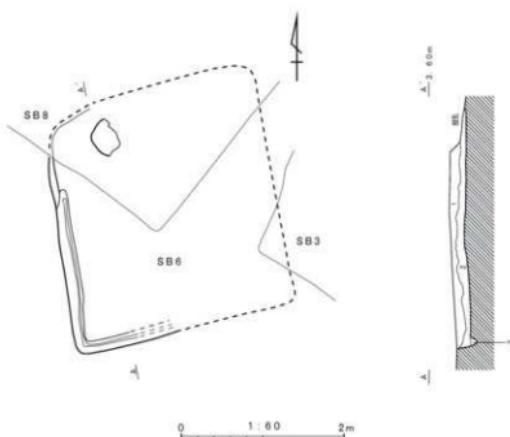
2点図示した。いずれも土師器の甕である。1は駿東型球胴甕の口縁部片である。口縁部の厚さは1.4cmを測る。口唇部はわずかに肥厚し、緩やかに外反する。内面をナデで成形する。2は駿東型長胴甕のくの字状の口縁部片である。口縁部の厚さは0.8cmを測り、口唇部はわずかに内傾する。内外面ともにナデで成形する。

所見

本住居址は、出土遺物から8世紀前半～9世紀前半の住居址と推測される。

第8号住居址（SB8）【第30図・第31図】

SB8は、調査区中央の11-12グリッドで検出した住居址で、SB6・SB13と重複している。主軸方位は、カマドを南壁に構築していることからN-126°-Eを示す。残存状況はやや良好で、住居址の壁溝、カマド、主柱穴4か所（P1・P2・P4・P5）を確認した。新旧関係は、重複関係よりSB6とSB13より新しいと考えられる。規模は、主軸方向の残存長が南北2.9m、幅が東西3.35m、検出面から床面までは0.2mを測る。覆土は住居址の周囲から流入した第4層（黒褐色細砂層）と第5層（黒褐色細砂層）が壁際に堆積し、さらに第2層（黒褐色細砂層）で埋没した後、第1層（黒褐色細砂層）により覆われて



第28図 第6号住居址平面図・断面図



第29図 第6号住居址出土遺物実測図

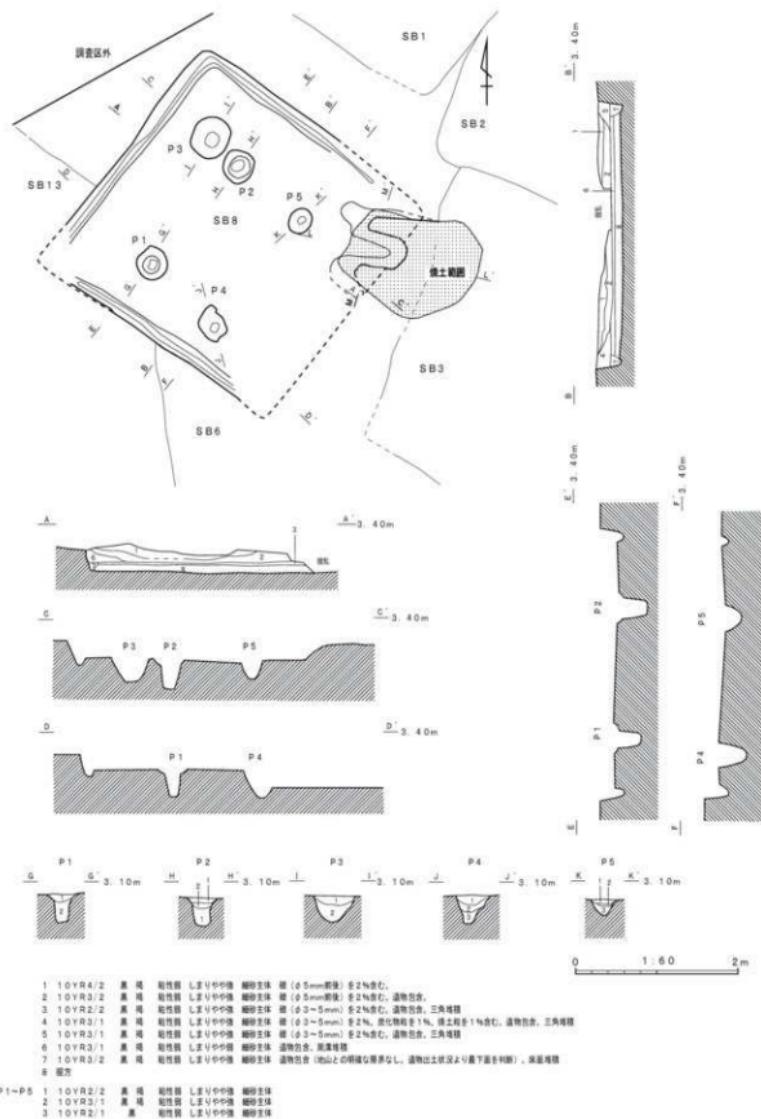
いる。壁溝は、南壁を除いて東壁・北壁・西壁で確認しており、0.15mの幅で床面より0.10mほど掘り下げている。床面は埴方を平坦にならしている。

カマドは南壁のやや東寄りから左右の袖と燃焼室及び煙道を検出した。規模は煙道から焚口まで0.79m、左右の袖の幅が0.86mを測る。残存状況は、左右の袖と燃焼室及び煙道の下半部が残っていた。構築方法は、南壁（推定）を掘り込んで煙道を整え、床面上に褐色細砂層（第6層）と褐色細砂層（第7層）を積み上げて左右の袖を構築し、燃焼室及び焚口を整えている。

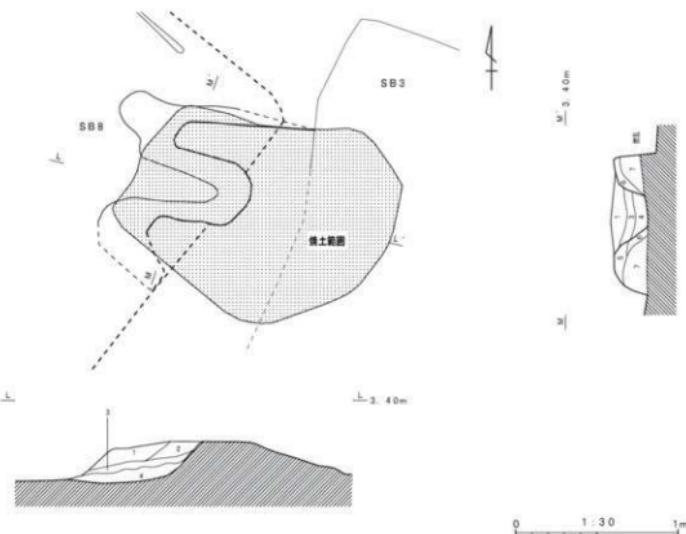
出土遺物【第32図～第34図】

26点図示した。1～21が土師器、22～25が須恵器、26が土製品である。

土師器は壺（1～4）、甕（5～11）、壠（12～16）、手捏ね土器（17～21）が出土している。1は底部片である。内面には縦方向のヘラミガキが施され、外面には格子状に線刻が刻まれる。2～4は壺の口縁部から体部にかけての一部である。2は甲斐型の壺に類似する。口縁部は緩やかに内湾しながら立ち上がり、端部はわずかに外反する。外面は横方向、内面は縦方向のヘラミガキ調整がされている。3は外面に縦方向と横方向のヘラミガキ調整をし、内面に横方向のヘラミガキ調整をする。4はナデによる成形後、体部下半にヘラケズリ調整する。8世紀後半と思われる。5と6は口縁の断面形が、くの字状となる長胴甕の一部である。胴部はわずかに内湾し、口縁部はくの字状に屈曲しながら外傾する。



第30図 第8号住居址平面図・断面図

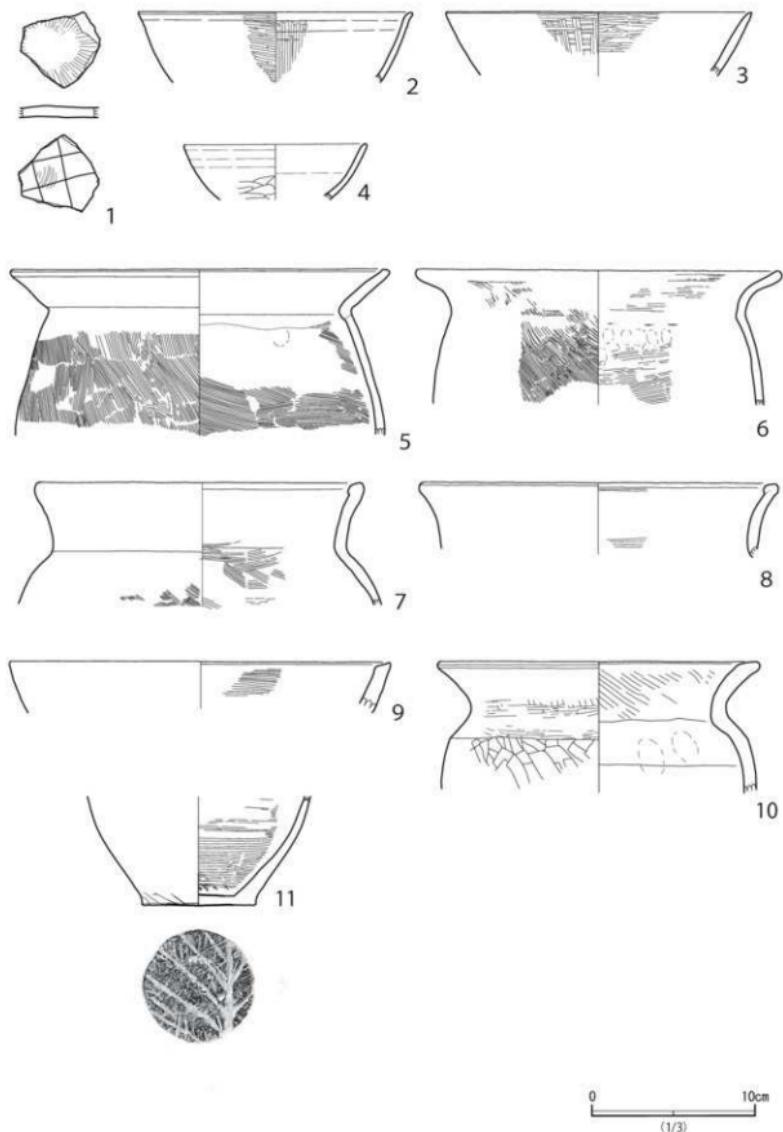


- 1 SYR4/3 にない地塊 粘性やや硬 しまりやや強 砂質シルト 塵土約2%含む。遺物包含。天井部有施。 (カマド層土)
 2 SYR5/4 にない地塊 粘性やや硬 しまりやや強 砂質シルト 塘土約2%含む。遺物包含。天井部有施。 (カマド層土)
 3 SYR3/1 露 出 粘性層 しまりやや強 砂質シルト 塘土約2%含む。遺物包含。 (カマド層土)
 4 SYR3/2 塗赤陶 粘性層 しまりやや強 塗土約2%、炭化物約2%含む。 (カマド層土)
 5 SYR3/3 にない地塊 粘性層 しまりやや強 塗土約2%含む。壁面
 6 SYR4/2 露 出 粘性やや硬 しまり強 砂質シルト 塘土約2%含む。壁面
 7 10YR4/1 露 出 粘性層 しまり強 砂質シルト カマド層。

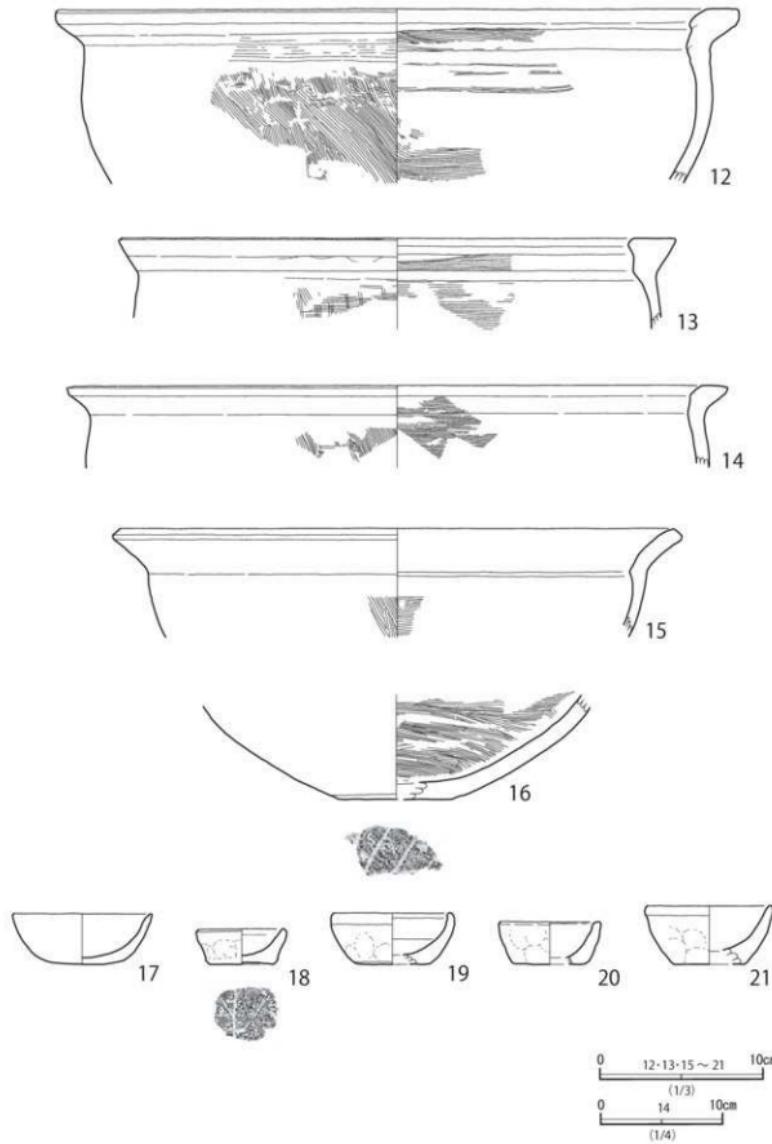
第31図 第8号住居址カマド平面図・断面図

胴部は内外面ともにハケ目調整し、口縁部は内外面ともにナデで成形している。胴部と口縁部には接合痕がわずかに残る。5は8世紀後半のものである。6は9世紀後半から10世紀初頭のものと思われる。7・8は駿東型甕の一部である。胴部は球状を呈し、口縁部は内湾気味に立ち上がり、端部が肥厚している。胴部はハケ目調整する。9は口縁部をナデにより面取りする。10は胴部の上半分に最大径をもつ甕の口縁部から胴部の一部である。胴部にヘラケズリを行う点で他の甕と異なっている。11は甕の底部から胴部の一部である。底部から胴部にかけて内湾気味に立ち上がる。器壁は0.4cmを測る。内面はハケ目調整である。底面には木葉痕が残る。12～15は甕の口縁部から胴部の一部で、端部が幅2cmほどの平坦面となるように粘土を折り返して肥厚させている。胴部は内外面ともにハケ目調整し、口縁部はナデで成形している。16は甕の胴部から底部にかけての一部である。底部から緩やかに内湾しながら立ち上がる。内面はハケ目調整しているが、外表面は磨滅しており調整等の確認は困難である。底部には木葉痕が残る。17～21は手捏ね土器である。17は坏を模倣しており、底部から内湾気味に立ち上がり、口縁端部がわずかに外反する。18から21は底部から内湾気味に立ち上がり、端部を丸く整える。下半部は指頭による調整を施す。18の底面には木葉痕が残る。

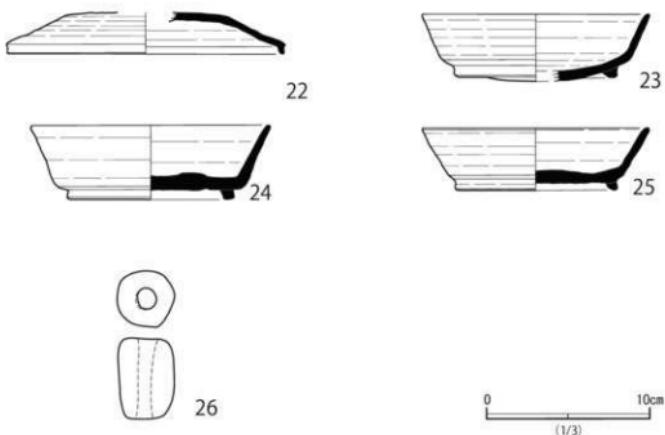
須恵器は坏(22～25)が出土している。22は返しを持たない摘み蓋である。天井部は回転ヘラケズリされ、端部はやや外反気味に屈曲している。23～25は有台坏身の一部である。23は回転ヘラケ



第32図 第8号住居址出土遺物実測図（1）



第33図 第8号住居址出土遺物実測図（2）



第34図 第8号住居址出土遺物実測図（3）

ズリされた底部が高台より下に張り出す形状である。24・25は回転ヘラケズリされ、底部は平らに成形されている。

土製品は完形品の土錘（26）が出土している。型式は管状である。

所見

本住居址の年代は出土遺物から9世紀代と推測される。

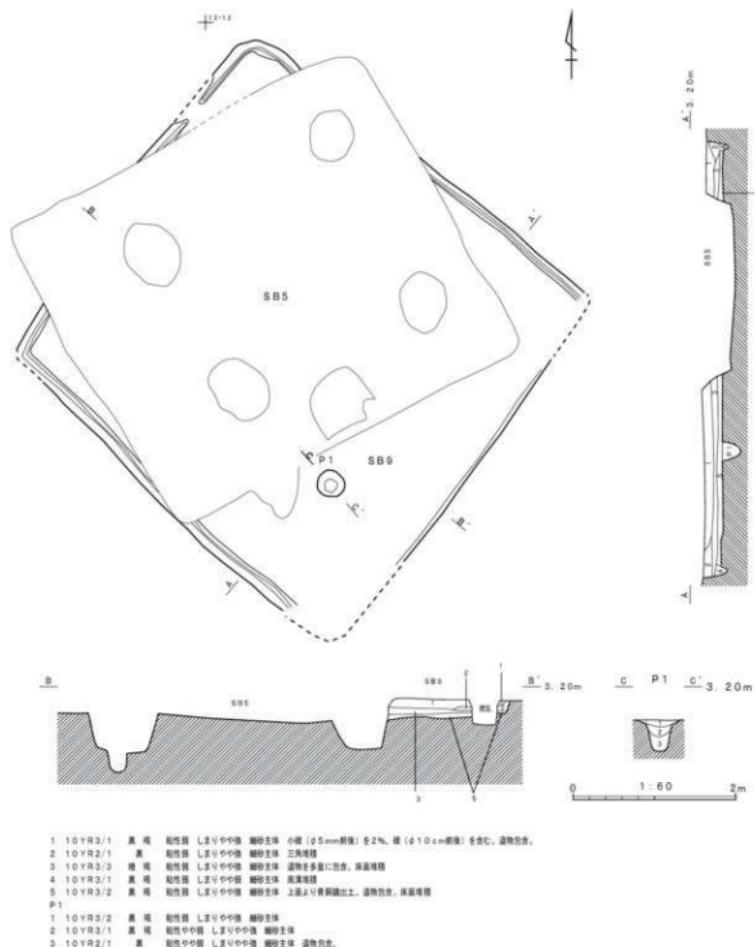
第9号住居址（SB9）【第35図】

SB9は、調査区中央の11-11・12-11グリッドで検出した住居址で、SB5と重複している。主軸方位は、カマドを検出していないことから不明である。残存状況はやや悪く、住居址の周溝、主柱穴1か所を確認した。SB5と重複しており、新旧関係はSB5より古いと考えられる。規模は、南西から北東方向に5.40m、北西から南東方向に5.50m、検出面から床面までは0.15mを測る。覆土は住居址の周囲から流入した第2層（黒色細砂層）が壁際に堆積し、さらに、第1層（黒褐色細砂層）により覆われていた。壁溝は、南西側を除いて確認しており、0.1m前後の幅で床面より0.12mほど掘り下げている。床面は堀方の上に第5層（黒褐色細砂層）を敷きならしている。

出土遺物【第36図・第37図】

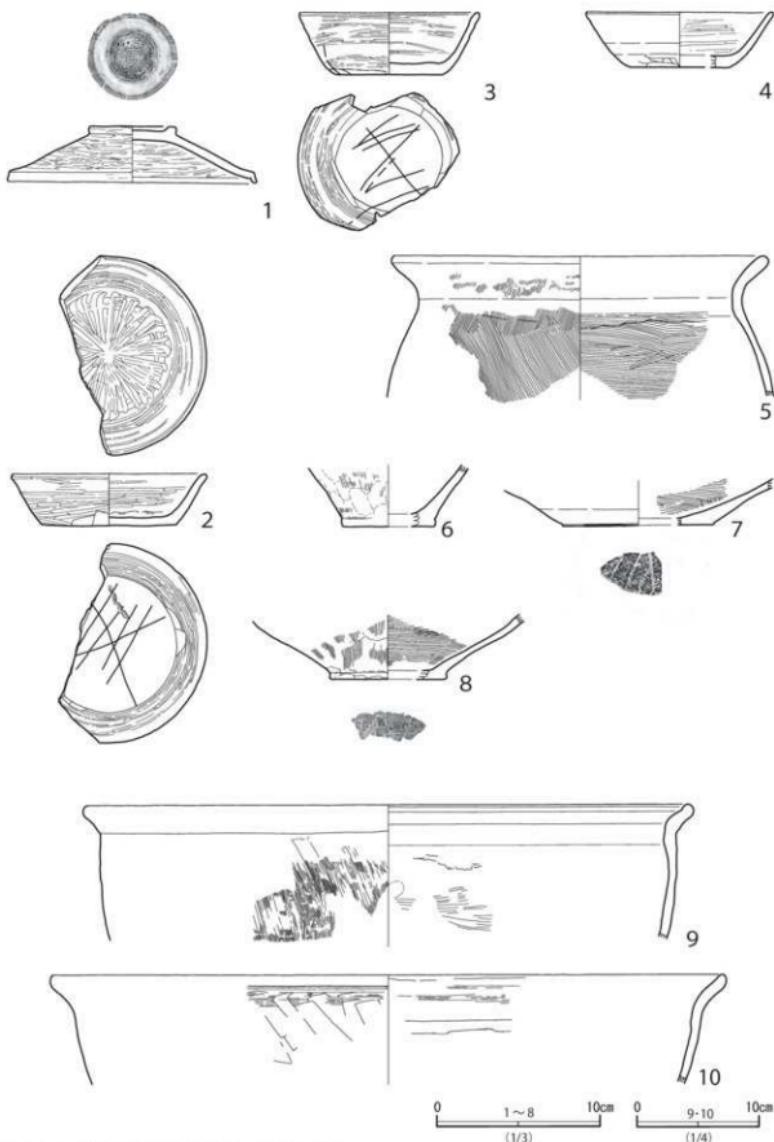
12点図示した。1～11が土師器、12が金属製品である。

土師器は壺（1～4）、甕（5～8）、壗（9・10）、手捏ね土器（11）が出土している。1は須恵器模倣の有台壺蓋である。天井部はヘラケズリされ、高台を貼り付けている。内外面ともにナデで成形後、粗い回転ヘラミガキを施している。2は底部内面に放射状のヘラミガキを施す。2・3はともに内外面に横方向のヘラミガキが施される。底部は平底化し、体部下部に面取り状のヘラケズリを施す。底部外面には直線状の線刻が刻まれる。4は箱型の壺で底部はヘラケズリを施し、外面はナデによって成形する。5はくの字状口縁の長胴甕で口縁部から胴部の破片である。胴部は長胴で、口縁部はやや外反している。胴部は外面とともにハケ目調整し、口縁部はナデで整えている。6～8は甕の底部である。6は長胴甕、7・8は球胴甕の底部に類似する。6は底部と胴部の接合箇所に指頭によるオサエの痕が残る。

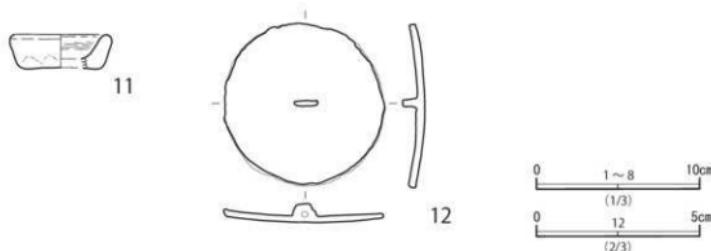


第35図 第9号住居址平面図・断面図

外面をハケ目調整、内面を板状工具で調整している。底面には木葉痕が残る。7は外面はナデ調整、内面はハケ目調整である。8は内外面ともにハケ目調整である。7・8ともに底面には木葉痕が残る。9・10は塙の口縁部から脇部の破片である。9は口縁部が脇部から屈曲して外反する。脇部の外面はハケ目調整、内面は板状工具で調整した後、ナデで成形する。口縁部はナデで整え、端部は内面がわずかに肥厚している。10は口縁部が脇部から緩やかに外反する。脇部の外面はハケ目調整し、内面は板状工具で調整している。口縁部はナデで整え、端部はわずかに肥厚している。11は手捏ね土器で、内外面



第36図 第9号住居址出土遺物実測図（1）



第37図 第9号住居址出土遺物実測図（2）

はナデで成形後、内面にハケ目調整が残る。

金属製品は銅製の小型鏡（12）が出土している。横幅5.0cm、縦幅5.1cmの円形を呈す。鏡背側には半円形の鈕が付き、鈕孔が確認できる。

所見

本住居址は、出土遺物の年代から8世紀代の住居址と推測される。

第10号住居址（SB10）【第38図・第39図】

SB10は、調査区南西側の11-10・11-11・12-10・12-11グリッドで検出した住居址で、SB4及びSB15と重複している。主軸方位は、カマドを南壁に構築していることから、東壁北東隅と東壁南東隅を基軸に推定するとN-37°-Wを示す。残存状況はやや悪く、住居址の壁溝、カマド、主柱穴1か所（P1）を確認した。規模は、主軸方向（南北）の長さが6.40m、幅（東西）の残存長が4.20m。検出面から床面までは0.30mを測る。覆土は住居址の周囲から流入した第4層（黒褐色細砂層）が壁際に堆積し、さらに第3層（黒褐色細砂層）と第2層（黒褐色細砂層）で埋没した後、第1層（黒褐色細砂層）により覆われていた。壁溝は、北西壁及び北東壁の一部を確認しており、0.15mの幅で床面より0.1mほど掘り下げている。床面は埴方を平坦にならしていた。

カマドは南壁で検出し、袖・燃焼室・煙道の掘方を検出した。規模は煙道から焚口までの掘方が0.8m、左右の掘方の幅が0.9mを測る。残存状況は、袖と燃焼室及び煙道の掘方が残っていた。構築方法は、南壁を0.45m掘り込んで煙道を整え、床面上に窪めて左右の袖と燃焼室及び焚口を構築していたと思われる。

出土遺物【第40図】

6点図示した。1～4が土師器、5が土製品、6が鉄製品である。

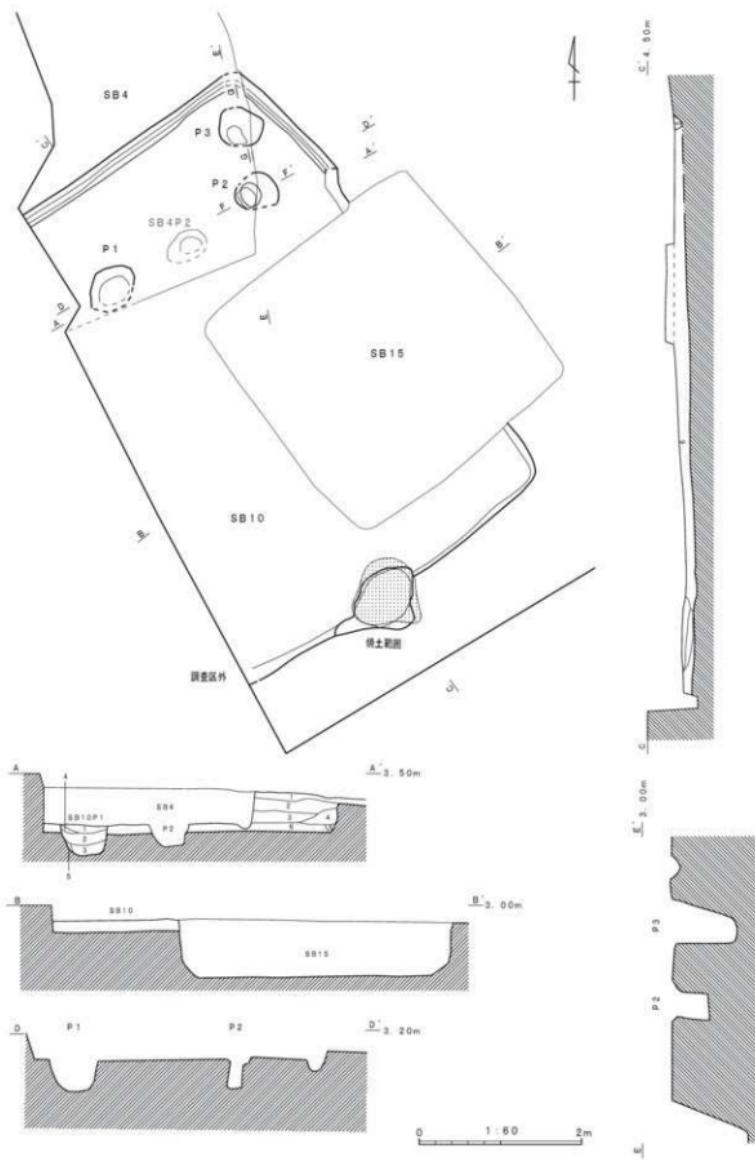
土師器は壺（1）、甕（2・3）、堀（4）が出土している。1は壺身である。底部から口縁部は緩やかに立ち上がる。器壁は0.3cmを測る。底部は手持ちヘラケズリ、口縁部は内外面ともにナデで成形している。2は駿東型球胴甕の肩部の一部である。器壁は1.2cmを測る。外面はハケ目調整後、粗いヘラミガキを施す。内面は板状工具で調整しており、指痕が残る。3は長胴甕の底部である。胴部は木葉痕の残る底部から直線的に立ち上がる。4は堀の口縁部である。端部は肥厚し、幅2.5cmの平坦面にしている。

土製品は完形品の土鍤（5）が出土しており、型式は管状である。

鉄製品は刀子の一部（6）が出土している。刃部の半分程を欠損している。

所見

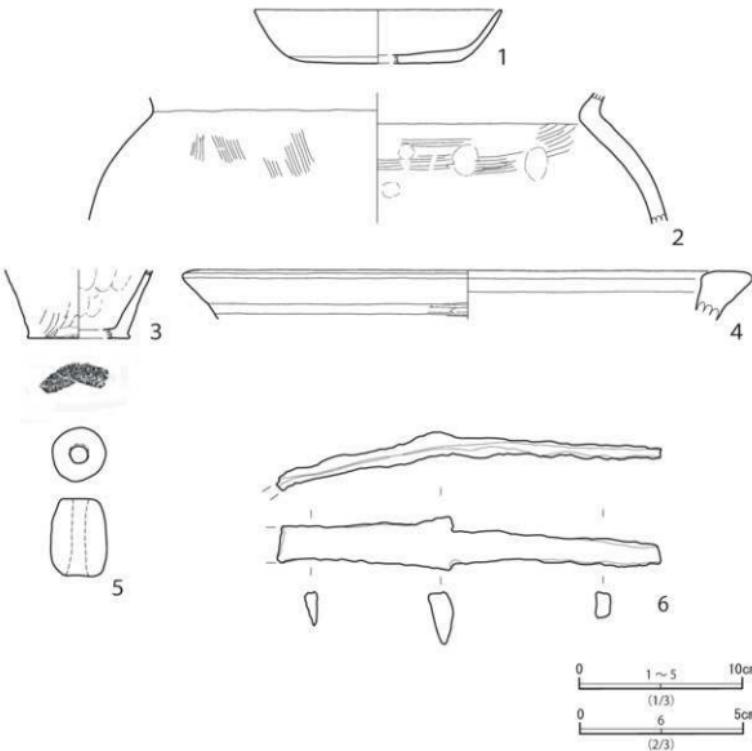
本住居址は、出土遺物から8世紀を中心とする住居址と推測される。



第38図 第10号住居址平面図・断面図



第39図 第10号住居址断面図



第40図 第10号住居址出土遺物実測図

第11号住居址（SB11）【第41図】

SB11は、調査区北西の11-12-12-12グリッドで検出した住居址で、SB2及びSB12と重複している。主軸方位は、カマドを検出していないため不明である。残存状況は悪く、壁溝の一部を確認したのみである。新旧関係はSB2やSB12より新しいと考えられる。規模は、南北の長さが復元値で3.00m、東西の残存長が3.25m、検出面から床面までは0.35mを測る。覆土は不明である。壁溝は、西壁と北壁及び南壁の一部を確認しており、0.1mの幅で床面より0.08mほど掘り下げている。

出土遺物【第42図】

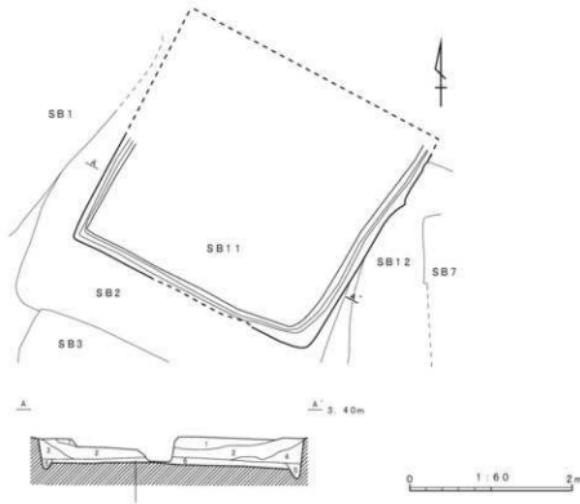
15点図示した。1～4が土師器、5・6が須恵器、7～9が土製品、10～15が銅製品である。

土師器は壺（1～3）、手捏ね土器（4）が出土している。1は壺の口縁部から胴部、2は底部の一部である。1の口縁端部は肥厚させて幅2.0cmの平坦面を作りだしている。2は底部から胴部にかけて大きく開き、半球状を呈する。内面はハケ目調整する。3は底部片である。半分程欠損しているが、中央部には円形の穿孔が確認できる。古墳時代前期の土器と推測され、混入である。4はユビオサ工により成形し、口縁部はやや内湾する。底面に木葉痕が残る。

須恵器は壺（5・6）が出土している。5は擬宝珠状の摘みを有する壺蓋である。天井部はヘラケズリで平坦に整え、摘みを付ける。6は有台壺身である。高台は欠損しているが、底部に貼り付け高台の痕跡が残る。底部は高台より突出すると思われる。

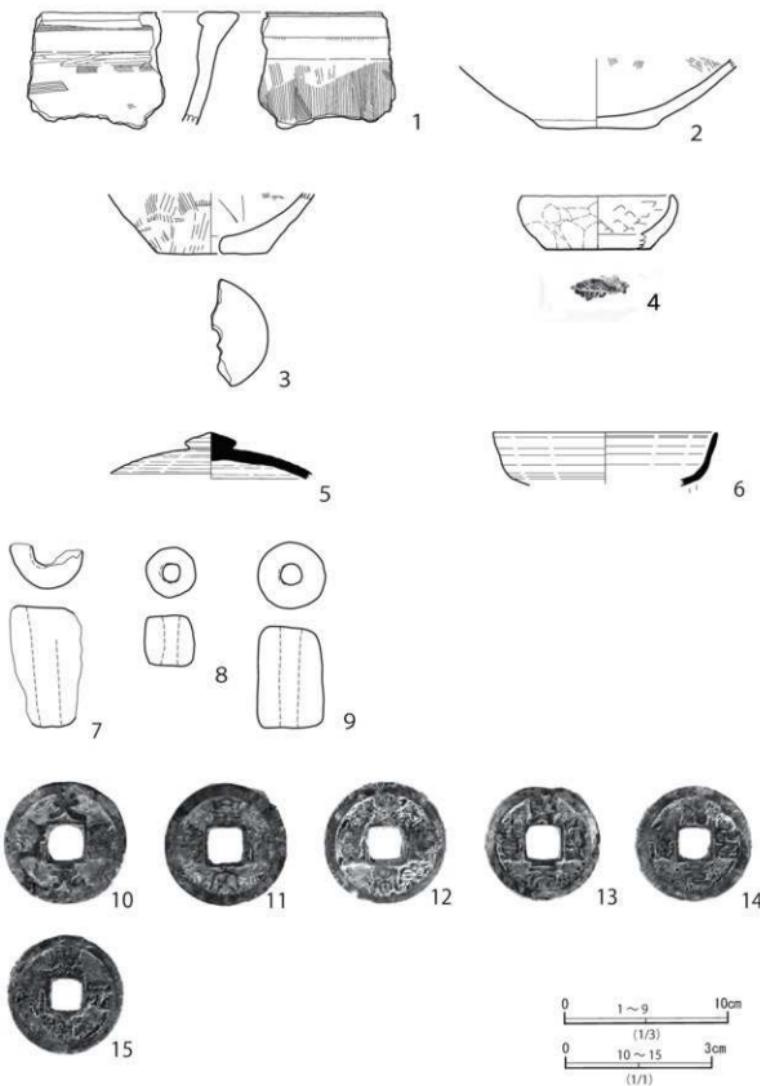
土製品は土錘（7～9）が出土している。いずれも型式は管状である。

銅製品は銭貨（10～15）が出土している。10は天聖元寶（1023年）、11・12は皇宋通寶（1039



- 1 TOYR3/2 瓦 須恵器 しまりやや壺 極細全体 幅(2.3~3mm) 厚(1.1~1.5mm) 造物芯合(薄表皮) 古代遺物
- 2 TOYR3/3 瓦 須恵器 しまりやや壺 極細全体 幅(2.3~3mm) 厚(1.1~1.5mm) 造物芯合(薄表皮) 古代遺物
- 3 TOYR2/2 瓦 須恵器 しまりやや壺 極細全体 造物芯合 三角骨壠
- 4 TOYR2/2 瓦 須恵器 しまりやや壺 極細全体 造物芯合 三角骨壠
- 5 TOYR3/1 瓦 須恵器 しまりやや壺 極細全体 造物芯合 高度堆積
- 6 TOYR3/1 瓦 須恵器 しまりやや壺 極細全体 造物芯合 未定堆積(明確な張-張力の関係は確認できず、造物の出土状況で判断)

第41図 第11号住居址平面図・断面図



第42図 第11号住居址出土遺物実測図

年)、13は熙寧元寶(1068年)、14は紹聖元寶(1094年)、15は慶元通寶(1195年)である。

所見

本住居址の年代は出土遺物の年代から8世紀前半と判断される。

第13号住居址(SB13)【第43図】

SB13は、調査区北西側の11-12グリッドで検出した住居址で、SB8と重複している。新旧関係はSB8より古いと考えられる。主軸方位は、カマドを検出していないため不明である。残存状況は悪く、壁溝の一部を確認したのみである。規模は、南北の残存長が1.00m、検出面から床面までは0.25mを測る。覆土は住居址の周囲から流入した第3層(黒褐色細砂層)が壁際に堆積し、さらに第2層(黒褐色細砂層)で埋没した後、第1層(黒褐色細砂層)により覆われていた。壁溝は、東壁の一部で確認しており、0.1mの幅で床面より0.8mほど掘り下げている。床面は堀方を平坦にならしていた。

出土遺物【第44図】

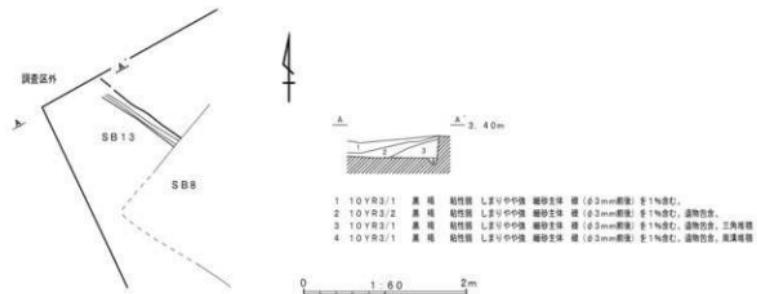
1点図示した。土師器の鍋の口縁部であり、覆土から出土している。断面が三角形状を呈し、端部が幅3cmほどの平坦面となるように粘土を折り返して肥厚させる。内側1cmほどが水平をなし、外側は緩やかに傾斜する。内外面をナデで整えている。

所見

遺物は出土しているものの、本住居址の時期の比定は困難である。

第14号住居址(SB14)【第45図】

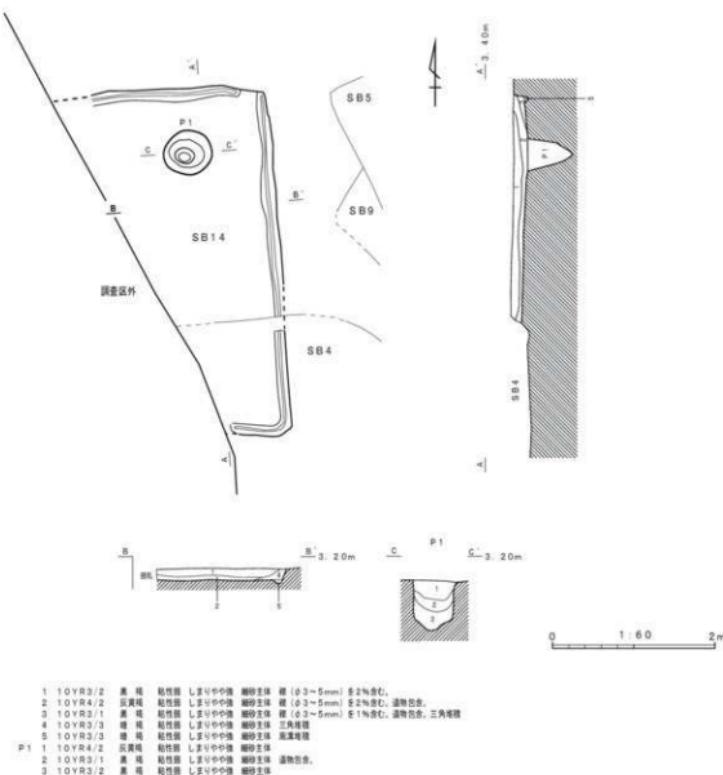
SB14は、調査区西側の11-11グリッドで検出した住居址で、SB4と重複している。新旧関係はSB4より古いと考えられる。主軸方位は、カマドを検出していないため不明である。残存状況はやや悪く、住居址の壁溝、主柱穴1か所を確認した。規模は、南北長が4.30m、東西の残存長が2.25m、検出面から床面までは0.15mを測る。覆土は住居址の周囲から流入した第4層(暗褐色細砂層)と第3層(黒褐色細砂層)が壁際に堆積し、さらに第2層(灰黄褐色細砂層)で埋没した後、第1層(黒褐色細



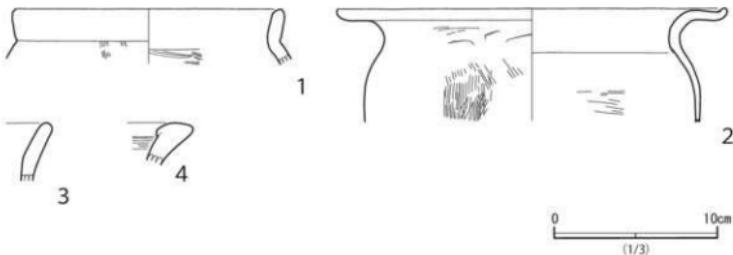
第43図 第13号住居址平面図・断面図



第44図 第13号住居址出土遺物実測図



第45図 第14号住居址平面図・断面図



第46図 第14号住居址出土遺物実測図

砂層)により覆われていた。壁溝は、北壁と南壁の一部と東壁で確認しており、0.1mの幅で床面より0.05mほど掘り下げている。床面は埴方を平坦にならしていた。

出土遺物【第46図】

4点図示した。全て土師器であり、甕(1・2)と壺(3・4)が出土している。1は覆土から出土した甕の口縁部の一部である。復元径は16.6cmを測る。断面形が、くの字状を呈し、内外面をナデで成形している。2は床面から出土した甕である。口径は23.8cmを測る。頸部が大きく外側に屈曲し、口縁部は水平に外反し、口縁端部は短く内湾する、いわゆる水平口縁甕である。口縁部から頸部にかけてはナデにより成形し、胴部は内外面にハケ目調整する。胎土に雲母が少量含まれる。3は覆土から出土した壺の口縁部の一部である。口縁部は緩く外傾しながら立ち上がる。口縁端部は丸く仕上げている。内外面ともにナデで成形している。4は覆土から出土した壺の口縁部の一部である。端部が幅2cmほどの平坦面となるように粘土を折り返して内側を肥厚させている。内面をハケ目調整する。口縁部はナデで整える。

所見

本住居址は出土遺物の年代から8世紀～9世紀前半と考えられる。

第15号住居址(SB15)【第47図】

SB15は、調査区南西側の11-10・11-11・12-10・12-11グリッドで検出した住居址で、全体を検出した。東壁南により焼土が集中していることからカマドが存在したと推定している。主軸方位はN-51°-Eを示す。残存状況は壁、主柱穴4か所(P1～P4)、カマドの焼土を確認した。新旧関係はSB10より新しいと考えられる。規模は、主軸方向の長さが東西3.3m、幅が南北4.95m、検出面から床面まで0.88mを測る。掘方をならして床面をしている。覆土は住居址の周囲から流入した第3層(極暗褐色細砂層)が壁際から床面上に堆積し、しまりのない第2層(黒褐色細砂層)で埋没した後、1cmの海浜礫を含む暗褐色細砂層により覆われている。

出土遺物【第48図】

11点図示した。1～9が土師器、10・11が土製品である。

土師器は壺(1・2)、甕(3～6)、壺(7・8)、手捏ね土器(9)が出土している。1は須恵器壺身を模倣した壺の口縁部から体部の一部である。関東地方を中心に分布する鬼高式に類似する。口縁部は緩やかに外反しており、外面の体部下半はヘラケズリ調整である。口径は復元値で13.8cmを測る。2は駿東型の壺で断面が箱型を呈する。底部はやや丸みを帯び、体部は内湾しながら立ち上がり、端部はやや外反する。口径14.2cm、器高4.2cm、底径11.0cmである。内外面は横方向のミガキが施される。底面は放射状のヘラミガキが施される。3～6は甕の口縁部の一部である。いずれも内面はナデで仕上げる。6は頸部がくの字に屈曲し、内傾する面をもって端部を丸く仕上げている。7・8は壺の口縁部の一部である。口縁部を内側に肥厚させ、上面を平らに整えている。9は手捏ね土器の一部である。口径5.8cm、器高2.7cm、底径4.4cmを測る。内外面をナデで整形した後、底部近くはヘラケズリを施す。外面に指頭痕が残り、底面には木葉痕が残る。

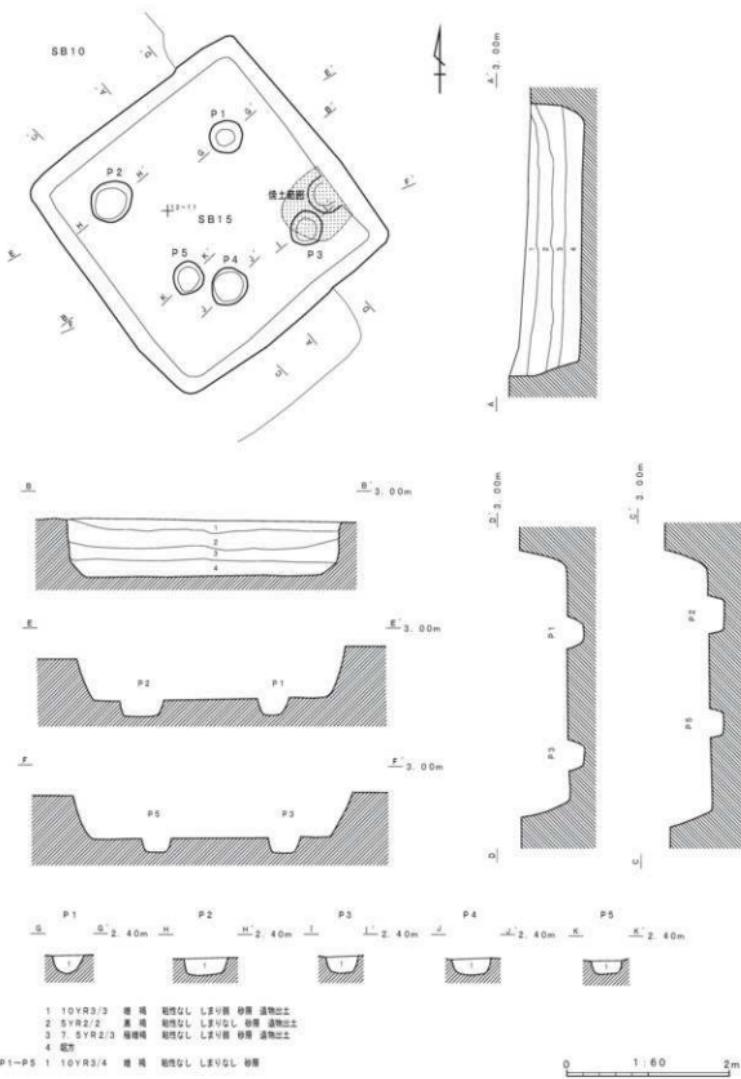
土製品は土錘(10)と土馬(11)が出土している。10は球状の土錘で、一部欠損している。長さ3.0cm、幅2.6cmを測る。11は土馬である。頭部と推測される面と左脚部が欠損しており、尾部は摩耗とみられる。

所見

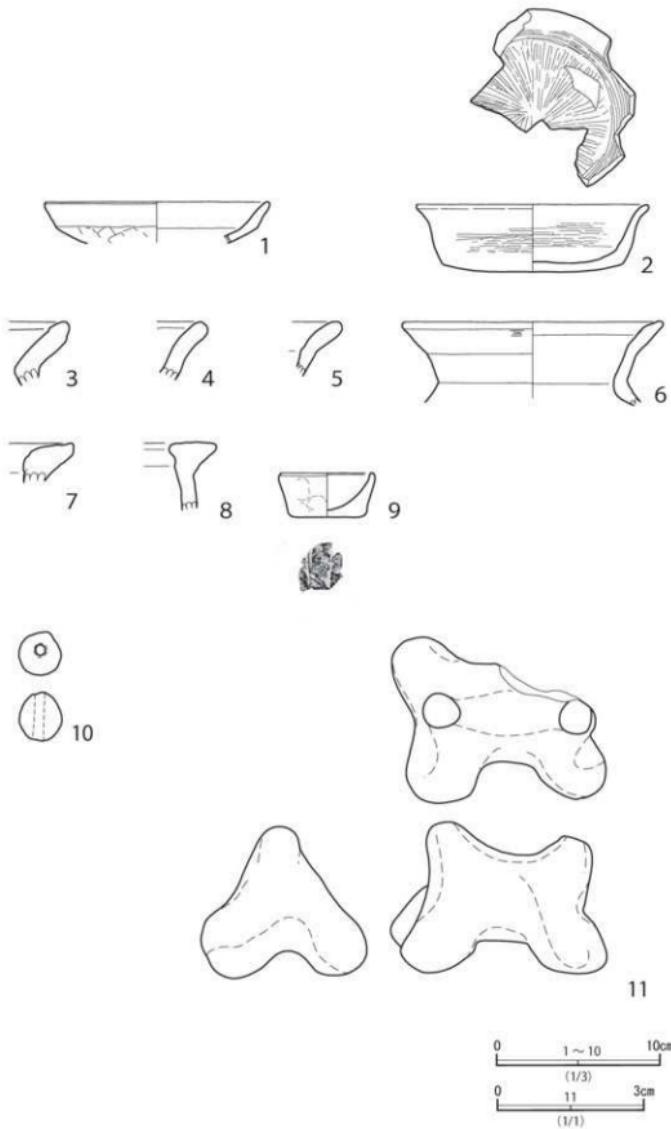
本住居址は出土遺物から8世紀代の住居址と推測される。

第16号住居址(SB16)【第49図・第50図】

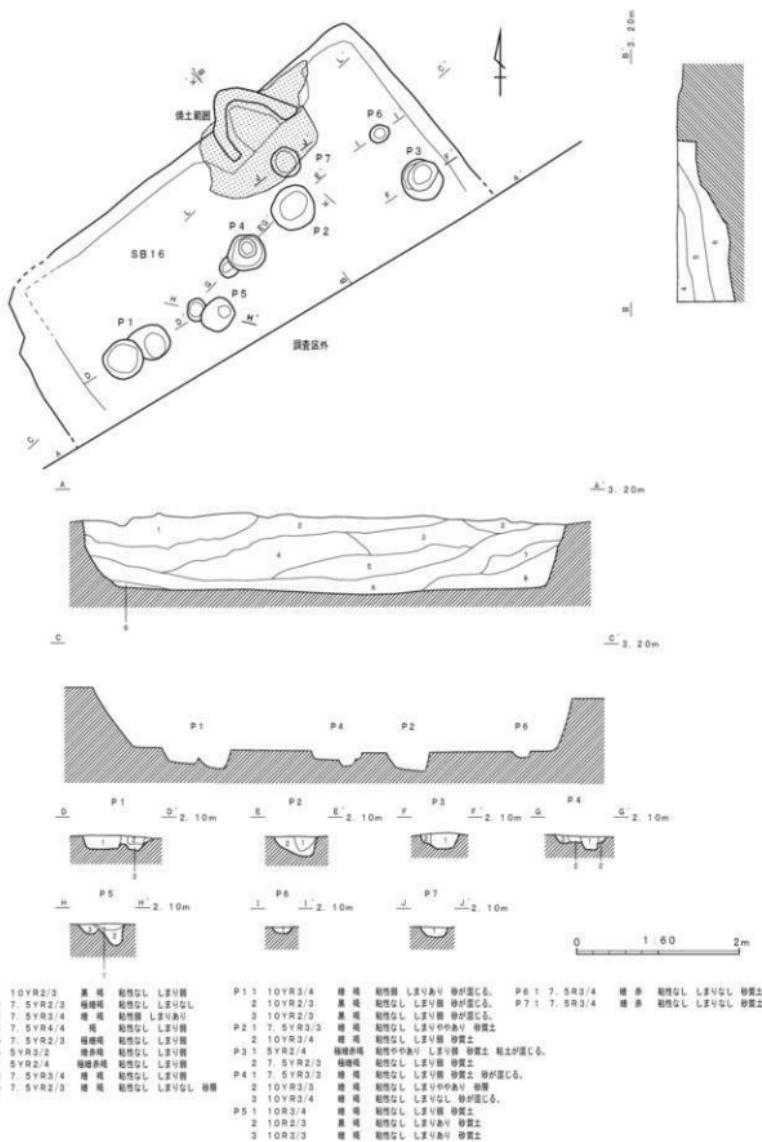
SB16は、調査区南側の12-10・12-11グリッドで検出した住居址で、カマドを構築している北側部分を単独で検出した。主軸方位は、N-51°-Eを示す。残存状況はやや悪く、住居址の壁溝、カマド、



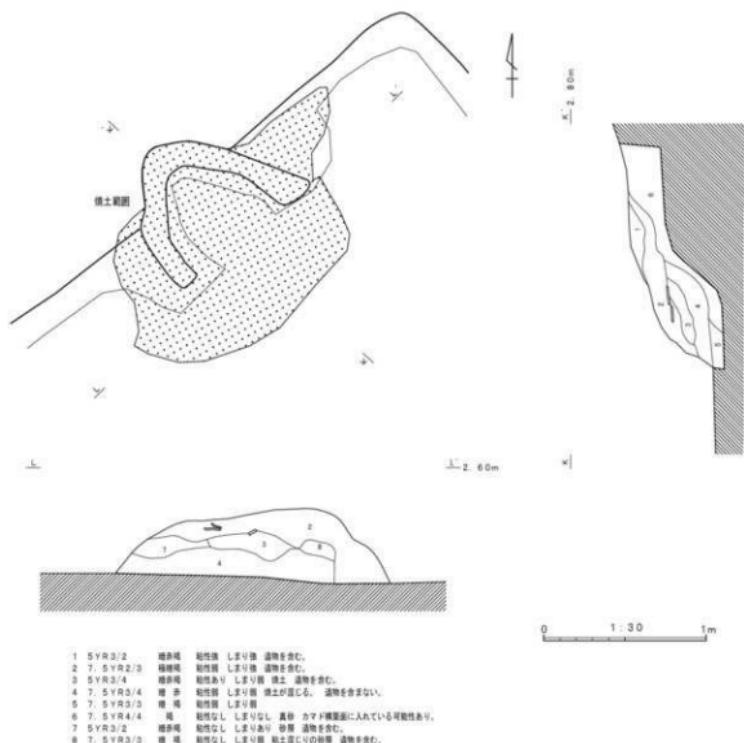
第47図 第15号住居址平面図・断面図



第48図 第15号住居址出土遺物実測図



第49図 第16号住居址平面図・断面図



第50図 第16号住居址カマド平面図・断面図

主柱穴を確認した。規模は、主軸方向の残存長が南北 2.6 m、幅が東西が 5.9 m、検出面から床面までは 0.9 m を測る。覆土は住居址の周囲から流入した第 9 層（暗褐色細砂層）と第 8 層（暗褐色細砂層）が壁際に堆積し、さらに第 7 層（極赤色層）から第 2 層（極暗褐色土層）で埋没した後、第 1 層（黒褐色土層）により覆われていた。床面は堀方を平坦にならしている。

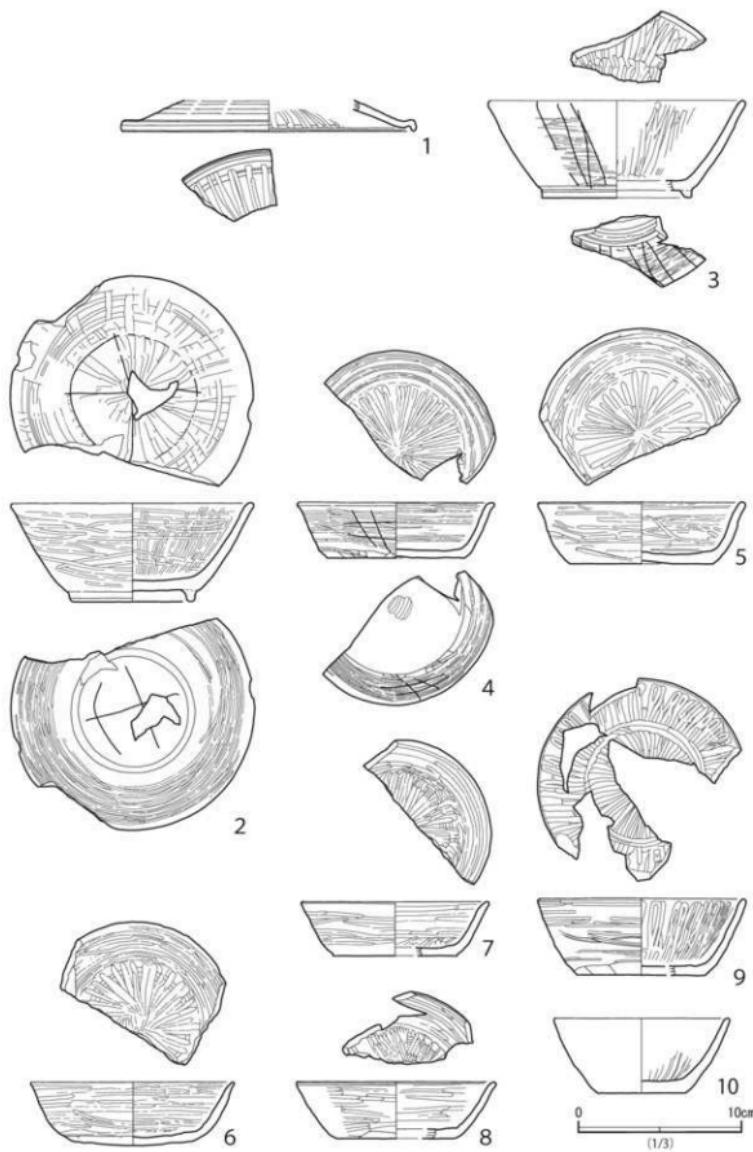
カマドは北壁のやや東よりから左右の袖と燃焼室及び煙道を検出した。規模は煙道から焚口まで 1.03m、左右の袖の幅が 1.32m を測る。残存状況は、左右の袖の一部と燃焼室及び煙道の下半部が残存していた。構築方法は、南壁を 0.30m 挖り込んで煙道を整え、床面上に第 4 層（暗赤土層）を敷きならして燃焼室及び焚口を構築している。

出土遺物【第 51 図～第 56 図】

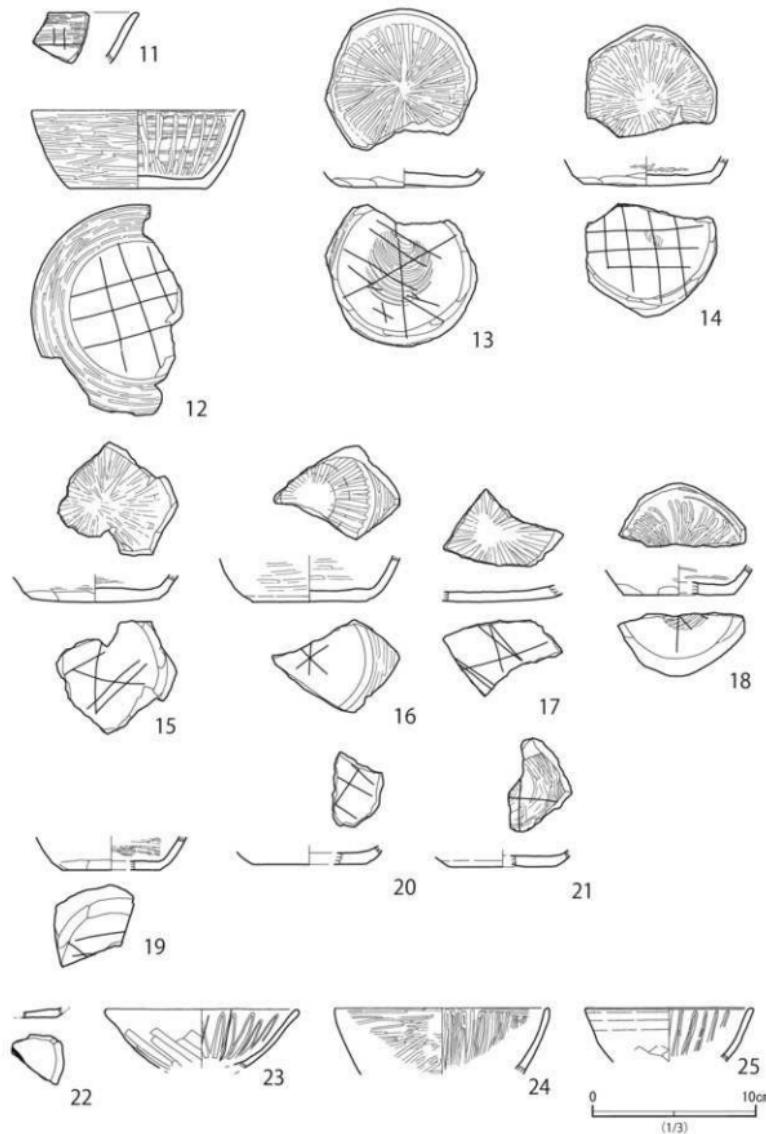
52 点図示した。1～45 が土師器、46～47 が須恵器、48～51 が土製品、52 が銭貨である。

土師器は环蓋（1）、环身（2～25）、甕（26～40）、壙（41～45）が出土している。

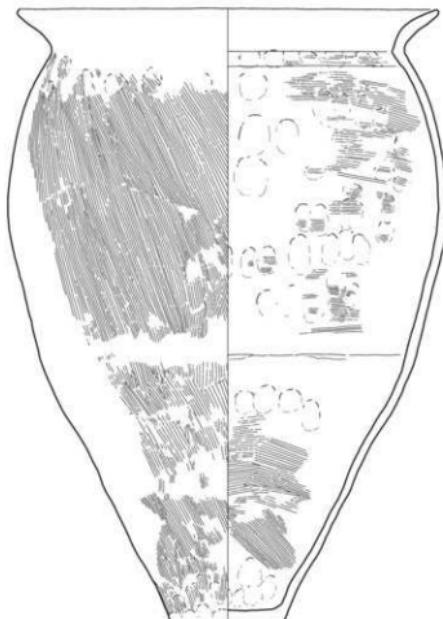
1 は須恵器模倣の环蓋の一部である。内外面ともに回転ナデを施し、内面には放射状のヘラミガキを施す。环身は駿東型と甲斐型、型式不明が出土地で発見されている。駿東型の环身は 2・4～8・11・13～19 である。



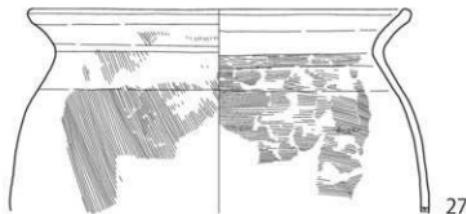
第51図 第16号住居址出土遺物実測図(1)



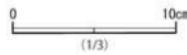
第 52 図 第 16 号住居址出土遺物実測図（2）



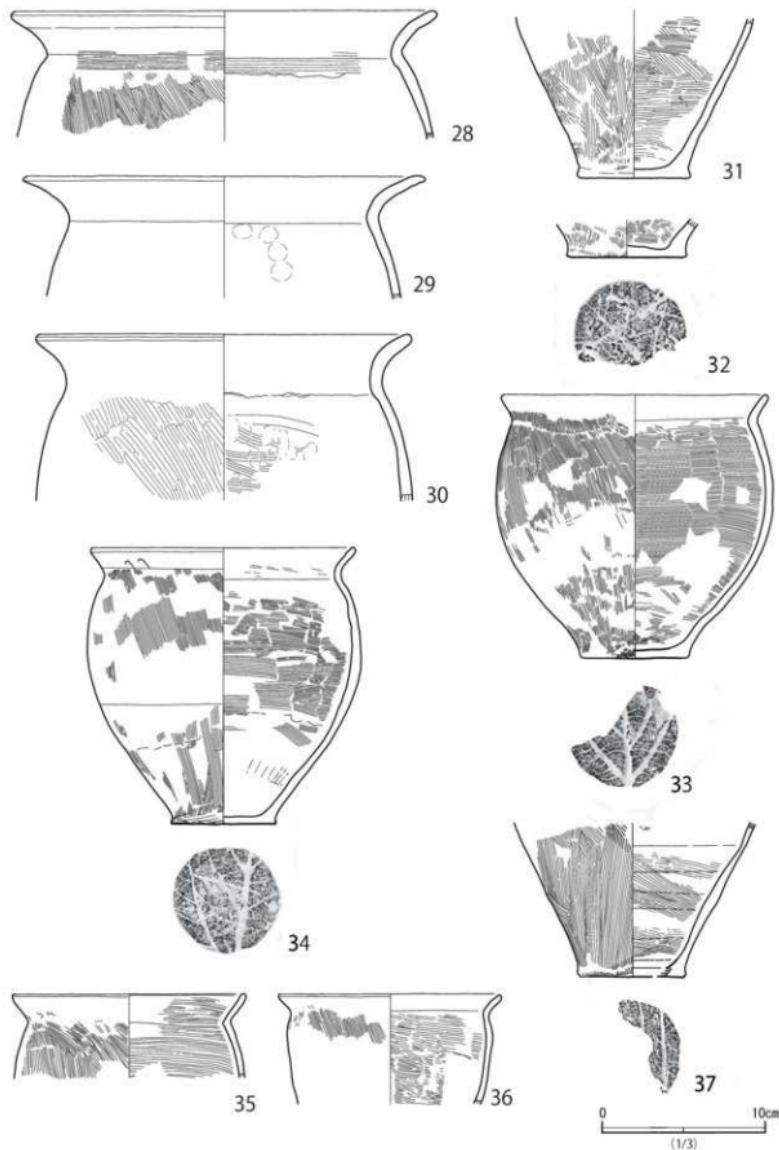
26



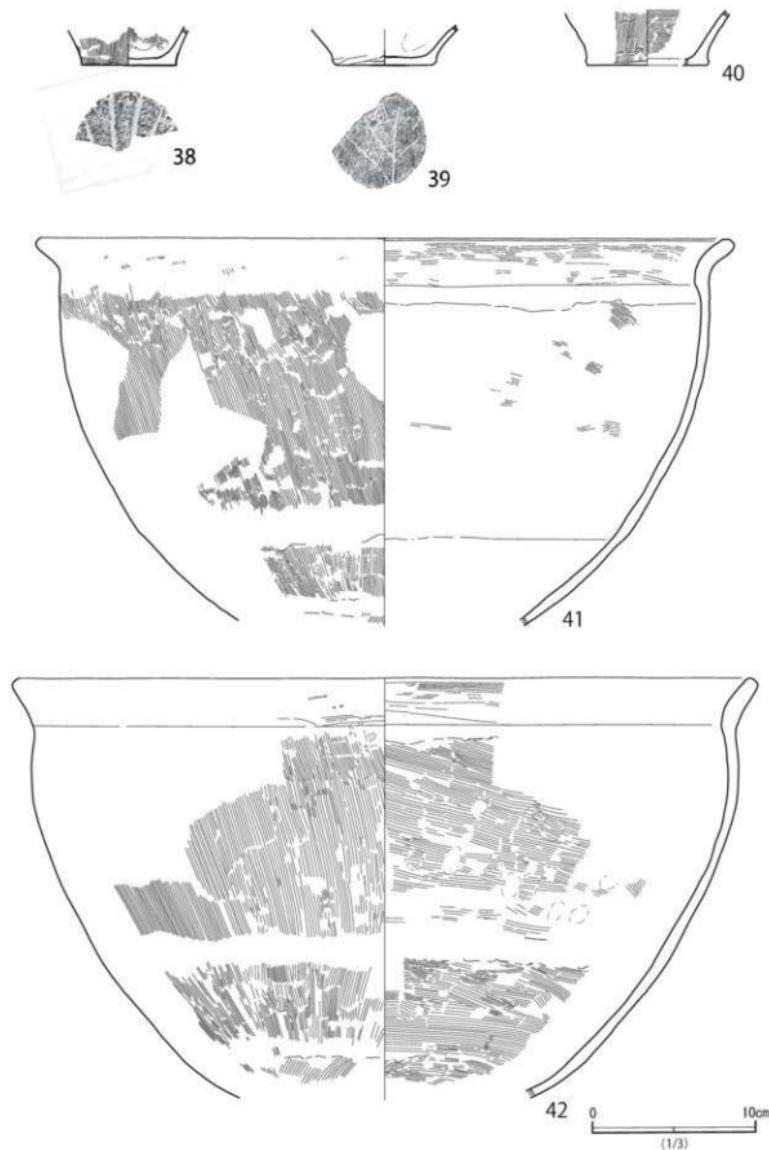
27



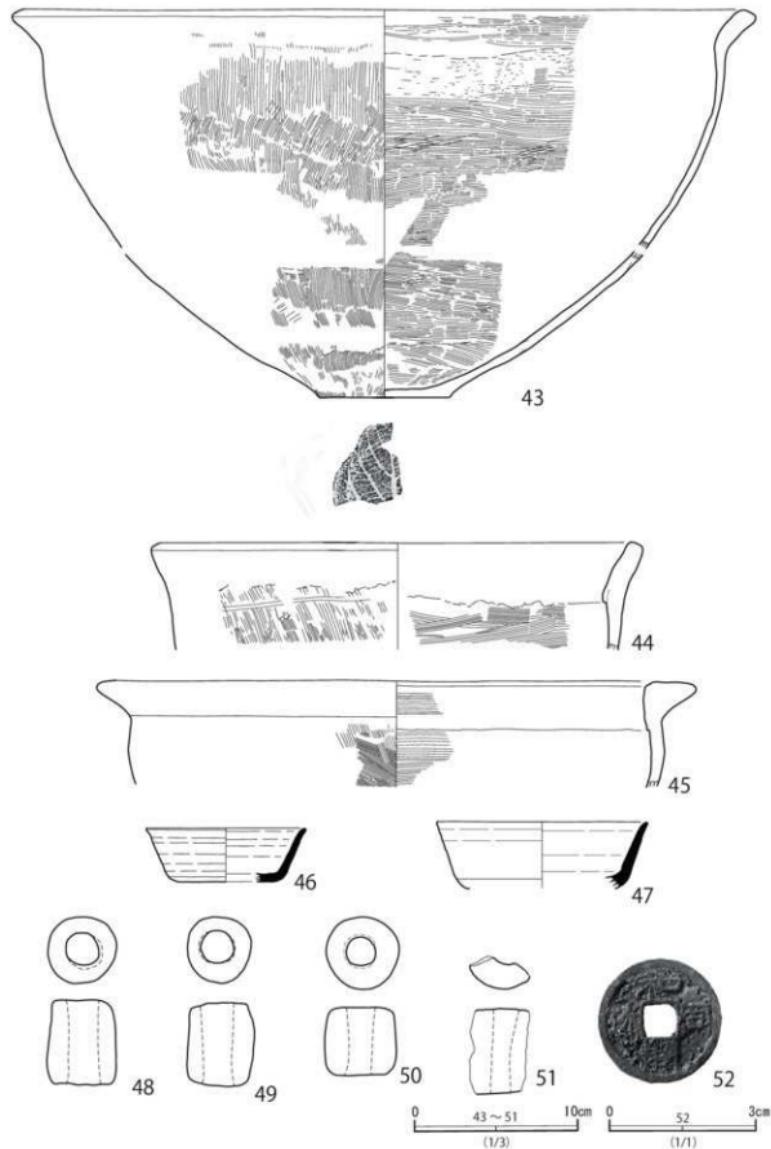
第 53 図 第 16 号住居址出土遺物実測図 (3)



第 54 図 第 16 号住居址出土遺物実測図 (4)



第55図 第16号住居址出土遺物実測図(5)



第 56 図 第 16 号住居址出土遺物実測図 (6)

内外面は横方向のヘラミガキを施し、内面底部には放射状に縦方向のヘラミガキを施すものもある。2は有台环身で、それ以外は平底となる。甲斐型の环身は9・12・23～25である。外面は横方向のヘラミガキを施し、内面は縦方向のヘラミガキを施す。体部下半はヘラケズリ調整である。また、2～4・11～21・23は線刻土器で、直線状の線が刻まれる。22は墨書き土器の一部で、底部外面に墨書きされているが、文字は不明である。26～32はくの字状口縁の長胴甕である。頸部はくの字状に外反する。底部は肩部にかけて直線的に立ち上がる。内外面はハケ目調整であるが、29のように無調整なものや、30のように斜位のヘラミガキ調整をするものもある。33～40は小型の甕の一部である。胴部最大径は上半部にあり、頸部で屈曲して口縁部がくの字状に開き、端部は丸みを帯びる。調整は内外面とともにハケ目調整し、口縁部はナデで仕上げる。底面には木葉痕が残る。41～45は壺の一部で、口縁部の断面形状がくの字状になるもの（41～43）、口縁部が直線的に成形されるもの（44）、三角形状に平坦面を作るもの（45）がある。底部から胴部は球状に立ち上がり、内外面ともにハケで整え、内面には指頭痕が観察できる。43は底部に木葉痕が残る。

須恵器は环身（46・47）が出土している。46と47は無台の环の一部である。口縁部は底部からやや屈曲して立ち上がる。口縁部はナデで整え、底部外面は回転ヘラケズリする。

土製品は土鍤（48～51）が出土している。型式はいずれも管状で、中央部には1.9cm～2.1cm程度の孔が穿たれる。

銭貨は銅銭（52）が出土している。表面に上から時計回りに「和同開珎」と表記されている。直径2.45cm、厚さ0.15cm、中央に直径0.65cmの正方形の穴が開いている。裏は無紋である。

所見

本住居址は和同開珎や駿東型の环の年代観から8世紀前半を中心とする時期に営まれた住居址と考えられる。

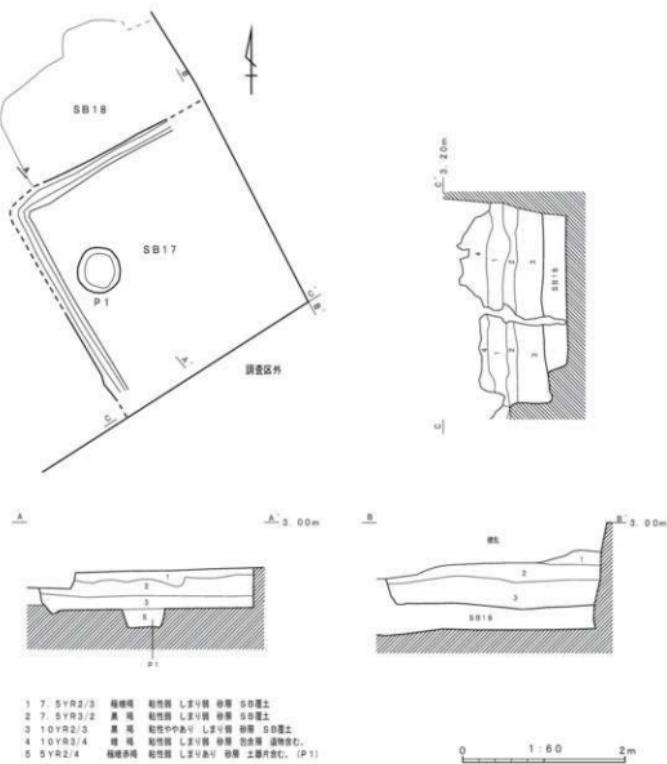
第17号住居址（SB17）【第57図】

SB17は、調査区南東隅の12-11・13-11グリッドで検出した住居址で、SB18と重複している。主軸方位は不明。残存状況はやや悪く、住居址の壁溝と主柱穴1か所を確認した。新旧関係はSB18より新しい。規模は、南北の残存長が2.30m、東西の残存長が2.30m、検出面から堀方までは深さ0.5mを測る。覆土は、第3層黒褐色砂層で埋没した後、第1層極暗褐色砂層により覆われていた。壁溝は、北壁と西壁の一部で確認しており、0.15mの幅で床面より0.1mほど掘り下げている。床面は堀方を平坦にならしている。

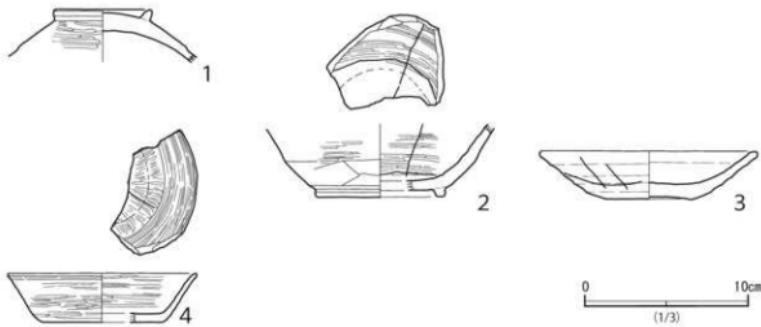
出土遺物【第58図・第59図】

23点を図示した。1～22が土師器、23が土製品である。

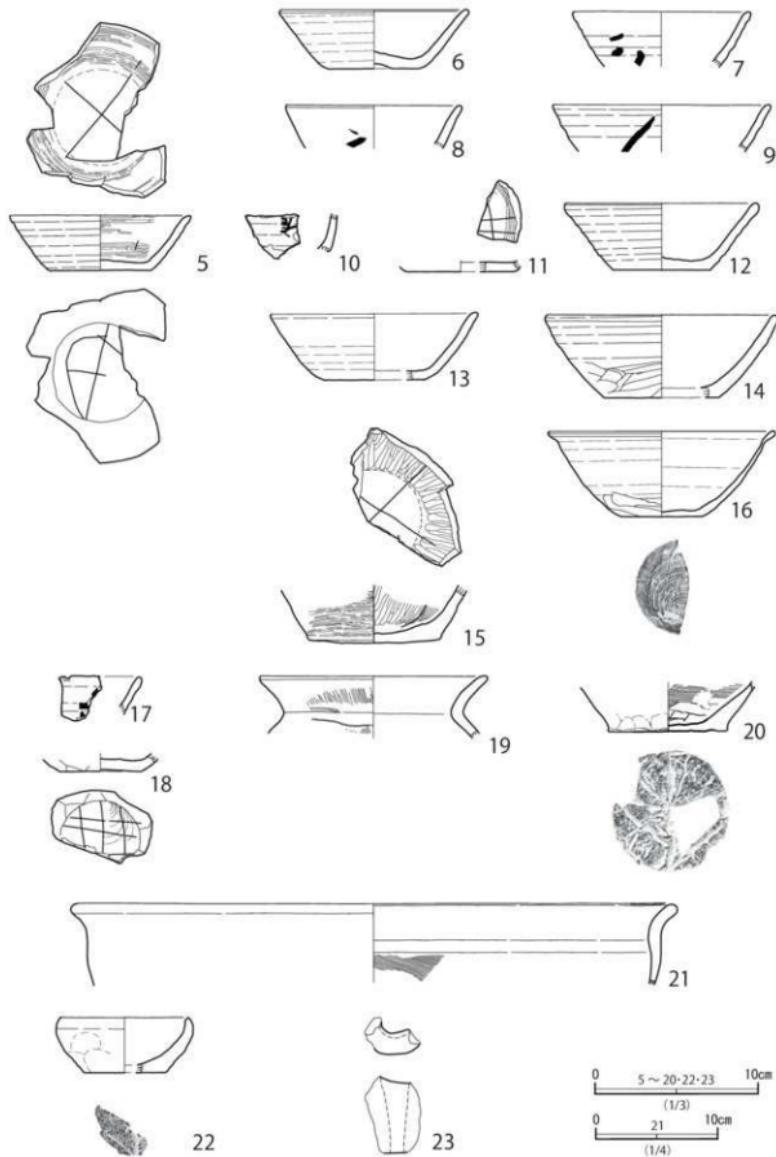
土師器は环（1～18）、甕（19・20）、壺（21）、手程ね土器（22）、土製品（23）が出土している。1は須恵器模倣の环蓋の破片である。天井部をナデで整え、高台を貼り付けて、外面は回転ヘラミガキをしている。2～18は环である。2は有台环身である。内外面には横方向のヘラミガキを施す。外面下半部は手持ちヘラケズリ調整である。高台部は貼り付けている。内面に2本の線刻を刻む。口縁部から底部に縦方向、体部下位に弧を描くように刻まれている。3は底部から口縁部にかけて外側にやや開く形状となっている。外面には線刻を刻む。4と5は駿東型の环身である。4は内外面に横方向のヘラミガキを施し、底面は暗文状のヘラミガキを施す。5は内面体部のみ横方向のヘラミガキを施し、外面はナデで成形する。内面の底部には十字に直線を刻み、外面底部には直線を3本と弧を描くように線刻を刻む。6～14は环身であり、外面をナデによって成形している。14はナデ成形後に体部下半をヘラケズリ調整する。15は外面は横方向のヘラミガキを施し、内面には縦方向のヘラミガキを施す。底面胴部には十字状に線刻を刻む。16は甲斐型の环である。口縁部が外反し、口縁屈曲部の器壁



第57図 第17号住居址平面図・断面図



第58図 第17号住居址出土遺物実測図(1)



第59図 第17号住居址出土遺物実測図(2)

は0.2cmを測る。体部下半は横方向のヘラケズリ調整である。底面には糸切り痕を残す。2・5・11・15・18は線刻土器である。2・4・11・15は内面に1~数本の直線を刻む。それらに対し、3・18は外面上に数本の直線を刻む。5は内外の底面に直線を刻む。7・10・17は墨書き土器の破片である。外面上に文字の一部と見られるものが墨書きされている。19は小型の甕の肩部から口縁部の破片である。外面上にナデにより成形し、ハケ目調整する。20は甕の底部で指頭で整え、ハケ目調整する。底面には木葉痕が残る。21は壺の胴部から口縁部である。口縁部は胴部から緩やかに外反して広がり、端部が肥厚している。22は手捏ね土器である。外面上は指頭、内面はナデにより整形している。底面には木葉痕が残る。

土製品は土錘(23)が出土している。3分の2ほどが欠損しているが、型式は管状である。

所見

本住居址の年代は、出土遺物から8世後半~9世紀前半の住居址と判断される。

第18号住居址(SB18)【第60図・第61図】

SB18は、調査区南東隅の12-11・13-11グリッドで検出した住居址で、SB17と重複する。主軸方位は、カマドを北壁に構築していることから西壁を基軸としてN・26°・Wを示す。残存状況はやや良好で、カマドの掘方、主柱穴2か所(P1・P4)を確認した。新旧関係はSB17より古い。規模は、主軸方向(南北)の長さが3.8m、残存長が東西1.85m、検出面から掘方までは深さ0.3mを測る。覆土は第1層(暗褐色砂層)で埋没した後、SB17が構築されている。壁溝は確認していない。

カマドは北壁のやや西よりから袖石と燃焼室及び煙道の掘方を検出した。規模は煙道から袖石まで0.5m、左右の袖石の幅が0.75mを測る。残存状況は、左右の袖石と燃焼室及び煙道の掘方が残っていた。構築方法は、北壁を0.2m掘り込んで煙道を整え、掘方の上に燃焼室及び焚口の下底面を構築していた。

出土遺物【第62図・第63図】

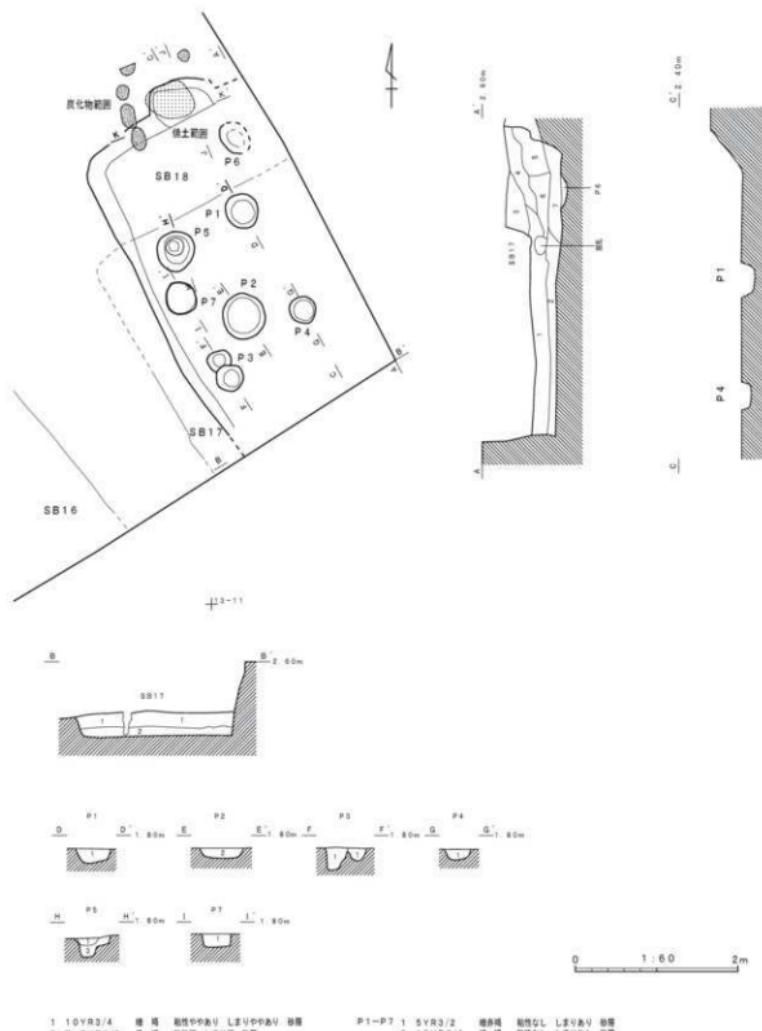
20点図示した。1~17が土師器、18~20は須恵器である。

土師器は坏(1~11)、甕(12~14)、壺(15~17)が出土している。1は須恵器模倣の有台坏身の一部である。底部から緩やかに口縁部が立ち上がる。内面はナデ成形後、放射状にヘラミガキを施す。底面は高台を貼り付け、ナデで整えている。2~5・11は口縁部はやや外反して開く。内外面ともにナデで成形する。11は内黒土器である。6・9・10は墨書き土器の一部である。文字の一部が外面上に墨書きされている。8は甲斐型の坏である。器壁は0.3cmを測り、口縁部はやや外反する。体部下半はヘラケズリ調整である。2・3・7は線刻土器で、数本の直線が刻まれる。12・13は駿東型長胴甕の底部から胴部の一部である。底部から屈曲して胴部が立ち上がる。内外面ともにナデで成形し、指頭により整えている。14は小型甕の口縁部から胴部の一部である。頸部は胴部から大きく外側に屈曲して開く。内外面ともにナデで整えている。15・16は壺の胴部から口縁部の一部である。口縁部は胴部から緩やかに外反する。内外面ともにナデで整えている。17は壺の口縁部の一部である。口縁部は外反しながら肥厚し、端部は1.3cmの平坦面に整えている。

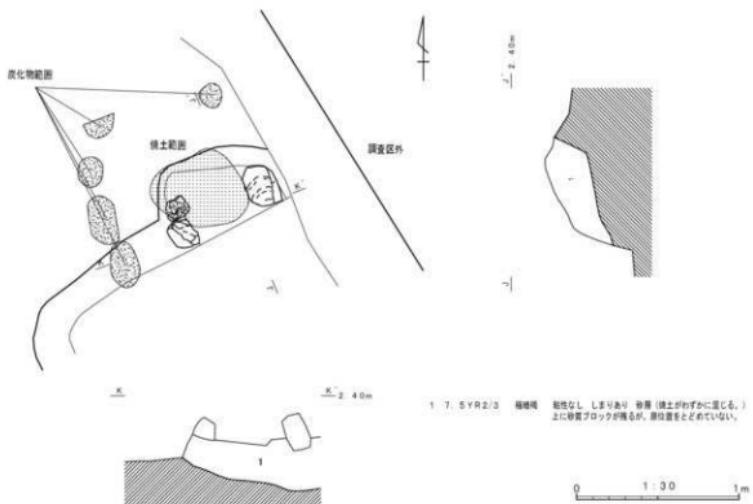
須恵器は碗(18・20)、皿(19)が出土している。18は有台碗の一部である。全体的に半球形を呈する。東笠子44号窯式に類似する。19は有台皿の一部である。断面形は全体的に緩やかな半球形を呈する。端部はわずかに外反する。東笠子24号窯式に類似する。20は無台碗の一部である。体部から口縁部にかけて緩やかに外反する。内外面ともにナデで成形し、底面には糸切痕を残す。古見16号窯式もしくは東笠子43号窯式に類似する。

所見

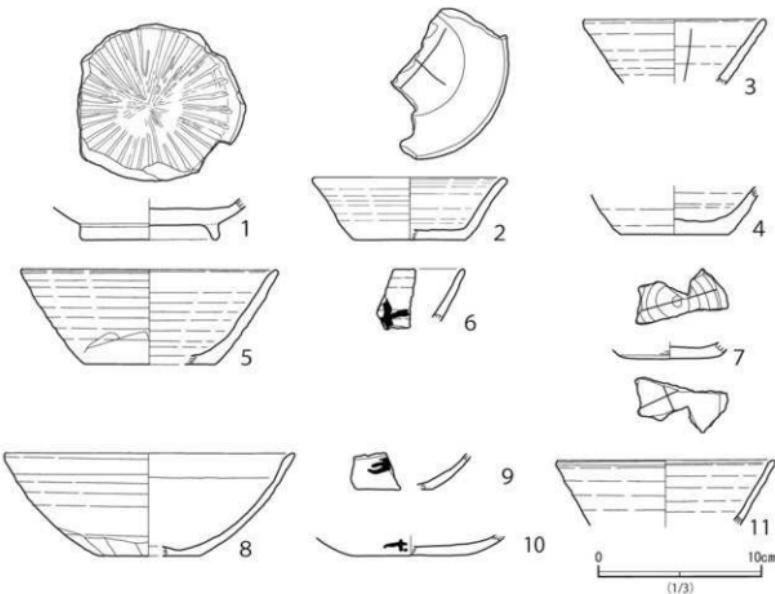
本住居址は、時期差は認められるが、新しいものを本住居址に伴うものと捉え、9世紀後半の住居址と判断される。



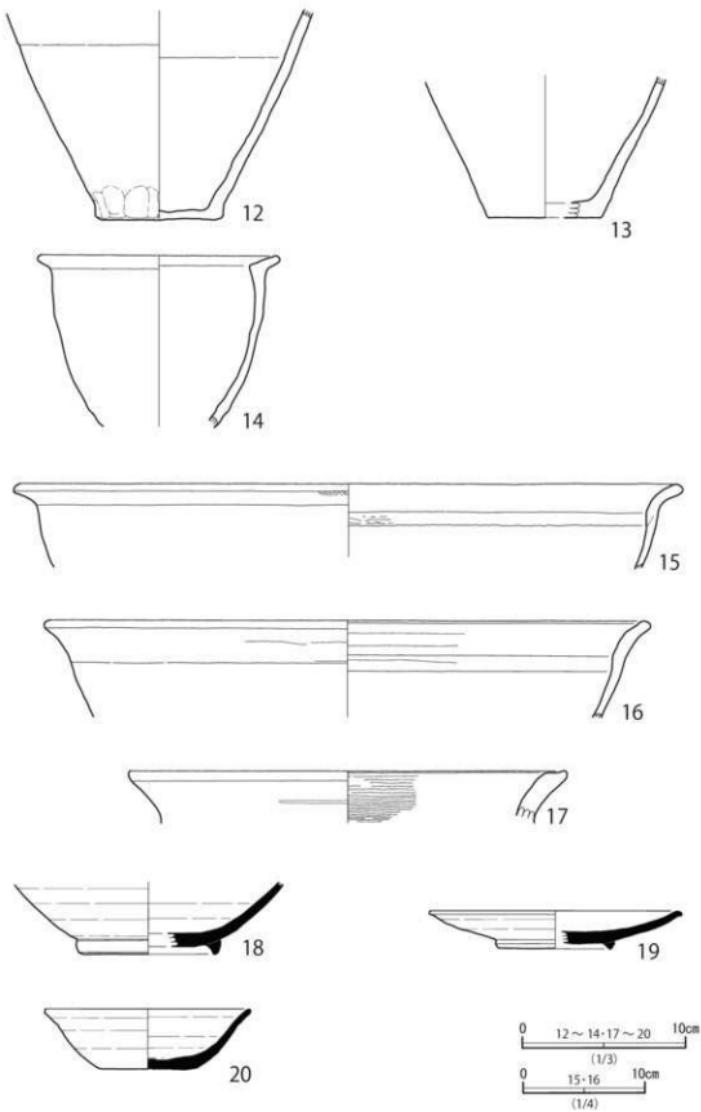
第60図 第18号住居址平面図・断面図



第61図 第18号住居址カマド平面図・断面図



第62図 第18号住居址出土遺物実測図(1)



第 63 図 第 18 号住居址出土遺物実測図（2）

第4節 遺構外出土遺物（第64図・第65図）

調査区内の包含層などから出土した土器を遺構外として一括した。大きくは古墳時代前期、奈良・平安時代、近世以降に分けられ、出土量は圧倒的に奈良・平安時代のものが多数を占める。全てを掲載することはできないため、同一個体、同一形式を除いた19点を掲載した。

1. 古墳時代【第64図1～7】

古墳時代の土器は高环1点、小型壙1点、甕3点、壺2点を図示した。時期は全て古墳時代前半である。

1は高环の脚部である。外面には縦方向のミガキを施し、内面はヨコナデ調整している。透かし孔が三か所穿たれている。2は小型壙の破片である。球形の胴部に緩やかに短い口縁部が付く。外面は縦方向のミガキを施す。3と4はS字状口縁甕の口縁部片である。外面には斜めハケ目を施す。3は肩部に沈線を巡らしているが、4には沈線を巡らせず、横方向にハケ目を施す。5は甕である。口縁部は、頸部が胴部から緩やかに外反しながら開く。口縁部外面に縦方向のハケ目を施してから胴部の横方向にハケ目を施す。口縁部内面には横方向のハケ目が施されている。器形は、胴径が口径より大きくなり、球胴化が認められる。6は二重口縁壺の口縁部片である。口縁部は大きく外反して広がる。7は折り返し口縁壺の口縁部片である。折り返し部はあまり肥厚しない。

2. 奈良・平安時代【第64図8～第65図26】

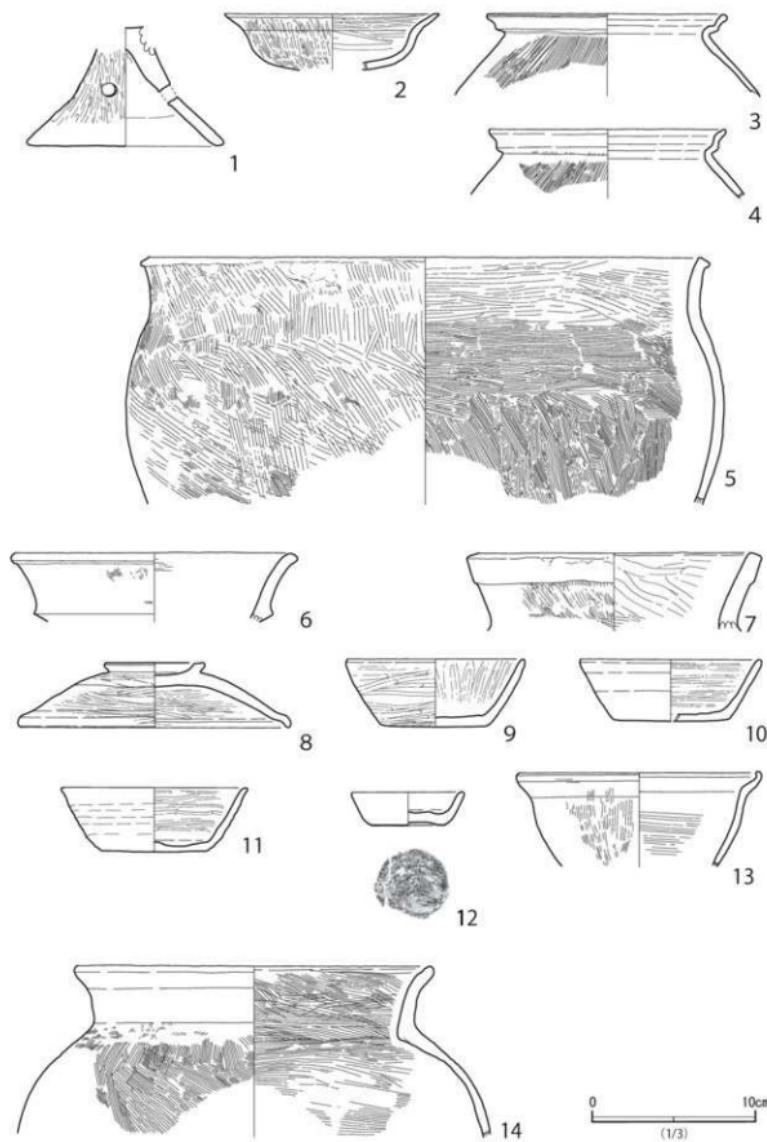
奈良・平安時代の土器は、土師器を14点、須恵器を5点図示した。

8～21は土師器である。8は壺蓋である。内外面には横方向のミガキを施し、口縁部は内面を面取りし屈曲させている。8世紀代である。9は甲斐型模倣壺である。外面には横方向のミガキを施し、内面には縦方向のミガキを施す。10・11は駿東型壺である。内面は横方向のミガキを施す。外面部下部はヘラケズリを行う。12は小型壺である。底部には糸切り痕を残す。13は小型鉢の一部である。頸部から口縁部にかけて外傾し、口縁部端はやや内側に折り曲げている。内外面はハケ目調整をする。14～17は小型駿東甕片である。口縁部の内外面はヨコナデ調整し、体部外面には斜位のハケ目、内面には横方向のハケ目を施す。また、16の体部外面には、ハケ目の上から横方向に刻まれた線刻状の痕が残る。18は壺の底部とみられる。外面はヘラミガキ調整が認められ、内面はハケ目調整される。また指頭痕も確認できる。19・20は手捏ね上器である。19は他の手捏ね上器に比べ器高がやや高くなり、小型鉢状を呈す。いずれもナデで成形する。20の底部には木葉痕が残る。21は半分程欠損しているが、全容は円形を呈するもので、外側から内側にかけてすり鉢状に窪む。また中央部には一孔が確認できる。器種は不明である。

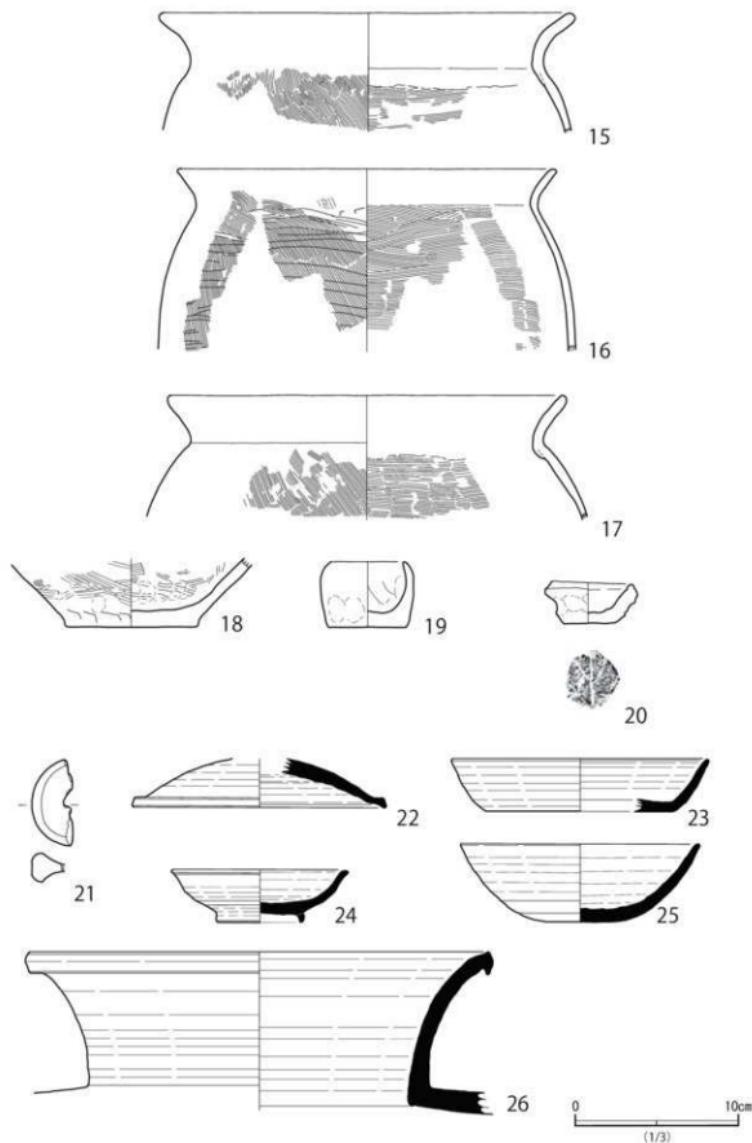
22～25は須恵器の壺である。22は壺蓋である。23は箱壺である。24は高台壺身である。高台は三日月状を呈している。口縁部は外反する。25は無台碗である。26は広口長頸壺の口縁部から肩部である。須恵器の年代はおおむね8世紀代とされる。

3. 近世・近代遺物【PL.26 27～36】

今回、図示はしていないが、第2層より近世・近現代の遺物が多数出土している（PL.26）。27は、18世紀代の羽釜の一部である。28は白磁の一部、29は底部である。30はとっくらの体部とみられ、「店」の文字が読み取れる。江戸後期から昭和初期とされる。31は染付の白磁碗である。32は土瓶の一部とみられる。33は信楽焼きとみられる大甕の底部で、胎土には白色砂粒が確認できる。34～36は防衛食用器である。非常食用缶詰の代用品として使用されていた、真空容器の破片と考えられる。体部には「防衛食 大日本防空食糧株式會」と記されており、底部には「防1 特許真空容器 ○トルニハ釘デ ミニ穴ヲアケ」と記されている。昭和18年頃のものである。



第64図 遺構外出土土器実測図（1）



第65図 遺構外出土土器実測図（2）

第5節 特徴的な出土遺物

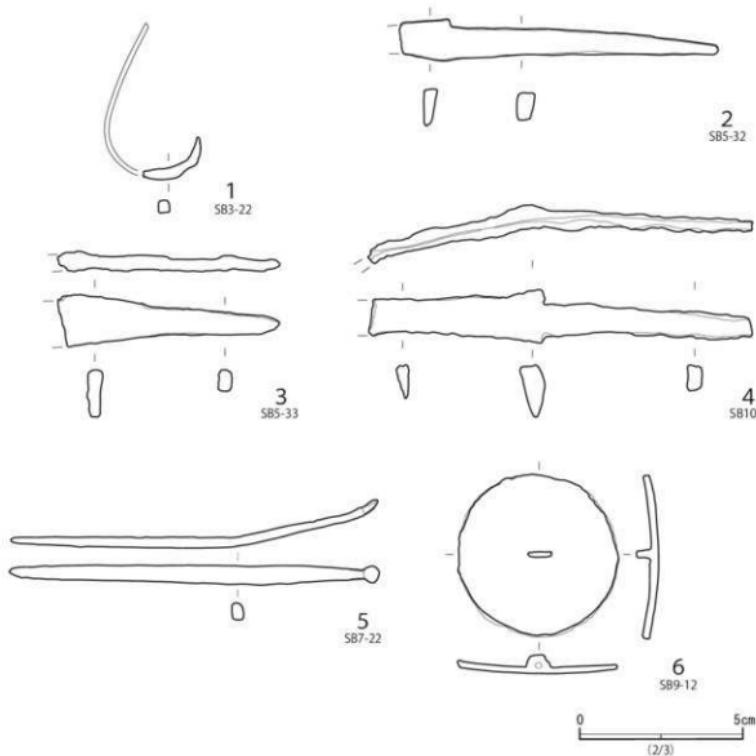
千本遺跡では、金属製品や土製品、銭貨、線刻土器、墨書き土器が、土師器の壺や甕、壙、須恵器の壺、甕などの日常雑器に加えて出土している。これらの遺物は、当遺跡の個性や特質を表す遺物と考えられることから、特徴的な遺物として集成し、以下に掲載する。なお、集成した遺物は包含層から出土したものと第2節から第4節で掲載、記述したものをまとめて掲載している。

1. 金属製品【第66図】

金属製品は、釣針1点、刀子3点、かんざし1点、鏡1点の計6点が出土している。

釣針はSB3覆土から1点出土している。腰曲から先曲まで残存しており、残存長は1.9cmを測る。断面形は縦0.39cm、横0.37cmの長方形である。

刀子は、SB5から2点(2・3)、SB10から1点(4)出土している。2は刀身部が1.4cm残存している。3は刀身部が欠損しており、残存長は6.8cmである。4は刀身部は5.3cm、茎部は本来の半分程度が残存していると推測される。残存長は11.8cmである。2と4の刀身部の断面は逆三角形を呈し、厚さは刀身の中央で0.33cmとやや薄く、茎部に近い部分は厚くなる。2~4の茎部の断面形態は



第66図 金属製品実測図

長方形で、厚さは0.3cm前後である。

かんざしは1点出土している（5）。耳かきの付いた銅製かんざしである。時期は不明である。

鏡は小型の銅鏡が1点出土している（6）。鏡背文様は認められない。直径5.1cm、厚さ0.2cm、重さ20.9gを測る。時期は不明である。

2. 土錘【第67図】

土錘は第一次調査時には10点出土している。今回の調査では、全部で24点出土している。そのうち、16点が完形品（1～15・17）で、8点は破片である（16・18～24）。土錘という特性から重量が重要視されると考え、重量の重い順に掲載した（第17・18表）。型式的には、管状土錘の太形（1～16・18～24）と球状土錘（17）に分けられる。また、材質は、1～23が土師質となり、24は須恵質となる。土錘はいずれも中心を貫通する孔が穿たれている。

そのほか沼津市内では、古墳時代の遺跡からは入方遺跡、藤井原遺跡、白髭遺跡に出土例があり、奈良・平安時代の遺跡からは白銀町遺跡、藤井原遺跡、長井崎遺跡、上障子遺跡、御幸町遺跡から出土例がある。また、時期は不明であるが、下石田原田遺跡、中原遺跡からも出土例がある。

3. 土馬【第68図】

土馬はSB15の柱穴2の底から1点出土している。制作方法は、粘土塊から頸部、尾部、四肢を作り出して成形するが、鞍などの表現は省略されている。頸部から四肢の一部にかけて欠損しており、人为による破壊にはみられない。器面は背側と腹側にユビオサエ、側面をナデで成形しているのが確認できる。また、頸部、尾部と四肢との間をそれぞれ軽く凹ませ、境を際立たせている。残存規模は幅3.40cm、高さ3.10cm、胴部幅1.94cm、胴部高1.88cmである。

4. 錢貨【第69図】

錢貨は11点出土している。種類は皇朝銭（1）、宋銭（2～10）、明銭（11）である。皇朝銭は和同開珎（708年）（1）が出土している。宋銭は、至道元寶（995年）（2）、天聖元寶（1023年）（3）、皇宋通寶（1039年）（4）・（5）、熙寧元寶（1068年）（6）・（7）、元祐通寶（1086年）（8）、紹聖元寶（1094年）（9）、慶元通寶（1195年）（10）が出土している。明銭は洪武通宝（1368年）（11）が出土している。

出土した錢貨のうち、1・3～6・9・10は住居址から出土したもので、2・7・8・11は遺物包含層からの出土である。

5. 線刻土器【第70図～第73図】

線刻土器は土師器や須恵器を焼く前に生乾きの段階にヘラなどで記号等を記されることが多いが、本遺跡で出土したものは焼成後に線刻が刻まれているが、どのような意図で行われているか不明である。なお、線刻を施す器種は土師器の环が主体を占める。また、环の型式としては、駿東型の箱型环が多く、甲斐型の环は少ない。

本遺跡では第一次調査で100点近くの線刻土器が出土し、89点が報告書に掲載されている。今回の第二次調査では60点が出土し、51点を図示した。

線刻は形状を観察してAからFの6種類に分類した。

A類 線刻を十文字に刻み、円で囲うもの4点（1～4）

B類 線刻を十文字に刻むもの 8点（5～12）

C類 線刻を十文字に刻み、さらに1～5本線が交わるように刻むもの 16点（13～28）

D類 線刻を格子状に刻むもの 11点（29～38・41）

E類 線刻を一文字に刻むもの 2点（42・43）

F類 A類からE類の可能性があるが、破片資料のため分類できないもの 19点（39・40・44～51・

SB16-24 及び未掲載のもの)

線刻の種類は、線刻の種類が特定できないF類を除き、C類の十文字に刻み、さらに1～5本線が交差するように刻むもの16点(26.7%)とD類の格子状に刻むもの11点(18.3%)が全体のほぼ半分を占めている。次いで、B類の十文字に施すものが8点(13.3%)が多い。一方、E類の線刻を一文字に施すものは2点(3.3%)と少ない。

線刻が施される部位は、A類・B類は底部内面が12点中11点(91.7%)を占め、1点が底部外面上に施す。C類は、底部外面上が16点中12点(75%)を占める。D類は底部外面上が11点中7点(63.6%)を占め、次いで体部外面上が3点(27.3%)となる。E類は、それぞれ底部外面上と体部外面上に施す。F類は底部内面と底部外面上がそれぞれ4点ずつとなる。線刻の種類と刻まれる箇所の関連性は不明であるが、傾向として底部に刻むことが多いことが読み取れる。

6. 墨書き土器【第74図】

土器に墨書きされる内容は一般的に、人名や地名、方位、役職、施設名、数字、和歌など具体的な内容が判るものから、祭祀や儀礼に用いられたと想定される文字や記号、人の顔など多種多様であり、その遺跡の一端を示すと考えられる。そのような資料が、千本遺跡では、平成5年に実施した第一次調査時は約130点の墨書き土器が出土しており、今回の調査でも67点出土している。検出された18件の住居址のうち、墨書き土器が確認された住居址はSB1・SB3・SB4・SB5・SB16・SB17・SB18の7軒で、他は包含層からの出土である。墨書きが書かれている土器の器種は、特定できないものを除けば全て土師器の环であり、一次調査時に蓋や甕に書かれていた点で異なっている。書かれた器種による差異は不明である。また、書かれている部位は、主に体部外面上、一部底部外面上に書かれているものも認められた。

出土した67点のうち、細片を除いた54点を図示した。書かれている墨書きについて、さらに、器種による分類を行った。その結果、(A)駿東型箱環、(B)甲斐型環、(C)器種不明の三つのパターンに分けることができた。なお、分類については図示していない55～67も含めている。

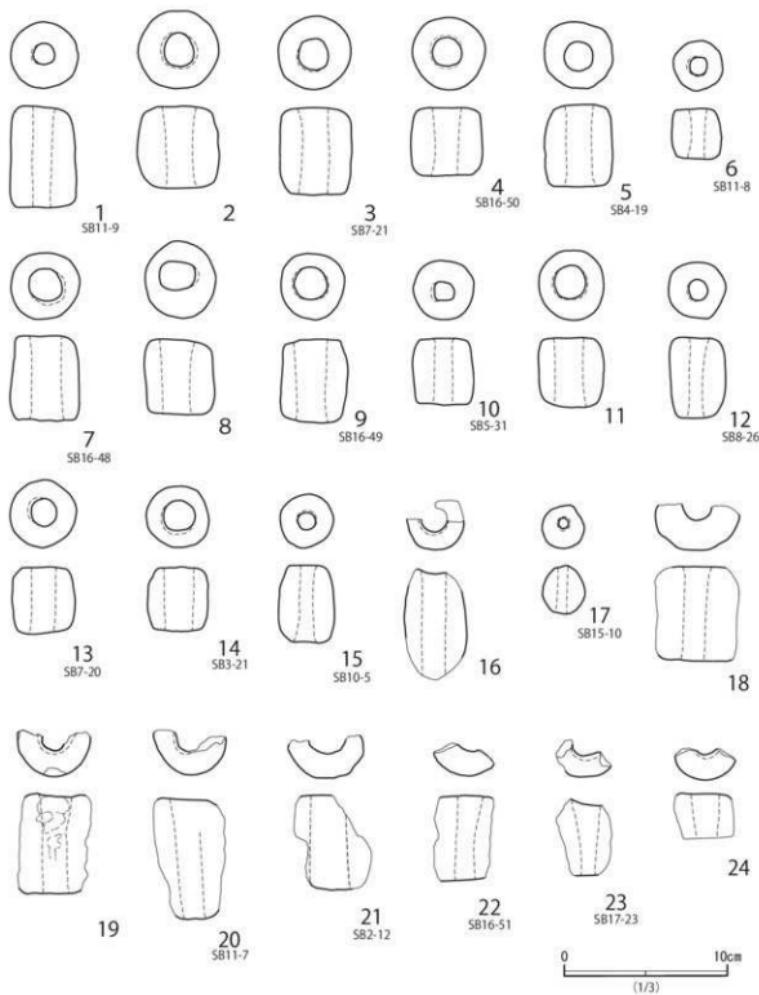
(A)は、1・3・6・7・10・13・14・16～21・24～27・29・31・33～36・38・39・43・46～50・54である。

(B)は2と22である。

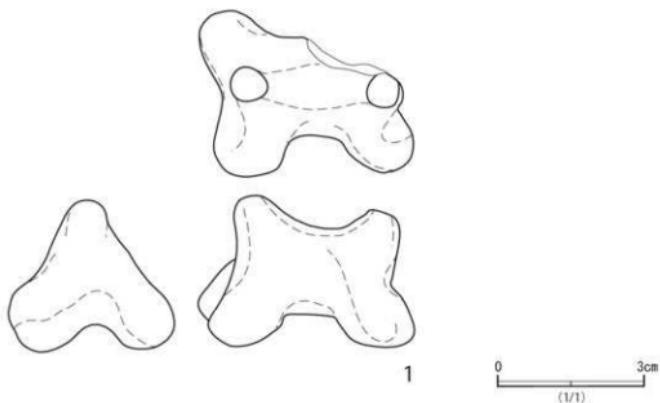
(C)は4・5・8・9・11・12・15・23・28・30・32・37・40～42・44・45・51～53・55～67である。

解読可能な文字は、1・2が「万」、3～5が「天」である。6～67に関しては、判別ができなかった。

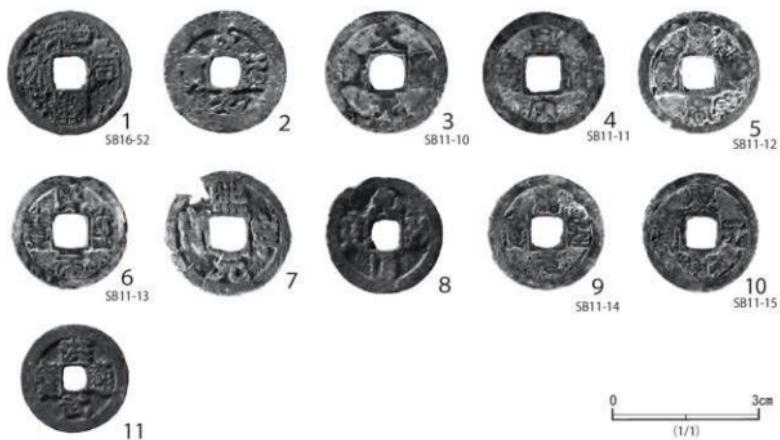
なお、市内の遺跡からは、上ノ段遺跡、下石田原田遺跡、御幸町遺跡、中原遺跡、藤井原遺跡、東畠遺跡、日吉庵寺跡からの出土例がある。



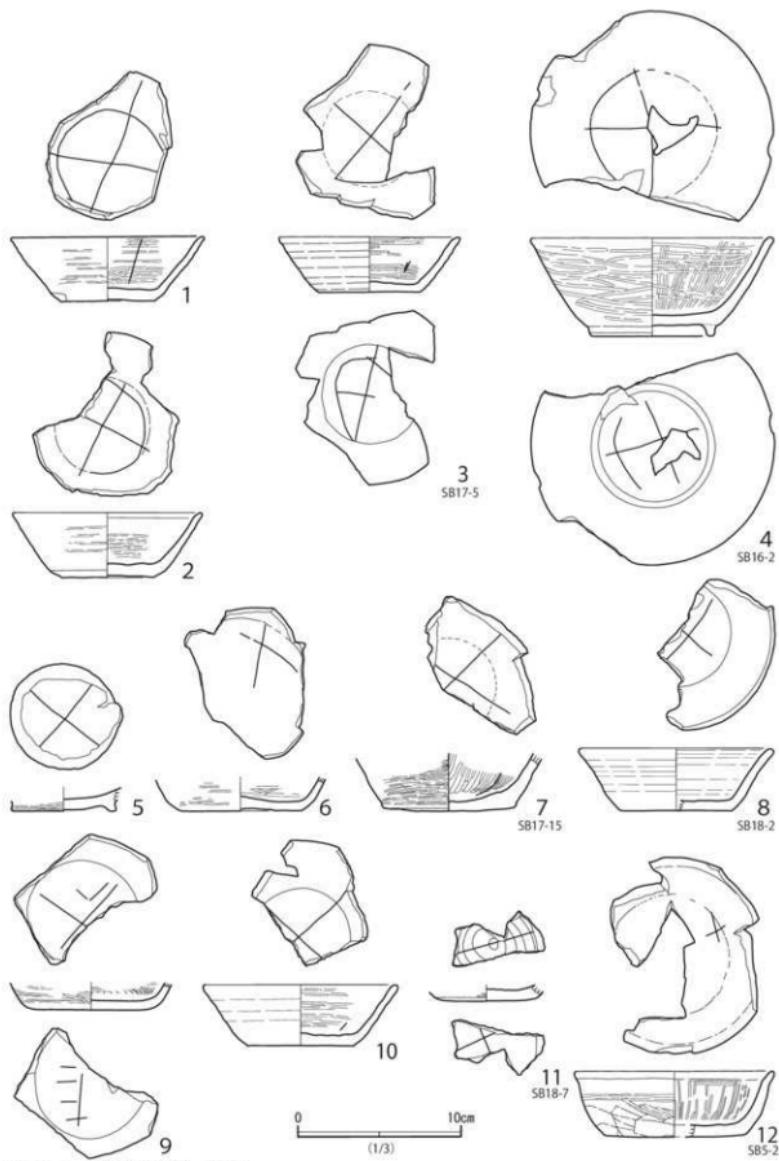
第67図 土鍾実測図



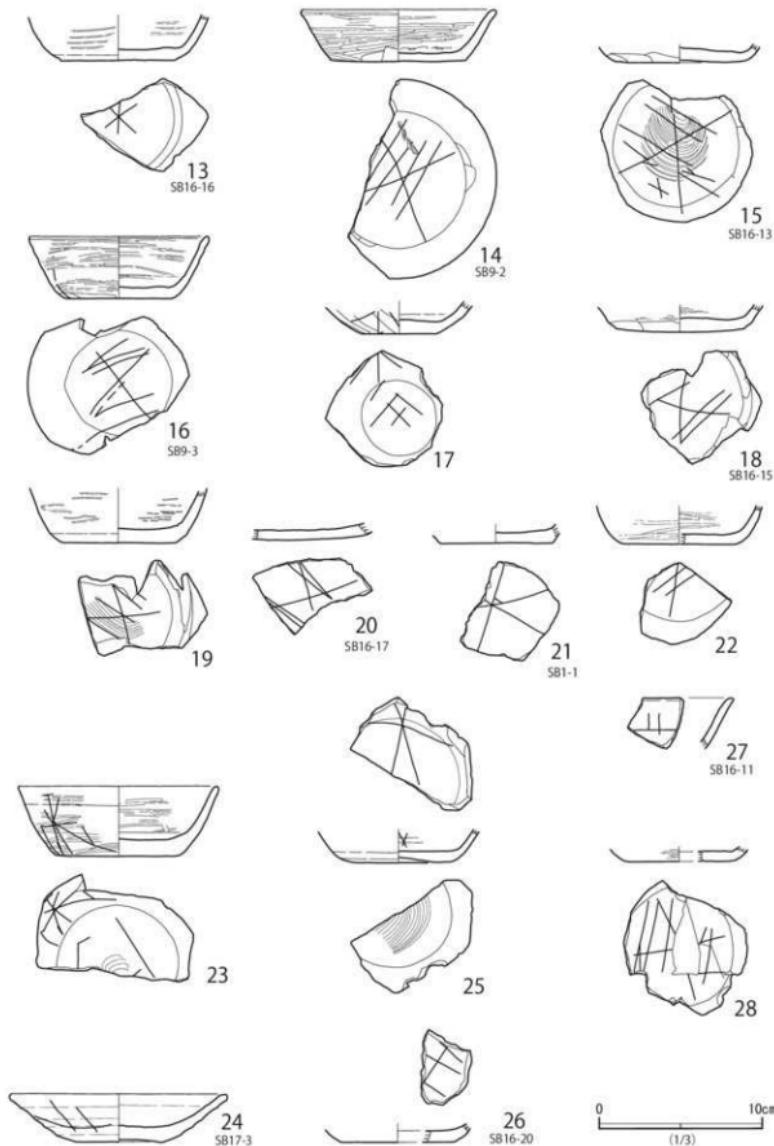
第68図 土馬実測図



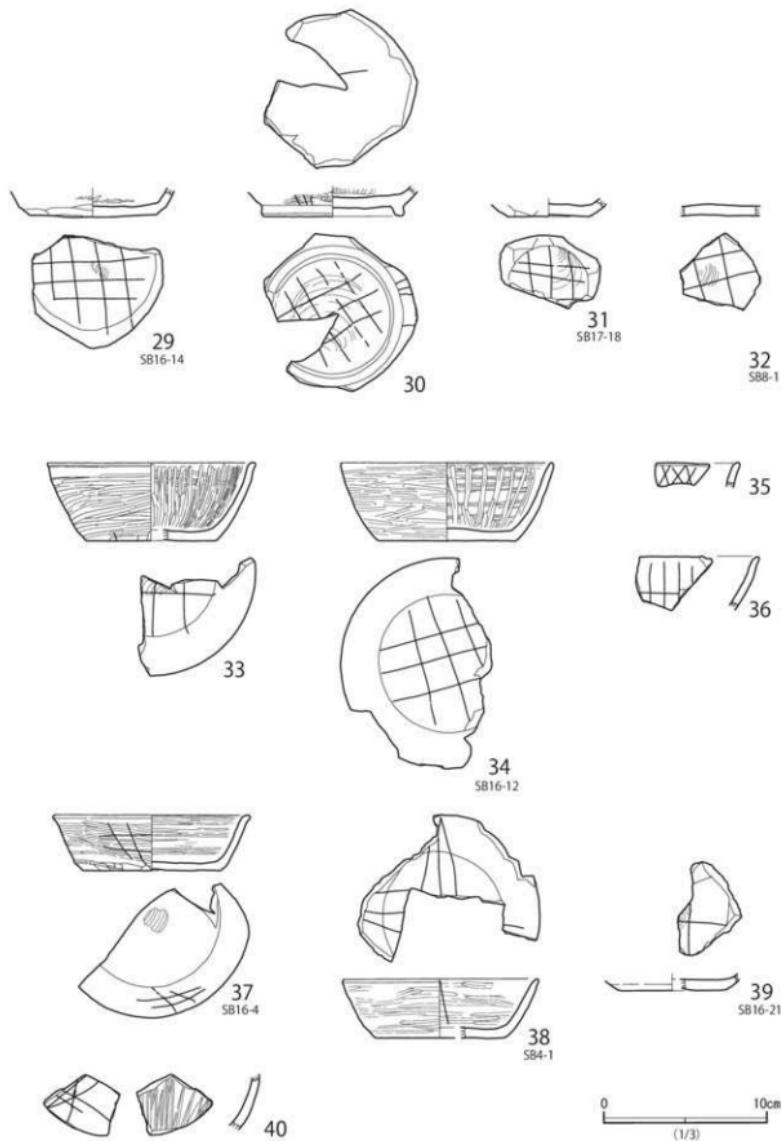
第69図 錢貨写真



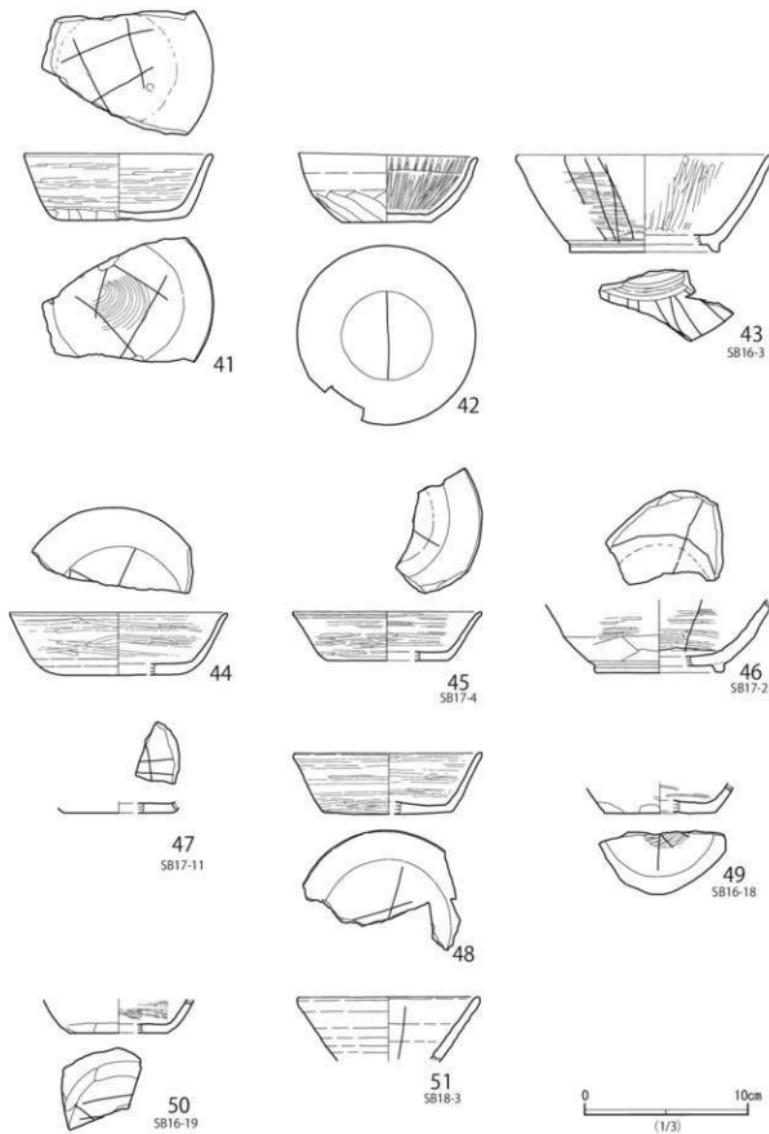
第 70 図 線刻土器実測図 (1)



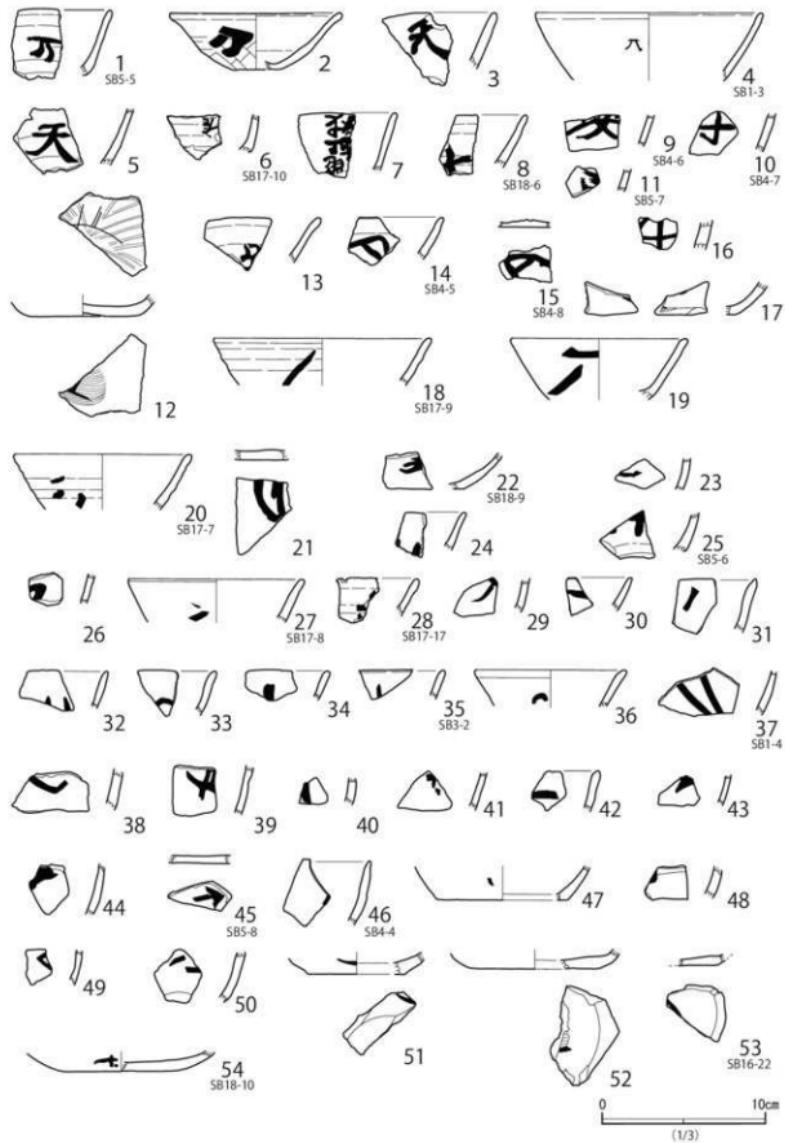
第 71 図 線刻土器実測図 (2)



第72図 線刻土器実測図(3)



第73図 線刻土器実測図(4)



第74図 墨書き土器実測図

第IV章 総括

第1節 調査の成果と課題

平成5年に今回の調査箇所から南に50mほど離れた位置において実施した一次調査では、奈良・平安時代の遺構及び遺物が検出されているが、二次調査ではこれらに加えて、古墳時代前期の遺構と遺物を検出した。これまで、千本遺跡は奈良・平安時代の遺跡として認識されていたものの、今回の調査によって古墳時代前期という新たな情報を得ることができた。

なお、千本遺跡の特徴や周辺遺跡との関連などを踏まえ、以下において時代ごとの様相を記述し、まとめたい。

1. 古墳時代【第75図】

古墳時代の遺構としては、住居址2軒(SB7・SB12)が重複して検出されているが、その規模はいずれもおおむね3m×3mであり、奈良・平安時代の住居址と比較するとやや小さい傾向が認められる。

これらの住居に伴う遺物は前期を中心とする土器類であり、壺、高壺、器台、壺、甕が出土している。また、奈良・平安時代の住居址であるSB2・SB5・SB8・SB9・SB11・SB15・SB18の覆土や遺構外からも当該期の土師器が同様の器種構成で出土していることから、奈良・平安時代の住居址との重複によつて消滅してしまった当該期の住居址などが存在していた可能性が考えられる。さらに、他の器種に比べ器台や高壺が比較的多く認められることから、祭祀的要素も有する集落であったことも想定される。

なお、畿内系の土器の一部やS字状口縁台付甕などの出土も確認されており、これらは近畿や東海西部地域との交流を示唆するものであるが、市内における当該期の遺跡である高尾山古墳や御幸町遺跡・藤井原遺跡などとの関連性を検討することにより、当該期の様相が明らかになってくるものと考えられる。また、市外においては狩野川下流域における首長居館的な性格が指摘される恵ヶ後遺跡（駿東郡清水町）のほか、山木遺跡（伊豆の国市）などにおいてもS字状口縁台付甕を中心とする東海西部系土器が出土していることから、千本遺跡を含め狩野川流域に存在していた集落は、狩野川を介して繋がりを持っていたものと考えられる。さらに、千本遺跡が狩野川河口域に存在しているということは、海路からの中継地点であるとも想定され、注目すべきものである。

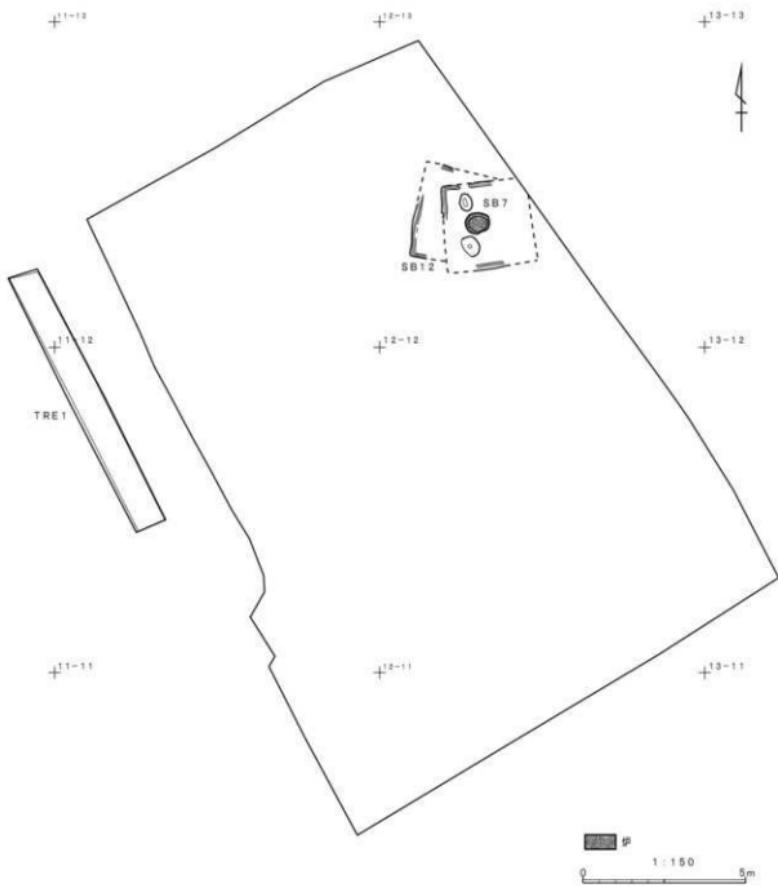
2. 奈良・平安時代【第76図】

1) 検出された遺構や遺物

奈良・平安時代の遺構は住居址16軒である。その規模は、復元値であるものの、①3.5m×3.5m、②4m×4m、③4m×5m、④5m×6mの四分類が可能であり、何らかの規格性を有していると思われるが、調査範囲が限られており、不明な点が多く課題は残る。また、重複関係から、同時期にはおおむね8軒程度が存在したと推測される。住居址から出土する遺物は、在地の駿東型壺・甲斐型壺・ぐの字状口縁長胴甕などであるが、特徴的な遺物として土馬などの土製品・墨書き土器・線刻土器・鉄製品・和銅開跡を含む錢貨などがある。これらは9～10世紀代の時期のものであり、第一次調査で検出された住居址及び遺物とほぼ同時期にあたる。なお、市内では、御幸町遺跡・中原遺跡・下石田原田遺跡などから共通の遺物が出土している例がみられる。

2) 集落構造と性格

集落を構成する要素として住居や掘立柱建物、製作工房、広場、祭祀場やそこに至る道、区画溝などの存在が考えられるが、当遺跡では住居址のみの検出にとどまっている。第一次調査でも、検出された遺構の大半は住居址である。なお、第一次調査では住居址以外の遺構として掘立柱建物跡1棟と多数のピットが検出されているが、これらの詳細な時期は不明である。このため、検出された遺構の配置状況から千本遺跡の集落構造を検討することは現段階では困難である。



第 75 図 古墳時代住居址検出位置図

しかしながら、第一次調査と第二次調査で出土した遺物としては、壺や壺、甕など日常雑器を中心であるほか、高壺や器台、墨書き土器、線刻土器、縁釉陶器、銅帶金具など祭祀又は官衙的な性格を有するものが出土しており、これらのことは、千本遺跡が官衙に何かしらの関連を有した性格の集落であることを示唆していると思われる。また、今回の調査対象範囲は集落の中でも居住区域の性格が強く、祭祀場や官衙的な施設は調査区外に展開していると想定される。

なお、出土した土器のうち壺型土器が比較的多く確認できることが特徴的であり、また、管状土錐や、少量ではあるが長頸瓶や釣り針も出土している。これらは漁撈を行うとともに、その漁獲物を加工していたことを示している。粗麻調の一つとして魚介類が都に運ばれていた記録があることから、当遺跡において納稅物として海産物関係の加工が行われていた可能性が高いと思われる。

3) 周辺遺跡との関連

狩野川河口域に形成された同時代の注目される遺跡として、狩野川右岸の日吉庵寺跡、上ノ段遺跡、下石田原田遺跡、左岸の御幸町遺跡がある。

日吉庵寺跡は、狩野川河口部に勢力を持つ豪族の氏寺と考えられており、仏教文化を受容した豪族が他地域に先駆けて寺院を建立したものであり、駿河における歴史的な意義が大きい遺跡である。また、下石田原田遺跡と上ノ段遺跡はこの豪族との関わりが想定され、前者は狩野川右岸に隣接する立地から、古代東海道や狩野川水運に関わる建物群と推定され、上ノ段遺跡は建物配置の規格性から官衙的な集落と考えられている。御幸町遺跡は狩野川左岸に形成された遺跡であり、弥生時代後期から続く集落である。千本遺跡と同様に帶金具などが出土しており、遺跡の性格は千本遺跡と類似したものと想定される。

これらの特徴を有する遺跡の存在は、当地域に東海道や狩野川水運に関わる有力者（豪族）が存在したことが想定され、律令国家体制が整備されていく過程で、伊豆国と駿河国を繋ぐ物流の中心地として狩野川河口域が発展していったことを物語っている。そして、狩野川河口に形成された千本遺跡は、奈良・平安時代における当該地域の政治・経済を支える重要な集落の一つであったということを示している。

ただし、千本遺跡でのこれまでの調査成果からは、集落としての機能は疑いようがないが、前述した遺跡と具体的にどのような関係があったかは明確になっていない。河口域という立地条件から、船着き場や護岸施設を設けた津や水駅である可能性もあるものの、明確な遺構は確認されていない。今後、集落の性格を明確にする遺構の発見が期待される。

主な引用・参考文献

〔論文等〕

池谷初恵 1995 「伊豆国における奈良平安時代の土器様相 - 三島市恋町田遺跡を中心として -」『大場川遺跡群』三島市教育委員会 東海土器研究会 2001 「漁獵業生産の変遷 - 畠倉・湖西宮殿の再構第一第5分冊（補遺・論考編）』

沼津市史編纂委員会・沼津市教育委員会 2002 『沼津市史資料編 考古』

菊田シンドウ・木村委員会・沼津市教育委員会 2005 『陶磁器から見る静岡県の中世社会』（発表要旨・論考編）（資料編）

沼津市史編纂委員会・沼津市教育委員会 2005 『沼津市史 史編 史前・古代・中世』

文化庁文化財部記念物課 2010 「発掘調査のてびき 整理・報告書編」

岩本 貴 2012 「駿東川-伊豆北部の外系土器について」『高地山地墳墓発掘調査報告書』沼津市教育委員会

渡井英賛 2012 「高地山古墳の出土土器について」『高地山古墳発掘調査報告書』沼津市教育委員会

佐藤尚樹 2013 「駿河・伊豆における古の陶器土器と手工業」『静岡県と周辺地域の官衙出土文字資料と手工業生産』地域と考古学の食

松原影子 2013 「砂州地形と遺跡立地-静岡県の海岸低地を例にして-」『考古学ジャーナル3』ニューサイエンス社

〔報告書〕

財團法人 浜松市文化協会 1998 「解子北遺跡・遺物編（本文）」

財團法人 浜松市文化振興財團 2005 「東若林遺跡」

富士市教育委員会 1982 「東若林遺跡 第1次 遊技場建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」富士市埋蔵文化財調査報告 第56集

沼津市教育委員会 2000 「下石田原田遺跡発掘調査報告書」沼津市文化財調査報告書 第74集

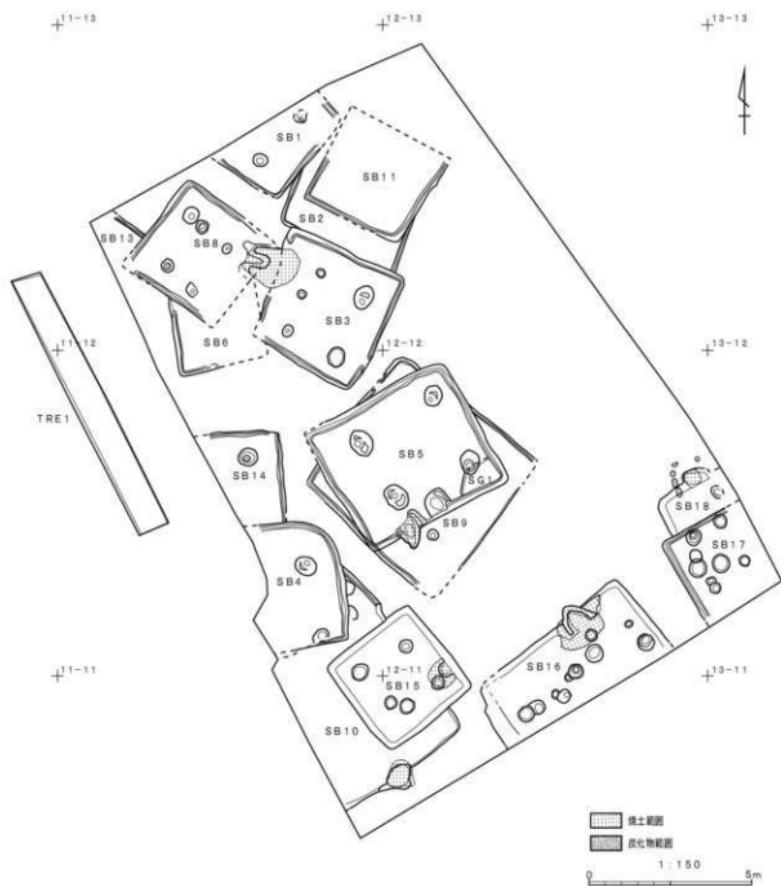
2002 「千本遺跡発掘調査報告書」沼津市文化財調査報告書 第79集

2005 「埋蔵文化財発掘調査報告書 第2」沼津市文化財調査報告書 第87集

2013 「西北遺跡発掘調査報告書」沼津市文化財調査報告書 第107集

2016 「中原遺跡発掘調査報告書」沼津市文化財調査報告書 第113集

2017 「御幸町遺跡第4次発掘調査報告書」沼津市文化財調査報告書 第117集



第 76 図 奈良・平安時代住居址検出位置図

第3表 土器観察表（1）

測定番号	出土地点	種類	通物番号	口径 底径 高さ 厚さ	胎土	焼成	色調・焼成部位	形態の特徴	手法の特徴	備考	
第15回 1	SBI	片	—	— (6.6)	良好	7.5VH/2 灰褐色 砂粒・含む	ロウ火成形	外面 ハラケヅリ 内面 ナデ 烧成ハラケヅリ	外壁裏部に極端 第7回21		
第15回 2	SBI	片	122	11.2 4.7 5.5	Φ 1 cmの赤色 砂粒 1% 含む	良好	7.5VH/2 灰褐色 砂粒・含む	ロウ火成形 平底の蓮部から内窓して立ち上がる。	外面 ナデ 下位ハラケヅリ 内面 ハラケヅリ 内面 灰褐色灰斑文	土器裏 平型片形 BC 中茎～後半	
第15回 3	SBI	片	—	13.8 — —	Φ 1 cmの赤色 砂粒 1% 含む	良好	10VH/3 灰褐色 砂粒 1% 含む	ロウ火成形 体部は内窓して立ち上がる。	外面 ナデ 内面 ナデ	外壁裏部に墨書き 第7回4	
第15回 4	SBI	片	—	— — —	Φ 1 cmの赤色 砂粒 1% 含む	良好	7.5VH/2 灰褐色 砂粒 1% 含む	ロウ火成形 体部は内窓して立ち上がる。	外面 ナデ 内面 ナデ	外壁裏部に墨書き 第7回37	
第15回 5	SBI	盤	—	(22.0)	Φ 1 cmの白色 砂粒 2% 含む	良好	7.5VH/4 灰褐色 砂粒 2% 含む	ロウ火成形 口縁部の屈曲は「C」字を呈する。	外面 灰褐色ハケテ後焼成ナデ 脚部ハケテ 内面 ハケテ	土器裏 板状型長脚盤 BC 中茎～後半	
第15回 6	SBI SBII SBIII 11-12	盤	—	(12.6)	Φ 1 cmの白色 砂粒 1% 含む	良好	10VH/1 灰褐色 砂粒 1% 含む	脚部は内窓して立ち上がり、蓮部内部に羽根状の模様もついて口縁部は外傾する。	外面 口縁部焼成ナデ 脚部ハケテ後焼成ナデ 内面 口縁部ハケテ後焼成ナデ 脚部ハケテ	土器裏 板状型短脚盤系	
第15回 7	SBI 底	小型盤	143	(13.0)	—	良	7.5VH/2 灰褐色 砂粒 1% 含む	ロウ火成形 口縁部は外傾して立ち上がる。	外面 口縁部焼成ナデ 脚部ハケテ 内面 口縁部焼成ナデ 脚部ハケテ	土器裏 BC 後半	
第15回 8	SBI	小型盤	119 120	— 6.0	—	良	2.5VH/1 灰褐色 砂粒 1% 含む	2.5VH/1 灰褐色 砂粒 1% 含む	平底の蓮部から脚部は内窓して立ち上がる。	外面 脚部ハケテ 脚部灰斑 底部木葉痕 内面 脚部ハケテ後焼成ナデ 烧成	土器裏
第15回 9	SBI 腹	盤	—	— (6.6)	Φ 1 cmの白色 砂粒 1% 含む	良	7.5VH/2 灰褐色 砂粒 1% 含む	平底の蓮部から脚部は外傾して立ち上がる。	外面 口縁部ハケテ 内面 口縁部ハケテ	土器裏	
第15回 10	SBI 腹	盤	—	— (8.2)	—	良好	7.5VH/2 灰褐色 砂粒 1% 含む	平底の蓮部から脚部は外傾して立ち上がる。	外面 脚部ナデ焼成 底部木葉痕 内面 脚部ハケテ	土器裏	
第15回 11	SBI 底	盤	146	(35.0)	Φ 1 cmの白色 砂粒 1% 含む	良好	7.5VH/2 灰褐色 砂粒 1% 含む	ロウ火成形上面を平坦に整えるため、厚く肥厚し、脚部は内窓する。	外面 口縁部焼成ナデ 脚部ハケテ後ナデ 内面 口縁部焼成ナデ 脚部ハケテ	土器裏 BC 後半	
第15回 12	SBI	端	130	(36.1)	Φ 1 cmの白色 砂粒 1% 含む	良好	7.5VH/2 灰褐色 砂粒 1% 含む	ロウ火成形上面を平坦に整えるため、厚く肥厚し、脚部は内窓する。	外面 口縁部焼成ナデ 脚部ハケテ 内面 口縁部焼成ナデ 脚部ハケテ	土器裏 XO 墓～80前年	
第15回 13	SBI 腹	盤	—	— (8.2)	Φ 4 cmの白色 砂粒 1% 含む 2.5VH/1 灰褐色 砂粒 1% 含む	良	7.5VH/2 灰褐色 砂粒 1% 含む	平底の蓮部からやや外反して立ち上がる。	外面 脚部ハケテ後ナデ調整 底部ナデ調整 内面 ハケテ後ナデ調整	土器裏 内面被然あり	
第15回 14	SBI 手柄 土器	手柄 土器	1160	(7.6) 3.0 (4.0)	—	良	5.7VH/4 灰褐色 砂粒 1% 含む	手柄部小口部 平底の蓮部から内窓して立ち上がる。	外面 口縁部焼成ナデ 体部作須痕 底部木葉痕 内面 植物ナデ	土器裏	
第15回 15	SBI SB2	手柄 土器	1028	(8.2) 3.0 (5.2)	—	良	2.5VH/2 灰褐色 砂粒 1% 含む	手柄部小口部 平底の蓮部から内窓して立ち上がる。	外面 口縁部焼成ナデ 体部作須痕 底部木葉痕 内面 植物ナデ	土器裏	
第15回 16	SBI	頸	121	— (7.0)	Φ 2 cmの白色 砂粒 1% 含む	良好	2.5VH/1 灰褐色 砂粒 1% 含む	ロウ火成形 脱胎高台	外面 手形ナデ 進群伝記へラケヅリ 内面 手形ナデ	反射光面 BC 鮎身～BC 後半	
第15回 17	SBI PT2	頸	—	(16.0) 4.1 (11.0)	Φ 1 cmの白色 砂粒 1% 含む	良好	7.5VH/1 灰褐色 砂粒 1% 含む	ロウ火成形 脱胎高台 蓮部から圓窓してロ縁部が立ち上がる。	外面 手形ナデ 内面 手形ナデ	反射器	
第15回 18	SBI	片	1044 1045	(12.3) 7.0	Φ 1 cmの白色 砂粒 1% 含む 2.5VH/1 灰褐色 砂粒 1% 含む	良好	10VH/4 灰褐色 砂粒 1% 含む	ロウ火成形 脚部を立てる。	外面 体部ヘラガニ 進群伝記へラケヅリ 内面 ハラガニ	土器裏 BC 鮎身	
第17回 2	SBI	盤	372 1083	(21.6) —	Φ 1 cmの白色 砂粒 1% 含む	良好	2.5VH/2 灰褐色 砂粒 1% 含む	脚部は内窓して開き、ロ縁部は外傾する。	外面 口縁部焼成ナデ 展底ハケテ後焼成ヘラミガニ 内面 ハラケヅリ 内面 口縁部焼成ナデ 体部作須痕	土器裏 板状型長脚盤 BC 鮎身	
第17回 3	SBI	端	954	(39.0)	Φ 1 cmの白色 砂粒 1% 含む	良好	7.5VH/2 灰褐色 砂粒 1% 含む	脚部は内窓して開き、ロ縁部は外反しながら肥厚し、ロ縁部を平底に整える。	外面 口縁部焼成ナデ 脚部ハケテ 内面 口縁部焼成ナデ 脚部ハケテ	土器裏	
第17回 4	SBI	端	1051	— (9.0)	Φ 1 cmの白色 砂粒 1% 含む	良好	5.7VH/2 灰褐色 砂粒 1% 含む	平底の蓮部から外傾して立ち上がる。	外面 脚部ハケテ後ナデ調整 底部木葉痕 内面 ハケテ	土器裏	
第17回 5	SBI	手柄 土器	966	6.4 3.3 3.8	—	良	7.5VH/1 灰褐色 砂粒 1% 含む	蓮部から内窓して立ち上がる。	外面 口縁部焼成ナデ 体部作須痕 底部木葉痕 内面 植物ナデ	土器裏	
第17回 6	SBI	手柄 土器	964	6.4 3.2 3.8	—	良	2.5VH/2 灰褐色 砂粒 1% 含む	蓮部から内窓して立ち上がる。	外面 口縁部焼成ナデ 体部作須痕 底部木葉痕 内面 植物ナデ	土器裏	
第17回 7	SBI	手柄 土器	957	(4.6) 3.5 4.2	—	良	7.5VH/2 灰褐色 砂粒 1% 含む	蓮部から内窓して立ち上がる。	外面 口縁部焼成ナデ 体部作須痕 底部木葉痕 内面 植物ナデ	土器裏	
第17回 8	SBI	手柄 土器	950 953	6.2 3.0 4.5	—	良	2.5VH/2 灰褐色 砂粒 1% 含む	蓮部から内窓して立ち上がる。	外面 口縁部焼成ナデ 体部作須痕 底部木葉痕 内面 植物ナデ	土器裏	

第4表 土器觀察表（2）

図面 番号	出土 地点	基盤 年	通号 年	口径 直径 （mm）	底土	構成 色調・焼付部位	形 態の特徴	手 法の特徴	備考
第17回 8	S82 S83猪	手探 工具	1040 1623	(6.0) 32 (16)	且	SYR5-2 灰黃褐色 口縁部～底部	底部から内側して立ち上がり、口縁部は丸く 收める。	外面 口縁部底付ナダ 体部下位へラケズリ 内面 緩付ナダ	土師器
第17回 10	S82 12-12	手探 工具	1040	(6.0) — —	且	SYR5-2 に(5.5)色 口縫部～全体	底部から内側して立ち上がり、口縁部は丸く 收める。	外面 口縫部底付ナダ 体部へラケズリ 内面 緩付ナダ・指詰痕	土師器
第17回 11	S82	猪	368	— — —	貴好	SYR5-1 灰黃褐色 底部	底部端内 口ロコ成形 外側して立ち上がる。	外面 回転ナダ・施錆・波文・ヘラ使工具で調整 内面 回転ナダ	波文器
第19回 1	S83	井	— —	Φ 1 mmの白色・ 赤色砂粒 15 合 (6.6)	貴好	SYR6-4 に(5.5)色 口縫部～底部	ロコ成形 縦付台合 体部は下位に凹部をもつてやや内窓気孔に立 ち上がる。	外面 体部ナダ 体部下位へラケズリ後ヘラミガキ 内面 ナダ後様ナダ	土師器 9G
第19回 2	S83	井	— —	Φ 1 mmの白色 砂粒 15 合 (9.4)	貴好	SYR6-3 に(5.5)色 底部	ロコ成形 施付台合 体部端片	外面 体部ナダ 内面 ナダ後ヘラミガキ	土師器 外付器に備考 第74回-35
第19回 3	S83	井	— —	Φ 1 mmの白色 砂粒 15 合 (9.4)	貴好	SYR6-3 に(5.5)色 底部	ロコ成形 施付台合 底部端片	外面 ヘラケズリ後ヘラ使工具で調整 内面 ナダ調整	土師器 IG
第19回 4	S83	小型罐	612	(14.0) Φ 1 mmの白色 砂粒 15 合 青むし 青むし	貴好	SYR5-2 灰黃褐色 口縫部～底部上位	底部が張り、口縁部は外反する。	外面 口縫部底付ナダ 施錆ハケメ 内面 口縫部底付ナダ 口縫部下位ハケメ	土師器 取束型銀鋲型
第19回 5	S83	猪	— —	Φ 1 mmの白色 砂粒 15 合 青むし 青むし	貴好	SYR5-1 灰黃褐色 口縫部	ロコ成形片 口縫部は「0」字状を呈する。	外面 槌付ナダ 内面 口縫部底付ナダ 口縫部下位ハケメ	土師器 (10.0)cm 依口縫 銀鋲型 IG
第19回 6	S83	猪	— —	Φ 1 mmの白色・ 赤色・高砂粉 15 合 青むし 青むし	貴好	SYR5-2 灰黃褐色 口縫部	ロコ成形片 口縫部を薄く肥厚させ、上面を平坦に整え る。	外面 槌付ナダ 内面 槌付ナダ	土師器 IG
第19回 7	S83	手探 工具	— 8.8	Φ 1 mmの白色・ 赤色砂粒 15 合 (6.6)	且	SYR5-2 灰黃褐色 口縫部	平底の底部から内側して立ち上がる。	外面 施錆部・施錆後 底部木葉痕 内面 口縫部底付ナダ 体部指捺痕	土師器 IG
第19回 8	S83 方手ド 11-12	井蓋	114 705 2703	30 — —	Φ 1 mmの白色・ 高砂粉 15 合 青むし	SYR6-1 灰 天井部～口縫部	ツバ足玉 0.8 cm ロコ成形 施錆跡のツバ足を斜り付け、口縁部はやや 内反する。	外面 天井部回転ヘラケズリ 回転ナダ 内面 回転ナダ	波文器 BG
第19回 9	S83 井蓋	井蓋	257	(16.0) Φ 1 mmの白色・ 高砂粉 15 合 青むし	貴好	SYR5-1 灰黃褐色 天井部	ツバ足玉 2.0 cm ロコ成形 施錆跡のツバ足を斜り付け。	外面 天井部回転ヘラケズリ 回転ナダ 内面 回転ナダ	波文器 IG
第19回 10	S83	井蓋	—	(10.0) Φ 1 mmの白色・ 高砂粉 15 合 青むし	且	SYR6-1 灰 天井部	ツバ足玉 2.0 cm ロコ成形 施錆跡のツバ足を斜り付け。	外面 天井部回転ヘラケズリ 回転ナダ 内面 回転ナダ	波文器 IG
第19回 11	S83	井蓋	606	(25) Φ 1 mmの白色・ 高砂粉 15 合 青むし	貴好	SYR6-1 灰黃褐色 天井部	ツバ足玉 2.7 cm ロコ成形 施錆跡のツバ足を斜り付け。	外面 天井部回転ヘラケズリ 回転ナダ 内面 回転ナダ	波文器 IG
第19回 12	S83 PT2	井蓋	348	(14.0) Φ 1 mmの白色 砂粒 15 合 青むし	貴好	SYR6-1 灰黃褐色 天井部～口縫部	ロコ成形 内窓てき。口縫部でやや平になった後 立直す。	外面 天井部回転ヘラケズリ 回転ナダ 内面 回転ナダ	波文器 IG
第19回 13	S83 S89	井蓋	— (14.0) Φ 1 mmの白色 砂粒 15 合 青むし	— (16.0) Φ 1 mmの白色 砂粒 15 合 青むし	貴好	SYR5-1 灰 天井部	ロコ成形 縫隙を留める。やや込みのある底部から外縫 して立ち上がる。	外面 体部回転ナダ後体部下位回転ヘラケズリ 内面 回転ナダ	波文器 IG 前半
第19回 14	S83 S89 高瀬	井蓋	— (16.1) Φ 1 mmの白色 砂粒 15 合 青むし	— (16.0) Φ 1 mmの白色 砂粒 15 合 青むし	貴好	SYR6-1 灰 天井部	ロコ成形 縫隙を留める。底部は内窓して立ち上がる。	外面 回転ナダ 体部下位～底部回転ヘラケズリ 内面 回転ナダ	波文器 IG 前半
第19回 15	S83	井蓋	— (9.0)	Φ 1 mmの白色 砂粒 15 合 青むし	貴好	SYR5-1 灰 天井部～底部	ロコ成形 縫隙を留める。平底の底部から底面をもつて 口縫部は直線。	外面 回転ナダ 体部下位～底部回転ヘラケズリ 内面 回転ナダ	波文器 IG
第19回 16	S83	井蓋	633	(15.2) Φ 1 mmの白色・ 3.7 高砂粉 15 合 青むし	貴好	SYR5-2 灰黃褐色 口縫部～底部	ロコ成形 台付高臺 底部の底部からやや内窓て立ち上がる。	外面 回転ナダ 体部下位～底部回転ヘラケズリ 内面 回転ナダ	波文器 IG
第19回 17	S83	井蓋	— (16.0) Φ 1 mmの白色 4.3 高砂粉 15 合 青むし	— (16.0) Φ 1 mmの白色 4.4 高砂粉 15 合 青むし	貴好	SYR6-1 灰 天井部 口縫部	ロコ成形 施付高臺 底部の底部からやや内窓て立ち上がる。	外面 回転ナダ 体部下位～底部回転ヘラケズリ 内面 回転ナダ	波文器 IG
第19回 18	S83	井蓋	— (8.8)	Φ 1 mmの白色・ 赤色砂粒 15 合 青むし	貴好	SYR7-1 灰 天井部 口縫部	ロコ成形 施付高臺 平底の底部からやや内窓て立ち上がる。	外面 回転ナダ 施付高臺へラケズリ 内面 回転ナダ	波文器 IG
第19回 19	S83	井蓋	— (3.4)	Φ 1 mmの白色 砂粒 15 合 青むし	貴好	SYR6-1 灰 天井部 口縫部	ロコ成形 施付高臺 底部は残して口縫部を外彎して立ち上がる。	外面 回転ナダ 施付高臺 内面 回転ナダ	波文器 IG
第19回 20	S83	猪	— (25.4)	Φ 1 mmの白色 砂粒 15 合 青むし	貴好	SYR5-1 灰 天井部 口縫部	ロコ成形 施付高臺 底部の底部からやや内窓て立ち上がる。	外面 口縫部回転ナダ 施錆タクナ・自然施付器 内面 口縫部回転ナダ 向心円文	波文器 IG
第21回 1	S84 高瀬	井	— (12.0)	Φ 1 mmの白色・ 赤色砂粒 15 合 青むし	貴好	SYR5-2 灰黃褐色 口縫部～底部	ロコ成形 台付高臺 ロコ成形して立ち上がる。	外面 ナダ後ヘラミガキ 逆削あ切齒・ヘラケズリ 内面 ナダ後ヘラミガキ 逆削ヘラミガキ	土師器 内付器・底部・底部に 継続 第72回-16
第21回 2	S84 高瀬	井	— (11.2)	Φ 1 mmの白色・ 赤色砂粒 15 合 青むし	貴好	SYR5-2 灰黃褐色 口縫部～底部	ロコ成形 体部は外彎して立ち上がる。	外面 ナダ後ヘラミガキ 内面 ナダ後ヘラミガキ	土師器

第5表 土器観察表(3)

調査番号	出土地点	器種	陶物No.	口径 腹高 底径	胎土	焼成	色調・焼成部位	形態の特徴	手法の特徴	備考
第21回 3	S84 PTII	杯	—	(13.0) — —	Φ 1 mmの赤色・ 黒色砂粒 1% 含む	良好	SYRS/4 に5~10mm褐色 口縁部~底部下部	ロクロ成形 底部は内側して立ち上がる。	外面 ナデ 内面 ナデ	土師器
第21回 4	S84	杯	—	— — —	Φ 1 mmの白色 砂粒 1% 含む	良好	SYRS/2 に5~10mm褐色 口縁部~底部下部	ロクロ成形 底部は内側して立ち上がり、口縁部はやや外反する。	外面 ナデ 内面 ナデ後へラミガキ	土師器 外窓体形に墨書き 第74回 46
第21回 5	S84	杯	—	— — —	Φ 1 mmの白色 砂粒 1% 含む	良好	SYRS/3 に5~10mm褐色 口縁部~底部下部	ロクロ成形 内側して立ち上がる。	外面 ナデ 内面 ナデ	土師器 外窓体形に墨書き 第74回 14
第21回 6	S84	杯	—	— — —	—	良好	SYRS/4 に5~10mm褐色 全体	ロクロ成形 全体は内側して立ち上がる。	外面 ナデ 内面 ナデ	土師器 外窓体形に墨書き 第74回 9
第21回 7	S84	杯	—	— — —	Φ 1 mmの白色 砂粒 1% 含む	良好	SYRS/2 赤色 全体	ロクロ成形 全体は内側して立ち上がる。	外面 ナデ 内面 ナデ後へラミガキ	土師器 外窓体形に墨書き 第74回 10
第21回 8	S84	杯	—	— — —	—	良好	2SYRS/2 に5~10mm褐色 全体	ロクロ成形 底部破片	外面 ヘラケズリ 内面 ナデ	土師器 外窓体形に墨書き 第74回 13
第21回 9	S84	杯	—	— — —	Φ 1 mmの白色・ 黒色砂粒 1% 含む (8.6)	良好	10YR4/2 褐色灰 底部	ロクロ成形 糊付焼成	外面 ナデ~ヘラケズリ 内面 ナデ	土師器
第21回 10	S84 PT2	甕	— (6.2)	— — —	Φ 1 mmの黒色 砂粒 1% 含む	良好	SYRS/2 赤褐色 底部	平底の底部から頸部は外反して立ち上がる。	外面 線部ハケメ 逆脚木葉底 内面 線部ハケメ	土師器
第21回 11	S84	甕	—	— — —	Φ 1 mmの黒色 砂粒 1% 含む	良好	SYRS/4 赤褐色 口縁部	口縁部破片 縁やや外反して立ち上がる。	外面 ハケメ後模位ナデ 内面 線位ナデ	土師器
第21回 12	S84	甕	158- (8.0)	—	—	良好	10YR4/3 に5~10mm褐色 底部~底部	平底の底部から外傾して立ち上がる。	外面 頸部ハケメ後模位ナデ~糊付底 内面 ハケメ	土師器
第21回 13	S84	甕	— (8.3)	— —	Φ 1 mmの白色・ 黒色砂粒 1% 含む	良好	SYRS/2 赤褐色 底部	平底の底部から外傾して立ち上がる。	外面 頸部ハケメ後模位 内面 ハケメ	土師器
第21回 14	S84	甕	2036	— (8.1)	Φ 1 mmの白色 砂粒 1% 含む	良	7SYRS/2 に5~10mm褐色 底部~底部	平底の底部から外傾して立ち上がる。	外面 頸部ナデ調整 尾脚木葉底 内面 ハケメ	土師器
第21回 15	S84	平底 土器	— (7.2) 24 (3.1)	— —	Φ 1 mmの黒色 砂粒 1% 含む	良好	7SYRS/3 に5~10mm褐色 底部	平底の底部から内側して立ち上がる。	外面 口縁部模位ナデ 頸部模位 内面 模位ナデ	土師器
第21回 16	S84	甕	— (6.0)	— —	Φ 1 mmの白色・ 黒色砂粒 1% 含む (6.0)	良好	SY/S-1 赤色 底部~頸部下部	ロクロ成形 頸部は外傾して開いた後内側する。	外面 田町ヒダ 内面 田町ヒダ	泥質直腹甕 90と推測される
第21回 17	S84	甕	—	—	Φ 1 mmの白色 砂粒 1% 含む	良好	SY/S-1 赤色 底部	ロクロ成形 底部破片	外面 田町ヒダ 内面 田町ヒダ	泥質直腹甕 90
第21回 18	S84	甕	— (8.0)	—	—	良好	SY/S-2 灰土リーフ色 底部	灰土リーフ色 底部	外面 田町ヒダ 内面 田町ヒダ	反対陶器
第25回 1	S85 カワフ	甕	525 (11.2) 36 (9.0)	—	Φ 1 mmの白色 砂粒 1% 含む	良好	7SYRS/2 に5~10mm褐色 口縁部~底部	ロクロ成形 平底の底部から外傾して立ち上がる。	外面 ナデ~ヘラミガキ 内面 ナデ~ヘラミガキ 底部へラミガキ	土師器 底部外側に竹管突あり
第25回 2	S85 カワフ 40408 (8.6)	甕	34 (12.2) 40 (8.4)	—	Φ 1 mmの白色 砂粒 1% 含む	良好	SYRS/3 に5~10mm褐色 口縁部~底部	ロクロ成形 平底の底部からやや内側して立ち上がり、口縁部は外反する。	外面 ナデ下位~ラミガキ 内面 ナデ~ヘラミガキ	土師器 外窓体形に絞り 模様切削等 第74回 12
第25回 3	S85	甕	— (11.4)	—	Φ 1 mmの白色 砂粒 1% 含む	良好	SYRS/4 に5~10mm褐色 口縁部~底部	ロクロ成形 やや内側して立ち上がる。	外面 ナデ~ヘラミガキ 内面 ナデ~ヘラミガキ	土師器
第25回 4	S85 左方フ	甕	— (12.6) 40 (8.4)	—	Φ 1 mmの白色 砂粒 1% 含む	良好	2SYRS/4 に5~10mm褐色 口縁部~底部	ロクロ成形 口縁部は外傾して立ち上がる。	外面 線位ナデ後模位~ラミガキ 内面 線位ナデ後模位~ラミガキ	土師器
第25回 5	S85	甕	— —	—	Φ 1 mmの白色 砂粒 1% 含む	良好	SYRS/4 に5~10mm褐色 口縁部~底部	ロクロ成形 底部破片	外面 ナデ 内面 ナデ	土師器 外窓体形に墨書き 第74回 1
第25回 6	S85	甕	— —	—	Φ 1 mmの白色 砂粒 1% 含む	良好	SYRS/4 に5~10mm褐色 全体	ロクロ成形 全体はやや内側する。	外面 ナデ 内面 ナデ	土師器 外窓体形に墨書き 第74回 25
第25回 7	S85	甕	— —	—	Φ 1 mmの白色 砂粒 1% 含む	良好	SYRS/2 に5~10mm褐色 全体	ロクロ成形 全体は内側して立ち上がる。	外面 ナデ 内面 ナデ	土師器 外窓体形に墨書き 第74回 11
第25回 8	S85 左方フ	甕	— —	—	Φ 1 mmの白色 砂粒 1% 含む	良好	SYRS/2 に5~10mm褐色 全体	ロクロ成形 底部破片	外面 体部~ヘラケズリ 内面 10YR4/1 墨色 ナデ後模位切削	土師器 90~100 初頭 半球状
第25回 9	S85	甕	— (3.2)	—	Φ 1 mmの白色 砂粒 1% 含む	良好	SYRS/4 に5~10mm褐色 全体	ロクロ成形 平底の底部から外傾して立ち上がる。	外面 体部~ヘラケズリ 内面 ナデ	土師器

第6表 土器觀察表(4)

図面 番号	出土 地点	基盤	通号	径 寸 度 及 び 形 状	土色	焼成	色調・焼成部位	形 態 の 特 徴	手 法 の 特 徴	備考
第 25 図 10	SBS5 基	平	367	(13.0) 4.5 (6.0)	◎ 1 mmの赤色、 黒色砂粒 1% 含む	直井	10YR6/3 に5.5%赤色 口縁部～底部	ロクロ成形 やや上げ度から内溝して立ち上がる。	外面 体部凹凸子 岩部切底 内面 内底(M4.0) 烧色	土師器 BC 前半
第 25 図 11	SBS	基	—	(17.0)	◎ 1 mmの白色、 砂粒 1% 含む	直井	75YR6/3 に5.5%赤色 口縁部～底部	口縁部は外反して立ち上がり、瓶部は内 溝する。	外面 口縁部横位ナデ 瓶部ハケメ・輪筋底 内面 口縁部横位ナデ 瓶部ハケメ・輪筋底	土師器 BC 前半
第 25 図 12	SBS PTJ	基	—	(25.2)	◎ 1 mmの白色、 砂粒 1% 含む	直井	75YR6/3 に5.5%赤色 口縁部～瓶部上	口縁部は短く外傾して立ち上がり、瓶部は内 溝する。	外面 口縁部横位ナデ 瓶部ハケメ 内面 口縁部横位ナデ 瓶部ハケメ	土師器 BC 前半
第 25 図 13	SBS	基	—	(14.0)	◎ 1 mmの白色、 砂粒 1% 含む	直井	5YR6/4 に5.5%赤色 口縁部～瓶部上	口縁部はやや平底に屈曲する。瓶部は内 溝する。	外面 口縁部横位ナデ 瓶部ハケメ・指捺底 内面 口縁部横位ナデ 瓶部ハケメ	土師器 BC 前半
第 25 図 14	SBS	基	—	(8.6)	◎ 1 mmの黑色、 砂粒 1% 含む	直井	75YR6/3 に5.5%赤色 口縁部～底部	やや上げ度から内溝して立ち上がる。	外面 瓶部ハケメ・後位ナデ凹型、輪筋底 花部木葉底 内面 ハケメ・輪筋底	土師器 BC 前半
第 25 図 15	SBS カマド	基	399	— (6.6)	◎ 1 mmの白色、 砂粒 1% 含む	直井	75YR6/2 に5.5%赤色 口縁部下位～底部	平底の底部から外傾して立ち上がる。	外面 ハケメナデ底堅・ヘラケズリ 内面 ハケメ	土師器 BC 前半
第 25 図 16	SBS カマド 11-11	残	402	(50.2)	◎ 1 mmの白色、 砂粒 1% 含む	直井	75YR6/3 に5.5%赤色 口縁部～瓶部上	口縁部は外反して立ち上がり、瓶部は内溝す る。	外面 口縁部横位ナデ 瓶部上位へラケズリ 内面 瓶部下位ハケメ	土師器 BC 前半
第 26 図 17	SBS カマド 1381	場	398	(22.0)	◎ 1 mmの白色、 赤色、 黑色砂粒 1% 含む	直井	5YR5/4 に5.5%赤色 口縁部～瓶部上	口縁部はくの字形に屈曲する。	外面 口縁部横位ナデ 瓶部ハケメ 内面 横位ナデ 限界輪底・持底	土師器 BC
第 26 図 18	SBS 589 基	場	399	(29.2)	◎ 1 mmの白色、 黑色砂粒 1% 含む	直井	75YR6/3 に5.5%赤色 口縁部～瓶部上	口縁部は外反して立ち上がり、瓶部はやや直 線状に内溝する。	外面 口縁部横位ナデ 瓶部ハケメ 内面 口縁部横位ナデ 瓶部ハケメ後位凹ナデ	土師器 BC
第 26 図 19	SBS	場	393	(36.8)	◎ 2 mmの白色、 黑色砂粒 1% 含む	直井	75YR6/3 に5.5%赤色 口縁部～瓶部上	口縁部は外反して立ち上がり、瓶部はやや内 溝する。	外面 口縁部横位ナデ 瓶部ハケメ 内面 口縁部横位ナデ・輪筋底 瓶部ハケメ	土師器 BC
第 26 図 20	SBS	場	—	(42.4)	◎ 1 mmの白色、 赤色、 黑色砂粒 1% 含む	直井	5YR5/4 に5.5%赤色 口縁部～瓶部上	口縁部は外反して立ち上がり、瓶部はやや直 線状に内溝する。	外面 口縁部横位ナデ 轮筋ハケメナデアラ溝 内面 口縁部横位ナデ 瓶部ハケメ・輪筋底	土師器 BC
第 26 図 21	SBS カマド	残	350	(37.2)	◎ 1 mmの白色、 黑色砂粒 1% 含む	直井	75YR6/2 に5.5%赤色 口縁部下位～底部	口縁部は外反して立ち上がり、瓶部はやや内 溝する。	外面 口縁部横位ナデ 瓶部ナデ調整 内面 口縁部ハケメアラ溝・輪筋ハケメ	土師器 BC
第 26 図 22	SBS カマド	場	—	(8.0)	◎ 1 mmの白色、 砂粒 1% 含む	直井	5YR5/3 に5.5%赤色 口縁部下位～底部	平底の底部から瓶部が内溝して立ち上がる。	外面 瓶部ハケメ上部横位ナデ 花部木葉底 内面 ハケメ上部横位ナデ・輪筋底 逆位ナデ調整	土師器 BC
第 26 図 23	SBS 589 基	場	66	— (7.0)	◎ 1 mmの白色、 黑色砂粒 1% 含む	直井	10YR5/2 灰青褐色 口縁部下位～底部	やや上げ度の邊縁が外傾して窪く。瓶部下 位に隆起もつ。	外面 瓶部ハケメ・後位ナデ 逆位ナデ 花部木葉底 内面 瓶部ハケメ	土師器 BC
第 27 図 24	SBS 589 基	場	561	— (8.0)	◎ 1 mmの白色、 砂粒 1% 含む	直井	5YR5/3 に5.5%赤色 口縁部下位～底部	瓶部は外傾して立ち上がる。	外面 瓶部ハケメ上部横位ナデ 花部木葉底 内面 瓶部ハケメ	土師器 BC
第 27 図 25	SBS 手器	手器	— (46)	—	◎ 1 mmの白色、 砂粒 1% 含む	直井	5YR5/4 に5.5%赤色 口縁部～底部	平底の底部から外傾して立ち上がり、口縁部 は内溝する。	外面 口縁部横位ナデ 体部持頂 花部木葉底 内面 ナデ調整	土師器 BC
第 27 図 26	SBS 床	所置	367	— (13.8)	◎ 1 mmの白色、 砂粒 1% 含む	直井	10YR5/2 灰青褐色 天井部下～口縁部	ロロ成形 天井部から外傾して窪く。口縁部は直立する。 内面 回転ナデ	外面 天井部回転ヘラケズリ 回転ナデ 内面 回転ナデ	泥器器 BC
第 27 図 27	SBS	所置	392	— (14.2)	◎ 1 mmの白色、 黑色砂粒 1% 含む	直井	5YR5/3 に5.5%赤色 天井部～口縁部	ロロ成形 天井部から外傾して窪く。口縁部は直立する。 内面 回転ナデ	外面 天井部回転ヘラケズリ 田粂ナデ 内面 回転ナデ	泥器器 BC
第 27 図 28	SBS 床	所置	408	— (5.6)	◎ 1 mmの白色、 砂粒 2% 含む	直井	5Y5/1 灰 口縁部下位～底部	ロロ成形 やや上げ度の邊縁が内溝して立ち上がる。	外面 回転ナデ 花部ヘラケズリ 内面 回転ナデ	泥器器 BC
第 27 図 29	SBS 床	所置	500	(32.4)	◎ 1 mmの白色、 砂粒 1% 含む	直井	N-5 灰色 口縁部～体部下位	内溝して立ち上がる。	外面 回転ナデ 体部下位回転ヘラケズリ 内面 回転ナデ	泥器器 BC
第 27 図 30	SBS 床	所置	—	(9.2)	◎ 1 mmの白色、 黑色砂粒 1% 含む	直井	10YR6/1 暗赤色 口縁部～底部	黒褐色は外傾し、口縁部は外反して窪いた後回 転して立ち上がり。	外面 回転ナデ 内面 回転ナデ	泥器器 BC
第 29 図 1	SBS 床	2347	—	—	◎ 1 mmの白色、 砂粒 1% 含む	直井	2.5YR6/3 に5.5%赤色 口縁部	口縁部横窓 口縁部はやわらかに外反する。	外面 口縁ナデ 内面 ハケメ後位ナデ	土師器 取扱型球根器
第 29 図 2	SBS 床	—	(17.1)	—	◎ 1 mmの黑色、 砂粒 1% 含む	直井	5YR6/4 に5.5%赤色 口縁部	「の字」状口縁部は持位の硬壁 口縁部は外反した後わずかに内傾する。	外面 横位ナデ・当底直 内面 横位ナデ	土師器 取扱型直腹器
第 5 図 1	SBS 床	192	—	(11.0)	◎ 1 mmの白色、 黑色砂粒 1% 含む	直井	10YR6/3 に5.5%赤色 口縁部	口縁部は外傾して直規的に立ち上がる。 内面 最大径をもつ。	外面 ハラミギキ 内面 瓶部ハケメ後ヘラケズリ	土師器 古墳時代前段
第 6 図 2	SBS PT1 床	738	—	—	◎ 1 mmの白色、 黑色砂粒 1% 含む	直井	2.5YR6/4 に5.5%赤色 口縁部	瓶部は最大径に中位にし球根状を呈する。	外面 ハケメヘラケズリ 内面 瓶部ナデ	土師器 古墳時代前段

第7表 土器観察表（5）

図面番号	出土地点	基盤	陶器 名	口径 横置 位置	胎土	焼成	色調・焼成部位	形態の特徴	手法の特徴	備考
第8回 3	SBT SB12	窯坪	2250	(10.6) —	中 1 番の白色 砂粒 1% 含む	良好	SYRS-3 に近い褐色 焼成	耳部は内側して立ち上がり、口縁部はわずかに外傾する。	外面 線付十字窓へラギモ 内面 ハラミガキ	土師器 中世 I 式期 古墳時代中期
第8回 4	SBT 伊	窯坪	2742	—	中 1 番の白色 砂粒 1% 含む	良好	SYRS-3 に近い褐色 焼成	耳部は外傾して聞く。	外面 バケツ様ヘラギモ 内面 ハラミガキ・複合層にハケメ	土師器 古墳時代
第8回 5	SBT	窯台	193	—	中 1 番の白色・ 黒色砂粒 1% 含む	良好	SYRS-3 に近い褐色 焼成	耳部は内溝し、腹部はハの字型に開く。 腹部から耳部に向いて穿孔あり。脚部に透かし穴跡が確認される。	外面 ハラミガキ 内面 耳付十字窓ギ・細部ヘラケズリ	土師器 古墳時代
第8回 6	SBT	窯台	811	—	中 1 番の白色 砂粒 1% 含む	良	T3VRS-2 灰褐色 焼成	脚部はハの字型に開く。 腹部から耳部にかけて穿孔あり。脚部に透かし穴跡が確認される。	外面 ハラミガキ 内面 ハラミガキズリ	土師器 古墳時代
第8回 7	SBT	窯台	186	—	中 1 番の白色 砂粒 1% 含む	良	T3VRS-4 に近い褐色 焼成	脚部はハの字型に開く。 腹部から耳部にかけて穿孔あり。脚部に透かし穴跡が確認される。	外面 ハラミガキ 内面 ハケメ後ヘラ状工具で調整	土師器 古墳時代
第8回 8	SBT	台付盤	—	(16.2) —	中 1 番の白色 砂粒 1% 含む	良	10VRS-1 灰褐色 焼成	5字型口縁付付垂。 脚部は外傾し、口縁部は大きく外反する。	外面 口縁部焼付ナデ 脚部ハケメ 内面 口縁部焼付ナデ 脚部指鍼底	土師器 古墳時代前期
第8回 9	SBT 床	台付盤	172	(13.6) —	中 1 番の白色 砂粒 1% 含む	良	T3VRS-2 灰褐色 焼成	5字型口縁付付垂。 脚部は外反し、口縁部は大きく外反する。	外面 口縁部焼付ナデ 脚部ハケメ 内面 口縁部焼付ナデ 脚部指鍼底	土師器 古墳時代前期
第8回 10	SBT 床	台付盤	2745	—	中 1 番の白色・ 黒色砂粒 1% 含む (3.2)	良	T3VRS-3 に近い褐色 焼成	5字型口縁付付垂。 脚部はハの字型に開く。脚部を刮り落す。	外面 バケツ様ナデ調整 内面 ハケメ	土師器 古墳時代
第8回 11	SBT SB12	台付盤	796	(14.4) 359	中 1 番の白色 砂粒 1% 含む	良	SYRS-3 に近い褐色 焼成	口縁部は横幅がやや外反する。 脚部は最大径をハの字型にし焼成材を茎する。	外面 口縁部垂 横幅ハケメ 内面 口縁部焼付ナデ 脚部板状の工具で整える	土師器 古墳時代
第8回 12	SBT	裏	—	(13.4) —	中 1 番の白色 砂粒 1% 含む	良	T3VRS-2 灰褐色 焼成	口縁部はわずかに内溝して立ち上がり、口縁部は心臓形。	外面 口縁部焼付ナデ 内面 口縁部焼付ナデ	土師器 古墳時代
第8回 13	SBT	裏	191	—	中 1 番の黑色 砂粒 1% 含む (3.4)	良	T3VRS-3 に近い褐色 焼成	脚部はハの字型に開く。	外面 ハケメ 内面 ハケメ	土師器 古墳時代
第8回 14	SBT 窯溝	台付盤	794	(39.0) —	中 1 番の白色・ 黒色砂粒 1% 含む	良	T3VRS-4 に近い褐色 焼成	ロジ焼部は軸度強度を弱ら付けて肥厚させる。	外面 口縁部ハケメ・指鍼底 脚部ハケメ 内面 ハケメ	土師器 古墳時代前期 大型台付盤
第8回 15	SBT	台付盤	188	—	中 1 番の白色 砂粒 1% 含む	良	T3VRS-7 灰褐色 焼成	ロジ焼部は外反して立ち上がり。ロジ焼部は軸度強度を弱ら付けて肥厚させる。	外 面 口縁部ハケメ・指鍼底 内面 ハケメ	土師器 古墳時代中期 大型台付盤
第8回 16	SBT 床	台付盤	2729	(33.0) —	中 1 番の白色・ 黒色砂粒 1% 含む	良	10VRS-3 に近い褐色 焼成	ロジ焼部は外反して立ち上がり。ロジ焼部は軸度強度を弱ら付けて肥厚させる。	外 面 口縁部焼付ナデ・指鍼底 内面 ハケメ	土師器 古墳時代前期 大型台付盤
第8回 17	SBT PT2	台付盤	325	(38.0) —	中 1 番の白色 砂粒 1% 含む	良	T3VRS-3 に近い褐色 焼成	ロジ焼部は外反し、ロジ焼部は軸度強度を弱ら付けて肥厚させる。	外 面 口縁部焼付ナデ・ハケメ・指鍼底 内面 口縁部ハケメ後焼付ナデ・指鍼底	土師器 古墳時代前期 大型台付盤
第8回 18	SBT	台付盤	793	—	中 1 番の白色 砂粒 1% 含む	良	10VRS-3 灰褐色 焼成	脚部はハの字型に開く。	外 面 ハケメ 内面 ハケメ後焼付ナデ	土師器 古墳時代
第8回 19	SBT 床	裏	—	(9.0) —	中 1 番の白色 砂粒 1% 含む	良	10VRS-7 灰褐色 焼成	平底の邊縁から外傾して立ち上がる。	外 面 ナデ調整 内面 ハケメ	土師器 古墳時代
第8回 20	SBB	坪	—	—	—	良好	SYRS-4 に近い褐色 焼成	ロクロ成形	外 面 ハラギモ・ヘラケズリ 内面 ハラミガキ	土師器 外周部に輪削 第7回 32
第8回 21	SBB	坪	—	(18.8) —	中 1 番の黑色 砂粒 1% 含む	良好	23VRS-4 に近い褐色 焼成	ロクロ成形。 ロジ焼部は横幅がやや内溝して立ち上がり。ロジ焼部は外反する。	外 面 ナデ焼付ナデ・うつガキ 内面 ナデヘルミガキ	土師器 土
第8回 22	SBB	坪	—	(18.5) —	中 1 番の白色・ 黒色砂粒 1% 含む (3.4)	良好	SYRS-4 に近い褐色 焼成	ロクロ成形。 ロジ焼部は横幅がやや内溝して立ち上がる。	外 面 植位ハラギモ・脚部ハラギモ 内面 植位ハラギモ	土師器 土
第8回 23	SBB	坪	—	(11.2) —	中 1 番の黑色 砂粒 1% 含む	良好	SYRS-4 に近い褐色 焼成	ロクロ成形。 ロジ焼部は内側して立ち上がる。	外 面 ナデ後ヘラズリ 内面 ナデ	土師器 床
第8回 24	SBB	床	1754	(22.8) 1755	中 1 番の白色 砂粒 1% 含む	良	T3VRS-3 に近い褐色 焼成	脚部はわざかに内溝しながら立ち上がり。ロジ焼部は「くの字」状に屈曲しながら外傾する。	外 面 口縁部焼付ナデ 脚部ハケメ 内面 口縁部焼付ナデ・指鍼底	土師器 土の字型長颈壺 IC 第半
第8回 25	SBB	床	1756	—	中 1 番の白色 砂粒 1% 含む	良	T3VRS-3 に近い褐色 焼成	脚部はわざかに内溝しながら立ち上がり。ロジ焼部は「くの字」状に屈曲しながら外傾する。	外 面 口縁部ハケメ後焼付ナデ 脚部ハケメ 内面 口縁部ハケメ後焼付ナデ・指鍼底	土師器 土の字型長颈壺 IC 第半
第8回 26	SBB	床	1757	(22.6) 1710	中 1 番の白色 砂粒 1% 含む	良好	SYRS-3 に近い褐色 焼成	脚部は横幅を狭め、ロジ焼部は内側して立ち上がる。	外 面 口縁部焼付ナデ 脚部ハケメ後強化ヘラギモ 内面 口縁部焼付ナデ・ハラミガキ	土師器 土の字型長颈壺 IC 第半
第8回 27	SBB	床	377	(22.6) —	中 1 番の白色 砂粒 1% 含む	良好	SYRS-3 に近い褐色 焼成	ロジ焼部は横幅を狭め、脚部は横幅を狭め、ロジ焼部は横幅を狭め、脚部は横幅を狭め。	外 面 口縁部焼付ナデ 脚部ハケメ 内面 口縁部焼付ナデ・ハラミガキ	土師器 土の字型長颈壺 IC 第半
第8回 28	SBB	床	590	(20.0) 591	中 1 番の白色 砂粒 1% 含む	良好	SYRS-2 灰褐色 焼成	ロジ焼部を削ぎ、ロジ焼部は内側して立ち上がる。	外 面 口縁部焼付ナデ 脚部ハケメ後強化ヘラギモ 内面 口縁部焼付ナデ・ハラミガキ	土師器 輪削
第8回 29	SBB	床	592	(21.8) —	中 1 番の白色 砂粒 1% 含む	良好	SYRS-2 灰褐色 焼成	ロジ焼部はわざかに内溝して立ち上がる。 ロジ焼部は内側に断面三脚形に削り落し、脚部を削る。	外 面 植位ナデ 内面 植位ナデ・ハラミガキ	土師器 輪削

第8表 土器観察表（6）

団体 番号	出土 地点	基盤	通号	口径 直径 寸法	底土	焼成	色調・焼成部位	形態の特徴	手法の特徴	備考
第30回 8	SBS ガマド	基	760	(33.6) Φ 2mmの白色 砂粒 3% 含む	直脚	—	7.5φ8.2 灰褐色 口縁部	口縁部はわずかに内溝して立ち上がる。 口縁部をナチュラルに留めている。	外面 緩やかな 内面 ハナメ	土師器 輪郭器
第30回 9	SBS 床	基	415	(19.5) Φ 1mmの白色、 赤色、黒色砂 粒 2% 含む	直脚	—	5.9φ5.2 灰褐色 口縁部=脚部上位	脚部はわずかに内溝して立ち上がる。口縁部は明瞭な傾き もつて立ち上げる。底土が脚部上位にもつて外傾して立上がる。	外面 口縁部ハケメ(縁脚合子)、下位へラミガキ 内面 ハナメ(ハナメ)、下位へラミガキ 内面 口縁部底面ハケメ 内面 口縁部ナチュラル留め	土師器
第30回 10	SBS ガマド	基	365	— Φ 1mmの白色、 赤色、黒色砂 粒 1% 含む (7.0)	直脚	—	5.9φ5.2 灰褐色 脚部下位=底部	平底の底部から内溝強度に立ち上がる。	外面 缓やかな内溝 弧脚木茎底 内面 脚部底位ナチュラル	土師器
第30回 11	SBS ガマド	基	454	(41.7) Φ 1mmの白色 砂粒 5% 含む	直脚	—	2.5φ9.0 灰褐色 口縁部=脚部上位	脚部は内溝して立ち上がる。口縁部は当頬 ならびに肥厚し、口縁部が平底に見える。	外面 口縁部底位ナチュラル 内面 口縁部ハメ 口縁部底位=脚部底位ナチュラル 内面 口縁部ナチュラル	土師器
第30回 12	SBS 床	基	329	—	直脚	—	—	—	外面 口縁部底位ナチュラル 内面 口縁部ハメ 口縁部底位=脚部底位ナチュラル 内面 口縁部底位ナチュラル	土師器
第30回 13	SBS 床	基	416	(33.9) Φ 1mmの白色、 砂粒 15% 含む	直脚	—	7.5φ8.2 灰褐色 口縁部=脚部上位	脚部はわずかに内溝して立ち上がる。口縁部は はく離しながら肥厚し、口縁部が平底に見える。	外面 口縁部底位ナチュラル 内面 口縁部底位ナチュラル 内面 口縁部底位ナチュラル	土師器
第30回 14	SBS ガマド	基	760	(33.0) Φ 1mmの白色 砂粒 3% 含む	直脚	—	7.5φ8.2 灰褐色 口縁部=脚部上位	脚部はわずかに内溝して立ち上がる。口縁部 はく離しながら肥厚し、口縁部が平底に見える。	外面 口縁部底位ナチュラル 内面 口縁部ハメ 口縁部底位ナチュラル 内面 口縁部底位ナチュラル	土師器
第30回 15	SBS 床	基	169	(34.0) Φ 1mmの白色 砂粒 15% 含む	直脚	—	7.5φ8.2 灰褐色 口縁部=脚部上位	脚部はわずかに内溝して立ち上がる。口縁部は はく離しながら肥厚し、口縁部が平底に見える。	外面 口縁部ハメ(縁脚合子) 脚部ハケメ 内面 口縁部底位ナチュラル 内面 口縁部ハメ	土師器
第30回 16	SBS 床	基	760	— (7.0)	直脚	—	7.5φ8.2 灰褐色 脚部下位=底部	平底の底部から緩やかに内溝して立ち上がる。	外面 缓やかな内溝 弧脚木茎底 内面 脚部ハナメ	土師器
第30回 17	SBS ガマド 土器	手作	750	(36.0) Φ 1mmの白色 砂粒 15% 含む	直	—	2.5φ9.6 灰褐色 口縁部=底部	井を模倣している。 底部から内溝強度に立ち上がる。	外面 体際摩利 弧脚木茎底 内面 脚部	土師器
第30回 18	SBS 土器	手作	1789	(32.2) Φ 1mmの白色 砂粒 15% 含む	直	—	7.5φ8.2 灰褐色 口縁部=底部	やや上位の底部から内溝強度に立ち上がる。	外面 口縁部底位ナチュラル 内面 植物ナチュラル	土師器
第30回 19	SBS 土器	手作	242	(34.0) Φ 1mmの白色 砂粒 15% 含む	直	—	7.5φ8.2 灰褐色 口縁部=底部	底部から内溝して立ち上がり、口縁部は丸く 見える。	外面 口縁部底位ナチュラル 内面 植物ナチュラル	土師器
第30回 20	SBS PT2	手作 土器	547	(62.2) Φ 1mmの白色 砂粒 15% 含む	直	—	7.5φ8.2 灰褐色 口縁部=底部	底部は丸く内溝して立ち上がり。口縁部は丸く 見える。	外面 口縁部=体際摩利ナチュラル 内面 植物ナチュラル	土師器
第30回 21	SBS 手器	手作	380	(36.0) Φ 1mmの白色 砂粒 15% 含む	直	—	10φ10.2 灰褐色 口縁部=底部	底部から内溝して立ち上がり、口縁部は丸く 見える。	外面 口縁部=体際摩利ナチュラル 内面 植物ナチュラル	土師器
第30回 22	SBS ガマド 11-12	手作	268	— (17.0)	直脚	—	2.5φ8.2 黄褐色 高色彩砂 1% 含む	口の口沿部 天井部分から内溝して開き、口縁部はやや外反 する。	外面 天井部田軒ヘラケズリ 回転ナチュラル 内面 回転ナチュラル	泥器
第30回 23	SBS ガマド	手作	233	(14.0) Φ 1mmの白色、 黒色砂 1% 含む (8.0)	直脚	—	2.5φ8.2 灰褐色 口縁部=底部	口の口沿部 天井部分から内溝して開き、口縁部はやや外反 する。	外面 回転ナチュラル 内面 回転ナチュラル	泥器
第30回 24	SBS 11-12	手作	280	(13.0) Φ 1mmの白色 砂粒 15% 含む (10.0)	直脚	—	2.5φ8.2 灰褐色 口縁部=底部	口の口沿部 天井部分から内溝して開き、口縁部はやや外反 する。	外面 回転ナチュラル 内面 回転ナチュラル	泥器
第30回 25	SBS 手作	手作	370	(13.0) Φ 1mmの白色 砂粒 15% 含む	直脚	—	2.5φ8.2 灰褐色 口縁部=底部	口の口沿部 天井部分から内溝して開き、口縁部はやや外反 する。	外面 回転ナチュラル 内面 回転ナチュラル	泥器
第30回 26	SBS 床	手作	1365	5.3 Φ 1mmの白色 砂粒 15% 含む (15.1)	直脚	—	2.5φ8.2 灰褐色 口縁部=底部	口の口沿部 天井部分から内溝して開き、口縁部はやや外反 する。	外面 ナチュラルヘラミガキ 天井部底切痕 内面 ナチュラルヘラミガキ 天井部ヘラケズリ	土師器
第30回 27	SBS 床	手作	1987	(12.0) Φ 1mmの白色 砂粒 3% 含む (14.0)	直脚	—	5.9φ5.2 灰褐色 口縁部=底部	口の口沿部 天井部分から内溝して開き、口縁部はやや外反 する。	外面 ナチュラルヘラミガキ 下位底切痕 内面 ナチュラルヘラミガキ 底部ヘラケズリ	土師器 輪郭器
第30回 28	SBS 床	手作	1258	(11.0) Φ 1mmの白色 砂粒 15% 含む	直脚	—	7.5φ8.2 灰褐色 口縁部=底部	口の口沿部 天井部分から内溝して開き、口縁部はやや外反 する。	外面 ナチュラルヘラミガキ 体際摩利 内面 ナチュラルヘラミガキ	土師器
第30回 29	SBS 床	手作	1719	— (19.0)	直脚	—	2.5φ8.2 灰褐色 口縁部=底部	左の口沿部 天井部分から内溝して立ち上がる。	外面 ナチュラルヘラミガキ 内面 ナチュラルヘラミガキ	土師器
第30回 30	SBS 床	手作	1397	(22.4) Φ 1mmの白色 砂粒 25% 含む	直脚	—	7.5φ8.2 灰褐色 口縁部=脚部上位	脚部はわずかに内溝し、口縁部は「の字」形に 屈曲して外反する。	外面 口縁部=ハメ(縁脚合子) 脚部ハナメ 内面 口縁部底位ナチュラル 内面 口縁部ナチュラル	土師器 (の字)口縁長脚器
第30回 31	SBS 床	手作	1440	— (14.0)	直脚	—	7.5φ8.2 灰褐色 口縁部=脚部上位	平底の底部から外傾して立ち上がる。	外面 口縁部ハナメ 内面 口縁部底位ナチュラル 内面 口縁部ナチュラル	土師器
第30回 32	SBS 床	手作	1990	(11.0) Φ 1mmの白色 砂粒 15% 含む	直脚	—	5.9φ5.2 灰褐色 口縁部=底部	口の口沿部 天井部分から内溝して立ち上がる。	外面 口縁部ハナメ 内面 口縁部底位ナチュラル 内面 口縁部ナチュラル	土師器 長脚底部器
第30回 33	SBS 床	手作	1722	— (17.0)	直脚	—	2.5φ8.2 灰褐色 口縁部=底部	平底の底部からわざかに外反して立ち上がる。	外面 總部ハナメ 内面 ハナメ	土師器
第30回 34	SBS 床	手作	1990	(9.3)	直脚	—	Φ 1mmの白色 砂粒 15% 含む	平底の底部からわざかに外反して立ち上がる。	外面 ナチュラル 内面 ハナメ	土師器
第30回 35	SBS 床	手作	1722	— (17.0)	直脚	—	2.5φ8.2 灰褐色 口縁部=底部	平底の底部からわざかに外反して立ち上がる。	外面 總部ハナメ 内面 ハナメ	土師器

第9表 土器観察表(7)

調査番号	出土地点	基盤	陶物No.	口径 底面 高さ 幅	断面 底面 高さ 幅	胎土	焼成	色調・焼成部位	形態の特徴	手法の特徴	備考
第36回 9	SBB	須	1267 1268 —	(49.0) — —	Φ 1 mの白色 砂粒 1% 含む	良好	SYRS-3 に高い燒色 口縁部→底面下部	断面は緩やかに内側して立ち上がり、口縁部は肥厚して外反する。	外面 口縁部接合ナジ 底面ハケメ・焼位ナジ 内面 口縁部接合ハケ 断続的工具で調査した後ナジで整える	土師器	
第36回 10	SBB	須	1377	(53.0) — —	Φ 1 mの白色 砂粒 1% 含む	良好	SYRS-4 に高い燒色 口縁部→底面下部	断面は緩やかに外傾して立ち上がり、口縁部は肥厚して外反する。	外面 烧位ナジ底面状工具で調査 内面 口縁部接合ナジ 断続的工具で調査・焼位	土師器	
第37回 11	SBB	手袋 土器	— — (4.2) 2.1 (4.7)	Φ 1 mの黑色 砂粒 1% 含む	良	TSYR-3 に高い燒色 口縁部→底部	底部から外傾して立ち上がり、口縁部は丸く變る。	外面 作底 内面 ハケメ	土師器		
第40回 1	SB10 SB15	坪	— —	(15.0) 33 (9.0)	Φ 1 mの赤色 黒色砂粒 1% 含む	良	SYRS-4 に高い燒色 口縁部→底部	口づき成形 平底の底部から緩やかに内側して立ち上がる。	外面 ナジ 内面 ナジ	土師器	
第40回 2	SB10 底	壺	3365	— —	Φ 1 mの白色 砂粒 1% 含む	良好	SYRS-2 に高い燒色 口縁部→底部	断面は内溝する。	外面 ハケメ 内面 板状工具で調査・ハケメ・作底	土師器 取型式焼陶器	
第40回 3	SB10 PT3	壺	523	— (8.6)	Φ 1 mの白色 砂粒 1% 含む	良好	SYRS-2 に高い燒色 口縁部→底部	長頸の底部焼成。 底部の底部から外傾して立ち上がる。	外面 斧子調査・作底 底部木裏底 内面 ナジ整修・作底	土師器	
第40回 4	SB10	須	— —	(34.0) — —	Φ 1 mの白色 砂粒 2% 含む	良好	SYRS-2 に高い燒色 口縁部→底部	口縁部は外傾しながら肥厚し。口縁部を平底に整める。	外面 烧位ナジ 内面 烧位ナジ	土師器	
第42回 1	SB11	須	— —	— —	Φ 1 mの赤色 砂粒 1% 含む	良好	SYRS-1 深灰色 口縁部→底面下部	口縁部はやや外反しながら肥厚し。 口縁部を平底に整える。	外面 口縁部ハケメ後接合ナジ 底部ハケメ 内面 口縁部接合ナジ 底部へラギキ・ハケメ	土師器	
第42回 2	SB11	須	659 (7.0)	— —	Φ 1 mの白色 砂粒 2% 含む	良好	SYRS-2 に高い燒色 断面下部	平底の底部から内側して立ち上がる。	外面 斧子へ状工具で調査・底部へラギズリ 内面 ハケメ	土師器	
第42回 3	SB11	須	647 (8.6)	— —	Φ 1 mの白色 砂粒 1% 含む	良好	SYRS-4 に高い燒色 断面下部	平底の底部から内側して立ち上がる。 底部中央に丸いあら穴有り。	外面 ハケメ 斧子へ状工具で調査 内面 ハケメ	土師器	
第42回 4	SB11	手袋	690 (6.4)	— —	Φ 1 mの黑色 砂粒 1% 含む	良好	TSYR-3 に高い燒色 口縁部→底部	底部から内側して立ち上がり、口縁部は内傾しないが丸く變る。	外面 口縁部接合ナジ 体部作底 内面 ハラギ工具で調査	土師器	
第42回 5	SB11	坪壠	689 31	— —	Φ 1 mの白色 黒色砂粒 1% 含む	良好	TSYR-1 白色 火炎部	火炎部 3.0cm 口づき成形	外面 皿転ナジ・火炎部上位凹凸へラギズリ 内面 斧子ナジ	須器 凹凸	
第42回 6	SB11	外舟	— (15.2) 32 (11.6)	— —	Φ 1 mの白色 砂粒 1% 含む	良好	235%/-3 浅灰色 口縁部→底部	口縁部は外傾して立ち上がる。 底部に貼付苔の痕あり	外面 皿転ナジ 内面 皿転ナジ	須器	
第11回 1	SB12	壺	2306 (16.6)	— —	Φ 1 mの白色 赤色砂粒 1% 含む	良	235%/-3 に高い燒色 断面下部	折りたし口絆 口縁部は丸くして立ち上がる。 口縁部は折りたして肥厚させる。	外面 口縁部接合ナジ 内面 口縁部ハケメ後へラギキ	土師器 古墳時代	
第11回 2	SB12	底	2410 2331 2277 (6.0)	— — —	Φ 1 mの黑色 砂粒 5% 含む	良	SYRS-3 に高い燒色 断面下部	平底の底部から断面は内側して立ち上がる。	外面 塵粒 底部整修・研削 内面 ハケメ	土師器 古墳時代	
第11回 3	SB12	壺	— (14.5)	— —	Φ 2 mの白色 砂粒 5% 含む	良	SYRS-3 に高い燒色 口縁部	口縁部はわずかに内側して立ち上がり、口縁部は折りたして肥厚させる。	外面 口縁部接合ナジ 内面 口縁部接合ナジ	土師器 古墳時代	
第11回 4	SB12 前方床	台付壺	184 (15.7) 793	— —	Φ 2 mの白色 砂粒 5% 含む	良	TSYR-4 に高い燒色 口縁部→底面下部	断面が内側して立ち上がり、口縁部は底部の後ろに立つ。底部に立つ。	外面 口縁部接合ナジ 底部ハケメ 内面 口縁部ハケメ後接合ナジ 底部ハケメ・焼位	須器 古墳時代	
第44回 1	SB13	須	— —	— —	Φ 1 mの白色 赤色砂粒 1% 含む	良好	235%/-3 に高い燒色 口縁部	口縁部は折りたして立ち上がる。 口縁部を折りたして肥厚させる。	外面 烧位ナジ 内面 烧位ナジ	土師器 BC 代	
第45回 1	SB14	壺	— (16.6)	— —	Φ 1 mの白色 砂粒 1% 含む	良	SYRS-2 に高い燒色 口縁部	SYRS-2は「心の字」状に組むする。	外面 口縁部接合ナジ 底部ハケメ 内面 口縁部接合ナジ 底部ハケメ	土師器 心の字口絆	
第45回 2	SB14	須	1937 (23.8)	— —	Φ 1 mの白色 砂粒 2%・錐面 砂	良	100%/-1 深灰色 口縁部	断面はやや内側して立ち上がり、断面は錐面で錐面は水平に外反する。口縁部は肥厚する。	外面 口縁部接合ナジ 底部ハケメ 内面 口縁部接合ナジ 底部ハケメ	土師器 水平口錐面	
第45回 3	SB14	須	1928	— —	Φ 1 mの白色 砂粒 1% 含む	良	235%/-3 に高い燒色 口縁部	口縁部破片 錐面で立てる。立ち上がる。 断面は錐面で錐面は水平に外反する。	外面 烧位ナジ 内面 烧位ナジ	土師器	
第45回 4	SB14	須	— —	— —	Φ 1 mの白色 黒色砂粒 1% 含む	良	TSYR-4 に高い燒色 口縁部	口縁部破片 錐面で立てる。立ち上がる。 断面は錐面で錐面は水平に外反する。	外面 烧位ナジ 内面 ハケメ	土師器	
第45回 5	SB15	坪	— —	— —	Φ 1 mの黑色 砂粒 1% 含む	良好	TSYR-2 に高い燒色 口縁部→底面下部	体部内側して立ち上がり、口縁部は底やかに外反する。	外面 口縁部接合ナジ 体部下へラギズリ 内面 烧位ナジ	土師器	
第45回 6	SB15	一括	— (4.2) (11.0)	— —	Φ 1 mの白色 砂粒 1% 含む	良好	SYRS-4 に高い燒色 口縁部	口づき成形 やや丸みをもつた底部から、内側しながら立ち上る。 口縁部はやや外反する。	外面 体部ナジ後ヘラギキ 底部ヘラギズリ 内面 体部ナジ後ヘラギキ 底部ヘラギキ	土師器	
第45回 7	SB15	須	— —	— —	Φ 1 mの白色 砂粒 1% 含む	良好	235%/-3 に高い燒色 口縁部	断面は錐面して立ち上る。口縁部は内側する。	外面 烧位ナジ 内面 烧位ナジ	土師器	

第10表 土器観察表（8）

図面 番号	出土 地点	基盤	通号	口径 直径	底土	構成	色調・特徴部位	形態の特徴	手法の特徴	備考
第4回 4	SB15 底	基	4185	— —	① 1mの白色 砂粒 15 含む	直井	7.598/2 灰褐色 口縁部	口縁部端片 やや内渦した後、外反して開く。	外面 ハナメ陶様位ナ子 内面 様位ナ子	土師器 駕室型各類器
第4回 5	SB15 底	基	3655	— —	① 1mの白色 砂粒 15 含む	直井	7.598/1 灰褐色 口縁部	口縁部端片 外反して開く。	外面 ハナメ陶様位ナ子 内面 様位ナ子	土師器 駕室型各類器
第4回 6	SB15 底 裏	基	3873	(15.5) —	① 1mの白色 砂粒 25~30 含む — —	直井	5.995/2 灰褐色 口縁部~一部基部	直井が「心」字状に屈曲し、口縁部は外傾して開く。	外面 口縁部端位ナ子他深井 内面 口縁部端位ナ子他深井	土師器 駕室型各類器
第4回 7	SB15 底	堆	3654	— —	① 1mの白色 砂粒 15 含む	直井	12.096/4 以降も同様 口縁部	口縁部端片 口縁部外傾しながら肥厚し、口縁部を平坦に整える。	外面 様位ナ子 内面 様位ナ子	土師器
第4回 8	SB15 底	堆	—	— —	① 1mの白色 砂粒 15 含む	直井	10.04/2 灰褐色 口縁部~一部基部	口縁部は外傾しながら肥厚し、口縁部を平坦に整える。	外面 口縁部端位ナ子 附面ハケメ 内面 様位ナ子	土師器
第4回 9	SB15 手探 工具	—	(5.6) — (4.4)	① 1mの白色 砂粒 15 含む	直井	2.374/1 灰褐色 口縁部~一部	平底の底面からやや内渦して立ち上がる。口縁部は丸く膨らむ。	外面 口縁部端位ナ子 体部拘強 道床木葉裏 内面 様位ナ子	土師器	
第5回 1	SB16 堆	堆	3752	— (18.0)	① 1mの白色 砂粒 15 含む	直井	3.595/2 以降も同様 灰褐色~灰 灰褐色~一部	口縁部端片 やや内渦して開き、口縁部端片でやや平面化につけて底面直す。	外面 ナ子後ヘラミガキ 内面 ナ子後ヘラミガキ	土師器 深窓系陶様位堆
第5回 2	SB16 坏	堆	3229 3201 6.0 7.4 3212	(15.0) — — —	① 1mの白色 砂粒 15 含む	直井	10.04/3 灰褐色 灰褐色~一部	クロロ成形 起付茎台 平底の底面からやや内渦して立ち上がる。	外面 ナ子後ヘラミガキ 底面ヘラケズリ 内面 ナ子後ヘラミガキ	土師器 外面底面部に接剥 第71回 4
第5回 3	SB16 坏	堆	4396 3201 6.0 7.4 3212	(15.6) — — —	① 1mの白色 砂粒 15 含む	直井	3.595/2 以降も同様 口縁部~一部	クロロ成形 粘付茎台 全体はやや内渦して立ち上がる。	外面 ナ子後ヘラミガキ 内面 ナ子後ヘラミガキ	土師器 外面底面部に接剥 第73回 43
第5回 4	SB16 坏 PT2	堆	4888	(12.0) — —	① 1mの白色 砂粒 15 含む	直井	10.04/4 灰褐色 口縁部~一部	口縁部端片 平底の底面から外傾して立ち上がる。口縁部はやや外反する。	外面 ナ子後ヘラミガキ 体部下位ヘラケズリ 底部系切痕・ヘラケズリ 内面 ナ子後ヘラミガキ	土師器 外面底面部に接剥 第72回 37
第5回 5	SB16 坏	堆	3281	(12.4) — —	① 1mの黑色 砂粒 15 含む	直井	5.955/4 以降も同様 口縁部~一部	左口ロ成形 平底の底面からやや内渦して立ち上がる。 口縁部端片でやや内渦する。	外面 体部ナ子後ヘラミガキ 底部系切痕・ヘラケズリ 内面 ナ子後ヘラミガキ	土師器
第5回 6	SB16 坏	堆	3188	(12.4) — —	① 1mの黑色 砂粒 15 含む	直井	5.955/2 以降も同様 口縁部~一部	左口ロ成形 やや内渦を帯びた底面から内渦して立ち上がる。 口縁部端片でやや内渦する。	外面 体部ナ子後ヘラミガキ 底部ヘラケズリ 内面 ナ子後ヘラミガキ	土師器
第5回 7	SB16 坏	堆	2947	(11.2) 33 (7.6)	① 1mの黑色 砂粒 15 含む	直井	10.04/4 以降も同様 口縁部~一部	口ロ成形 平底の底面から圓錐形でやや内渦して立ち上がる。	外面 体部ナ子後ヘラミガキ 底部ヘラケズリ 内面 ナ子後ヘラミガキ	土師器
第5回 8	SB16 坏	堆	4015 4278 (12.0) (12.2)	② 1mの黑色 砂粒 15 含む	直井	2.395/6 以降も同様 口縁部~一部	口ロ成形 平底の底面から外傾して立ち上がる。	外面 体部ナ子後ヘラミガキ 底部ヘラケズリ 内面 ナ子後ヘラミガキ	土師器	
第5回 9	SB16 坏	堆	3924 3460 4.7 4410 (12.4) (7.8)	② 1mの白色 砂粒 15 含む	直井	2.395/4 以降も同様 口縁部~一部	口ロ成形 平底の底面から圓錐形で外傾して立ち上がる。	外面 体部ナ子後ヘラミガキ 体部下位ヘラケズリ 内面 ナ子後ヘラミガキ	土師器	
第5回 10	SB16 坏	堆	3919 (10.6) 44 (3.4)	③ 1mの黑色 砂粒 15 含む	直井	2.395/4 以降も同様 口縁部~一部	口ロ成形 平底の底面から外傾して立ち上がる。	外面 体部ナ子 連面ヘラケズリ 内面 体部ナ子	土師器 外側底面にも接剥 見	
第5回 11	SB16 坏	—	—	④ 1mの白色 砂粒 15 含む	直井	5.955/2 灰褐色 口縁部~一部	ロウロ成形	外面 体部ナ子後ヘラミガキ 内面 ナ子後ヘラミガキ	土師器 内面底面部に接剥 第71回 27	
第5回 12	SB16 坏	堆	3330	(12.6) (8.6)	⑤ 1mの白色 砂粒 15 含む	直井	2.395/4 以降も同様 口縁部~一部	ロウロ成形 平底の底面から内渦して立ち上がる。	外面 ナ子後ヘラミガキ 体部下位ヘラケズリ 底部系切痕・ヘラケズリ 内面 ナ子後ヘラミガキ	土師器 外側底面部に接剥 第72回 34
第5回 13	SB16 坏	堆	3615	— —	⑥ 1mの白色 砂粒 15 含む	直井	2.395/5 以降も同様 口縁部~一部 底土	ロウロ成形 平底の底面から内渦して立ち上がる。	外面 ナ子後ヘラミガキ 体部下位ヘラケズリ 底部系切痕・ヘラケズリ 内面 ナ子後ヘラミガキ	土師器 外側底面部に接剥 第71回 15
第5回 14	SB16 坏	堆	3209	— (7.6)	⑦ 1mの白色 砂粒 15 含む	直井	2.395/4 以降も同様 口縁部~一部	ロウロ成形 平底の底面から外傾して立ち上がる。	外面 体部ナ子後ヘラミガキ 体部下位ヘラケズリ 底部系切痕・ヘラケズリ 内面 ナ子後ヘラミガキ	土師器 外側底面部に接剥 第71回 29
第5回 15	SB16 坏	堆	2954	— (7.6)	⑧ 1mの白色 砂粒 15 含む	直井	2.395/3 以降も同様 口縁部~一部	ロウロ成形 平底の底面から外傾して立ち上がる。	外面 ナ子後ヘラミガキ 体部下位~底部ヘラケズリ 内面 ナ子後ヘラミガキ	土師器 外側底面部に接剥 第71回 18
第5回 16	SB16 坏	堆	3811	— (8.6)	⑨ 1mの白色 砂粒 15 含む	直井	2.395/3 以降も同様 口縁部~一部	ロウロ成形 平底の底面から外傾して立ち上がる。	外面 ナ子後ヘラミガキ 連面ヘラケズリ 内面 ナ子後ヘラミガキ	土師器 外側底面部に接剥 第71回 13
第5回 17	SB16 坏	堆	— (8.6)	⑩ 1mの白色 砂粒 15 含む	直井	2.395/4 以降も同様 口縁部~一部	ロウロ成形 平底の底面から外傾して立ち上がる。	外面 ハケメ 内面 ハケメ	土師器 外側底面部に接剥 第71回 20	
第5回 18	SB16 坏	堆	— (8.6)	⑪ 1mの白色 砂粒 15 含む	直井	2.395/4 以降も同様 口縁部~一部	ロウロ成形 平底の底面から外傾して立ち上がる。	外面 ナ子後ヘラミガキ 連面系切痕・ヘラケズリ 内面 ナ子後ヘラミガキ	土師器 外側底面部に接剥 第73回 43	

第11表 土器観察表（9）

図面 番号	出土 地点	種類	陶物 No.	口径 横径 高さ 付高 付径	胎土	焼成	色調・焼成部位	形態の特徴	手法の特徴	備考
第52図 19	SB16 坪	片	3102	— — (6.0)	Φ 1 cmの黒赤 砂粒 1% 含む	良好	2.3VH-3 にひい焼褐色 口縁部-底部	ロウロ成形 平底の選択からやや内溝して立ち上がる。	外面 ナデ後へラケツリ 内面 ナデ後へラガキ	土師器 内面選択に焼成 第71図 10
第52図 20	SB16 坪	片	2954	— — (7.0)	Φ 1 cmの黒赤 砂粒 1% 含む	良好	2.3VH-3 にひい焼褐色 底部	ロウロ成形	外面 ナデ 内面 ナデ	土師器 内面選択に焼成 第71図 26
第52図 21	SB16 坪	片	3220	— — (6.6)	Φ 1 cmの白色 砂粒 1% 含む	良好	2.3VH-3 にひい焼褐色 口縁部-底部	ロウロ成形 平底の選択から外傾して立ち上がる。	外面 ナデ 内面 ハラガキ	土師器 内面選択に焼成 第71図 39
第52図 22	SB16 坪	片	—	— (7.0)	Φ 1 cmの金黄 母 わずかに含む	良好	2.3VH-3 にひい焼褐色 底部	ロウロ成形	外面 ナデ 内面 ナデ	土師器 外底選択に書き 第71図 53
第52図 23	SB16 坪	片	4544	(11.6)	Φ 1 cmの赤色 砂粒 1% 含む	良好	2.4VH-4 にひい焼褐色 口縁部-底部	ロウロ成形 外傾して立ち上がる。口縁部はやや反らる。	外面 ナデ後下部へラケツリ 内面 ナデ放射状焼成	土師器 平底焼成 内面に焼成あり
第52図 24	SB16 坪	片	—	(13.2)	Φ 1 cmの赤色 砂粒 1% 含む	良好	2.3VH-4 にひい焼褐色 口縁部-底部	ロウロ成形 内溝して立ち上がる。	外面 ナデへモガキ 内面 ナデ放射状焼成	土師器 平底型片
第52図 25	SB16 坪	片	4285	(10.2)	Φ 1 cmの黒赤 砂粒 1% 含む	良好	2.3VH-4 にひい焼褐色 口縁部-底部	ロウロ成形 内溝して立ち上がる。	外面 ナデ後下部へラケツリ 内面 ナデへモガキ	土師器
第52図 26	SB16 坪	片	4928 5127 5127 7.0	(25.6) 27.7 27.7 7.0	Φ 1 cmの白色 砂粒 2% 含む	良好	2.3VH-4 にひい焼褐色 口縁部-底部	ロウロ成形 平底の底部から外傾して立ち上がり、底部上部 は内溝する。底部は「C」字状を呈し、 口縁部はやや反らす。	外面 口縫目模様付ナデ 内面 口縫目模様付ナデ 底部ハケメ 底部ハケメ-輪柱柄	土師器 くの字状長颈器
第53図 27	SB16 底 カマド	盤	4954 5141 4912	(23.0) — —	Φ 1 cmの白色 砂粒 1% 含む	良好	2.3VH-3 にひい焼褐色 口縁部-底部	底部は内溝して立ち上がり、底部は「C」字 状を呈し、口縁部はやや反らす。	外面 口縫目-ケル後様付ナデ 内面 口縫目模様付ナデ 底部ハケメ	土師器 くの字状長颈器
第54図 28	SB16 カマド	盤	5044 5042 4965	(25.4) — —	Φ 1 cmの白色 砂粒 1% 含む	良好	2.3VH-3 にひい焼褐色 口縁部-底部上部	底部は内溝して立ち上がり、底部は「C」字 状を呈し、口縁部はやや反らす。	外面 口縫目模様付ナデ 内面 口縫目模様付ナデ 底部ハケメ-輪柱柄	土師器 くの字状長颈器
第54図 29	SB16 盤	盤	3800	(24.0)	Φ 1 cmの白色 砂粒 2% 含む	良好	2.3VH-4 にひい焼褐色 口縁部-底部上部	底部は内溝して立ち上がり、底部は「C」字 状を呈し、口縁部は反らす。	外面 口縫目模様付ナデ 内面 口縫目模様付ナデ 底部ナ子彌登 底部ハケメ-輪柱柄	土師器 くの字状長颈器
第54図 30	SB16 カマド PT4	盤	5257 4448 4124	(22.6) — —	Φ 1 cmの白色 砂粒 1% 含む	良好	2.3VH-3 にひい焼褐色 口縁部-底部	底部は内溝して立ち上がり、底部は「C」字 状を呈し、口縁部は反らす。	外面 口縫目模様付ナデ 内面 口縫目模様付ナデ 底部ハラカギ 底部ハサウエ工具で調査-指捺痕	土師器 くの字状長颈器
第54図 31	SB16 カマド	盤	3387 4571	(—) (10)	Φ 1 cmの黒赤 砂粒 1% 含む	良好	2.3VH-2 底端色 口縁部-底部	平底の選択から瓶頸は外傾して立ち上がる。	外面 瓶頸ハケメ 内面 瓶頸ハケメ	土師器 瓦瓶型
第54図 32	SB16 盤	小型盤	4764	— — (7.0)	Φ 1 cmの白色 赤色斑 1% 含む	良好	2.3VH-2 底端色 口縁部-底部	平底の選択からやや内溝して立ち上がる。	外面 瓶頸ハケメ 内面 瓶頸ハケメ	土師器 瓦瓶型
第54図 33	SB16 底 カマド 小型盤	小型盤	3587 3800 3408	(16.0) 17.0 (6.7)	Φ 1 cmの白色 砂粒 1% 含む	良好	2.3VH-3 にひい焼褐色 口縁部-底部	平底の底部から内溝して立ち上がり、底部は 「C」字状を呈し、口縁部は外傾する。最大径 は底部にわづかに付記する。	外面 口縫目模様付ナデ 内面 口縫目模様付ナデ 底部ハケメ	土師器 瓦瓶型
第54図 34	SB16 分4V	小型盤	4881	— — 6.4	Φ 1 cmの白色 砂粒 2% 含む	良好	2.3VH-2 底端色 体部-底部	平底の底部から内溝して立ち上がる。	外面 瓶頸ハケメ 内面 瓶頸ハケメ	土師器
第54図 35	SB16	小型盤	4419 4021	(14.4) —	Φ 1 cmの白色 砂粒 1% 含む	良好	2.3VH-3 にひい焼褐色 口縁部-底部上部	わづかに内溝して立ち上がり、底部は「C」字 状を呈し、口縁部はわずかに内溝する。	外面 口縫目模様付ナデ 内面 ハケメ	土師器
第54図 36	SB16	小型盤	4568 4766	(13.6) (10)	Φ 1 cmの白色 砂粒 1% 含む	良好	2.3VH-2 底端色 口縁部-底部上部	わづかに内溝して立ち上がり、底部は「C」字 状を呈し、口縁部は外傾する。	外面 口縫目模様付ナデ 内面 口縫目模様付ナデ 底部ハケメ	土師器
第54図 37	SB16 小型盤	—	4426	— — (6.4)	Φ 1 cmの白色 砂粒 1% 含む	良好	2.3VH-2 底端色 口縁部-底部	平底の選択から外傾して立ち上がる。	外面 瓶頸ハケメ 内面 瓶頸ハケメ	土師器
第55図 38	SB16 小型盤	—	3344 3484	— — (5.8)	Φ 1 cmの黒赤 砂粒 1% 含む	良好	2.3VH-3 にひい焼褐色 口縁部-底部	平底の底部から外傾して立ち上がる。	外面 瓶頸ハケメ 内面 瓶頸ハケメ	土師器
第55図 39	SB16 小型盤	—	3231	— — (6.0)	Φ 1 cmの白色 砂粒 1% 含む	良好	2.3VH-3 にひい焼褐色 口縁部-底部	平底の底部から緩やかに外反して立ち上がる 。	外面 瓶頸ハケメ 内面 ハラガキ-底部	土師器
第55図 40	SB16 分4V	小型盤	5134	— — (7.4)	Φ 1 cmの白色 砂粒 1% 含む	良好	2.3VH-2 底端色 瓶頸付-底部	平底の底部から外傾して立ち上がる。	外面 瓶頸ハケメ 内面 瓶頸ハケメ	土師器
第55図 41	SB16 カマド	盤	3344 4424	(42.4) —	Φ 1 cmの白色 砂粒 1% 含む	良好	2.3VH-3 にひい焼褐色 口縁部-瓶頸付	瓶頸は内溝して立ち上がり、口縁部は外反す 。口縁部は「C」字状に傾く。	外面 口縫目模様付ナデ 内面 口縫目模様付ナデ 底部ハラカギ-底部ナ子彌登-輪柱柄	土師器
第55図 42	SB16 カマド	盤	5088 3071 4968	(45.2) — —	Φ 1 cmの白色 砂粒 1% 含む	良好	2.3VH-4 にひい焼褐色 口縁部-瓶頸付	瓶頸は内溝して立ち上がり、口縁部は外反す 。口縁部は「C」字状に傾く。	外面 口縫目模様付ナデ 内面 口縫目模様付ナデ 底部ハケメ-輪柱柄	土師器
第55図 43	SB16 カマド	盤	4975 4673 4966	(44.0) 24.0 (8.0)	Φ 1 cmの白色 砂粒 1% 含む	良好	2.3VH-3 にひい焼褐色 口縁部-底部	平底の底部から緩やかに内溝して立ち上がる 。口縁部は外反する。 口縁部は「C」字状に傾く。	外面 口縫目模様付ナデ 内面 口縫目模様付ナデ 底部ハケメ-輪柱柄	土師器

第12表 土器観察表(10)

図面 番号	出土 地点	基盤	通号	口径 直径 及 高さ	土色	焼成	色調・焼成部位	形 態の 特 徴	手 法の 特 徴	備考
第 56 44	SB16	瓶	—	(25.2) —	◎ 1mの白色 砂粒 15 含む	直時	10YR4/1 褐灰色 口縁部・全体	腹部は底面直立し立ち上がり、口縁部は直 線状に立ち上がる。	外面 口縁部底付ナデ 腹部ハケメ 内面 口縁部底付ナデ 腹部ハケメ	土師器
第 56 45	SB16 カマド	瓶	4880	(37.0) —	◎ 1mの黄色 砂粒 15 含む	直時	10YR4/1 褐灰色 口縁部・全体	腹部は内側して立ち上がり、口縁部は外傾す。 口縁部は内傾しながら心把頭し、口縁部部 半周に凹入する。	外面 口縁部底付ナデ 腹部ハケメ底付ナデ 内面 ハラメ	土師器
第 56 46	SB16	坪鼻	2413	(34.8) 33 (6.0)	◎ 1mの黒色 砂粒 15 含む	直時	10YR4/1 褐灰色 口縁部・全体	口の成形 平底の底面からやや底面をもって外傾して立 ち上がり、口縁部はやや外反する。	外面 回転ナデ 底部凹輪へラケズリ 内面 回転ナデ	漆器
第 56 47	SB16	坪鼻	—	(33.0) —	◎ 1mの白色 砂粒 15 含む	直時	5YR5/1 蓝色 口縁部・全体	口の成形 全体は外傾して立ち上がる。	外面 回転ナデ 底部凹輪へラケズリ 内面 回転ナデ	漆器
第 56 48	SB17	底	4800	5.8 —	◎ 1mの白色 砂粒 15 含む	直時	5YR5/4 に5YR5/3 黄褐色 全体	底部のツマミが付く 全体は内側して窪む。	外面 天井部ナデ ヘラスガキ 内面 ナデ	土師器
第 56 49	SB17	瓶	—	(34.0) —	◎ 1mの白色 砂粒 15 含む	直時	5YR5/3 に5YR5/2 黄褐色 口縁部・全体	口の成形 斜立ち窓台 全体は内側して立ち上がる。	外面 ナデ上部2付腰溝 底部ヘラケズリ 内面 ナデ後ヘラスガキ	土師器 内面2部に腰割 第 73 回 46
第 56 50	SB17 万年寺	杯	3535	(13.2) 5.2	◎ 1mの白色 砂粒 35 含む	直時	7.5YR4/2 暗褐色 口縁部・全体	口の成形 やや上げ度の底面から外傾にやや傾く。	外面 ナデ 体部下段・底部ヘラケズリ 内面 ナデ	土師器 外側2部に腰割 第 71 回 24
第 56 51	SB17 坪	杯	3615	(11.6) 3.0 (6.4)	◎ 1mの白色 砂粒 15 含む	直時	5YR5/3 に5YR5/2 黄褐色 口縁部・全体	口の成形 平底の底面からやや立ち上がり、口縁部 部はやや外反する。	外面 ナデ後ヘラスガキ 底部ヘラケズリ 内面 ナデ	土師器 腰束付 内面2部に腰割 第 73 回 45
第 56 52	SB17 坪	杯	4072	(11.2) 3.4 (6.4)	◎ 1mの白色 砂粒 35 含む	直時	2.5YR5/4 に5YR5/3 黄褐色 口縁部・全体	口の成形 平底の底面から外傾して立ち上がる。	外面 ナデ後ヘラスガキ 底部ヘラケズリ 内面 ナデ	土師器 腰束付 外側2部に腰割 第 70 回 3
第 56 53	SB17	杯	—	(11.4) 2.6 (5.6)	◎ 1mの白色 砂粒 15 含む	直時	5YR4/3 に5YR4/2 黄褐色 口縁部・全体	底部中心がやや立ち上がり、全体は外傾して 立ち上がる。	外面 塵共底部2切痕・ヘラケズリ 内面 ナデ	土師器
第 56 54	SB17	杯	—	(10.8) —	◎ 1mの白色 砂粒 15 含む	直時	2.5YR5/4 に5YR5/3 黄褐色 口縁部・全体	口の成形 全体はやや内側する。	外面 ナデ 内面 ナデ	土師器 外側2部に巻き 第 74 回 20
第 56 55	SB17	杯	4108	(10.8) —	◎ 2mの白色 砂粒 15 含む	直時	5YR5/3 に5YR5/2 黄褐色 口縁部・全体	口の成形 口縁部はやや外反する。	外面 ナデ 内面 ナデ	土師器 外側2部に巻き 第 74 回 27
第 56 56	SB17	杯	—	(12.2) —	◎ 1mの黒色 砂粒 15 含む	直時	2.5YR5/4 に5YR5/3 黄褐色 口縁部・全体	口の成形 全体は外傾する。	外面 ナデ 内面 ナデ	土師器 外側2部に巻き 第 74 回 18
第 56 57	SB17	杯	—	—	◎ 1mの白色 砂粒 15 含む	直時	5YR5/4 に5YR5/3 黄褐色 全体	口の成形 全体は外傾する。	外面 ナデ 内面 ナデ	土師器 外側2部に巻き 第 74 回 6
第 56 58	SB17	杯	—	—	◎ 1mの白色 砂粒 15 含む	直時	2.5YR5/4 に5YR5/3 黄褐色 全体	口の成形 底部破片	外面 ナデ 内面 ナデ	土師器 外側2部に腰割 第 73 回 47
第 56 59	SB17	杯	4056	(12.0) 4.1 6.0	◎ 1mの白色 砂粒 15 含む	直時	2.5YR5/4 に5YR5/3 黄褐色 口縁部・全体	口の成形 平底の底面から外傾して立ち上がる。	外面 ナデ 内面 ナデ	土師器
第 56 60	SB17	杯	—	(12.8) 4.0 (6.2)	明るめの白 砂粒 15 含 む	直時	2.5YR5/4 に5YR5/3 黄褐色 口縁部・全体	口の成形 平底の底面から外傾して立ち上がる。	外面 ナデ 内面 ナデ	土師器
第 56 61	SB17	杯	—	(14.0) 5.1 (7.0)	◎ 1mの白色 砂粒 15 含む	直時	10YR5/4 暗褐色 口縁部・全体	口の成形 平底の底面から外傾して立ち上がる。	外面 ナデ 体部下半・底部ヘラケズリ 内面 ナデ	土師器
第 56 62	SB17	杯	3635	— (32)	◎ 1mの白色 砂粒 15 含む	直時	5YR4/1 褐灰色 全体	口の成形 底部の底面から外傾して立ち上がる。	外面 ナデ後ヘラスガキ 底部ヘラケズリ 内面 ナデ後ヘラスガキ	土師器 内面2部に腰割 第 70 回 7
第 56 63	SB17 12-11	杯	—	(13.8) 3.2 (5.0)	◎ 1mの白色 砂粒 15 含む	直時	5YR4/3 に5YR4/2 黄褐色 全体	口の成形 平底の底面から内側して立ち上がり、口縁部 部は内側する。	外面 ナデ 体部下段・ヘラケズリ 内面 ナデ	土師器 半径2cm
第 56 64	SB17	杯	—	—	◎ 1mの黒色 砂粒 15 含む	直時	5YR4/3 に5YR4/2 黄褐色 全体	口の成形 全体は外傾して立ち上がる。	外面 ナデ 内面 ナデ	土師器 外側2部に巻き 第 74 回 28
第 56 65	SB17	杯	—	—	◎ 1mの白色 砂粒 15 含む	直時	5YR4/3 に5YR4/2 黄褐色 全体	口の成形 外傾して立ち上がる。	外面 ナデ 内面 ナデ	土師器 外側2部に巻き 第 74 回 31
第 56 66	SB17 坪	—	—	(13.8) 4.0 (5.0)	◎ 1mの白色 砂粒 15 含む	直時	7.5YR5/3 に5YR5/2 暗褐色 口縁部下段・全体	口縁部は「Cの字」状に彎曲する。	外面 ハマメ・強ナデ腰溝 内面 ハマメ後ナデ腰溝	土師器
第 56 67	SB17 坪	—	—	(13.8) 3.2 (5.0)	◎ 1mの白色 砂粒 15 含む	直時	5YR5/3 に5YR5/2 黄褐色 全体	平底の底面からわざかに内側して立ち上がる。	外面 ハマメ・強ナデ腰溝 内面 ハマメ・ヘラケズリ・腰溝	土師器
第 56 68	SB17 坪	—	—	(13.8) 3.4 (5.0)	◎ 1mの白色 砂粒 15 含む	直時	7.5YR5/3 に5YR5/2 暗褐色 口縁部下段	腰部から縁や少し立ち上がる。口縁部は外反 し、口縁部がやや肥厚する。	外面 ハマメ腰溝ナデ 内面 口縁部底付ナデ 頭部ハケメ	土師器
第 56 69	SB17 坪	—	—	(13.8) 3.4 (5.0)	◎ 1mの白色 砂粒 15 含む	直時	5YR5/3 に5YR5/2 黄褐色 全体	腰部の底面から立ち上がる。	外面 口縁部底付ナデ 頭部ハケメ 内面 ハマメ・ヘラケズリ・腰溝	土師器
第 56 70	SB17 坪	—	—	(13.8) 3.4 (5.0)	◎ 1mの白色 砂粒 15 含む	直時	7.5YR5/3 に5YR5/2 暗褐色 口縁部下段	口縁部は「Cの字」状に彎曲する。	外面 ハマメ・強ナデ腰溝 内面 ハマメ後ナデ腰溝	土師器

第13表 土器観察表(11)

図面番号	出土地点	種類	陶物No.	口径 底径 高さ 付高 付径	胎土	焼成	色調・斑紋部位	形態の特徴	手法の特徴	備考	
第42図 22	SB17 手掘 土器	—	(7.0) 3.4 (5.0)	Φ1mmの白色 砂粒1%含む	灰	SYRS/4 に似た褐色 口縁部～底部	底盤から内側して立ち上がり、口縁部は丸く膨らむ。	外面 口縁部はナデ 体部作底窓 底部木葉模 内面 ナデ調整	土師器		
第42図 1	SB18 环	4098	—	Φ1mmの白色 砂粒1%含む	灰好	SYRS/1 に似た褐色 体部下位～底部	ロウク成形 着付蓋台 平底の底盤から腰や中に内側して立ち上がる。	外面 体部ナデ 底部ヘラケツリ 内面 ナデ 造形ヘラミガキ	土師器		
第42図 2	SB18 环	—	(11.0) 3.0 (8.0)	Φ1mmの白色 砂粒1% 小穂 含む	良好	SYRS/4 に似た褐色 口縁部～底部	ロウク成形 平底の底盤から腰や中に内側して立ち上がる。	外面 ナデ 造形ヘラケツリ・ヘラケツリ 内面 ナデ	土師器 内部施釉に經刻 第3回図8		
第42図 3	SB18 环	—	(11.0) — (11.0)	Φ1mmの黑色 砂粒1%含む	良好	SYRS/4 に似た褐色 口縁部～底部	ロウク成形 体部は外傾して立ち上がる。	外面 ナデ 内面 ナデ	土師器 内部施釉に經刻 第3回図51		
第42図 4	SB18 カマド	5152	—	Φ1mmの白色 砂粒1%含む	良好	SYRS/3 に似た褐色 体部下位～底部	ロウク成形 平底の底盤から腰をもって内側して立ち上がる。	外面 体部ナデ 底部ヘラケツリ 内面 ナデ	土師器		
第42図 5	SB18 环	4070	—	(15.0) 4.0 (10.0)	Φ1mmの白色 砂粒1%含む	良好	SYRS/4 に似た褐色 口縁部～底部	ロウク成形 底盤から指屈をもって内側して立ち上がる。	外面 体部ナデ 体部下位～底部ヘラケツリ 内面 ナデ	土師器	
第42図 6	SB18 环	—	—	Φ1mmの白色 砂粒1%含む	良好	SYRS/4 に似た褐色 口縁部～底部	ロウク成形 底盤から腰をもって内側して立ち上がる。	外面 ナデ 内面 ナデ	土師器 内部施釉に經刻 第3回図8		
第42図 7	SB18 环	—	— (6.2)	Φ1mmの白色 砂粒1%含む	良好	SYRS/3 に似た褐色 底盤	ロウク成形	外面 朱焰・ヘラケツリ 内面 ナデ	土師器 内部施釉に經刻 第3回図11		
第42図 8	SB18 カマド	3582	(17.0) 6.0 (6.2)	Φ1mmの白色 砂粒1%含む	灰	SYRS/4 に似た褐色 口縁部～底部	ロウク成形 平底の底盤から腰や中に内側し、口縁部はわざに内反する。	外面 ナデ 体部下位～底部ヘラケツリ 内面 ナデ	土師器 半球型		
第42図 9	SB18 环	—	—	Φ1mmの白色 砂粒1%+1 mmの黒色沙粒 1%含む	良好	SYRS/4 に似た褐色 体部～底部	ロウク成形 平底の底盤から内側して立ち上がる。	外面 ナデ 内面 ナデ後放射状模文	土師器 外部施釉に墨書き 半球型モチ	第3回図22	
第42図 10	SB18 环	—	— (3.0)	Φ1mmの白色 砂粒1%含む	良好	SYRS/4 に似た褐色 体部下位～底部	ロウク成形 平底の底盤から内側して立ち上がる。	外面 体部ナデ 底部ヘラケツリ 内面 ナデ	土師器 内部施釉に墨書き 第3回図14		
第42図 11	SB18 环	—	(13.0) — (7.0)	Φ1mmの白色 砂粒1%含む	良好	SYRS/4 に似た褐色 口縁部～底部	ロウク成形 底盤は外傾して立ち上がる。	外面 ナデ 内面 ナデ	土師器 内部施釉に墨書き 半球型		
第42図 12	SB18 カマド	3599 3546 3533	— (7.0)	Φ1mmの白色 砂粒1%含む	灰	SYRS/4 に似た褐色 脚部下位～底部	平底の底盤から腰をもって脚部はわざかに内側しながら立ち上がる。	外面 ハラ工具で調製・輪臙窓・韁耗 内面 轮臙成・韁耗	土師器 軽量型長頸窓		
第42図 13	SB18 カマド	3557 3571	— (6.0)	Φ1mmの白色 砂粒1%含む	灰	SYRS/4 に似た褐色 脚部下位～底部	平底の底盤から腰をもって脚部はわざかに内側しながら立ち上がる。	外面 塗刷 施跡木葉模・輪臙 内面 韁耗	土師器 軽量型長頸窓		
第42図 14	SB18 カマド 小型	3570	(14.2)	Φ1mmの白色 砂粒1% 黑斑 含む	良好	SYRS/4 に似た褐色 口縁部～底部	ロウク成形 わざに内側する脚部から腰をもって口縁部は外反する。	外面 塗刷 内面 塗刷	土師器		
第42図 15	SB18 カマド	3571 3577	(33.0) —	Φ1mmの白色 砂粒1%含む	良好	SYRS/4 に似た褐色 脚部上位	ロウク成形 わざに内側する脚部から腰をもって口縁部は外反する。	外面 口縁部はナデ・漆合板 内面 口縁部ハサメ後輪位ナデ・漆合板	土師器		
第42図 16	SB18 塗	—	(48.0)	Φ1mmの白色 砂粒1%含む	良好	SYRS/3 に似た褐色 脚部上位	外反して立ち上がり、口縁部はわざかに内側する。	外面 口縁部はナデ・漆合板 内面 口縁部ハサメ後輪位ナデ・漆合板	土師器		
第42図 17	SB18 カマド	5161	(26.0)	Φ1mmの白色 砂粒2%含む	良好	SYRS/2 底盤 口縁部	外反しながら内側に肥厚する	外面 植位ナデ 内面 ハケメ	土師器		
第42図 18	SB18 塗	—	— (8.0)	Φ1mmの白色 黒色沙粒1%含む	良好	SYRS/2 底盤 口縁部～底部	ロウク成形 着付蓋台 平底の底盤から内側して立ち上がる。	外面 回転ナデ 体部下位～底部回転ヘラケツリ・舟切痕 内面 回転ナデ	回転陶器		
第42図 19	SB18 カマド	5125	(15.0) 2.3 (7.0)	Φ1mmの白色 黒色沙粒1%含む	良好	SYRS/4 に似た褐色 口縁部～底部	ロウク成形 着付蓋台 平底の底盤から内側して立ち上がる。	外面 回転ナデ 底盤回転ヘラケツリ・舟切痕 内面 回転ナデ	回転陶器		
第42図 20	SB18 塗	4900	(12.0) 3.7 (5.0)	Φ1mmの白色 砂粒2%含む	良好	SYRS/1 黄褐色 口縁部～底部	ロウク成形 線やかな半筋折呈する。口縁部はわざかに内反する。	外面 回転ナデ 底盤回転ヘラケツリ・舟切痕 内面 回転ナデ	回転陶器 戸戸32号式平行窓		
第42図 21	SB11 环	—	(12.0) —	Φ1mmの白色 砂粒1%含む	良好	SYRS/1 黄褐色 口縁部～底部	体部は腰や中に内側し、口縁部はわざかに内側する。	外面 口縁部はナデ・体部ヘラケツリ 内面 塗刷ナデ・ヘラケツリ	土師器 済者模倣窓		
第42図 22	SB5 环	14	(37.0)	Φ1mmの白色 黒色沙粒1%含む	良好	SYRS/3 に似た褐色 口縁部～底部	ロウク成形 わざに内側して立ち上がる。	外面 植位ナデ 体部下位ヘラケツリ 内面 植位ナデ	土師器 済者模倣窓古時代後期		
第42図 23	SB11 环	654	—	Φ1mmの白色 砂粒1%含む	良好	SYRS/4 に似た褐色 脚部	柱状脚、脚部は直立状に陥る。	外面 ハラミガキ 内面 ハラ工具で調製	土師器		
第42図 24	SB8 PT4	896	—	Φ1mmの白色 砂粒1%含む	良好	SYRS/1 黄褐色 脚部～底部	脚部はやや直線的に開く。	外面 ケズリ調整 内面 ナデ調整	土師器		

第14表 土器観察表(12)

図面 番号	出土 地点	基盤	通路 年	口径 直径 年	底土	構成	色調・焼付部位	形態の特徴	手法の特徴	備考
第14回 5	SB15 春台	2334 2303	(8.0) —	Φ 1mの白色 砂粒 15% 食む	直脚	SVR5/4 に5%赤褐色 口縁部～脚部	脚部はハの字状に開き、底部は内溝した後口 縁部は真円で立ち上がり。底部にはかく穴 がかかる所認められる。	外面 口縫部様位ナデ 網目へラガキ 内面 口縫部様位ナデ 網目へラ工具で削り	土師器	
第14回 6	SB18 春台	3539	—	Φ 1mの白色 砂粒 15% 食む	直脚	SVR5/4 に5%赤褐色 口縫部～脚部	脚部はハの字状に開き、底部は内溝した後口 縫部はやや外傾する。底部に透かし丸が3か所認 められる。	外面 ハラミタガキ 調整 内面 ハケ調整	土師器	
第14回 7	SB19 直口壺	—	(15.2)	Φ 1mの白色 砂粒 15% 食む	直脚	SVR5/4 に5%赤褐色 口縫部～脚部	直脚から底曲をもって口縫部はわずかに内溝 しがかく立ち上がる。	外面 ハラミタガキ 内面 口縫部へラガキ 脊部ハサメ	土師器	
第14回 8	SB16 壺	4537	(45.0) —	Φ 1mの白色 砂粒 15% 食む	直脚	SVR5/4 に5%赤褐色 口縫部～脚部上位	口縫部は外反して立ち上がり、口縫部は片 側に立派です。	外面 口縫部様位ナデ ハケメ・指捺痕 内面 ハメ	土師器	
第14回 9	SB15 壺	3504	—	Φ 1mの白色 砂粒 15% 食む	直脚	SVR5/4 に5%赤褐色 脚部下～底部	平底の底部からわざわざに外反して立ち上 がる。	外面 ナラニ調整 内面 ハケメ	土師器	
第14回 10	SB2 直方	—	(13.0) —	Φ 1mの白色 砂粒 15% 食む	直脚	SVR5/4 に5%赤褐色 口縫部～脚部下位	やや上行進の底部から外傾して立ち上がる。	外面 ハラミタガキ 内面 ハメ	土師器 古墳時代前期	
第14回 11	SB18 床 PT2 台付壺	5111 5036 5117	16.5 26.8 9.7	Φ 1mの白色 砂粒 15% 食む	直脚	SVR5/3 に5%赤褐色 口縫部～脚部	口縫部はやや直線状に立ち上がり、口縫部 は外反する。脚部は柱に最大限をもつ。脚 部はハの字状に開く。	外面 口縫部様位ナデ 網目・網目ハサメ・網目 縫合位ナデ 網目ハサメ・指捺痕 内面 口縫部様位ナデ 網目ハサメ	土師器	
第14回 12	SB19 台付壺	—	(13.4) —	Φ 1mの白色 砂粒 15% 食む	直脚	SVR5/2 赤褐色地 口縫部～脚部上位	S字状口縫合付。腰 帶から内溝して立ち上がり。口縫部は外反 する。	外面 口縫部様位ナデ 網目ハサメ 内面 口縫部様位ナデ 網目ハサメ	土師器	
第14回 13	SB2 直方	1603	—	Φ 1mの白色 砂粒 15% 食む	直脚	SVR5/2 赤褐色地 脚部下～底部	脚部はハの字状に開き、脚部は内溝して立ち上 がる。	外面 ハケメ 内面 ハメ	土師器 古墳時代前期	
第14回 14	SB11 台付壺	—	(8.4)	Φ 1mの白色 砂粒 15% 食む	直脚	SVR5/2 赤褐色地 脚部下～底部	S字状口縫合付。腰 帶から内溝して開き。口縫部はわざわざに作 様にさし返す。	外面 ハラミタガキ 内面 ナラニ調整・指捺痕	土師器 古墳時代前期	
第14回 15	SB11 台付壺	—	(7.5)	Φ 1mの白色 砂粒 15% 食む	直脚	SVR5/2 赤褐色地 脚部下～底部	ハの字状に開く。	外面 ハメ 内面 ハメ・指捺痕	土師器	
第14回 16	SB5 PT2 台付壺	—	—	Φ 1mの白色 砂粒 15% 食む	直脚	SVR5/2 赤褐色地 口縫部～脚部上位	脚部は外傾して開き、脚部は内溝して立ち上 がる。	外面 ハメ 内面 ハメ	土師器	
第14回 17	SB15 台付壺	—	—	Φ 1mの白色 砂粒 15% 食む	直脚	SVR5/2 赤褐色地 脚部下～脚部	脚部・脚部ともに外傾して開く。	外面 ハケメ 内面 ハメ	土師器	
第14回 18	SB8 PT1 台付壺	542	(15.0)	Φ 1mの白色 砂粒 15% 食む	直脚	SVR5/2 赤褐色地 口縫部～脚部上位	脚部は腰やかに内溝し、口縫部は外傾する。	外面 穂ナダ・指捺痕 内面 ハラミタガキ位ナデ	土師器	
第14回 19	包装壺 窓坏	2553	—	Φ 1mの白色 砂粒 15% 食む	直脚	SVR5/4 に5%赤褐色 口縫部～脚部上位	脚部はハの字状に開く。透かし丸が3か所認 められる。	外面 ハラミタガキ 内面 穂ナダ	土師器	
第14回 20	小型舟 —	—	(12.2)	Φ 1mの白色 砂粒 15% 食む	直脚	SVR5/4 に5%赤褐色 口縫部～脚部下位	体部は内溝し、口縫部は外傾する。	外面 ハラミタガキ 内面 ハラミタガキ	土師器	
第14回 21	包装壺 —	—	(14.0)	Φ 1mの白色 砂粒 15% 食む	直脚	SVR5/2 赤褐色地 口縫部～脚部上位	5字状口縫合付。 脚部は外傾し、口縫部は大きめ外反する。	外面 口縫部様位ナデ 網目ハサメ 内面 口縫部様位ナデ 網目ナラニ調整	土師器	
第14回 22	包装壺 —	—	(14.0)	Φ 1mの白色 砂粒 15% 食む	直脚	SVR5/1 窓坏 口縫部～脚部上位	5字状口縫合付。 脚部は外傾し、口縫部は大きめ外反する。	外面 口縫部様位ナデ 網目ハサメ 内面 口縫部様位ナデ 網目ナラニ調整	土師器	
第14回 23	包装壺 —	—	(34.2)	Φ 1mの白色 砂粒 15% 食む	直脚	SVR5/4 に5%赤褐色 口縫部	脚部はやや内溝し。口縫部は腰やかに外反 しながら崩く。	外面 ハメ 内面 ハメ	土師器	
第14回 24	包装壺 —	—	(17.2)	Φ 1mの白色 砂粒 15% 食む	直脚	SVR5/2 赤褐色地 口縫部	二重口縫合。 口縫部は大きめ外反する。	外面 ハラミタガキ 調整 内面 ハラミタガキ 調整	土師器	
第14回 25	包装壺 —	—	(17.0)	Φ 1mの白色 砂粒 15% 食む	直脚	SVR5/4 に5%赤褐色 口縫部	折り重ね口縫合。 口縫部は腰側に折り重ね。外傾して立ち上 がる。	外面 口縫部様位ナデ 網目ハサメ後ヘラガキ 内面 ハラミタガキへラ工具で削り	土師器	
第14回 26	包装壺 —	—	6.2 (16.0)	Φ 1mの白色 砂粒 15% 食む	直脚	SVR5/3 に5%赤褐色 脚部下～脚部	ロクロ成型。複数のツマミが付く。 天井部は内溝して開き。口縫部はやや外傾 する。	外面 天井部系切痕。脚部ナラニ後ヘラガキ 内面 ナラニ後ヘラガキ	土師器 80代	
第14回 27	包装壺 —	—	11.0 42 (6.6)	Φ 1mの黑色 砂粒 15% 食む	直脚	SVR5/4 に5%赤褐色 口縫部	ロクロ成型。 平底の底部から外傾して立ち上がる。	外面 ナラニ 底部系切痕・ヘラケズリ 内面 ナラニ後位位ヘラガキ	土師器 半型燒杯	
第14回 28	包装壺 —	—	11.2 38 72	Φ 1mの白色 砂粒 15% 食む	直脚	SVR5/4 に5%赤褐色 口縫部	ロクロ成型。 平底の底部から外傾して立ち上がる。	外面 ナラニ 底部系切痕・ヘラケズリ 内面 ナラニ後位位ヘラガキ	土師器	
第14回 29	包装壺 —	—	(11.4) 40 56	Φ 1mの白色 砂粒 15% 食む	直脚	SVR5/4 に5%赤褐色 口縫部	ロクロ成型。 平底の底部から外傾して立ち上がる。	外面 ナラニ 底部系切痕・ヘラケズリ 内面 ナラニ後位位ヘラガキ	土師器	

第15表 土器観察表(13)

図版番号	出土地点	器種	遺物番号	口径 底径 高さ(cm)	断面 形状	底成 色調 底部-瓶底	瓶底-瓶身部分	形態の特徴	手法の特徴	備考
第44図 12	佐古原	小型杯	—	(6.6) 2.0 (4.4)	Φ 1 cmの白色 砂粒 1% 含む	良	2.3VRS/6 明赤褐色 口縁部-底部	口クロ成形 瓶底から外傾して立ち上がる。	外面 千子模様 滲痕有り 内面 ナデ模様	土師器
第44図 13	佐古原	鉢	—	(15.0) — —	Φ 1 cmの白色 砂粒 1% 含む	良好	5VRS/4 に似た褐色 口縁部-底部	瓶底は内溝して、口縁部は外反する。	外面 口縁部模様ナデ 瓶底ハケメ 内面 口縁部模様ナデ 瓶底ハケメ	土師器
第44図 14	II-12	甕	2775	(22.0) — —	Φ 1 cmの白色 砂粒 1% 含む	良好	5VRS/2 灰褐色 口縁部-瓶身上部	瓶底は内溝して、口縁部は垂面に立ち上がった後で反する。	外面 口縁部模様ナデ 瓶底ハケメ 内面 口縁部模様ナデ 瓶底ハケメ	土師器
第45図 15	佐古原	甕	—	(25.4) — —	Φ 1 cmの白色 砂粒 1% 含む	良好	7.5VRS/2 灰褐色 口縁部-瓶身上部	瓶底は内溝して、口縁部は外反する。	外面 口縁部模様ナデ 瓶底ハケメ 内面 ハケメ	土師器
第45図 16	II-10 12-10	甕	—	(23.2) — —	—	良好	2.3VRS/2 灰褐色 口縁部-底部	瓶底は内溝し、口縁部は外傾する。	外面 口縁部模様ナデ 瓶底ハケメ後底位注頭あり 内面 口縁部模様ナデ 瓶底ハケメ	土師器
第45図 17	佐古原	甕	—	(24.2) — —	Φ 1 cmの白色 砂粒 1% 含む	良好	5VRS/2 に似た褐色 口縁部-底部	瓶底は内溝し、口縁部は外傾する。	外面 ハケメ 内面 ハケメ・横筋痕	土師器
第45図 18	II-12	甕	—	— — —	Φ 1 cmの白色 砂粒 2% 含む	良好	7.5VRS/2 灰褐色 口縁部-瓶身上部	半度の底部から外傾して立ち上がる。	外面 瓶底ハケメ後ハラミギ 滲痕木葉痕 内面 ハラミギ・瓶底痕	土師器
第45図 19	佐古原	平底 土器	1173	(4.6) 4.0 (5.0)	Φ 1 cmの白色 砂粒 1% 含む	良好	10VRS/2 灰褐色 口縁部-底部	底部から垂面に立ち上がり、口縁部は内溝する。	外面 口縁部模様ナデ 体部斜傾 内面 ハラミギで測量	土師器
第45図 20	II-10 11-10	平底 土器	2918	5.0 2.8 3.2	Φ 1 cmの黑色 砂粒 1% 含む	良好	5VRS/4 に似た褐色 口縁部-底部	底部から外傾して立ち上がる。	外面 口縁部模様ナデ 瓶底斜傾後 地面木葉痕 内面 模様ナデ	土師器
第45図 21	12-11	罐 不明	—	— —	Φ 1 cmの白色 砂粒 1% 含む	良好	5VRS/2 に似た褐色 不明	円形容する。中央部がくびれる。	外面 ナデ模様 内面 ナデ模様	土師器
第45図 22	II-12	甕	2690	— (15.8)	—	良好	2.3VRS/2 灰褐色 天井部-口縁部	口クロ成形 天井部から内溝して立ち上がる。口縁部は外傾する。	外面 田植ナデ 天井部田植ヘラケズリ 内面 田植ナデ	泥器
第45図 23	II-10 11-10	甕	—	(15.4) 2.3 (11.6)	Φ 1 cmの白色 砂粒 1% 含む	良好	2.5VRS/1 灰褐色 口縁部-底部	口クロ成形 平底の底部から外傾して立ち上がる。	外面 田植ナデ 内面 田植ナデ	泥器
第45図 24	佐古原	甕	—	(10.0) 3.4 5.4	Φ 1 cmの白色 砂粒 2% 含む	良好	2.3VRS/1 灰褐色 口縁部-底部	口クロ成形 鈍化蓋面 平底の底部から内溝して立ち上がる。口縁部はやや外反する。	外面 田植ナデ 内面 田植ナデ	泥器
第45図 25	佐古原	瓶口罐	248	(14.0) 5.0 (4.0)	Φ 1 cmの白色 砂粒 1% 含む	良好	2.3VRS/2 灰褐色 口縁部-底部	口クロ成形 平底の底部から内溝して立ち上がる。	外面 田植ナデ 内面 田植ナデ	泥器
第45図 26	II-12	甕	2685	(24.4) — —	Φ 1 cmの白色 砂粒 1% 含む	良好	2.3VRS/1 灰褐色 口縁部-底部	広口底張垂 口縁部は外反して立ち上がる。	外面 田植ナデ 内面 田植ナデ	泥器

第16表 金属製品観察表

図版番号	測定区構造	器種	遺物番号	幅分類	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	備考
第66図 1	583	刀小片	2208	FE	1.3	1.8	0.4	0.8	第16図 22
第66図 2	585	刀子	86	FE	9.7	1.3	0.5	8.8	刀柄先端 第27図 32
第66図 3	585	刀子	87	FE	8.8	1.6	0.4	7.8	刀柄先端 第27図 33
第66図 4	5810	刀子	697	FE	11.8	1.6	0.7	13.1	刀柄先端次第 第45図 5
第66図 5	587	かんざし	221	GU	11.3	0.6	0.4	8.1	第9図 22
第66図 6	589	鏡	1275	GU	5.1	5.0	0.2	20.9	第37図 12

第17表 土鍾観察表(1)

図版番号	底径	高径	底径%	色調	最大長(cm)	最大幅(cm)	厚さ(μ)	穿孔部		備考
								直面(μ)	裏面(μ)	
第47図 1	SB11	土鍾	649	7.5VRS/3 に似た褐色	52	4.1	105.9	1.3	1.3	第42図 9
第47図 2	585	土鍾	—	7.5VRS/4 に似た褐色	50	5.1	95.5	2.1 × 1.8	2.2	
第47図 3	SB7	土鍾	2762	7.5VRS/3 に似た褐色	54	4.4	93.9	1.9	1.9	第9図 21
第47図 4	SB16	土鍾	4415	5VRS/3 に似た褐色	41	4.4	81.4	1.8	1.8	第42図 50
第47図 5	584	土鍾	153	10VRS/2 に似た褐色	50	4.2	79.2	1.8	2.0	第21図 19
第47図 6	SB11	土鍾	412	5VRS/4 に似た褐色	47	4.6	76.0	1.7	1.8 × 1.8	第42図 8

第18表 土錘觀察表(2)

寄生虫名	種類	雌性	雄性	色調	最大長(cm)			穿孔部幅 (mm)			備考
					頭部	腹部	足部	頭部	腹部	足部	
第 67 図 7	SB16	土蝶	4760	75VRS-3 にぶい・褐色	5.2	43	76.7	2.0	2.2	2.2	第 56 図 4B
第 67 図 8	SB17	土蝶	—	10VRS-3 にぶい・褐色	4.6	43	67.1	2.5 × 1.7	—	—	—
第 67 図 9	SB16 カワラ	土蝶	4933	5VRS-4 にぶい・褐色	5.2	41	62.8	2.1	2.0	2.0	第 54 図 4B
第 67 図 10	SB5 PT1	土蝶	—	5VRS-4 にぶい・褐色	4.1	38	62.1	1.2	1.2	—	第 27 図 31
第 67 図 11	11-10	土蝶	3810	75VRS-3 にぶい・褐色	4.3	41	59.8	2.0	2.1 × 1.8	—	—
第 67 図 12	SB6 後	土蝶	577	75VRS-3 にぶい・褐色	5.0	35	58.1	1.2	1.1	—	第 34 図 26
第 67 図 13	SB7 PT2	土蝶	328	5VRS-4 にぶい・褐色	4.1	39	55.4	1.5	2.1	—	第 9 図 20
第 67 図 14	SB3	土蝶	413	10VRS-3 にぶい・褐色	3.9	38	48.3	1.9	1.8	—	第 19 図 21
第 67 図 15	SB10	土蝶	—	75VRS-3 にぶい・褐色	4.8	35	46.7	1.0	1.5	—	第 40 図 5
第 67 図 16	12-10	土蝶	2922	2VRS-1 黄白色	(8.0)	(39)	(49.0)	(1.5)	—	—	進度異
第 67 図 17	SB15	土蝶	3912	2VRS-1 黄白色	3.0	26	16.8	0.6	0.7	—	第 48 図 10
第 67 図 18	包含型	土蝶	—	75VRS-3 にぶい・褐色	5.8	(5.2)	(68.0)	(1.9)	(1.7)	—	—
第 67 図 19	12-12	土蝶	304	5VRS-4 にぶい・褐色	6.2	(45)	(58.0)	(2.0)	(1.6)	—	—
第 67 図 20	SB11	土蝶	663	75VRS-3 にぶい・褐色	5.4	(44)	(57.7)	—	—	—	第 42 図 7
第 67 図 21	SB2	土蝶	961	75VRS-3 にぶい・褐色	5.8	(48)	(58.4)	—	—	—	第 37 図 12
第 67 図 22	SB16	土蝶	3836	75VRS-4 にぶい・褐色	5.3	(38)	(50.2)	—	—	—	第 56 図 51
第 67 図 23	SB17 後	土蝶	3627	5VRS-4 にぶい・褐色	4.7	(39)	(51.0)	—	—	—	第 59 図 23
第 67 図 24	包含型	土蝶	—	10VRS-3 にぶい・褐色	(8.0)	(1.7)	(18.0)	—	—	—	—

第19表 土馬觀察表

固形部号	通称	器種	遺物名	色調	長さ(cm)	幅(cm)	高さ(cm)	重さ(g)	備考
第48図 1	SBS15	土器	4325	10YR5-2 灰褐色	4.5	3.4	3.1	21.0	第48図 11

第20表 錢貨觀察表

番号	測量区 地名	器種	遺物No.	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
第49 国 1	SB16	鉢底	4777	25	25	0.2	2.6	新石器時代 第46-52
第49 国 2	透土	鉢底	—	25	25	0.1	2.6	新石器時代
第49 国 3	SB11	鉢底	—	25	25	0.2	3.7	天正元年 第42 国 10
第49 国 4	SB11	鉢底	—	25	25	0.2	3.3	寛永通買 第42 国 11
第49 国 5	SB11	鉢底	—	25	25	0.1	3.1	寛永通買 第42 国 12
第49 国 6	SB11	鉢底	—	23	24	0.1	3.0	昭和元年 第42 国 13
第49 国 7	透土	鉢底	—	26	26	0.1	2.2	昭和元年
第49 国 8	透土	鉢底	—	24	24	0.2	3.6	昭和通買
第49 国 9	SB11	鉢底	—	24	24	0.1	2.1	昭和元年 第42 国 14
第49 国 10	SB11	鉢底	—	25	24	0.2	3.4	昭和通買 第42 国 15
第49 国 11	透土	鉢底	—	22	22	0.2	3.0	昭和通買

第 21 表 線刻土器觀察表（1）

固有 番号	三土 地点	器種	遺物 No.	口器 器質 度	触手	色調 ・斑應部位	形態の特徴	手 法 の 特 徴	備考
第70回 12-11	井	-	(12.0) 4.0 6.0	◎ 1 mmの白色 砂粒 3%含む	良好	2.5V95-3 に似る・赤褐色 口縫部・一部	ロウコ成形 平進の腹部から外傾して立ち上がる。	外画 ナデ後ヘラギガ 内画 ナデ後ヘラギガ	内面進歩に範則
第70回 1-1	井	-	(14.0)	◎ 1 mmの白色 砂粒	良好	2.5V95-3 に似る・赤褐色 口縫部・一部	ロウコ成形 平進の腹部から外傾して立ち上がる。	外画 ナデ 下位3軒(ハラケツ) 道部へラケツジ 内画 ナデ 下位3軒	内面進歩に範則
第70回 3 SB17 12-11	井	4072	(11.2) 3.4 (6.4)	◎ 1 mmの白色 砂粒 3%含む	良好	2.5V95-4 に似る・赤褐色 口縫部・一部	ロウコ成形 平進の腹部から外傾して立ち上がる。	外画 ナデ後ヘラギガ 道部へラケツジ 内画 ナデ	内面進歩に範則 第51回5
第70回 4 SB16	井	3239 3201 3212 3202	(15.0) 5.2 7.8	◎ 1 mmの白色 砂粒 7%含む	良好	3.0V5-4 赤褐色	ロウコ成形 平進の腹部からやや内斂して立ち上がる。	外画 ナデ後ヘラギガ 道部へラケツジ 内画 ナデ後ヘラギガ	外内面進歩に範則 第51回2
第70回 5 11-12	井	-	(6.6)	◎ 1 mmの白色 砂粒 1%含む	良好	3.5V5-2 に似る・赤褐色 口縫部・一部	ロウコ成形 黏付葉裏	外画 ナデ あらぬ 内画 ナデ あらぬ	内面進歩に範則
第70回 6 生苔層	井	-	(7.4)	◎ 1 mmの白色 砂粒 1%含む	良好	3.5V95-3 に似る・赤褐色 体部下位・一部	ロウコ成形 平進の腹部から内斂して立ち上がる。	外画 ナデホーストナメ 体部下位(ハラケツ) 道部・切腹・ハラケツジ 内画 ナデホーストナメ 道部・うさぎ	内面進歩に範則
第70回 7 SB17 底	井	3635	(14.0)	◎ 1 mmの白色 砂粒 1%含む	良好	3.5V94-1 褐色	ロウコ成形 平進の腹部から外傾して立ち上がる。	外画 ナデ後ヘラギガ 道部へラケツジ 内画 ナデ後ヘラギガ	内面に範則 第51回15
第70回 8 SB18	井	-	(11.8) 3.8 (6.8)	◎ 1 mmの白色 砂粒 1%含む 金合	良好	3.5V95-3 に似る・赤褐色 口縫部・一部	ロウコ成形 平進の腹部からやや内斂して立ち上がる。	外画 ナデ 道部ほき抜 内画 ナデ	内面進歩に範則 第42回2
第70回 9 生苔層	井	-	(7.4)	◎ 1 mmの白色 砂粒 3%含む	良好	3.5V95-2 灰褐色 体部下位・一部	ロウコ成形 平進の腹部から内斂して立ち上がる。	外画 ナデ後 ヘラギガ 内画 ナデ後ヘラギガ	外内面進歩に範則
第70回 10 12-11	井	-	(12.0) 3.8 (6.8)	◎ 1 mmの白色 砂粒 1%含む	良好	3.5V95-4 に似る・黄褐色 口縫部・一部	ロウコ成形 平進の腹部から外傾して立ち上がる。	外画 ナデ後ヘラギガ 道部へラケツジ 内画 ナデ後ヘラギガ	内面進歩に範則
第70回 11 SB18	井	-	(6.2)	◎ 1 mmの白色 砂粒 1%含む	良好	3.5V95-3 に似る・赤褐色 道部	ロウコ成形 平進の腹部から内斂して立ち上がる。	外画 ナデ後 ヘラケツジ 内画 ナデ	内面に範則 第42回7
第70回 12 SB16 22 マツ	井	34 448 449 (44)	12.2) 3.8 6.8	◎ 1 mmの白色 砂粒 1%含む	良好	3.5V95-3 に似る・赤褐色 口縫部・一部	ロウコ成形 平進の腹部から外傾して立ち上がる。	外画 ナデ後(ハラケツ) 道部へラケツジ 内画 ナデ後ヘラギガ	内面進歩に範則 第25回2
第71回 13 SB16	井	2811	-	◎ 1 mmの白色 砂粒 3%含む	良好	3.5V95-2 に似る・赤褐色 体部・一部	ロウコ成形 平進の腹部から内斂して立ち上がる。	外画 ナデ後ヘラギガ 内画 ナデ後ヘラギガ	外内面進歩に範則 第52回16
第71回 14 SB9 底	井	1987	(12.0) 3.2 (6.4)	◎ 1 mmの白色 砂粒 3%含む	良好	3.5V95-3 に似る・赤褐色 口縫部・一部	ロウコ成形 平進の腹部から内斂して立ち上がる。	外画 ナデ後(ハラケツ) 道部へラケツジ 内画 ナデ後ヘラギガ 道部・うさぎ	外進歩に範則 第42回4
第71回 15 SB16	井	3615	-	◎ 1 mmの白色 砂粒 1%含む	良好	3.5V95-2 に似る・赤褐色 体部下位	ロウコ成形 平進の腹部から内斂して立ち上がる。	外画 ナデ後(ハラケツ) 体部下位(ハラケツ) 内画 ナデ後ヘラギガ	外内面進歩に範則 第51回13
第71回 16 SB9	井	1238 (44)	(11.0) 3.8 6.8	◎ 1 mmの白色 砂粒 1%含む	良好	3.5V95-2 に似る・赤褐色 口縫部・一部	ロウコ成形 平進の腹部から外傾して立ち上がる。	外画 ナデ後(ハラケツ) 体部下位・道部へラケツジ 内画 ナデ後ヘラギガ	外内面進歩に範則 第36回3
第71回 17 12-12	井	-	(4.6)	◎ 1 mmの白色 砂粒 1%含む	良好	3.5V94-1 に似る・赤褐色 体部下位・一部	ロウコ成形 平進の腹部から内斂して立ち上がる。	外画 ハラズリ	外面進歩に範則
第71回 18 SB16	井	2958	-	◎ 1 mmの白色 砂粒 1%含む	良好	3.5V95-3 に似る・赤褐色 体部下位	ロウコ成形 平進の腹部から外傾して立ち上がる。	外画 ナデ後(ハラケツ) - ハラケツジ 内画 ナデ後ヘラギガ	外内面進歩に範則 第51回15
第71回 19 一	井	-	-	◎ 1 mmの白色 砂粒 1%含む	良好	3.5V95-3 に似る・赤褐色 道部・一部	ロウコ成形 平進の腹部から内斂して立ち上がる。	外画 ナデ後(ハラケツ) - ハラケツジ 内画 ナデ後ヘラギガ	外面進歩に範則
第71回 20 SB16	井	-	-	◎ 1 mmの白色 砂粒 1%含む	良好	3.5V95-3 に似る・赤褐色 道部	ロウコ成形 平進の腹部から外傾して立ち上がる。	外画 ハラズリ	外面進歩に範則 第52回17
第71回 21 SB1	井	-	-	◎ 1 mmの白色 砂粒 1%含む	良好	3.5V95-2 に似る・赤褐色 道部	ロウコ成形 平進の腹部から内斂して立ち上がる。	外画 ハラズリ	外面進歩に範則 第15回1
第71回 22 11-10 12-10	井	-	-	◎ 1 mmの白色 砂粒 1%含む	良好	3.5V95-4 に似る・赤褐色 口縫部・一部	ロウコ成形 平進の腹部から内斂して立ち上がる。	外画 ナデ後(ハラケツ) 道部ヘラケツジ 内画 ナデ後ヘラギガ	外面進歩に範則
第71回 23 11-10 12-10	井	-	-	◎ 1 mmの黑色 砂粒 1%含む	良好	3.5V95-3 に似る・赤褐色 口縫部・一部	ロウコ成形 平進の腹部からやや内斂して立ち上がる。	外画 ナデ後(ハラケツ) 道部・切腹・ハラケツジ 内画 ナデ後ヘラギガ	外面進歩・底部に範則
第71回 24 SB17 22 方々	井	3555	(13.0) 10.5 5.2	◎ 1 mmの白色 砂粒 2%含む	良好	3.5V94-2 灰褐色 口縫部・一部	ロウコ成形 やや立ち上るの腹部から外傾して立ち上がる。	外画 ナデ後(ハラケツ) 道部ヘラケツジ 内画 ナデ	外内面進歩に範則 第54回3
第71回 25 生苔層	井	-	-	◎ 1 mmの黑色 砂粒 1%含む	良好	3.5V95-3 に似る・赤褐色 口縫部・一部	ロウコ成形 平進の腹部から外傾して立ち上がる。	外画 ナデ後(ハラケツ) 下位(ハラケツ) 道部・切腹・ハラケツジ 内画 ナデ後ヘラギガ	内面進歩・底部に範則
第71回 26 SB16	井	2954	-	◎ 1 mmの白色 砂粒 1%含む	良好	3.5V95-3 に似る・赤褐色 道部	ロウコ成形 平進の腹部から内斂して立ち上がる。	外画 ナデ	内面進歩に範則 第52回11
第71回 27 SB16	井	-	-	◎ 1 mmの白色 砂粒 1%含む	良好	3.5V95-2 に似る・赤褐色 口縫部・一部	ロウコ成形 平進の腹部から外傾して立ち上がる。	外画 ナデ後(ハラケツ) 道部ヘラケツジ 内画 ナデ	内面進歩に範則 第52回10

第22表 線刻土器観察表(2)

図面番号	出土地点	基盤	遺物名	口径 基盤 厚度	胎土	焼成	色調・後背部	形態の特徴	手法の特徴	備考		
第22図 20	12-11	环	—	—	—	—	① 1mの褐色 砂利 15mm	直鉢	2.3595/4 にひき褐色 体壁下位～底部	ロクロ成型 平底の底盤から外傾して立ち上がる。	内面 ナデ後ヘラミガキ 底盤系切削・ヘラケズリ 内面 ナデ後ヘラミガキ	外面底部に擦剥
第22図 25	SB18	环	3209	—	—	—	① 1mの白色 砂利 15mm	直鉢	2.3595/4 にひき褐色 体壁下位～底部	ロクロ成型 平底の底盤から外傾して立ち上がる。	外面 ナデ後ヘラミガキ 底盤系切削・ヘラケズリ 内面 ナデ後ヘラミガキ 底盤ヘラミガキ	外面底部に擦剥 第52回 14
第22図 30	吉吉原	环	—	—	—	—	① 1mの褐色 砂利 15mm	直鉢	2.3595/4 にひき褐色 体壁下位～底部	ロクロ成型 粘付高台	外面 ナデ後ヘラミガキ 底盤系切削・ヘラケズリ 内面 ナデ後ヘラミガキ 底盤ヘラミガキ	外面底部に擦剥
第22図 35	SB17	环	3639	—	—	—	① 1mの褐色 砂利 15mm	直鉢	SYR6/3 にひき褐色 体壁下位～底部	ロクロ成型 平底の底盤から外傾して立ち上がる。	内面 ハラケズリ 内面 ハラミガキ 底盤系切削・ヘラケズリ	外面底部に擦剥 第59回 18
第22図 40	SB84	环	—	—	—	—	—	直鉢	SYR6/4 にひき褐色 体壁下位～底部	ロクロ成型	内面 ハラケズリ 内面 ハラミガキ	外面底部に擦剥 第32回 1
第22図 45	吉吉原	环	—	12.0 4.0	—	—	① 1mの白色 砂利 15mm	直鉢	2.3595/3 にひき褐色 体壁下位～底部	ロクロ成型 平底の底盤からやや内溝して立ち上がる。	内面 ナデ後ヘラミガキ 底盤系切削・ヘラケズリ 内面 ナデ後ヘラミガキ ヘラミガキ	外面底部に擦剥
第22図 50	SB18	环	3330	12.0 5.0 (1.4)	—	—	① 1mの白色 砂利 15mm	直鉢	2.3595/4 にひき褐色 体壁下位～底部	ロクロ成型 平底の底盤からやや内溝して立ち上がる。	外面 ナデ後ヘラミガキ 底盤ヘラケズリ 内面 ナデ後ヘラミガキ	外面底部に擦剥 第52回 12
第22図 55	吉吉原	环	—	—	—	—	—	直鉢	SYR6/3 にひき褐色 体壁下位～底部	ロクロ成型 口縁部破損	内面 ナデ後ヘラミガキ 内面 ナデ	外面底部に擦剥
第22図 60	11-10 12-10	环	—	—	—	—	① 1mの白色 砂利 15mm	直鉢	2.3595/3 にひき褐色 体壁下位～底部	ロクロ成型 外傾して立ち上がる。	内面 ナデ後ヘラミガキ 内面 ナデ後ヘラミガキ	外面底部に擦剥
第22図 65	SB18 PT2	环	4888	10.0 3.4 (2.4)	—	—	① 1mの白色 砂利 15mm	直鉢	2.3595/4 にひき褐色 体壁下位～底部	ロクロ成型 平底の底盤から外傾して立ち上がり、口縁部 はやや外反する。	内面 ナデ後ヘラミガキ 内面 ナデ後ヘラミガキ	外面底部に擦剥 第51回 4
第22図 70	SB4	环	—	12.0 3.6 (3.6)	—	—	① 1mの褐色 砂利 15mm	直鉢	2.3595/4 にひき褐色 体壁下位～底部	ロクロ成型 平底の底盤からやや内溝して立ち上がる。	内面 ナデ後ヘラミガキ 底盤系切削・ヘラケズリ 内面 ナデ後ヘラミガキ 底盤ヘラミガキ	内面底部に擦剥 第21回 1
第22図 75	SB18	环	3220	—	—	—	① 1mの白色 砂利 15mm	直鉢	2.3595/3 にひき褐色 体壁下位～底部	ロクロ成型 平底の底盤から外傾して立ち上がる。	内面 ハラケズリ・ヘラケズリ 内面 ナデ	内面底部に擦剥 第32回 1
第22図 80	12-11	环	—	—	—	—	① 1mの褐色 砂利 15mm	直鉢	2.3595/3 にひき褐色 体壁下位～底部	ロクロ成型 平底の底盤から外傾して立ち上がる。	内面 ナデ後ヘラミガキ	外面底部に擦剥
第22図 85	11-10	环	—	—	—	—	① 1mの白色 砂利 15mm	直鉢	2.3595/3 にひき褐色 体壁下位～底部	ロクロ成型 平底の底盤から外傾して立ち上がる。	内面 ナデ後ヘラミガキ	外面底部に擦剥
第22図 90	2928	环	11.0 3.4	—	—	—	① 1mの白色 砂利 15mm	直鉢	2.3595/3 にひき褐色 体壁下位～底部	ロクロ成型 平底の底盤から外傾して立ち上がる。	内面 ナデ後ヘラミガキ 内面 ナデ後ヘラミガキ	外面底部に擦剥 半埋立环
第22図 95	SB18	环	4306	11.0 6.0 (6.0)	—	—	① 1mの白色 砂利 15mm	直鉢	2.3595/3 にひき褐色 体壁下位～底部	ロクロ成型 平底の底盤から外傾して立ち上がる。	内面 ナデ後ヘラミガキ 内面 ナデ後ヘラミガキ	外面底部に擦剥 第51回 3
第22図 100	2927	环	13.4 1.9 (1.9)	—	—	—	① 1mの白色 砂利 15mm	直鉢	2.3595/4 にひき褐色 体壁下位～底部	ロクロ成型 平底の底盤から外傾して立ち上がる。	内面 ナデ後ヘラミガキ 内面 ナデ後ヘラミガキ	外面底部に擦剥
第22図 105	SB17	环	3825	11.0 3.0 (3.0)	—	—	① 1mの白色 砂利 15mm	直鉢	SYR5/3 にひき褐色 体壁下位～底部	ロクロ成型 平底の底盤から外傾して立ち上がる。	内面 ナデ後ヘラミガキ 内面 ナデ後ヘラミガキ	内面底部に擦剥 第52回 4
第22図 110	SB17	环	—	—	—	—	① 1mの白色 砂利 15mm	直鉢	2.3595/4 にひき褐色 体壁下位～底部	ロクロ成型 平底の底盤から外傾して立ち上がる。	内面 ナデ後ヘラミガキ 内面 ナデ後ヘラミガキ	外面底部に擦剥
第22図 115	SB17	环	—	—	—	—	① 1mの白色 砂利 15mm	直鉢	SYR5/3 にひき褐色 体壁下位～底部	ロクロ成型 粘付高台	内面 ナデ後ヘラミガキ 肩溝系切削・底盤ヘラケズリ 内面 ナデ後ヘラミガキ	内面底部に擦剥
第22図 120	SB17	环	—	—	—	—	① 1mの白色 砂利 15mm	直鉢	2.3595/4 にひき褐色 体壁下位～底部	ロクロ成型 底盤破損	内面 ナデ 内面 ナデ	外面底部に擦剥 第59回 11
第22図 125	11-10 12-10	环	—	—	—	—	① 1mの褐色 砂利 15mm	直鉢	2.3595/4 にひき褐色 体壁下位～底部	ロクロ成型 平底の底盤から外傾して立ち上がる。	内面 ナデ後ヘラミガキ 内面 ナデ後ヘラミガキ	外面底部に擦剥
第22図 130	SB16	环	—	—	—	—	① 1mの白色 砂利 15mm	直鉢	2.3595/3 にひき褐色 体壁下位～底部	ロクロ成型 平底の底盤から外傾して立ち上がる。	内面 ナデ後ヘラミガキ 底盤系切削・ヘラケズリ 内面 ナデ後ヘラミガキ 底盤ヘラミガキ	外面底部に擦剥 第52回 18
第22図 135	SB16	环	3102	—	—	—	① 1mの褐色 砂利 15mm	直鉢	2.3595/4 にひき褐色 体壁下位～底部	ロクロ成型 平底の底盤から外傾して立ち上がる。	内面 ナデ後ヘラミガキ 底盤系切削・ヘラケズリ 内面 ナデ後ヘラミガキ	外面底部に擦剥 第52回 19
第22図 140	SB18	环	—	—	—	—	① 1mの褐色 砂利 15mm	直鉢	2.3595/4 にひき褐色 体壁下位～底部	ロクロ成型 体壁は外傾して立ち上がる。	内面 ナデ 内面 ナデ	内面底部に擦剥 第62回 3

第23表 墨書き器観察表(1)

器皿名	出土地点	基種	造物年	口径 横径 厚さ	胎土	焼成	色調・陶器部位	形の特徴	手法の特徴	備考
第24器 1	SBD 5	环	—	—	良好	SRS/3 にひき赤色 口縁部~底部	クロ成形 外側して立ち上がる。	外面 ナデ 内面 ナデ後ヘラミガキ	外面全体に墨書き 第25回5	
第24器 2	II-10 12-11	环	—	(10.4) —	良好	SRS/4 にひき赤色 口縁部~底部 15含む	クロ成形 平底の底盤から外側して立ち上がる。口縁部 がやや反する。	外面 ナデ後部下位 内面 ナデ後放射状墨書き	外面全体に墨書き	
第24器 3	虫食屋	环	—	—	良好	SRS/3 にひき赤色 口縁部~底部	クロ成形 体部は外傾する。	外面 ナデ後ヘラミガキ 内面 ナデ後ヘラミガキ	外面全体に墨書き	
第24器 4	SBI 5	环	—	(14.0) —	良好	SRS/3 にひき赤色 口縁部~底部	クロ成形 口縁部~底部下位	外面 ナデ 内面 ナデ	外面全体に墨書き 第15回3	
第24器 5	一括	环	—	—	良好	SRS/3 にひき赤色 口縁部~底部	クロ成形 口縁部~底部	外面 ナデ 内面 内面 (NA) 灰色	外面全体に墨書き	
第24器 6	SBI 7	环	—	—	良好	SRS/4 にひき赤色 口縁部~底部	クロ成形 体部は外傾する。 体部~底部	外面 ナデ 内面 ナデ	外面全体に墨書き 第19回10	
第24器 7	12-12	环	—	—	良好	SRS/3 にひき赤色 口縁部~底部	クロ成形 口縁部~底部下位	外面 ナデ 内面 ナデ	外面全体に墨書き	
第24器 8	SBI 8	环	—	—	良好	SRS/4 にひき赤色 口縁部~底部下位	クロ成形 体部はやや内渦する。	外面 ナデ 内面 ナデ	外面全体に墨書き 第42回6	
第24器 9	SBI 4	环	—	—	良好	SRS/3 にひき赤色 口縁部~底部	クロ成形 体部下位	外面 ナデ 内面 ナデ	外面全体に墨書き 第21回6	
第24器 10	SBD 4	环	—	—	良好	SRS/2 にひき赤色 口縁部~底部	クロ成形 体部下位	外面 ナデ 内面 ナデ	外面全体に墨書き 第21回7	
第24器 11	SBD 5	环	—	—	良好	SRS/3 にひき赤色 口縁部~底部	クロ成形 体部下位	外面 ナデ 内面 ナデ	外面全体に墨書き 第21回7	
第24器 12	虫食屋	环	—	(8.7)	良好	SRS/4 にひき赤色 口縁部~底部	クロ成形 平底の底盤から外傾して立ち上がる。	外面 ナデ後ヘラミガキ 底部ヘラケズリ 内面 ナデ後ヘラミガキ	外面全体に墨書き 底部に墨書き	
第24器 13	II-10	环	—	—	良好	SRS/4 にひき赤色 口縁部~底部	クロ成形 内渦して立ち上がる。口縁部はやや反する	外面 ナデ 内面 ナデ後ヘラミガキ	外面全体に墨書き	
第24器 14	SBD 4	环	—	—	良好	SRS/2 にひき赤色 口縁部~底部	クロ成形 内渦して立ち上がる。	外面 ナデ 内面 ナデ	外面全体に墨書き 第21回5	
第24器 15	SBD 4	环	—	—	良好	SRS/3 にひき赤色 口縁部~底部	クロ成形 右口の立ち上がり	外面 ヘラケズリ 内面 ナデ	外面全体に墨書き 第21回5	
第24器 16	12-11	环	—	—	良好	SRS/3 にひき赤色 口縁部~底部	クロ成形 体部下位	外面 ナデ 内面 ナデ後ヘラミガキ	外面全体に墨書き	
第24器 17	虫食屋	环	2449	—	良好	SRS/4 にひき赤色 口縁部~底部	クロ成形 口縁部で立ち上がる。	外面 ナデ後ヘラミガキ ナデ後ヘラミガキ	外面全体に墨書き	
第24器 18	SBI 7	环	—	(13.2)	良好	SRS/4 にひき赤色 口縁部~底部	クロ成形 口縁部~底部	外面 ナデ 内面 ナデ	外面全体に墨書き 第59回9	
第24器 19	虫食屋	环	—	(10.7)	良好	SRS/3 にひき赤色 口縁部~底部	クロ成形 口縁部~底部下位	外面 ナデ 内面 ナデ後ヘラミガキ	外面全体に墨書き	
第24器 20	SBI 7	环	—	(10.6)	良好	SRS/4 にひき赤色 口縁部~底部	クロ成形 口縁部~底部	外面 ナデ 内面 ナデ	外面全体に墨書き 第59回7	
第24器 21	虫食屋	环	—	—	良好	SRS/3 にひき赤色 口縁部~底部	クロ成形 右口の立ち上がり	外面 ヘラケズリ 内面 ナデ	外面全体に墨書き	
第24器 22	SBI 8	环	—	—	良好	SRS/4 にひき赤色 口縁部~底部	クロ成形 口縁部~底部	外面 ナデ 内面 ナデ後放射状墨書き	外面全体に墨書き 笠型型?? 第62回9	
第24器 23	II-1	环	—	—	良好	SRS/4 にひき赤色 口縁部~底部	クロ成形 右口の立ち上がり	外面 ナデ 内面 ナデ	外面全体に墨書き	
第24器 24	12-11	环	—	—	良好	SRS/4 にひき赤色 口縁部~底部	クロ成形 口縁部はやや外反する	外面 ナデ 内面 ナデ	外面全体に墨書き	
第24器 25	SBD 5	环	—	—	良好	SRS/4 にひき赤色 口縁部~底部	クロ成形 体部はやや内渦する。	外面 ナデ 内面 ナデ	外面全体に墨書き 第25回6	
第24器 26	12-11	环	—	—	良好	SRS/2 にひき赤色 口縁部~底部	クロ成形 右口の立ち上がり	外面 ナデ 内面 ナデ	外面全体に墨書き	
第24器 27	SBI 7	环	4108	(10.6) —	良好	SRS/3 にひき赤色 口縁部~底部	クロ成形 口縁部はやや外反する。	外面 ナデ 内面 ナデ	外面全体に墨書き 第59回8	
第24器 28	SBI 7	环	—	—	良好	SRS/3 にひき赤色 口縁部~底部	クロ成形 外傾して立ち上がる。	外面 ナデ 内面 ナデ	外面全体に墨書き 第59回17	

第24表 墓書土器観察表(2)

団体 番号	出土 地点	器種	遺物 番号	口部 基盤 底	胎土	焼成	色調・模様部位	形の特徴	手法の特徴	備考
第24 団 26	11-12	井	-	-	Φ 2 mmの白色 砂粒 5%含む	直井	2.5V95/4 に5%赤褐色 底付下部	クロロ成型 底部は内溝す。	外面 ナラ 内面 ナラ後ヘラ2号キ	外蓋全体に墨書き
第24 団 30	12-11	井	-	-		直井	SYR5/3 に5%赤褐色 底付	クロロ成型 口縁部はやや内溝する。	外面 ナラ 内面 ナラ	外蓋全体に墨書き
第24 団 31	雪舟塚	井	-	-		直井	SYR5/2 灰褐色 口縁部 1%含む	クロロ成型 外側に立ち上がる。	外面 ナラ後ヘラ2号キ 内面 ナラ後ヘラ1号キ	外蓋全体に墨書き
第24 団 32	雪舟塚	井	-	-		直井	SYR6/4 に5%赤褐色 底付	クロロ成型 やや内溝して立ち上がる。	外面 ナラ 内面 ナラ	外蓋全体に墨書き
第24 団 33	12-11	井	-	-	Φ 1 mmの白色 砂粒 5%含む	直井	2.5V95/3 に5%赤褐色 底付	クロロ成型 やや内溝して立ち上がる。	外面 ナラ 内面 ナラ	外蓋全体に墨書き
第24 団 34	12-11	井	-	-	Φ 1 mmの白色 砂粒 5%含む	直井	SYR5/1 灰褐色 口縁部	クロロ成型 口縁部傾斜	外面 ナラ 内面 ナラ後ヘラ2号キ	外蓋全体に墨書き
第24 団 35	S81	井	-	-	Φ 1 mmの白色 砂粒 5%含む	直井	SYR6/3 に5%赤褐色 底付	クロロ成型 底部破片	外面 ナラ 内面 ナラ後ヘラ2号キ	外蓋全体に墨書き 第10回2
第24 団 36	12-11	井	-	-	Φ 1 mmの白色 砂粒 5%含む	直井	SYR6/3 に5%赤褐色 底付	クロロ成型 底部破片	外面 ナラ 内面 ナラ後ヘラ2号キ	外蓋全体に墨書き
第24 団 37	12-11	井	(S4)	-	① 1 mmの黄色 砂粒 5%含む	直井	2.5V95/4 に5%赤褐色 底付	クロロ成型 口縁部はやや外反する。	外面 ナラ 内面 ナラ後ヘラ2号キ	外蓋全体に墨書き
第24 団 38	S81	井	-	-	② 1 mmの黄色 砂粒 5%含む	直井	SYR5/1 に5%赤褐色 底付	クロロ成型 底部破片	外面 ナラ 内面 ナラ	外蓋全体に墨書き 第15回4
第24 団 39	12-11	井	-	-		直井	SYR5/3 に5%赤褐色 底付	クロロ成型 底部破片	外面 ナラ 内面 ナラ後ヘラ2号キ	外蓋全体に墨書き
第24 団 40	雪舟塚	井	-	-		直井	SYR5/2 に5%赤褐色 底付	クロロ成型 底部破片	外面 ナラ 内面 ナラ後ヘラ2号キ	外蓋全体に墨書き
第24 団 41	雪舟塚	直	-	-	Φ 1 mmの白色 砂粒 5%含む	直井	SYR5/3 に5%赤褐色 底付	クロロ成型 底部破片	外面 ハカマ 内面 ハカマ	外蓋側面に墨書き
第24 団 42	11-10	井	-	-	Φ 1 mmの白色 砂粒 5%含む	直井	SYR5/3 に5%赤褐色 底付	クロロ成型 底部破片	外面 ナラ 内面 ナラ後ヘラ2号キ	外蓋全体に墨書き
第24 団 43	雪舟塚	井	-	-	Φ 1 mmの白色 砂粒 5%含む	直井	2.5V95/3 に5%赤褐色 底付	クロロ成型 底部破片	外面 ナラ 内面 ナラ	外蓋全体に墨書き
第24 団 44	11-11	井	-	-	Φ 1 mmの黄色 砂粒 5%含む	直井	SYR6/3 に5%赤褐色 底付	クロロ成型 底部破片	外面 ナラ 内面 ナラ	外蓋全体に墨書き
第24 団 45	S81 カマド	井	-	-	Φ 1 mmの白色 砂粒 5%含む	直井	SYR5/3 に5%赤褐色 底付	クロロ成型 底部破片	外面 ナラ 内面 ナラ	外蓋底部に墨書き 第25回1
第24 団 46	S81	井	-	-	① Φ 1 mmの白色 砂粒 5%含む	直井	SYR6/2 灰褐色 口縁部 1%含む	クロロ成型 底部は内溝す。	外面 ナラ 内面 ナラ後ヘラ2号キ	外蓋全体に墨書き 第21回4
第24 団 47	12-12	井	-	-	② Φ 1 mmの白色 砂粒 5%含む	直井	2.5V95/3 に5%赤褐色 底付	クロロ成型 平底の底跡から内溝して立ち上がる。	外面 ナラ 内面 ナラ後ヘラ2号キ	外蓋全体に墨書き
第24 団 48	雪舟塚	井	-	-	Φ 1 mmの白色 砂粒 5%含む	直井	2.5V95/3 に5%赤褐色 底付	クロロ成型 底部破片	外面 ナラ 内面 ナラ後ヘラ2号キ	外蓋全体に墨書き
第24 団 49	雪舟塚	井	-	-	Φ 1 mmの白色 砂粒 5%含む	直井	SYR6/4 に5%赤褐色 底付	クロロ成型 底部は内溝す。	外面 ナラ 内面 ナラ後ヘラ2号キ	外蓋全体に墨書き
第24 団 50	12-11	井	-	-	Φ 1 mmの白色 砂粒 5%含む	直井	SYR6/4 に5%赤褐色 底付	クロロ成型 底部は内溝す。	外面 ナラ 内面 ナラ後ヘラ2号キ	外蓋全体に墨書き
第24 団 51	11-10 (S4)	井	-	-	① Φ 1 mmの白色 砂粒 5%含む	直井	2.5V95/4 に5%赤褐色 底付	クロロ成型 底部の底跡から内溝して立ち上がる。	外面 ナラ 内面 ナラ後ヘラ2号キ	外蓋全体に墨書き
第24 団 52	12-12	井	-	-	② Φ 1 mmの白色 砂粒 5%含む	直井	SYR6/4 に5%赤褐色 底付	クロロ成型 底部は内溝す。	外面 ナラ 内面 ナラ	外蓋全体に墨書き
第24 団 53	S816	井	-	-	③ Φ 1 mmの白色 砂粒 5%含む	直井	2.5V95/4 に5%赤褐色 底付	クロロ成型 底部は内溝す。	外面 ナラ 内面 ナラ	外蓋底部に墨書き 第52回22
第24 団 54	S818	井	-	-	④ Φ 1 mmの白色 砂粒 5%含む	直井	2.5V95/4 に5%赤褐色 底付	クロロ成型 平底の底跡から内溝して立ち上がる。	外面 体面ナラ 底面ヘラケズリ 内面 ナラ	外蓋底部に墨書き 第62回10

写 真 図 版



第1号住居址床面（東から）



第2号住居址床面（北西から）



第3号住居址床面（南東から）

P.L. 2



第4号住居址床面（北から）



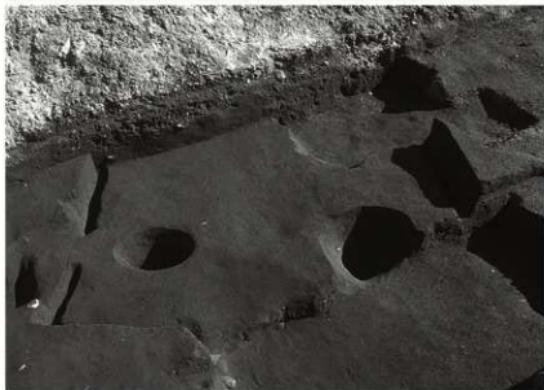
第5号住居址床面（北西から）



第5号住居址カマド完掘状況
(北西から)



第6号住居址床面（北東から）



第7号住居址床面（西から）



第8号住居址床面（北西から）

P.L. 4



第8号住居址カマド完掘状況
(北西から)



第9号住居址床面（南東から）



第10号住居址床面（北西から）



第 11 号住居址床面（北から）



第 12 号住居址床面（北東から）



第 13 号住居址床面（北西から）

P.L. 6



第 14 号住居址床面（西から）



第 15 号住居址完掘状況
(南から)



第 16 号住居址完掘状況
(北から)



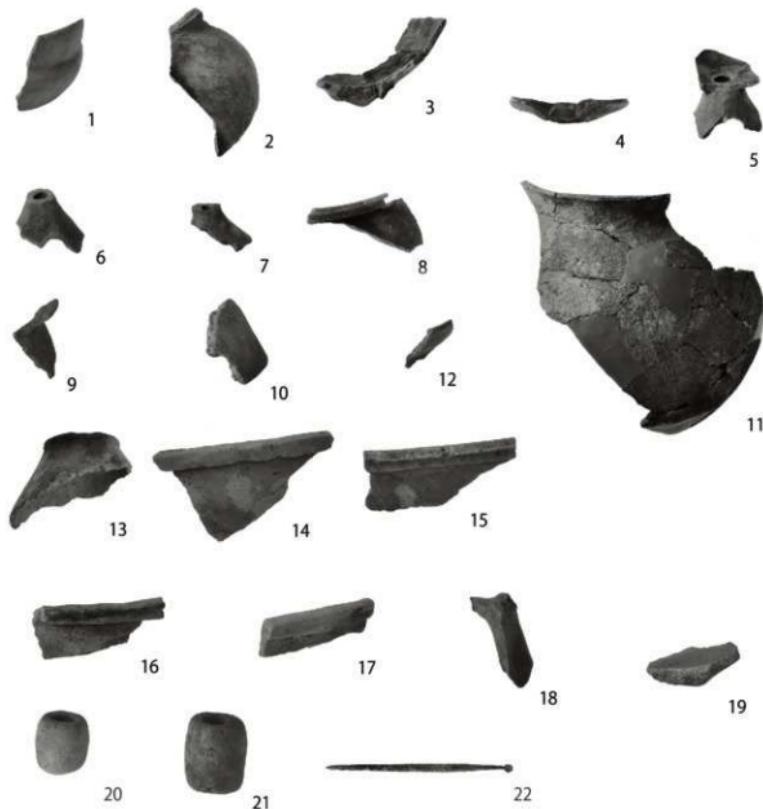
第 16 号住居址カマド
遺物出土状況（南から）



第 17 号住居址完掘状況
(北から)

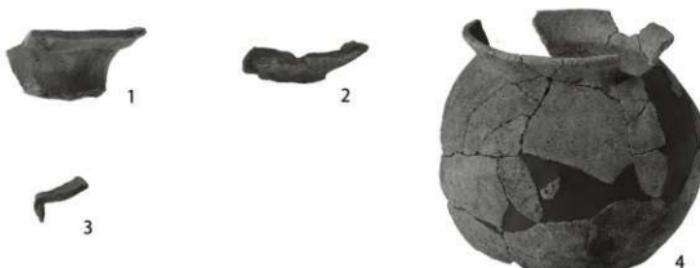


第 18 号住居址完掘状況
(南から)



第7号住居址出土遗物

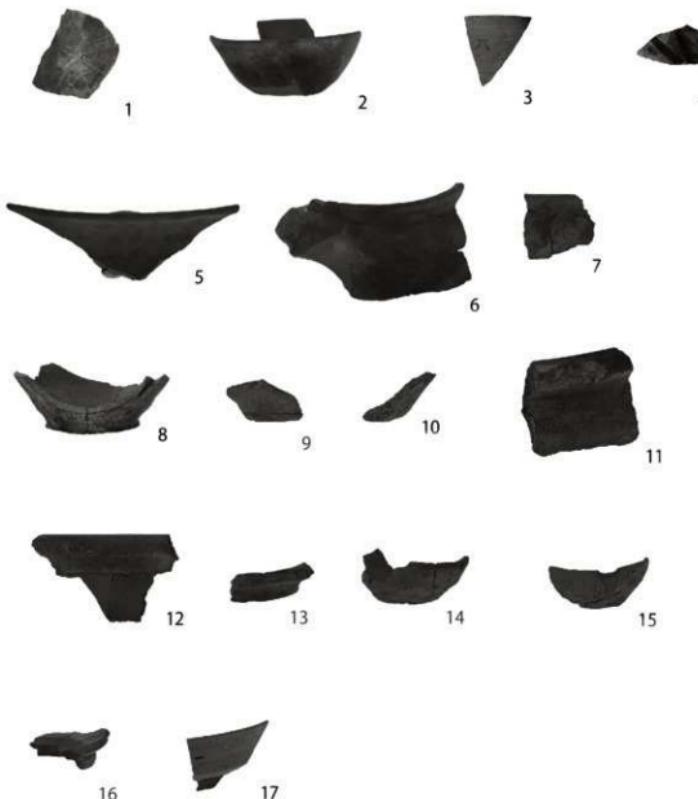
第12号住居址出土遗物





古墳時代覆土出土遺物

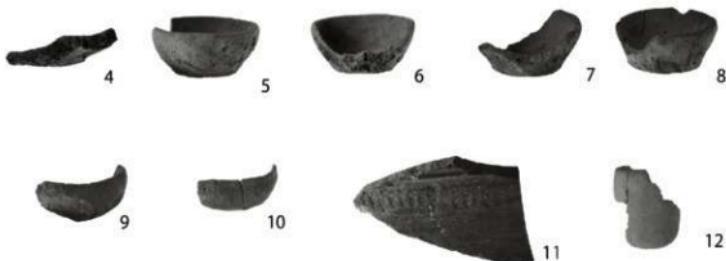
P.L. 10



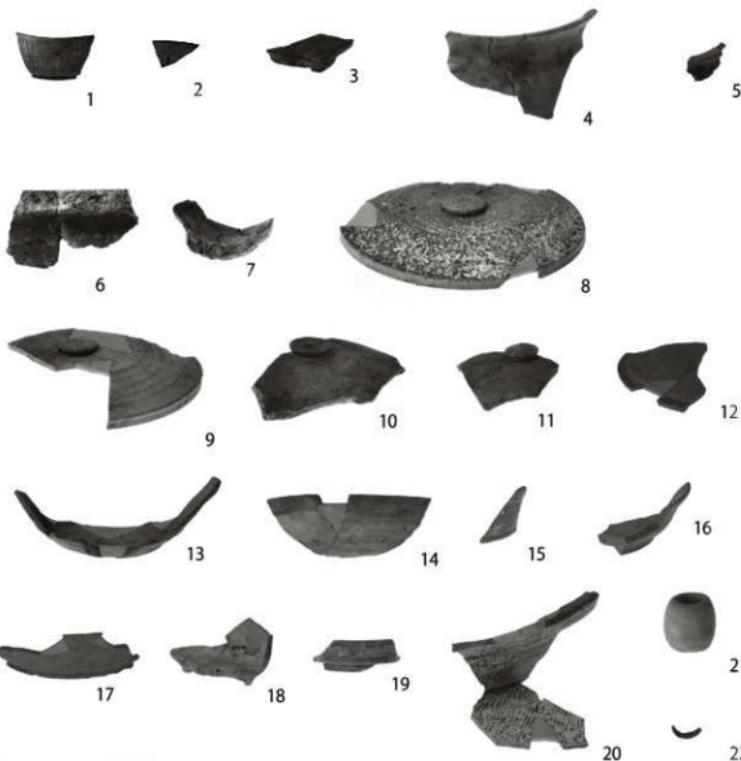
第1号住居址出土遗物



第2号住居址出土遗物（1）

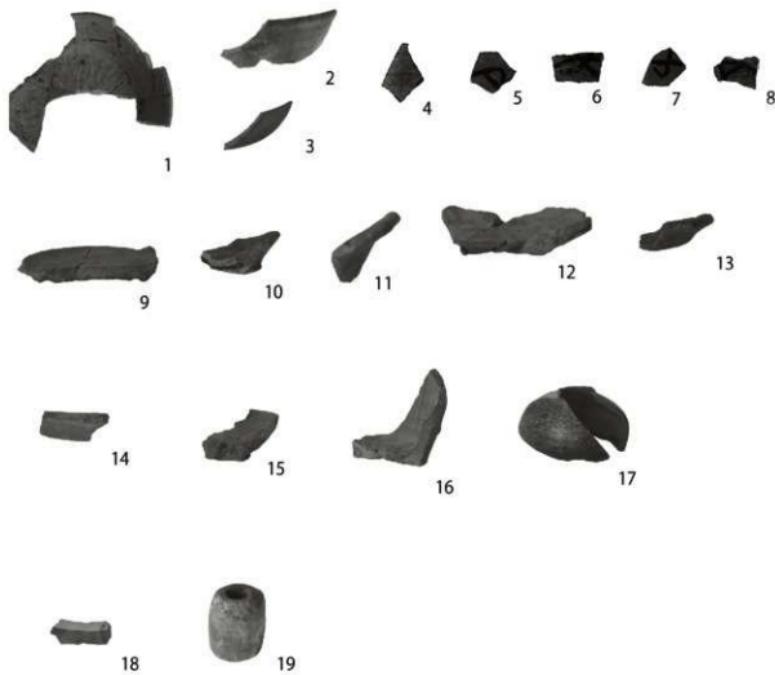


第2号住居址出土遗物（2）

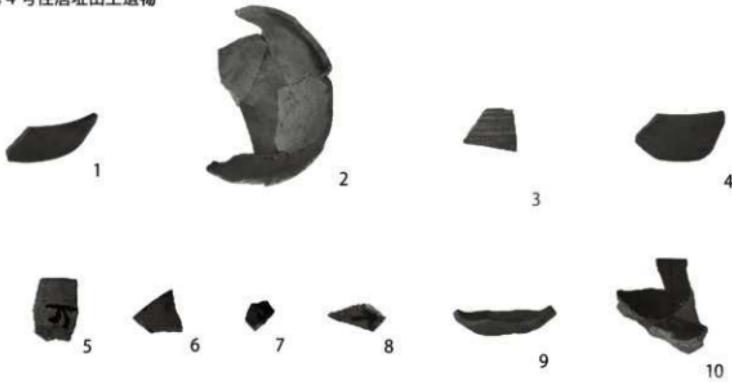


第3号住居址出土遗物

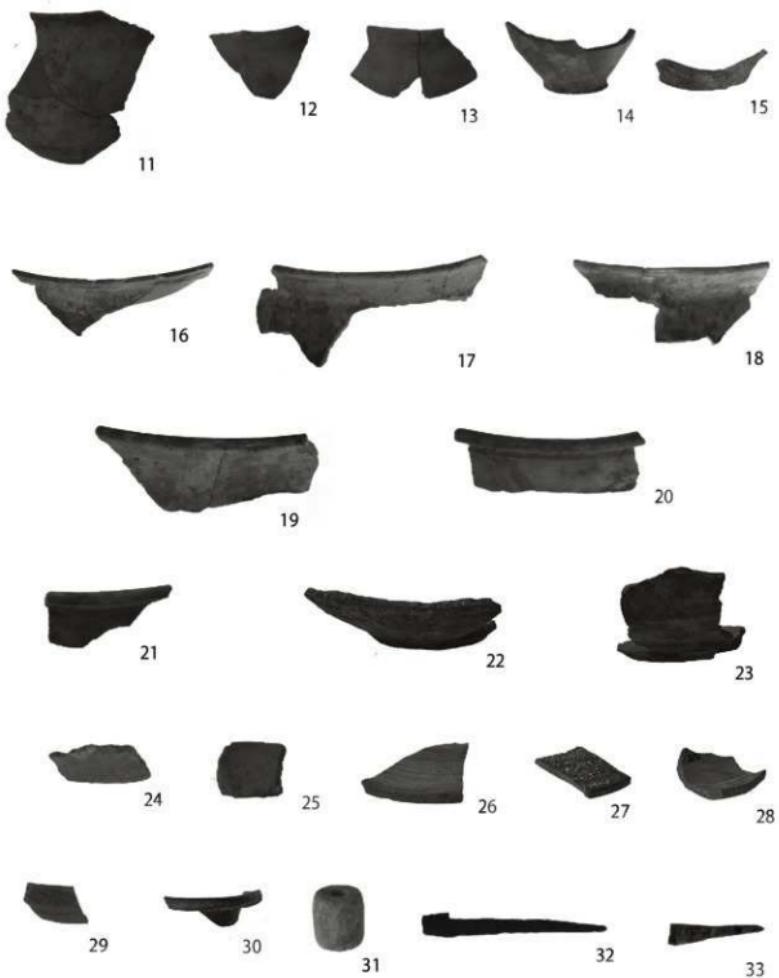
P.L. 12



第4号住居址出土遗物



第5号住居址出土遗物（1）



第5号住居址出土遺物（2）



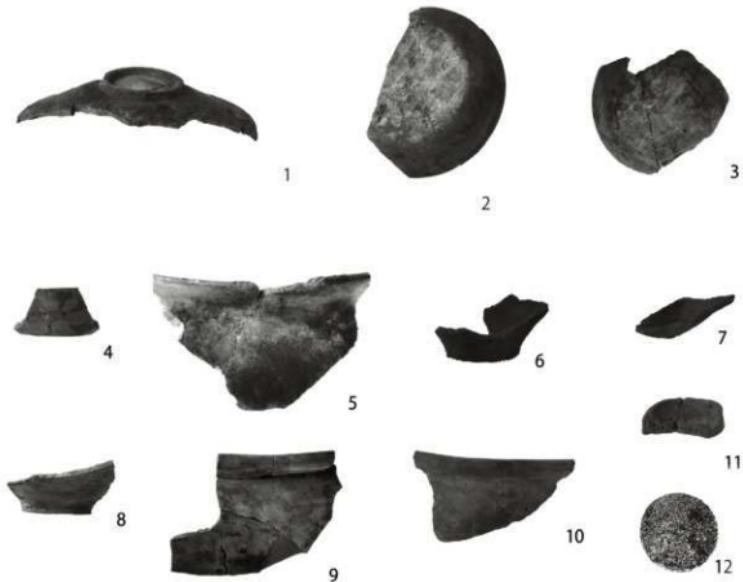
第6号住居址出土遺物



第8号住居址出土遺物（1）

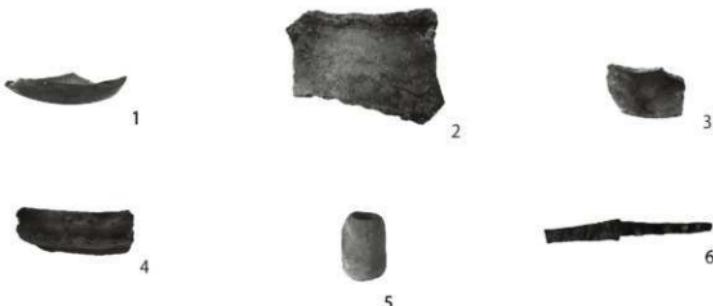


第8号住居址出土遗物（2）



第9号住居址出土遗物

P.L. 16



第 10 号住居址出土遗物



第 11 号住居址出土遗物

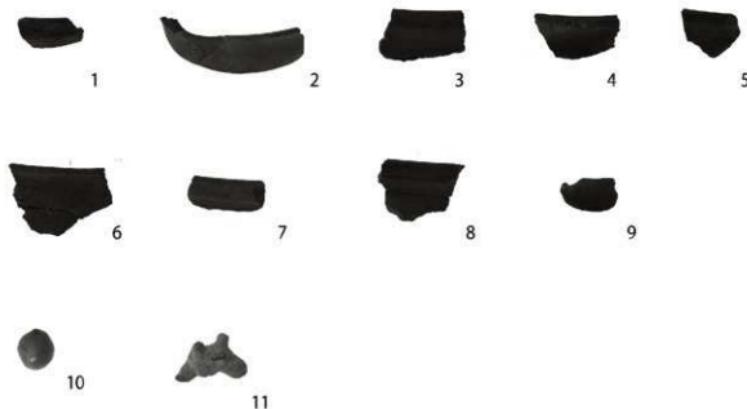


1

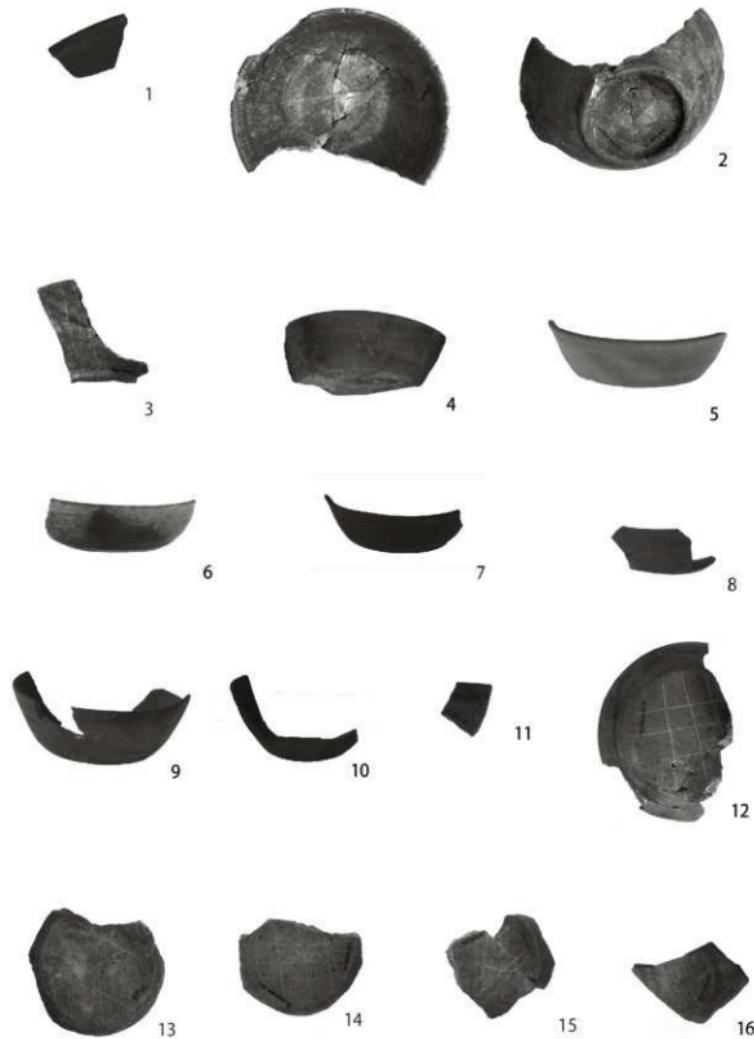
第 13 号住居址出土遗物



第 14 号住居址出土遗物



第 15 号住居址出土遗物



第 16 号住居址出土遺物（1）



17



18



19



20



21



22



23



24



25



26



27



28



29



30



31



32

第 16 号住居址出土遺物（2）



33



34



35



36



37



38



39



40



41



44



45



46



47



48



49



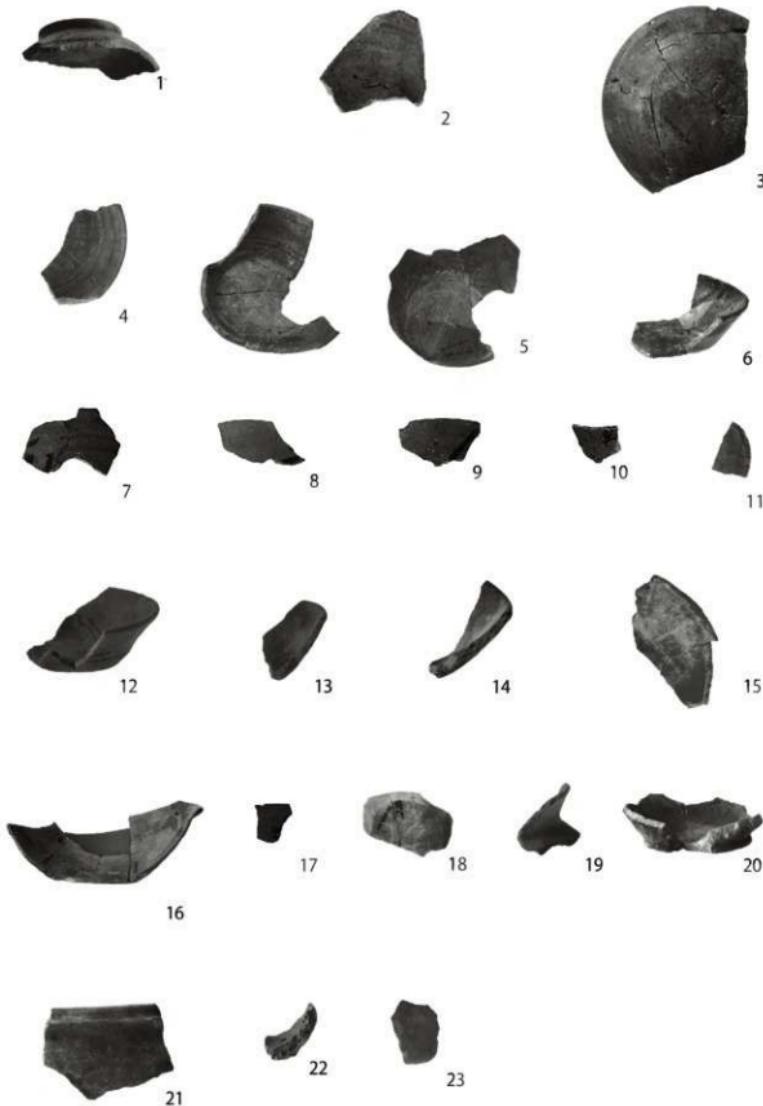
50



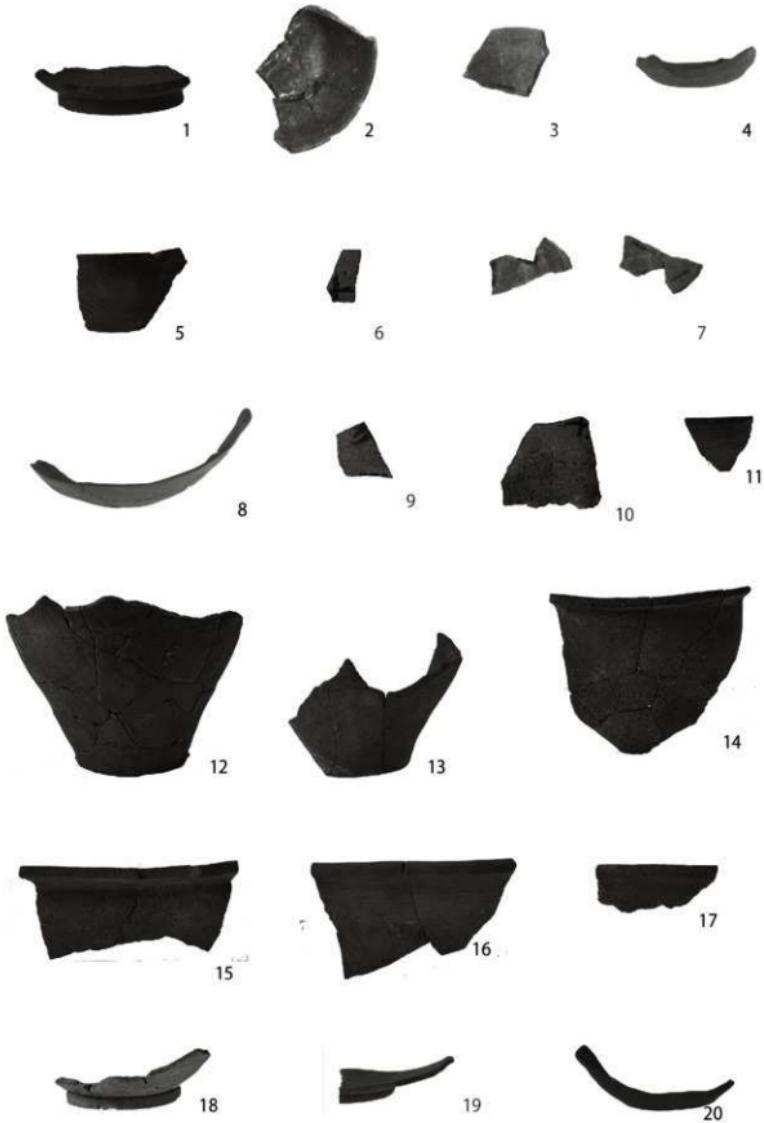
51

第 16 号住居址出土遺物 (4)

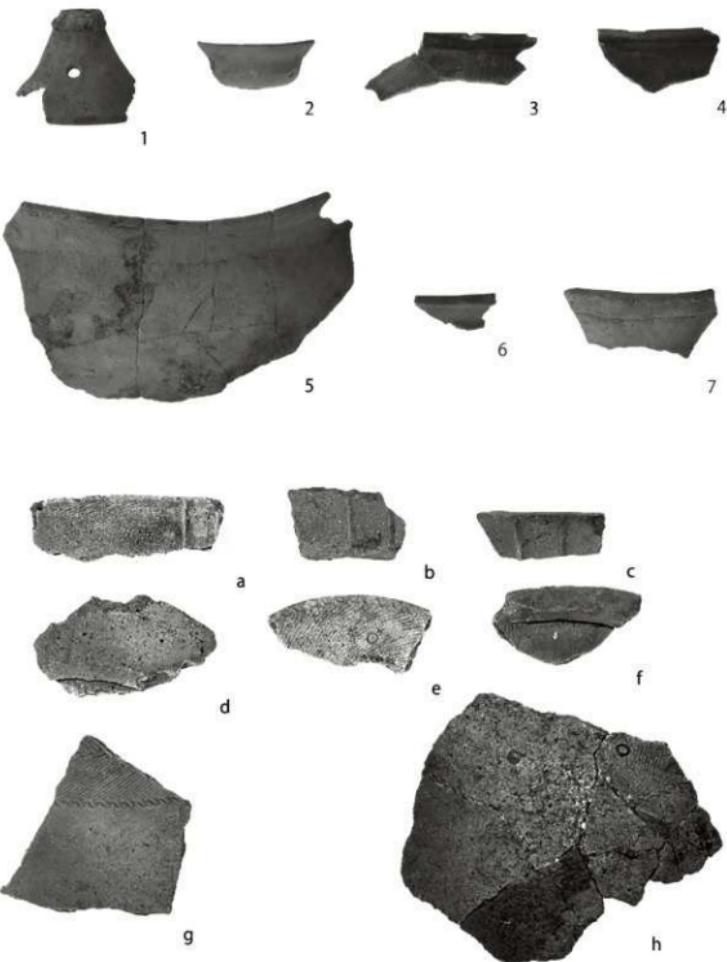
P L. 22



第 17 号住居址出土遗物



第 18 号住居址出土遗物





8



9



10



11



12



13



14



15



16



17



18

P.L. 26



19



20



21



22



23



24



25



26

奈良・平安時代遺構外出土遺物（2）



27



28



29



30



31



32



33



34



35



36

近世・近代遺構外出土遺物



1



2



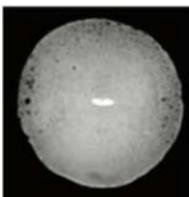
3



4



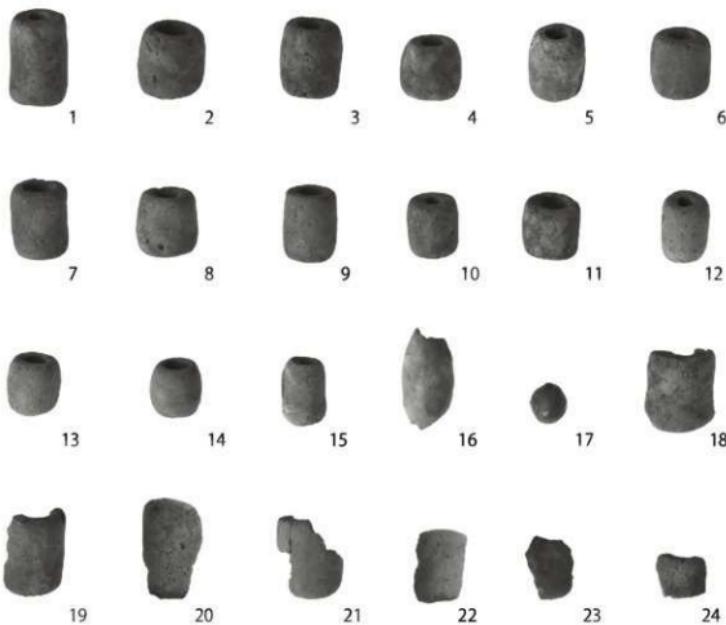
5



6

金属製品

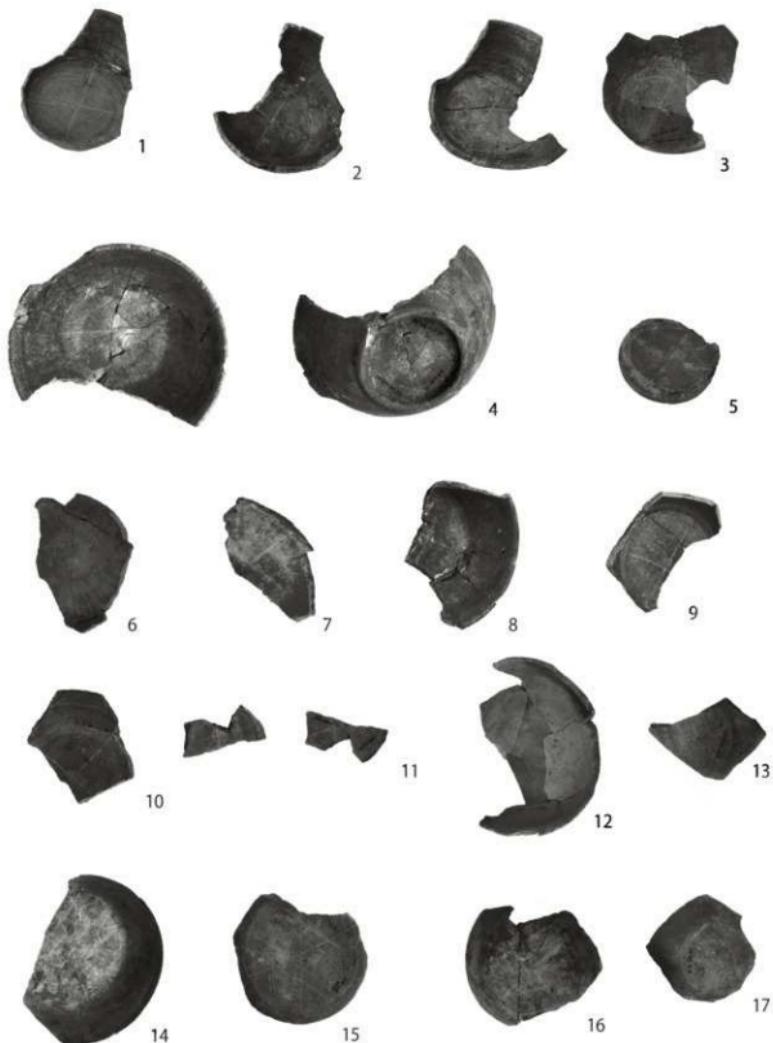
P.L. 28



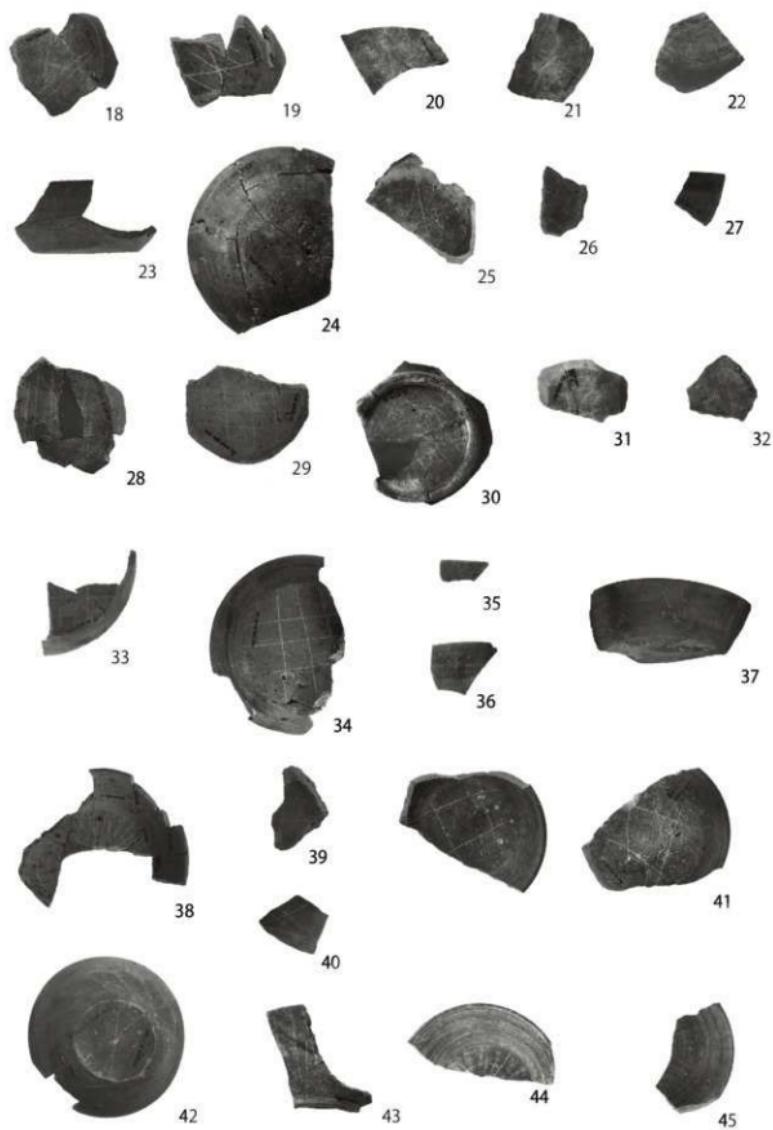
土錘



土馬



線刻土器 (1)



線刻土器（2）



46



47



48



49



50



51

線刻土器 (3)



1



2



3



4



5



6



7



8



9



10



11



12



13



14



15



16



17



18



19



20



21

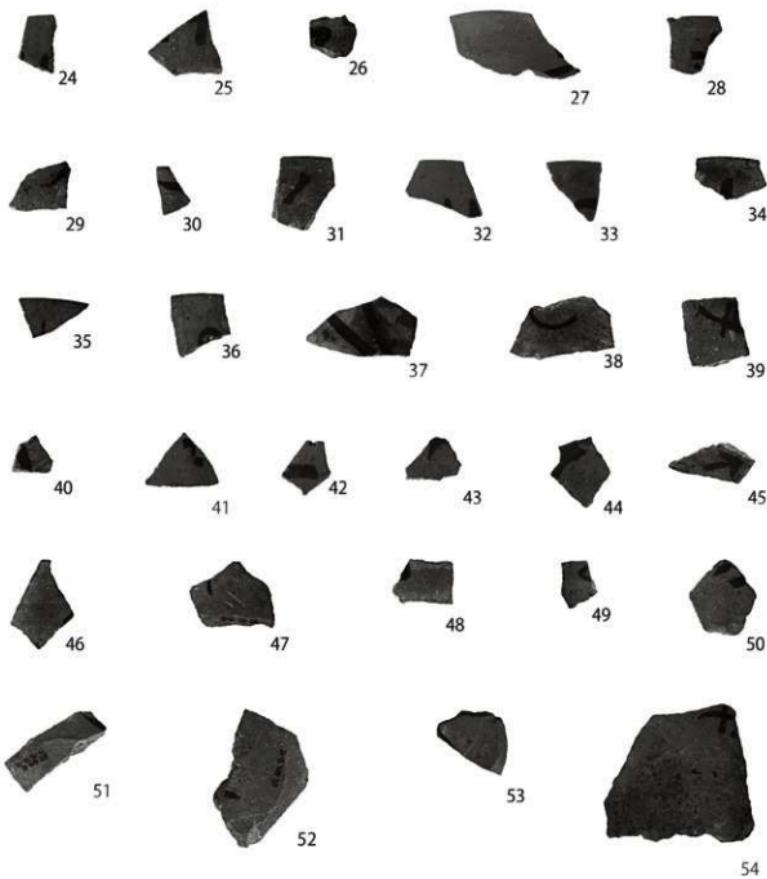


22



23

墨書土器 (1)



報告書抄録

ふりがな	せんぼんいせき (だいにじ) はくつちょうさほうこくしょ						
書名	千本遺跡(第2次)発掘調査報告書						
副書名							
巻次							
シリーズ名	沼津市文化財調査報告書						
シリーズ番号	第121集						
編著者名	谷口哲也 前嶋秀張 小崎晋 小林晃太郎 矢田晃代						
編集機関	沼津市教育委員会						
所在地	〒410-8601 静岡県沼津市御幸町16番1号 TEL055-931-2500						
発行年月日	西暦 2020年3月27日						
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村 道跡番号	世界測地系 北緯 東経	発掘期間	発掘面積	発掘原因	
千本遺跡	沼津市本字千本	22203	372	35°05'35" 138°51'04"	2017.11.27 ~ 2018.02.28	350m ²	第二地区センター建設のため
所収遺跡名	種別	主な年代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
千本遺跡	集落	古墳時代	住居址 2	土師器	古墳時代前期		
	集落	奈良・平安時代	住居址 16	土師器・須恵器・金属製品・銭貨・土鍬・土馬	墨書き土器・線刻土器出土		
	包含層	中世・近世・近代	—	磁器・陶器・銭貨			
要約	<p>千本遺跡は、狩野川河口部に存在する集落遺跡である。今回の調査で、古墳時代前期と奈良・平安時代の遺構及び遺物を検出した。</p> <p>古墳時代前期は、調査区北東で住居址 2軒を検出し、包含層から在地系の土師器、伊勢・畿内系の S字状口縁甕や畿内系の布留式土器が出土した。</p> <p>奈良・平安時代は調査区全域で住居址 16 軒を検出し、当該期の土師器・須恵器、土製品、金属製品、銭貨などが出土した。また、土師器と須恵器には墨書きや線刻が確認できるものが含まれる。主要な時期は9世紀代で、平成5年に実施した第一次調査成果と共通する成果である。</p> <p>これまで千本遺跡は奈良・平安時代の集落遺跡と考えられてきたが、今回の調査で古墳時代前期の遺構・遺物が確認されたことから、古墳時代前期から平安時代にかけて断続的に営まれた遺跡であることが判明した。</p>						

沼津市文化財調査報告書 第121集
千本遺跡(第2次)発掘調査報告書

令和2年3月20日 印刷
令和2年3月27日 発行

編集／沼津市教育委員会
発行／沼津市教育委員会
沼津市御幸町16番1号
TEL (055) 931-2500㈹
印刷／みどり美術印刷株式会社